

介護福祉士を目指す外国人留学生等
に対する相談支援等の体制整備事業
アンケート調査 報告書

2019 年 3 月

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

目 次

I. アンケート調査概要	1
i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査概要.....	2
ii. 養成校に在籍する外国人留学生へのアンケート調査概要.....	3
iii. 都道府県における外国人介護人材の支援に関するアンケート調査概要.....	4
iv. 介護施設における外国人介護人材の採用・雇用に関するアンケート調査概要.....	5
v. 介護施設等で働く外国人介護職員に対するアンケート調査概要.....	6
II. アンケート調査結果	7
i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査.....	9
1. アンケート調査結果まとめ.....	11
2. アンケート調査結果（A）.....	14
3. アンケート調査結果（B）.....	43
ii. 養成校に在籍する外国人留学生へのアンケート調査.....	51
1. アンケート調査結果まとめ.....	53
2. アンケート調査結果.....	56
iii. 都道府県における外国人介護人材の支援に関するアンケート調査.....	103
1. アンケート調査結果まとめ.....	105
2. アンケート調査結果.....	106
iv. 介護施設における外国人介護人材の採用・雇用に関するアンケート調査.....	123
1. アンケート調査結果まとめ.....	125
2. アンケート調査結果.....	127
v. 介護施設等で働く外国人介護職員に対するアンケート調査.....	159
1. アンケート調査結果まとめ.....	161
2. アンケート調査結果.....	162
附属資料	193
アンケート調査票	195
i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査.....	197
ii. 養成校へ所属する外国人留学生へのアンケート調査.....	209
iii. 都道府県における外国人介護人材の支援に関するアンケート調査.....	221
iv. 介護施設における外国人介護人材の採用・雇用に関するアンケート調査.....	227
v. 介護施設等で働く外国人介護職員に対するアンケート調査.....	239

I . アンケート調査概要

i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査概要

1. 目的

全国の介護福祉士養成施設¹における外国人留学生の受入れの実態を把握するとともに、外国人留学生を受入れている施設における課題、および、受入れていない施設における受入れていない理由等の事情を把握したうえで、外国人留学生等の抱える課題や日常生活面における支援を実施する体制を整備し、外国人留学生が円滑に学習・就労等を行うことができるような支援策を検討することを目的として実施した。

2. 調査対象

全国の介護福祉士養成施設

3. 調査方法

郵送配布、郵送回答

4. 調査期間

平成 30 年 10 月 17 日（水）～平成 30 年 11 月 12 日（月）

5. 回収状況

配布数	389 件
有効回収数（有効回収率）	277 件（71.2%）

¹ 「介護福祉士養成施設」の略称については、留学生、卒業生等の調査においては、「学校」、「養成校」、「介護福祉士養成校」と言い換えて調査票に記載している。

ii. 養成校に在籍する外国人留学生へのアンケート調査概要

1. 目的

全国の介護福祉士養成施設に在籍する外国人留学生に対して、日本で介護を学ぶにあたってどのような困難があるか、また介護福祉士養成施設に望むことについて、介護技術面、日本語学習面、日本での生活面について調査を行うことで、外国人留学生等への相談支援や日常生活面における支援を実施する体制を整備し、外国人留学生が円滑に学習・就労等を行うことができるよう支援策を検討することを目的として実施した。

2. 調査対象

全国の介護福祉士養成に在籍する外国人留学生（介護福祉士養成課程に在籍する方のみ）

3. 調査方法

郵送配布（各介護福祉士養成施設に留学生用の ID を配布）、WEB 回答

4. 調査期間

【日本語、英語、中国語簡体字、ネパール語、ベトナム語、インドネシア語】

平成 30 年 10 月 24 日（水）～平成 30 年 11 月 16 日（金）

【タガログ語】

平成 30 年 10 月 27 日（土）～平成 30 年 11 月 16 日（金）

5. 回収状況

配布数	1,749 件
有効回収数（有効回収率）	468 件（26.8%）

iii. 都道府県における外国人介護人材の支援に関するアンケート調査概要

1. 目的

各都道府県における外国人介護人材にかかる人材受入れ状況の実態や、介護福祉士養成施設に所属する外国人留学生、および介護施設で働く外国人職員等に対する自治体の支援体制を把握し、外国人留学生等への相談支援や日常生活面における支援を実施する体制を整備するための参考データとし、外国人留学生が円滑に学習・就労等を行うことができるよう支援策を検討することを目的として実施した。

2. 調査対象

全 47 都道府県

3. 調査方法

日本介護福祉士養成施設協会支部より都道府県介護人材担当者へメールにて Word・PDF 媒体の調査票を配布し、メールにて回答

4. 調査期間

平成 30 年 10 月 24 日（水）～平成 30 年 11 月 15 日（木）

5. 回収状況

配布数	47 件
有効回収数（有効回収率）	39 件（83.0%）

iv. 介護施設における外国人介護人材の採用・雇用に関するアンケート調査概要

1. 目的

平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生を採用した介護施設における、採用・受入れ体制の実態、実際の就労の現場で生じる課題等を把握することにより、介護福祉士を目指す外国人留学生等の円滑な受入れと介護福祉士を目指す外国人留学生が抱える課題に対する相談支援等を整備するための参考データとし、外国人留学生が円滑に就労等を行うことができるよう支援策を検討することを目的として実施した。

2. 調査対象

平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生を採用した介護施設 79 件

※日本介護福祉士養成施設協会が実施した「平成 30 年度進路調査」では、44 養成施設の卒業生 152 名が介護施設に就職している

※「平成 30 年 3 月に卒業した外国人留学生が所属する介護施設」の情報を日本介護福祉士養成施設協会が収集したところ、44 養成施設のうち 37 養成施設から、79 介護施設について回答があった（就職した卒業生数 110 名分）ため、79 件に調査を依頼した

3. 調査方法

郵送配布、Web 回答

4. 調査期間

平成 30 年 10 月 30 日（火）～平成 30 年 11 月 19 日（月）

5. 回収状況

配布数	79 件
回収数（回収率）	31 件（39.2%）
有効回収数（有効回収率）	29 件（36.7%）

v. 介護施設等で働く外国人介護職員に対するアンケート調査概要

1. 目的

介護福祉士養成施設を卒業後、介護施設・事業所等で働いている外国人介護職員に対して、日本で介護職として働くにあたっての困難、職場に望むこと、就職した際の困難等について調査を行い、外国人留学生、外国人の介護福祉士養成施設卒業生等の抱える課題に対する相談支援や日常生活面における支援を実施する体制を整備し、外国人留学生・外国人の介護福祉士養成施設卒業生等が円滑に学習・就労等を行うことができるよう支援策を検討することを目的として実施した。

2. 調査対象

平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業し、現在介護施設・事業所等で働いている外国人介護職員 110 名

※日本介護福祉士養成施設協会が実施した「平成 30 年度進路調査」では、44 養成施設の卒業生 152 名が介護施設に就職している

※「平成 30 年 3 月に卒業した外国人留学生が所属する介護施設」の情報を日本介護福祉士養成施設協会が収集したところ、44 養成施設のうち 37 養成施設から、79 介護施設・就職した卒業生数 110 名分の回答があったため、110 名を対象とした

3. 調査方法

介護施設に依頼状を郵送・対象者に配布し、Web 回答

4. 調査期間

平成 30 年 10 月 30 日（火）～平成 30 年 11 月 19 日（月）

5. 回収状況

配布数	—
回収数（回収率）	27 人（—）
有効回収数（有効回収率）	22 人（—）

Ⅱ．アンケート調査結果

i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査

1. アンケート調査結果まとめ

【前提】

- ・ 介護福祉士養成施設協会加盟の介護福祉士養成施設（以下、介護福祉士養成施設とする）全 389 校が対象。
- ・ アンケート調査は「留学生が所属している介護福祉士養成施設」（以下、アンケート調査（A））と「留学生が所属していない介護福祉士養成施設」（以下、アンケート調査（B））の 2 種類を用意し、該当する調査票に回答頂いた。
- ・ 277 校より回答を得（回収率 71.2%）、うち留学生が所属している介護福祉士養成施設は 123 校、所属していない介護福祉士養成施設は 154 校より回答を得た。

<留学生が所属している介護福祉士養成施設（123 校）の調査結果概要>

【回答者属性】

- ・ 123 校の修業年限をみると、「2 年制」が 8 割以上を占めている。

① 留学生に求める能力・資質について

○ほとんどの介護福祉士養成施設が留学生の入学試験で面接を実施している。

○ほとんどの介護福祉士養成施設が日本語能力を入学要件としており、主に日本語能力試験（JLPT）で N3 以上を入学要件としている。

- ・ 97.4%（n=115）の介護福祉士養成施設が留学生の入学試験（選抜）の方法として「面接」を挙げている。
- ・ 入学要件として、「日本語能力」を挙げている介護福祉士養成施設は 91.3%（n=105）であり、そのうち約 9 割が「日本語能力試験（JLPT）」で判定を行っており、全ての介護福祉士養成施設が N3 以上を要件としている。
- ・ 「学業・就業への意欲」（88.8%）（n=116）や「修学資金・生活費等の支払能力」（67.5%）（n=114）を入学要件として挙げている介護福祉士養成施設が多い一方、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」（15.4%）（n=117）や「介護関連の知識」（10.3%）（n=117）を入学要件としている介護福祉士養成施設は少ない。

② 留学生の募集方法について

○6 割の介護福祉士養成施設が、留学生の受入れについて前向きであり、半数以上の介護福祉士養成施設が、留学生の受入れのために他機関と連携している。

- ・ 回答のあった 116 校中、介護福祉士養成施設の留学生受入意向については、「増やしたい」（61.1%）、「現状を維持したい」（36.1%）、「減らしたい」（2.8%）であった。
- ・ 回答のあった 118 校中、留学生受入れのために、61.0%の介護福祉士養成施設が他の機関等（自グループの機関を含む）と何らかの提携をしており、提携先は「国内の日本語学校」「国内の人材エージェント」「国内の介護施設」がトップ 3 である。

③ 留学生の受入れ体制について

○留学生が所属する介護福祉士養成施設の 8 割が、留学生に対し何らかのサポート体制を整備している。

- ・ 82.9% (n=117) の介護福祉士養成施設で、何らかのサポート体制を敷いており、約 5 割の介護福祉士養成施設が「留学生のための修学資金制度」「留学生のアルバイト先の確保」「留学生の就業先の確保」を行い、3 割の介護福祉士養成施設では留学生のために寮を完備している。
- ・ 留学生をサポートするために他の機関と提携している介護福祉士養成施設は 61.7% (n=115) であり、34.0% (n=53) の介護福祉士養成施設が提携している中で最も効果がある機関としては「近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設以外）」を挙げている。
- ・ 85.2% (n=108) の介護福祉士養成施設が、留学生が就職活動、および就職する際に何らかの課題があったと回答している。

④ 留学生の教育体制について

○留学生の比率が高い介護福祉士養成施設ほど、留学生への独自の教育が行われている傾向にある。

- ・ 留学生へ独自の教育を実施しているのは 41.2% (n=114) であったが、外国人比率が 20%以上の介護福祉士養成施設 (n=39) では 61.5%が独自の教育を実施していた。
- ・ 退学者率が 10%未満の介護福祉士養成施設 (n=40) では、55.0%が独自の教育を実施していた。
- ・ 国家試験に対して「施設内にて教育担当がおり、十分な指導ができる体制をとっている」とした介護福祉士養成施設は、13.9% (n=115) であった。

⑤ 留学生のアルバイトについて

- ・ 留学生のアルバイト先を把握している介護福祉士養成施設は、83.1% (n=118) で、アルバイトに関する法的状況の周知徹底は 81.4% (n=118) 行われているが、留学生の週あたりの勤務時間を把握している介護福祉士養成施設は約 57.6% (n=118) であった。

<留学生が在籍していない介護福祉士養成施設（154 校）の調査結果概要>

【回答者属性】

- ・ 154 校の修業年限は 1 年（11.0%）、2 年（65.6%）、3 年（3.2%）、4 年（20.1%）である。

● 留学生の受入体制について

○現在、留学生が所属していない介護福祉士養成施設の約 3 分の 1 は、応募があればいつでも受入れ可能と回答した。

○留学生を受け入れる場合、最も必要な受入体制整備としては「修学資金制度」が挙げられ、最も必要な教育体制整備としては「介護の専門科目に関する留学生用の教材、テキストの準備」が挙げられた。

- ・ 留学生を現在受け入れていない介護福祉士養成施設で、「これからも受入れる予定はない」としたのは 23.0%（n=148）であったとともに、35.8%（n=148）が「受入れ募集中（応募があればいつでも対応可能）」とした。
- ・ 留学生をこれから受け入れるとした場合の必要な受入れ体制整備として最も多かった回答が、「留学生のための修学資金制度」（81.8%）（n=148）、次いで、「留学生を生活指導する専任の職員の確保」（79.1%）（n=148）であった。
- ・ 留学生をこれから受け入れるとした場合に必要な教育体制整備として最も多かった回答が「介護の専門科目に関する留学生用の教材、テキストの準備」（68.2%）（n=148）、次いで「基本的な日本語教育ができる体制構築」（65.5%）（n=148）であった。

2. アンケート調査結果(A)

【留学生が所属している介護福祉士養成施設・事業所対象】

※ 以下、単純集計グラフを掲載

1 所属している学生の国籍と人数/介護福祉士国家試験受験者数と合格者数

回答のあった介護福祉士養成施設の「退学者数」と「平成 30 年度 介護福祉士国家試験合格者率」は以下の通りとなった。

・退学者率（全生徒（日本人＋外国人留学生））

	調査数	0 ～5 % 未満	5 ～10% 未満	10～20% 未満	20%以上
全体	106	15.1	25.5	37.7	21.7

・平成 30 年度 介護福祉士国家試験合格者率（対受験者）

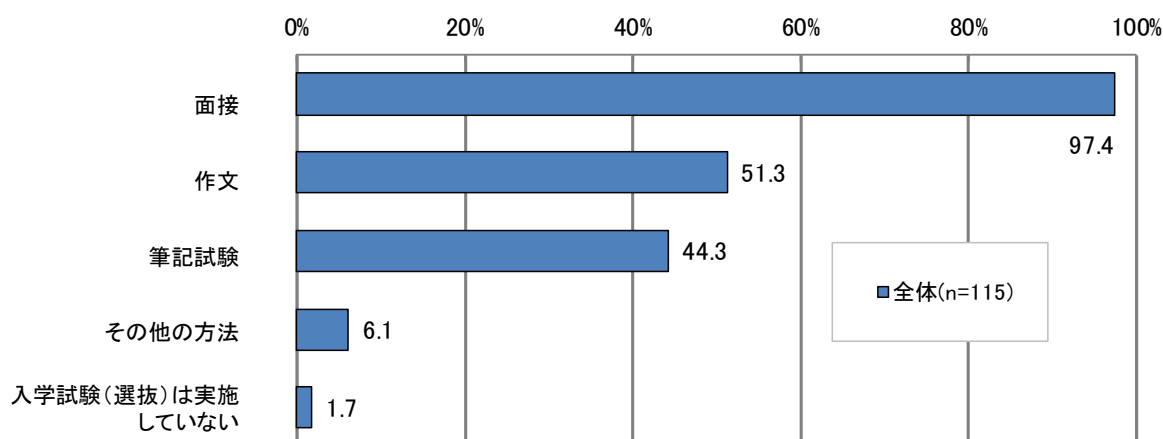
	調査数	50%未満	50～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90～100 %
全体	74	4.1	8.1	5.4	32.4	50.0

2 外国人留学生に求める能力・資質

2.1 外国人留学生の入学試験の方法

「面接」(97.4%)が最も多く、「作文」(51.3%)、「筆記試験」(44.3%)、と続く。

問4. 貴校では、外国人留学生の入学試験(選抜)をどのような方法で行っていますか。(複数選択) (n=115)

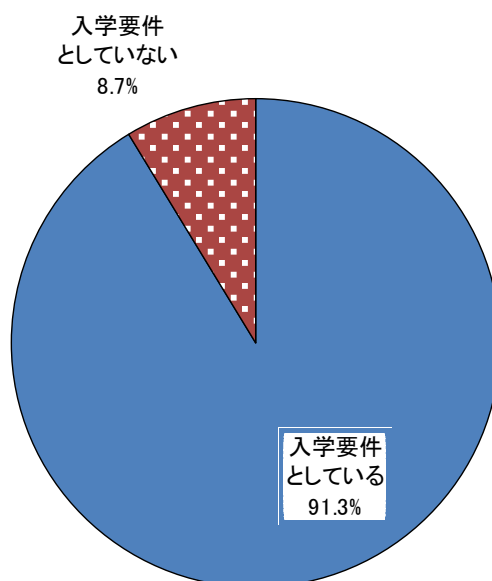


2.2 外国人留学生に求める入学要件

2.2.1 日本語能力

「日本語能力」については、「入学要件としている」(91.3%)、「入学要件としていない」(8.7%)となった。

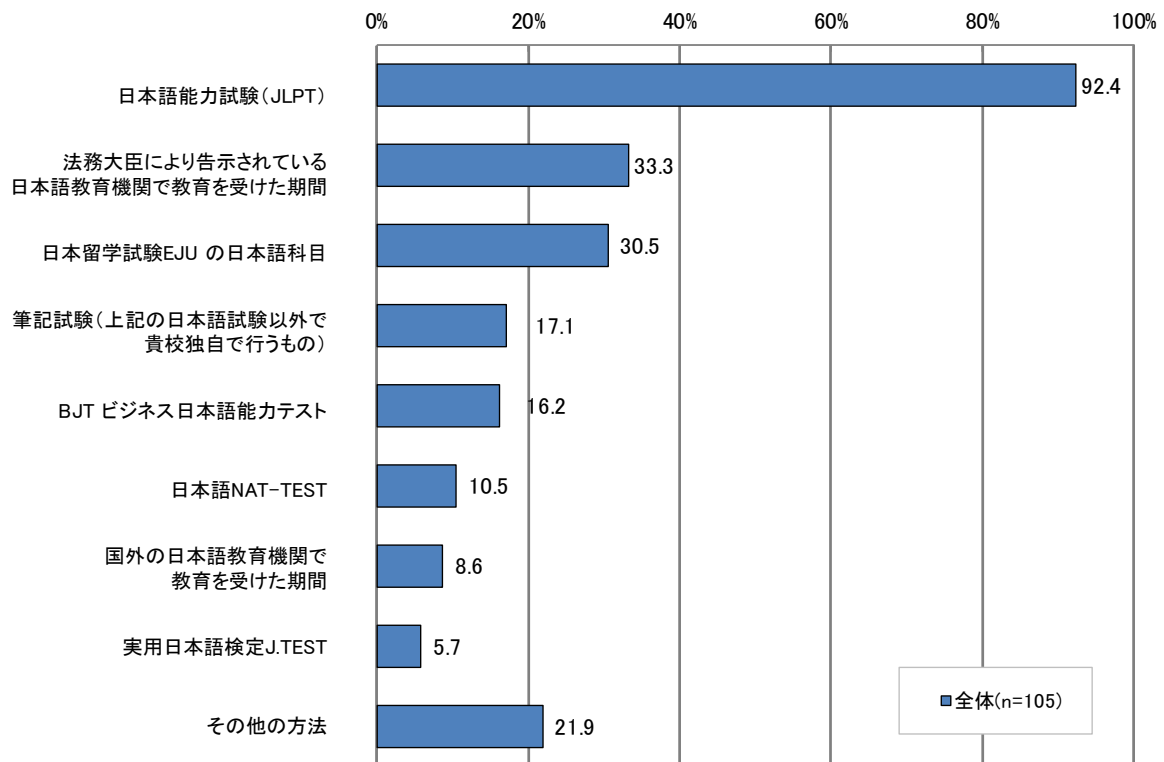
問5. 貴校では、外国人留学生に対して「日本語能力」を入学要件としていますか。(1つ選択) (n=115)



【回答対象:問 5 で「入学要件としている」と回答した施設】

日本語能力を判定している事柄については、「日本語能力試験（JLPT）」(92.4%)が最も多く、「法務大臣により告示されている日本語教育機関で教育を受けた期間」(33.3%)、「日本留学試験 EJU の日本語科目」(30.5%)、と続く。

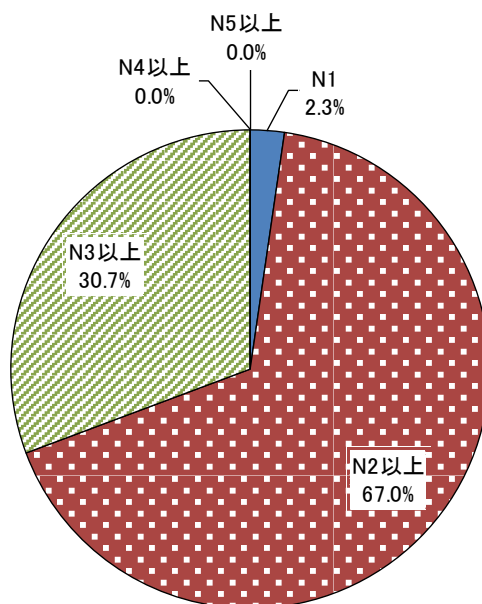
入学の際、試験等で判定している項目（複数選択）（n=105）



問 5-1-1. 日本語能力試験(JLPT)

入学要件としている「日本語能力試験 (JLPT)」のレベルについては、「N2 以上」(67.0%)が最も多かったが、「N3 以上」(30.7%)も次いで多かった。

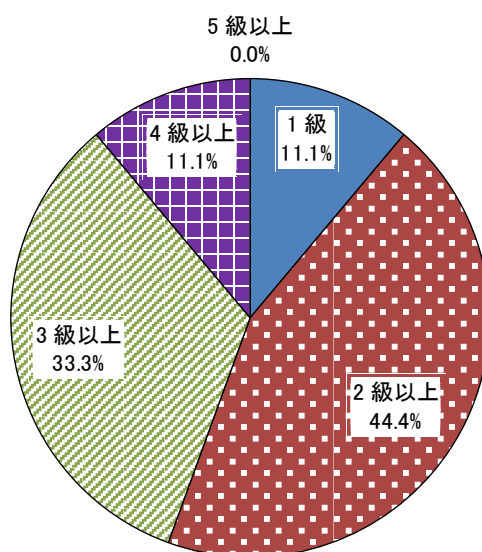
1. 日本語能力試験(JLPT) (1つ選択) (n=88)



問 5-1-2. 日本語 NAT-TEST

入学要件としている「日本語 NAT-TEST」のレベルについては、「2 級以上」(44.4%)が最も多く、「3 級以上」(33.3%)、と続く。

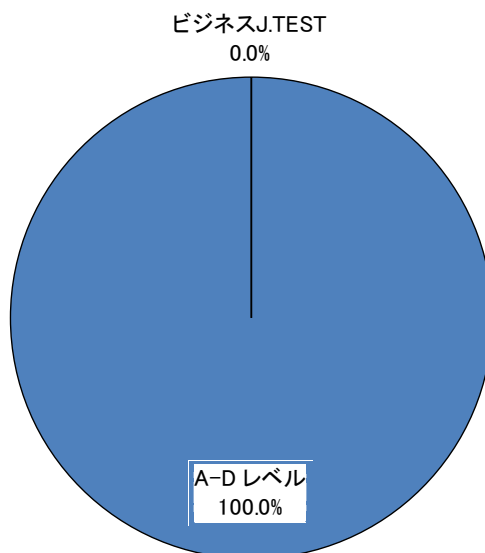
2. 日本語NAT-TEST(1つ選択) (n=9)



問 5-1-3. 実用日本語検定 J.TEST

入学要件としている「実用日本語検定 J.TEST」のレベルについては、全て「A-D レベル」(100.0%)であり、「E-F レベル」、「ビジネス J.TEST」を要件としている学校はなかった。

3. 実用日本語検定J.TEST(1つ選択) (n=6)



問 5-1-4. 日本留学試験 EJU の日本語科目

入学要件としている「日本留学試験 EJU」のレベルについては、平均が 196.3 点となった。

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	30	196.3	0.0	250.0

問 5-1-5. BJT ビジネス日本語能力テスト

入学要件としている「BJT ビジネス日本語能力テスト」のレベルについては、すべての介護福祉士養成施設が 400 点と回答した。

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	17	400.0	400.0	400.0

問 5-1-6. 法務大臣により告示されている日本語教育機関で教育を受けた期間

入学要件としている「法務大臣により告示されている日本語教育機関で教育を受けた期間」については、平均が 7.7 ヶ月となった。

(単位: か月)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	35	7.7	6.0	24.0

問 5-1-7. 国外の日本語教育機関で教育を受けた期間

入学要件としている「国外の日本語教育機関で教育を受けた期間」については、平均が 9.3 ヶ月となった。

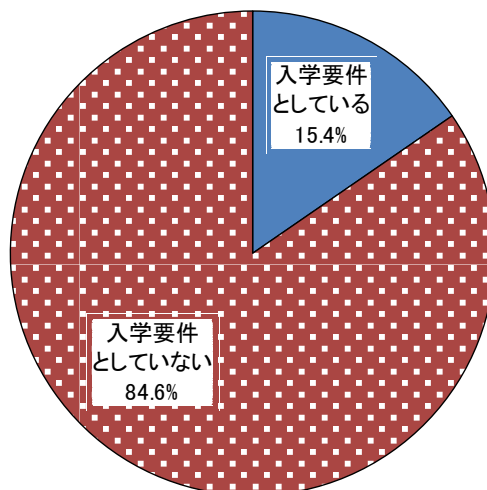
(単位: か月)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	9	9.3	6.0	18.0

2.2.2 日本の文化・習慣・マナー等の理解度

「日本の文化・習慣・マナー等の理解度」については、「入学要件としている」(15.4%)、「入学要件としていない」(84.6%)となった。

問6. 貴校では、外国人留学生に対して「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」を入学要件としていますか。(1つ選択) (n=117)

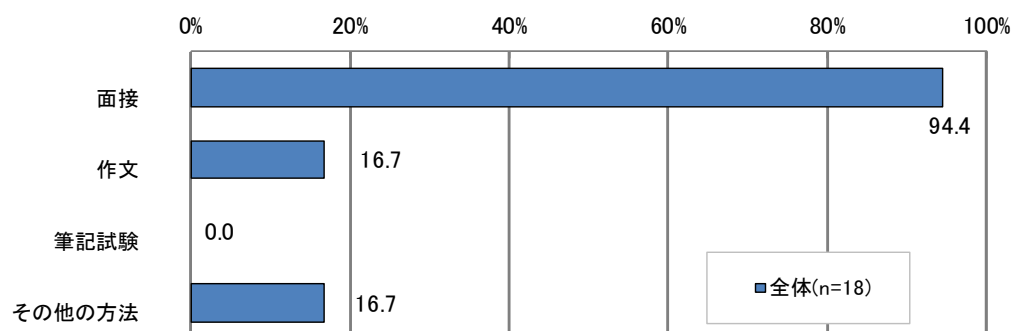


問 6-1 「日本の文化・習慣・マナー等」の理解度の確認方法

【回答対象:問 6 で「入学要件としている」と回答した施設】

「日本の文化・習慣・マナー等」の理解度の確認方法については、「面接」(94.4%)で確認している介護福祉士養成施設が最も多かった。

問6-1. 貴校では、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」をどのような方法で確認していますか。(複数選択) (n=18)

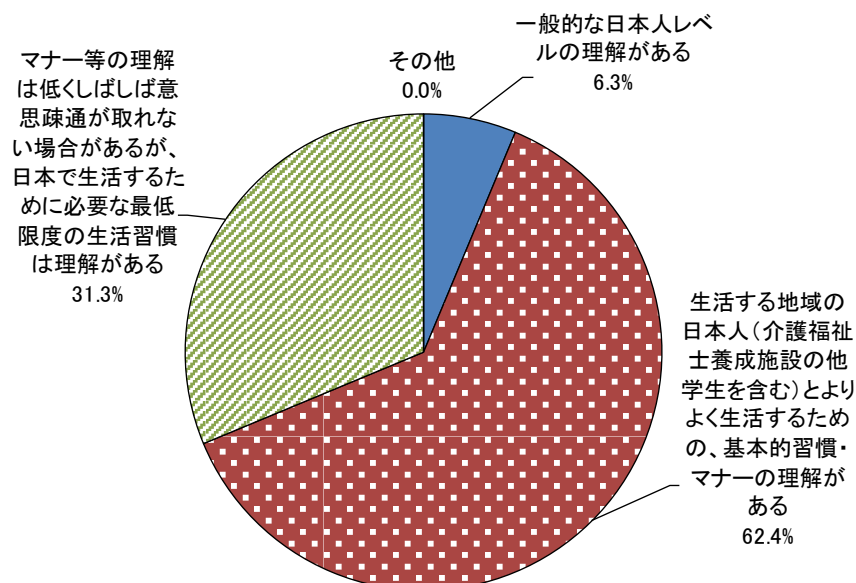


問 6-2 「日本の文化・習慣・マナー等」を入学要件で求めるレベル

【回答対象:問 6 で「入学要件としている」と回答した施設】

どの程度の「日本の文化・習慣・マナー等」を入学要件で求めているかについては、「生活する地域の日本人（介護福祉士養成施設の他学生を含む）とよりよく生活するための、基本的習慣・マナーの理解がある」(62.4%)が最も多く、「マナー等の理解は低くしばしば意思疎通が取れない場合があるが、日本で生活するために必要な最低限度の生活習慣は理解がある」(31.3%)、と続く。

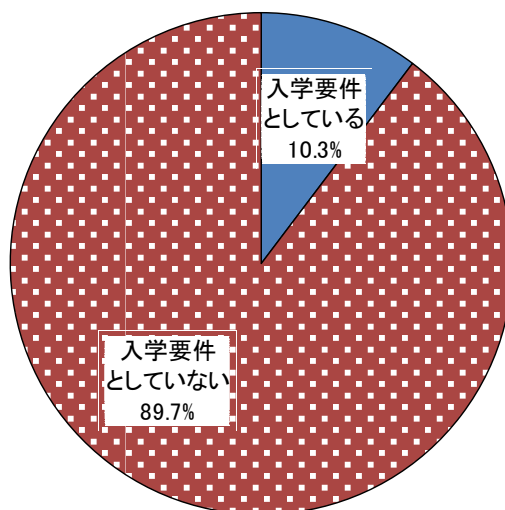
問6-2. 貴校では、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」について、どの程度の入学要件としていますか。(1つ選択) (n=16)



2.2.3 介護関連の知識等

「介護関連の知識等」については、「入学要件としていない」(89.7%)、「入学要件としている」(10.3%)となった。

問7. 貴校では、外国人留学生に対して「介護に関連する知識等」を入学要件としていますか。(1つ選択) (n=117)

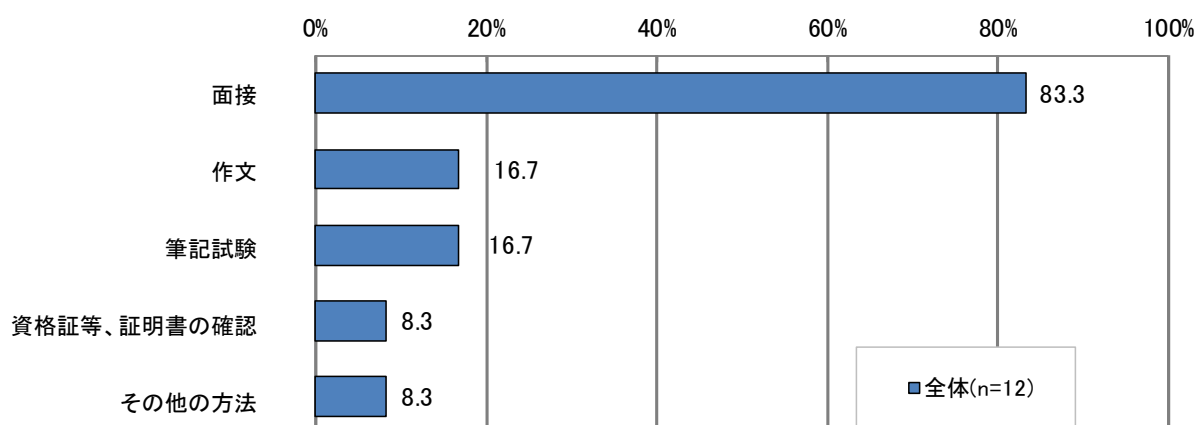


問 7-1. 「介護関連の知識」の確認方法

【回答対象: 問 7 で「入学要件としている」と回答した施設】

「介護関連の知識」の確認方法については、「面接」(83.3%)が最も多く、「作文」(16.7%)、「筆記試験」(16.7%)、と続く。

問7-1. 貴校では、「介護に関連する知識等」をどのような方法で確認していますか。(複数選択) (n=12)

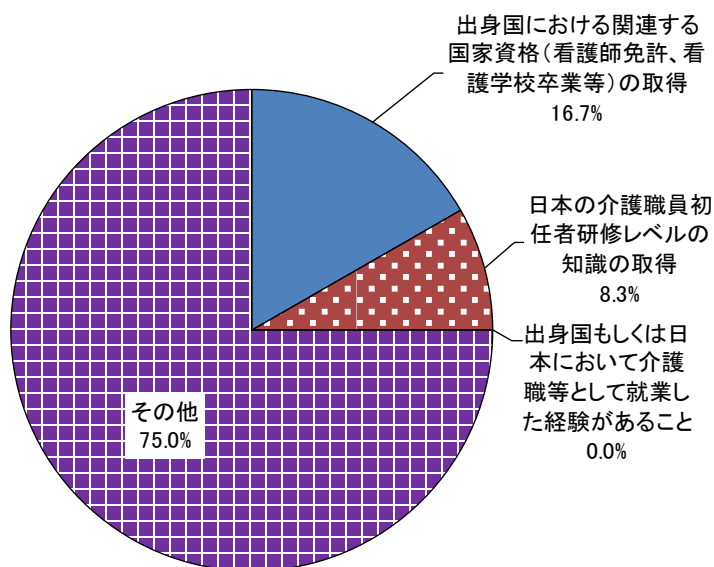


問 7-2. 「介護関連の知識」を入学要件で求めるレベル

【回答対象: 問 7 で「入学要件としている」と回答した施設】

どの程度の「介護関連の知識」を入学要件で求めているかについては、「出身国における関連する国家資格（看護師免許、看護学校卒業等）の取得」が 16.7%、「日本の介護職員初任者研修レベルの知識の取得」が 8.3%となった。「その他」（75.0%）については、介護という仕事内容への理解を要件としているという回答が多かった。

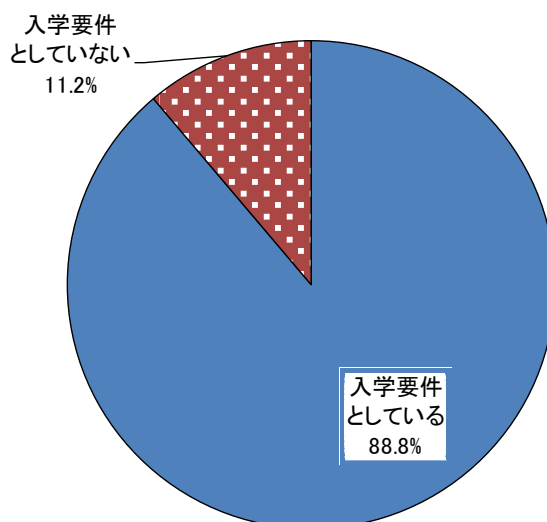
問7-2. 貴校では、「介護に関連する知識等」について、どの程度の入学要件としていますか。
(1つ選択) (n=12)



2.2.4 学習・就業への意欲

「学習・就業への意欲」については、「入学要件としている」が 88.8%、「入学要件としていない」が 11.2%となった。

問8. 貴校では、外国人留学生に対して「学業・就業への意欲」を入学要件としていますか。(1つ選択) (n=116)

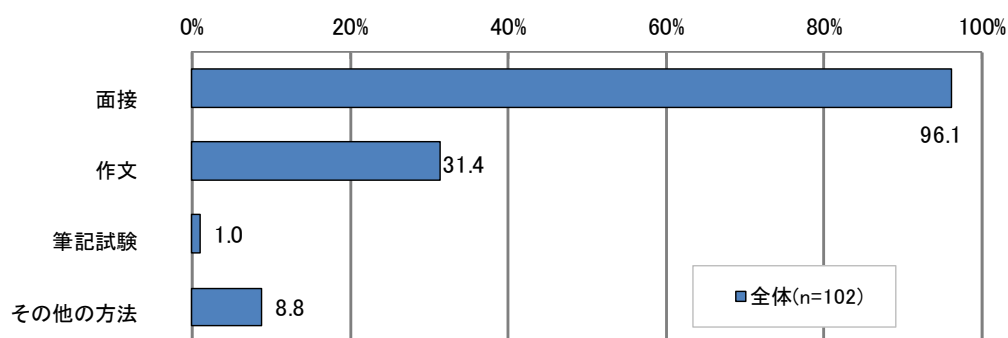


問 8-1. 「学習・就業への意欲」の確認方法

【回答対象:問 8 で「入学要件としている」と回答した施設】

「学習・就業への意欲」の確認方法については「面接」が 96.1%で最も高く、「作文」(31.4%)、と続く。

問8-1. 貴校では、「学業・就業への意欲」をどのような方法で確認していますか。(複数選択) (n=102)

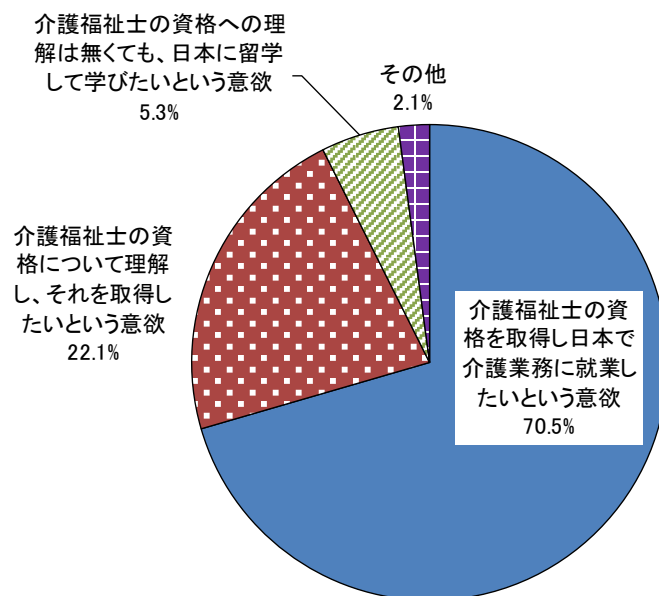


問 8-2. 「学習・就業への意欲」を入学要件で求めるレベル

【回答対象:問 8 で「入学要件としている」と回答した施設・】

どの程度の「学習・就業への意欲」を入学要件で求めているかについては、「介護福祉士の資格を取得し日本で介護業務に就業したいという意欲」が 70.5%で最も高く、「介護福祉士の資格について理解し、それを取得したいという意欲」(22.1%)、と続く。

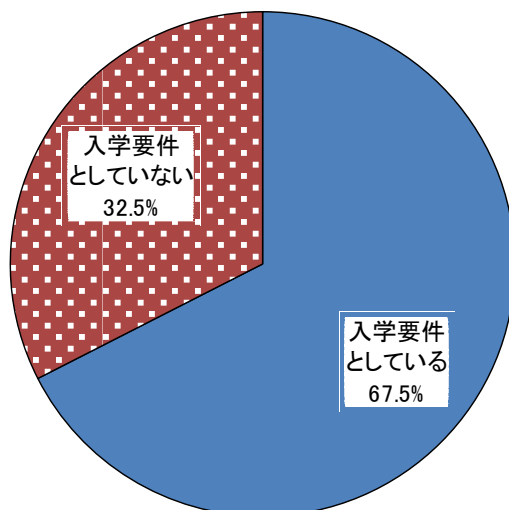
問8-2. 貴校では、「学業・就業への意欲」について、どの程度の入学要件としていますか。(1つ選択) (n=95)



2.2.5 修学資金・生活費等の支払能力

「修学資金・生活費等の支払能力」については、「入学要件としている」が 67.5%、「入学要件としていない」が 32.5%となった。

問9. 貴校では、外国人留学生に対して「修学資金や日本での生活費等への支払能力」を入学要件としていますか。(1つ選択) (n=114)

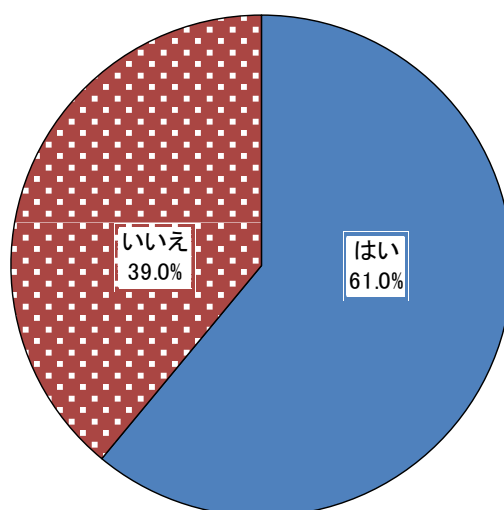


3 外国人留学生の募集方法

3.1 外国人留学生確保のための提携機関

外国人留学生の確保のために、他機関と連携している介護福祉士養成施設は 61.0%、していない介護福祉士養成施設が 39.0%であった。

問10. 外国人留学生を確保するために、他の機関等(自グループの機関を含む)と何らかの提携をしていますか。(1つ選択) (n=118)

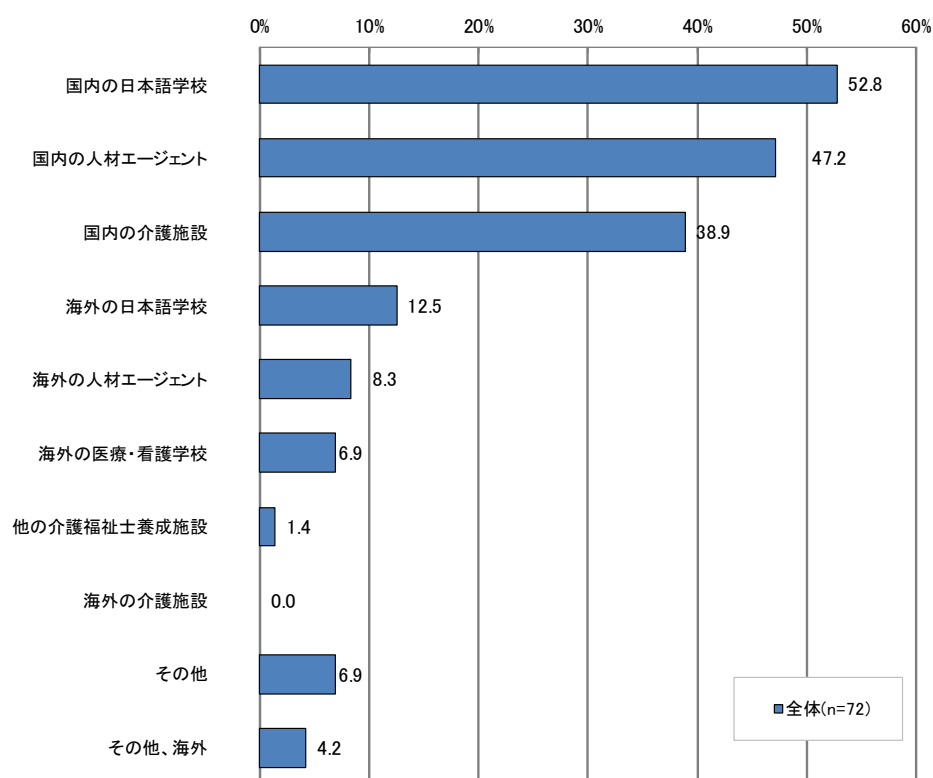


3.1.1 提携先

【回答対象: 問 10 で「はい」と回答した施設】

外国人留学生の確保のために、どのような他機関と連携しているかについては、「介護福祉士養成施設国内の日本語学校」(52.8%)が最も多く、「国内の人材エージェント」(47.2%)、「国内の介護施設」(38.9%)、と続く。

問10-1. 提携先を教えてください。(複数選択) (n=72)

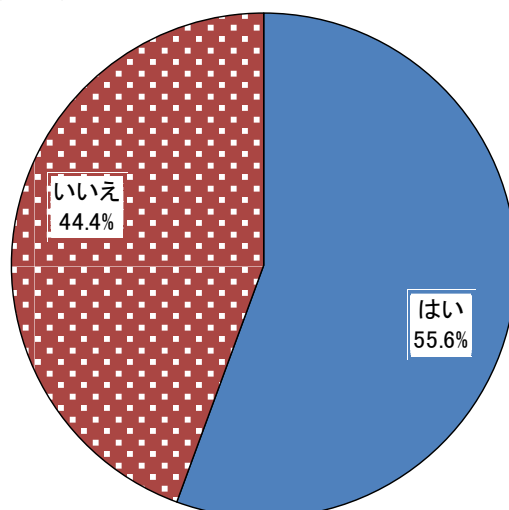


3.1.2 提携時の文書取交し

【回答対象: 問 10 で「はい」と回答した施設】

他機関と連携する際に文書の取り交わしをしている介護福祉士養成施設は 55.6%となり、していない介護福祉士養成施設は 44.4%となった。

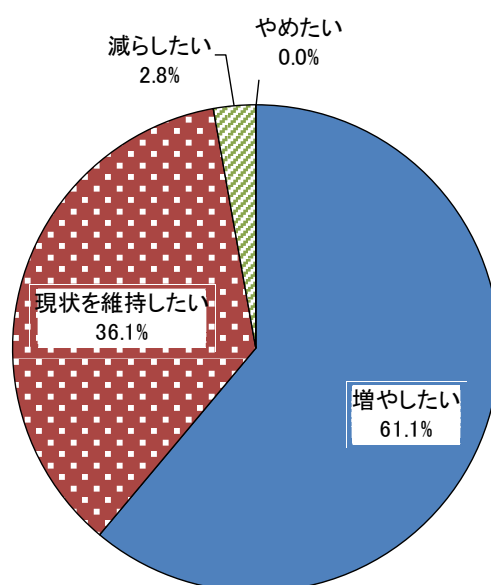
問10-2. 提携にあたり、文書の取り交わしを行っていますか。(1つ選択) (n=63)



3.2 介護福祉士養成施設への外国人留学生受入意向

外国人留学生のこれからの受入れ意向については、「増やしたい」が 61.1%、「現状を維持したい」が 36.1%、「減らしたい」が 2.8%、となった。

問11. 貴校における、介護福祉士養成課程への外国人留学生の受入れ意向を教えてください。(1つ選択) (n=108)



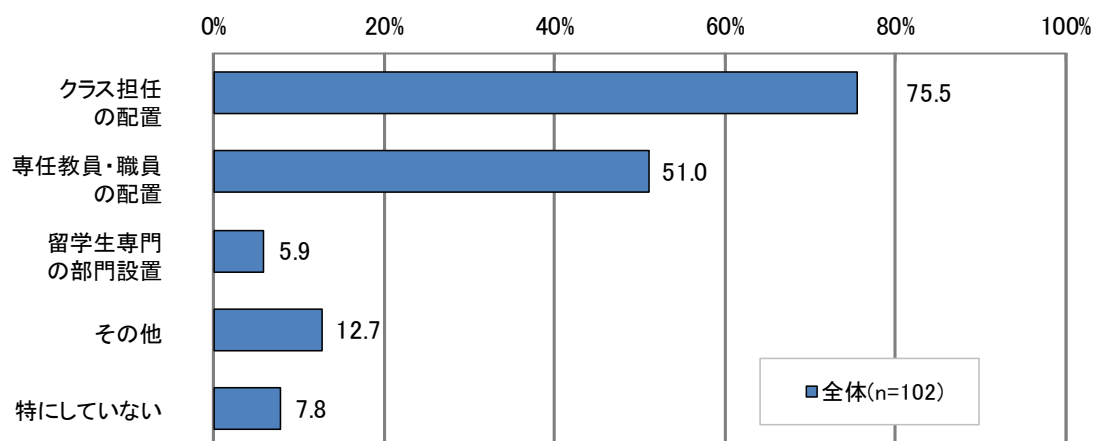
4 外国人留学生の受入体制

4.1 外国人留学生へのサポート体制

問 12-1. 介護学習

「介護学習」についての「外国人留学生のサポート体制」については、「クラス担任の配置」が 75.5%で最も高く、「専任教員・職員の配置」(51.0%)、と続く。また「特にしていない」(7.8%)となっている。

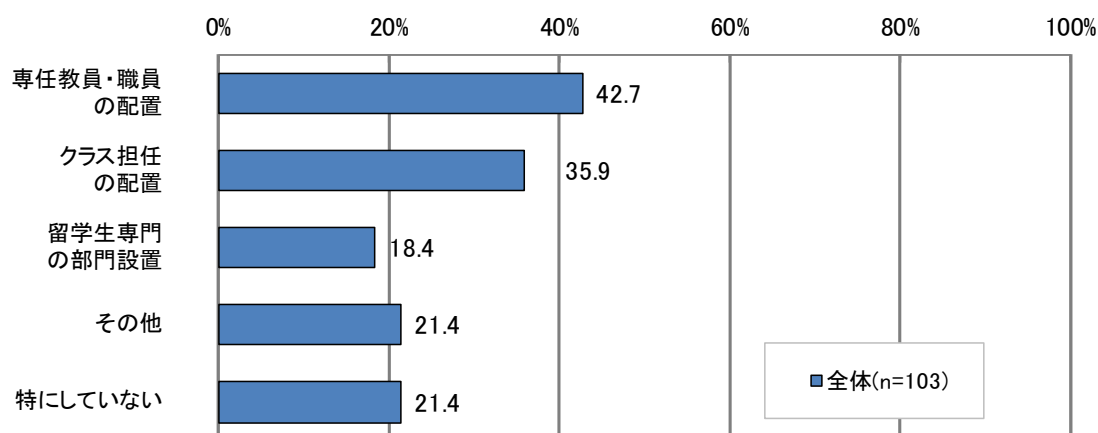
問12-1.外国人留学生に対するサポート体制:介護学習について (n=102)



問 12-2. 日本語学習

「日本語学習」についての「外国人留学生のサポート体制」については、「専任教員・職員の配置」(42.7%)、「クラス担任の配置」(35.9%)が上位に挙げられている。また「特にしていない」は 21.4%となっている。

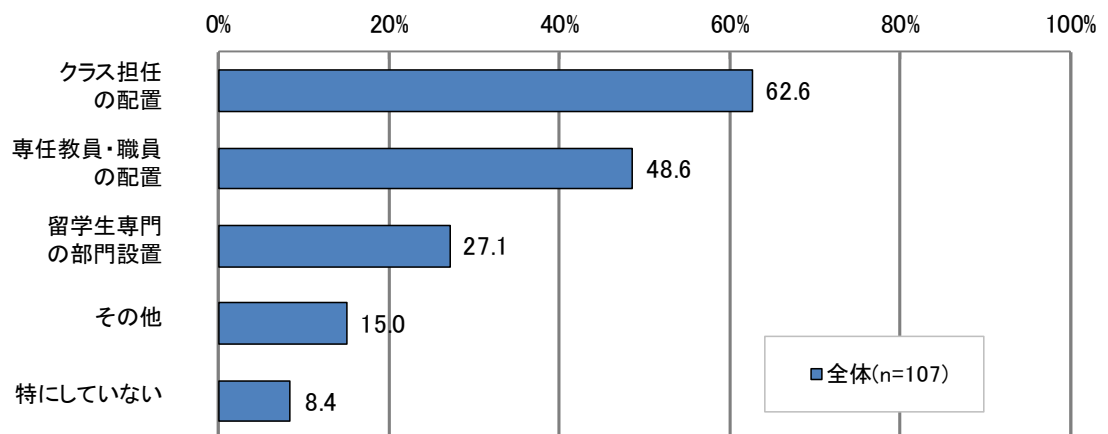
問12-2.外国人留学生に対するサポート体制:日本語学習について (n=103)



問 12-3. 生活全般

「生活全般」についての「外国人留学生のサポート体制」については、「クラス担任の配置」が 62.6%で最も高く、「専任教員・職員の配置」(48.6%)、と続く。また「特にしていない」は 8.4%となっている。

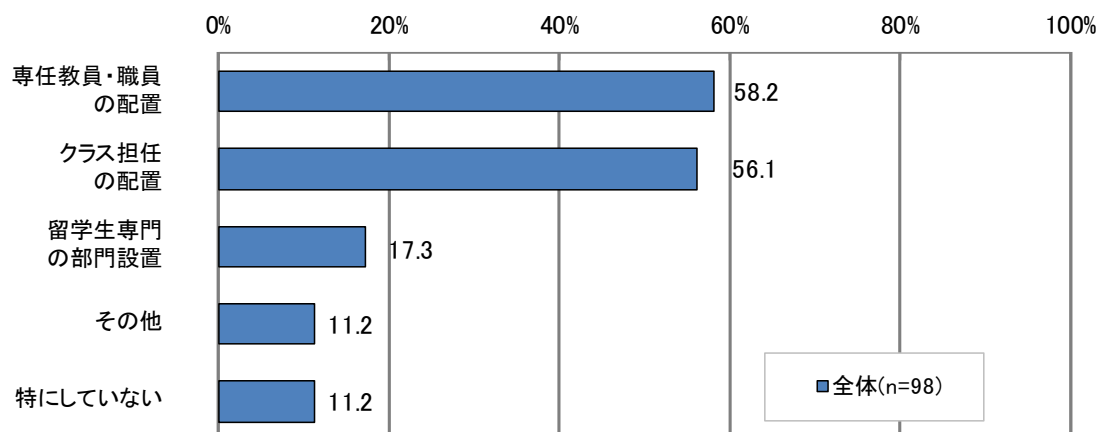
問12-3.外国人留学生に対するサポート体制:生活全般について (n=107)



問 12-4. 就職

「就職」についての「外国人留学生のサポート体制」については、「専任教員・職員の配置」(58.2%)、「クラス担任の配置」(56.1%)が上位に挙げられている。また「特にしていない」は 11.2%となっている。

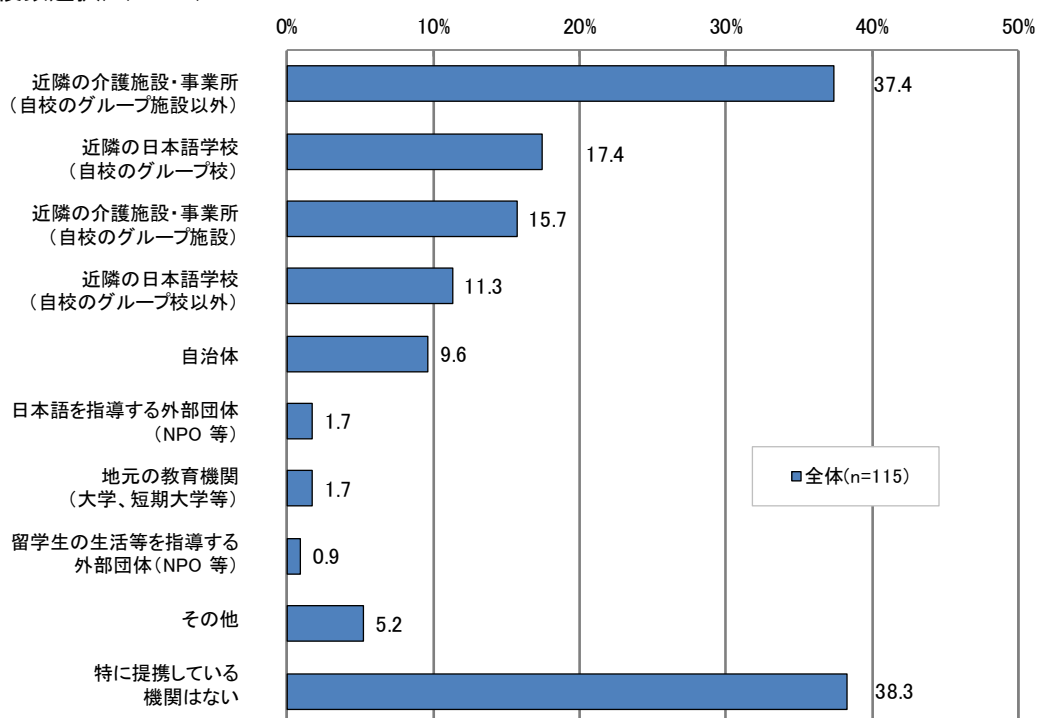
問12-4.外国人留学生に対するサポート体制:就職について (n=98)



4.2 外国人留学生サポートのための提携機関

「外国人留学生サポートのための提携機関」については、「近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設以外）」が 37.4%で最も高く、「近隣の日本語学校（自校のグループ校）」(17.4%)、「近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設）」(15.7%)、と続く。また「特に提携している機関はない」は 38.3%となっている。

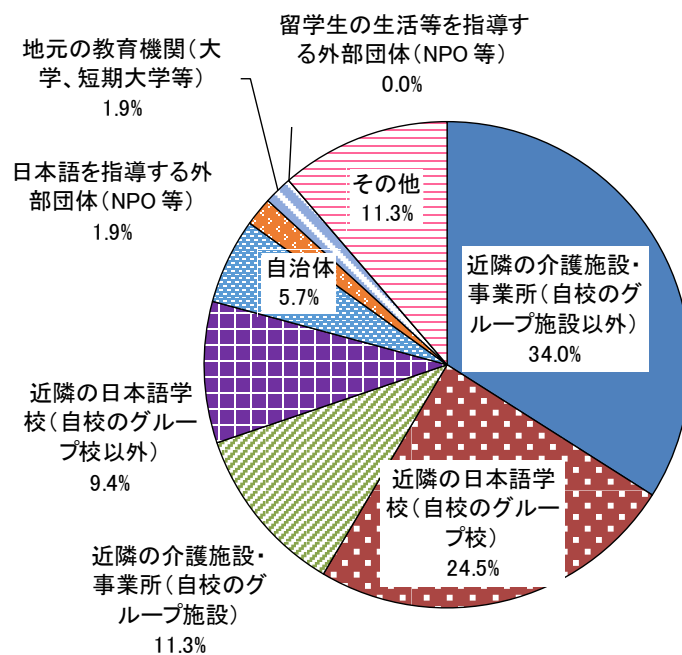
問13. 貴校では、外国人留学生をサポートするために、どのような機関と提携していますか。
(複数選択) (n=115)



4.3 提携の効果が最もあると感じる機関

「外国人留学生サポートのための提携機関」について、最も提携効果があると感じる機関については、「近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設以外）」（34.0%）が最も多く、「近隣の日本語学校（自校のグループ校）」（24.5%）、と続く。

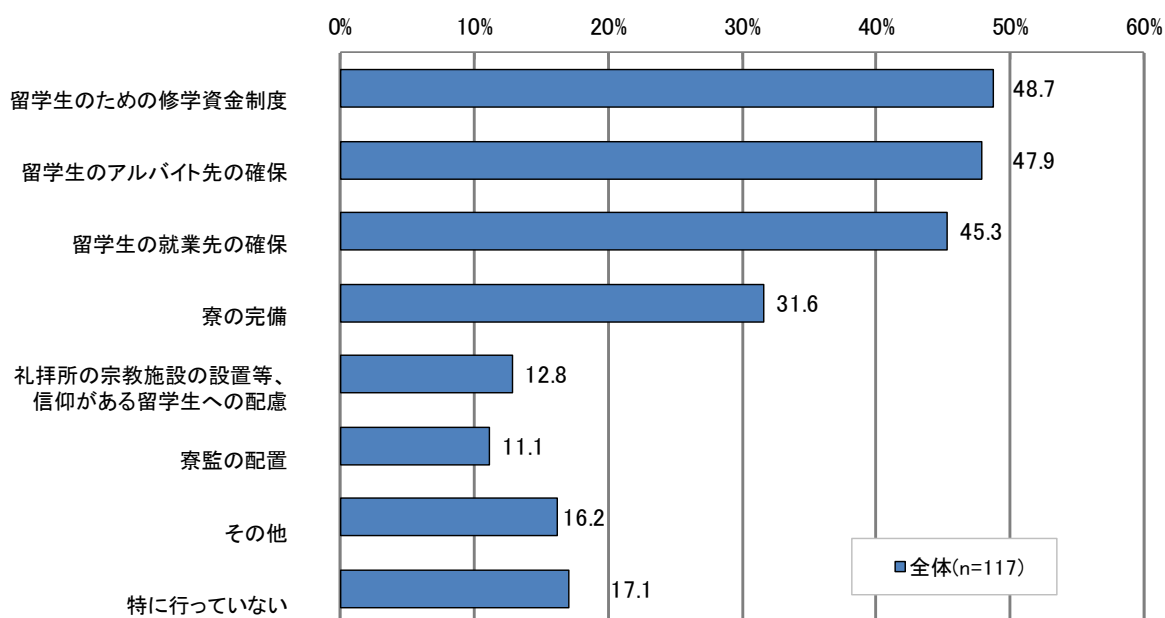
問14. どの機関との連携が、最も提携効果があると感じていますか。（1つ選択）（n=53）



4.4 外国人留学生へのサポート内容

「外国人留学生へのサポート内容」については、「留学生のための修学資金制度」(48.7%)、「留学生のアルバイト先の確保」(47.9%)、「留学生の就業先の確保」(45.3%)が上位に挙げられている。また「特に行っていない」は17.1%となっている。

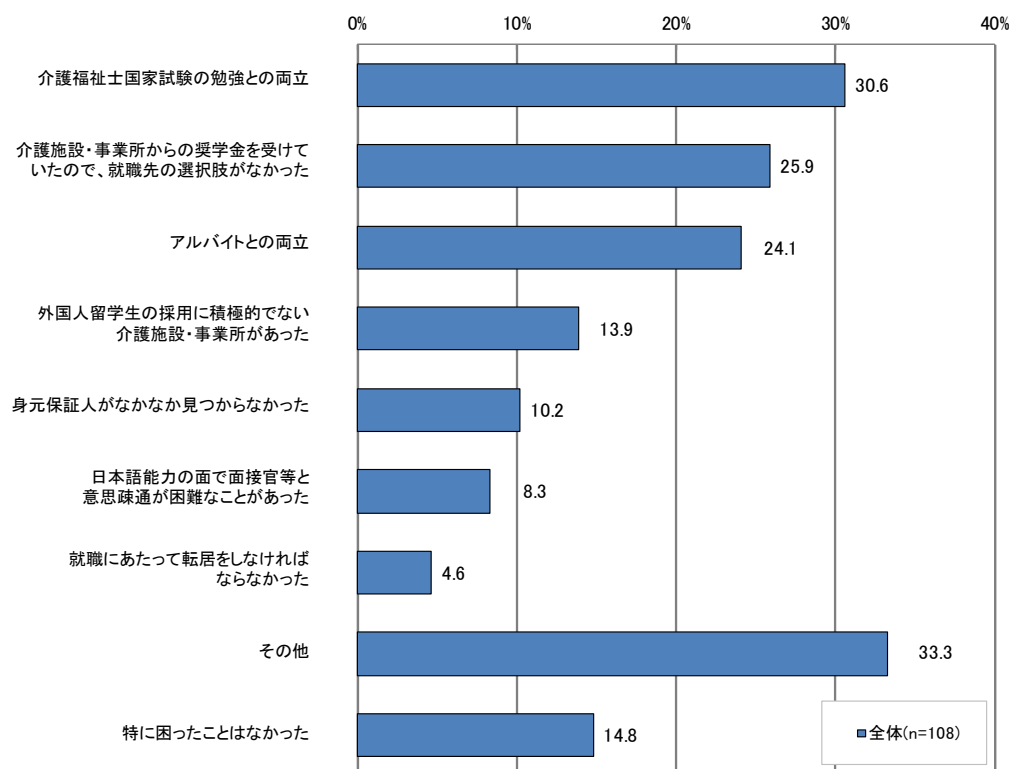
問15. 貴校では、外国人留学生のためにどのようなことを行っていますか。(複数選択) (n=117)



4.5 外国人留学生の就職活動・就職面での課題

「外国人留学生の就職活動・就職名での課題」については、「介護福祉士国家試験の勉強との両立」(30.6%)が最も多く、「介護施設・事業所からの奨学金を受けていたので、就職先の選択肢がなかった」(25.9%)、「アルバイトとの両立」(24.1%)、と続く。

問16. 貴校では、外国人留学生が就職活動・および就職するにあたり、どのような課題がありましたか。
(複数選択) (n=108)

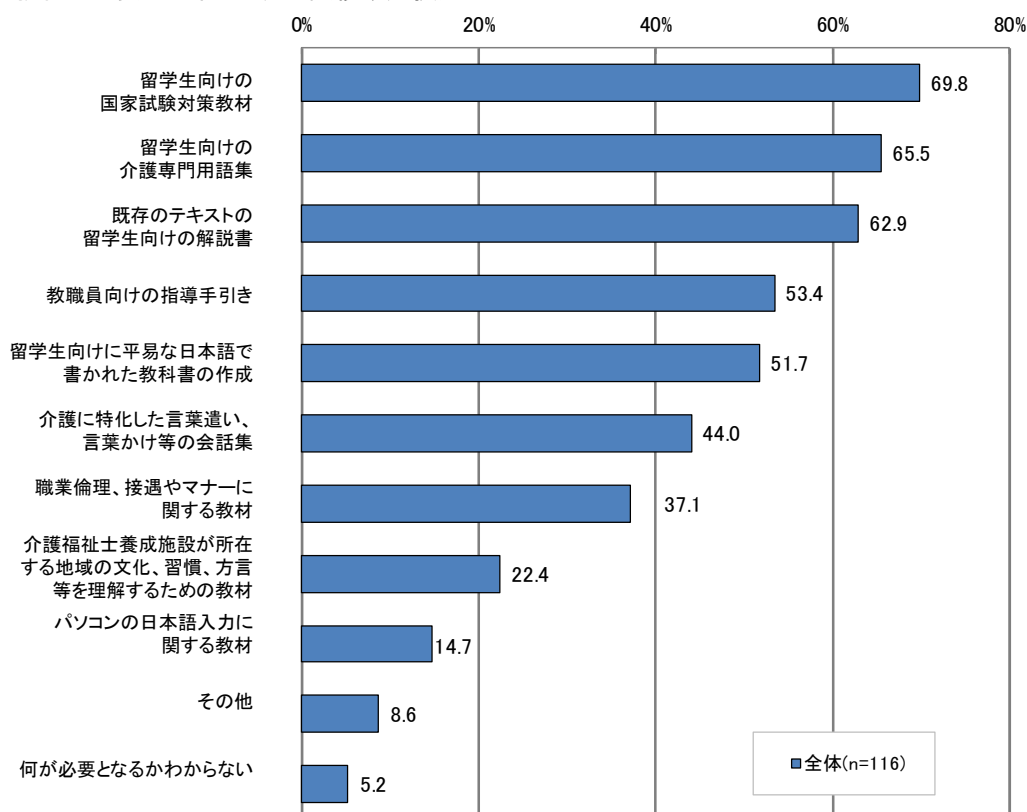


5 外国人留学生への教育体制

5.1 介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生に必要な教材

「介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生に必要な教材」については、「留学生向けの国家試験対策教材」(69.8%)、「留学生向けの介護専門用語集」(65.5%)、「既存のテキストの留学生向けの解説書」(62.9%)が上位に挙げられている。

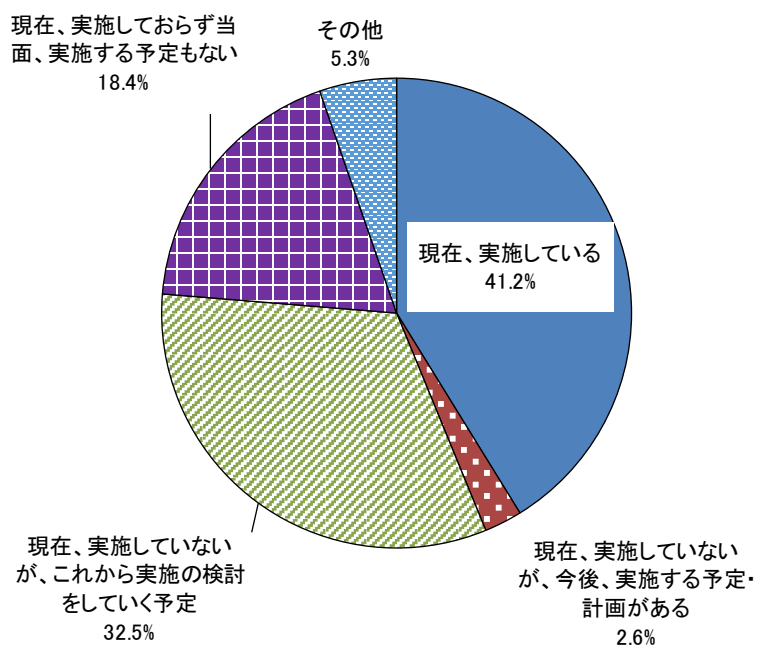
問17. 貴校では、介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生をサポートするために、どのような教材が必要だと考えますか。(複数選択) (n=116)



5.2 留学生への独自の教育

「留学生への独自の教育」については、「現在、実施している」(41.2%)が最も多く、「現在、実施していないが、これから実施の検討をしていく予定」(32.5%)、と続くが、18.4%の介護福祉士養成施設が「現在、実施しておらず当面、実施する予定もない」と回答した。

問18. 貴校では、留学生を対象とした独自の教育を実施していますか。(1つ選択) (n=114)



5.3 外国人留学生在身につける必要がある能力

介護業務に対応したコミュニケーションスキルでは、「重視する」が87.2%で最も高く、「やや重視する」とあわせた“重視計”がほぼ全体を占めた。

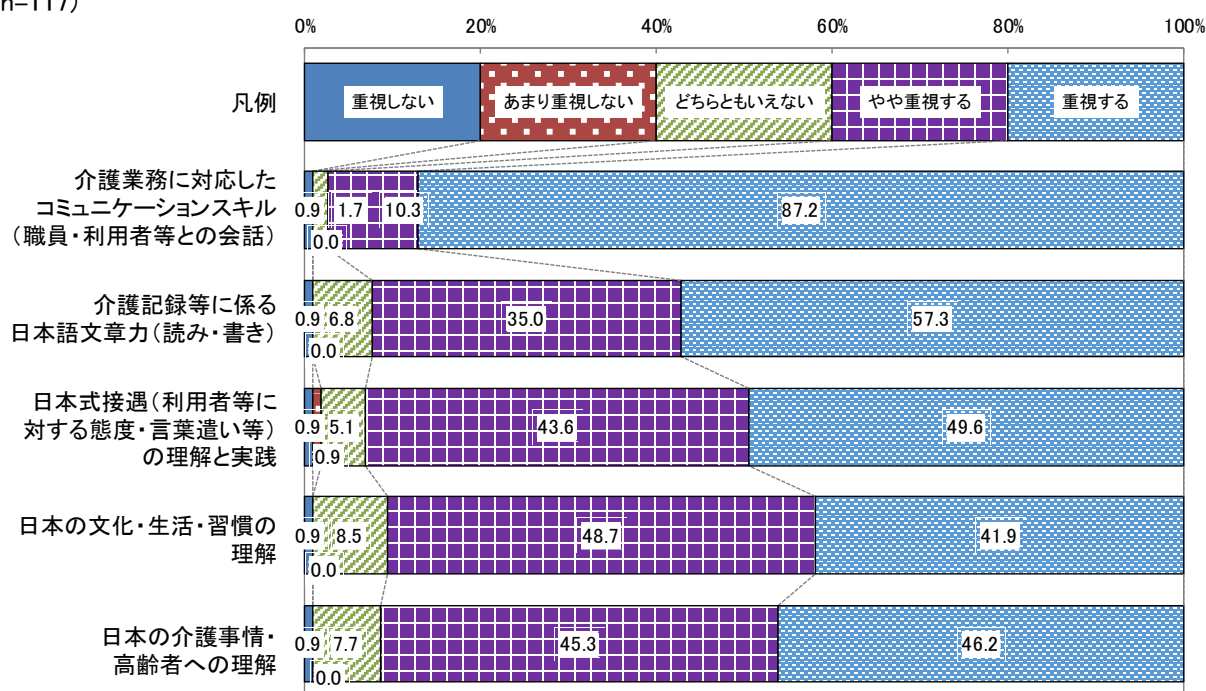
介護記録等に係る日本語文章力では、「重視する」(57.3%)が最も高く、「やや重視する」(35.0%)、「どちらともいえない」(6.8%)、「重視しない」(0.9%)、となった。

日本式接遇の理解と実践では、「重視する」(49.6%)が最も高く、「やや重視する」(43.6%)、「どちらともいえない」(5.1%)、「あまり重視しない」(0.9%)、「重視しない」(0.9%)、となった。

日本の文化・生活習慣の理解では、「やや重視する」(48.7%)が最も高く、「重視する」(41.9%)、「どちらともいえない」(8.5%)、「重視しない」(0.9%)、となった。

日本の介護事情・高齢者への理解では、「重視する」(46.2%)が最も高く、「やや重視する」(45.3%)、「どちらともいえない」(7.7%)、「重視しない」(0.9%)、となった。

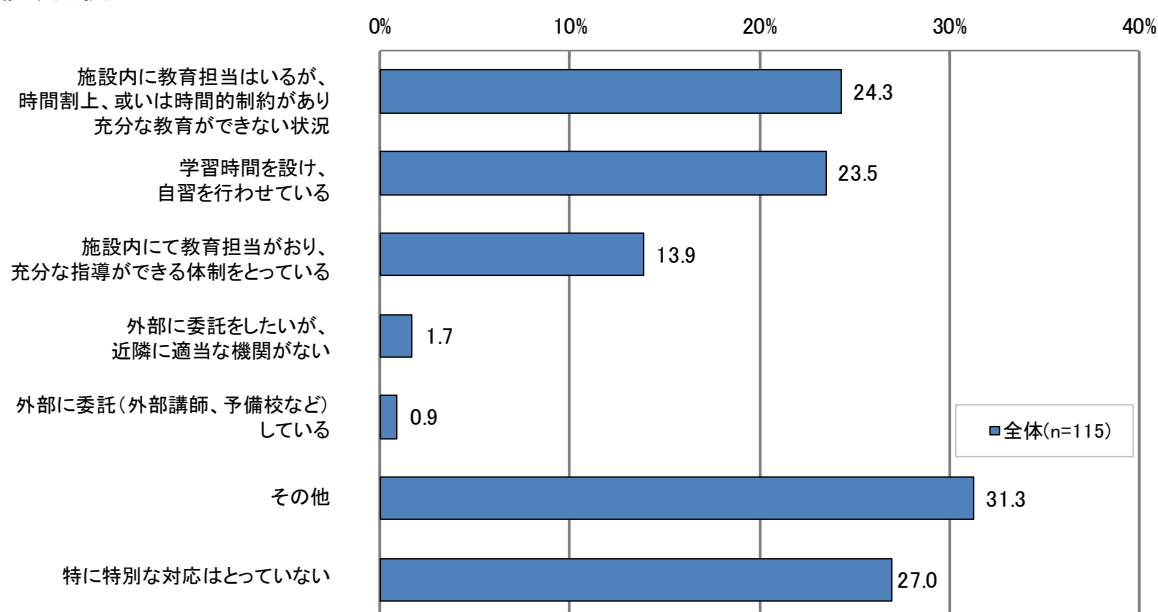
問19. 貴校では、外国人留学生在が以下の項目を身につけることについて、どのように考えますか。
(n=117)



5.4 国家試験対策

「国家試験対策」については、「施設内に教育担当はいるが、時間割上、或いは時間的制約があり十分な教育ができない状況」(24.3%)、「学習時間を設け、自習を行わせている」(23.5%)が上位に挙げられており、「その他」(31.3%)については、日本語や国家試験の独自の補講を行っているとした介護福祉士養成施設が多かった。また「特に特別な対応はとっていない」学校がおおよそ4分の1となっている。

問21. 貴校では、外国人留学生に対してどのような国家試験受験対策を行っていますか。
(複数選択) (n=115)

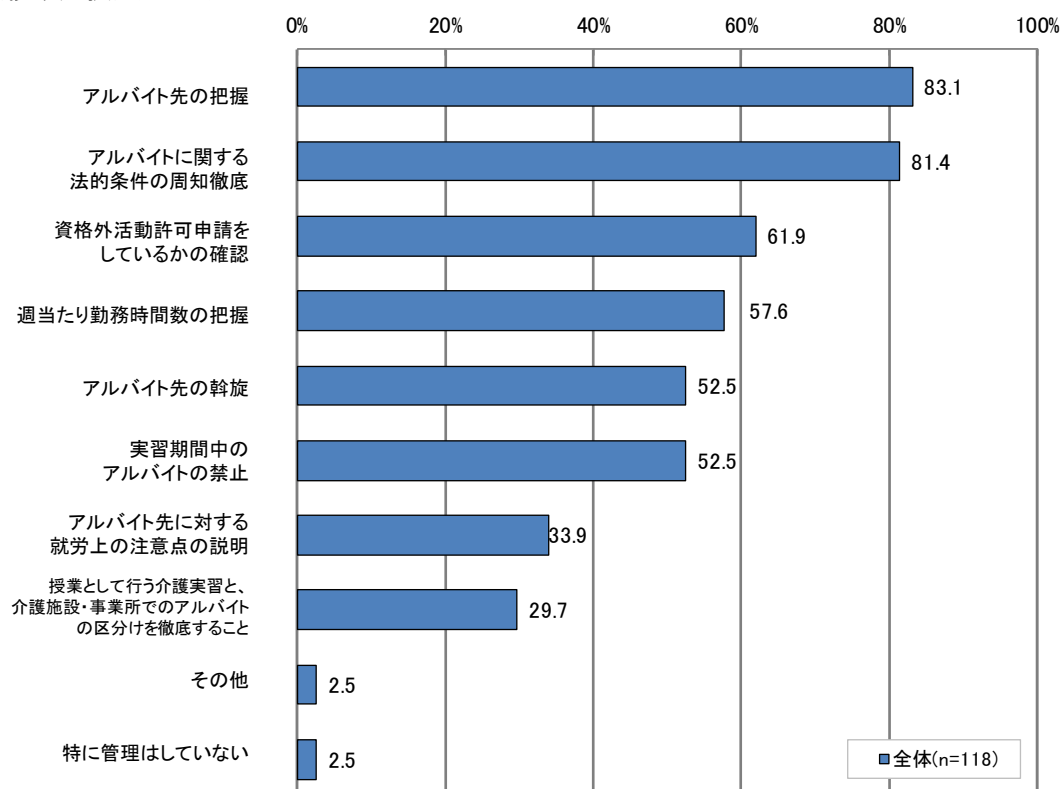


6 留学生のアルバイト

6.1 アルバイトの管理

「アルバイトの管理」について行っていることとしては、「アルバイト先の把握」(83.1%)が最も多く、「アルバイトに関する法的条件の周知徹底」(81.4%)、「資格外活動許可申請をしているかの確認」(61.9%)、「週当たり勤務時間数の把握」(57.6%)、「アルバイト先の斡旋」(52.5%)、「実習期間中のアルバイトの禁止」(52.5%)、と続く。

問22. 貴校では、外国人留学生が行うアルバイトをどのように管理していますか。
(複数選択) (n=118)

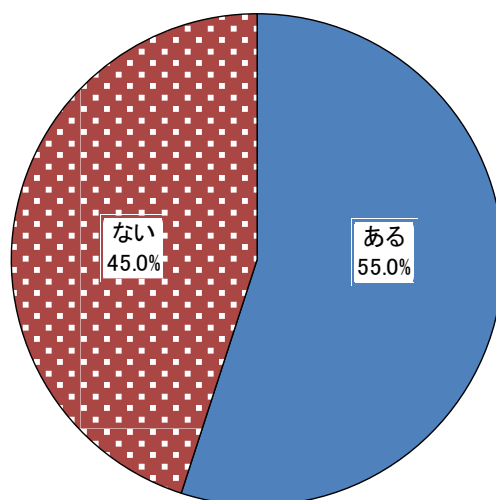


6.2 介護施設・事業所のアルバイト斡旋の有無

【回答対象：問 22 で「アルバイト先の斡旋」と回答した施設】

留学生のアルバイト先として介護施設・事業所を斡旋したことがあるかについては、「ある」が 55.0%、「ない」が 45.0%となった。

問22-1. 外国人留学生のアルバイト先として、介護施設・事業所のアルバイトを斡旋したことはありますか。(1つ選択)
(n=60)

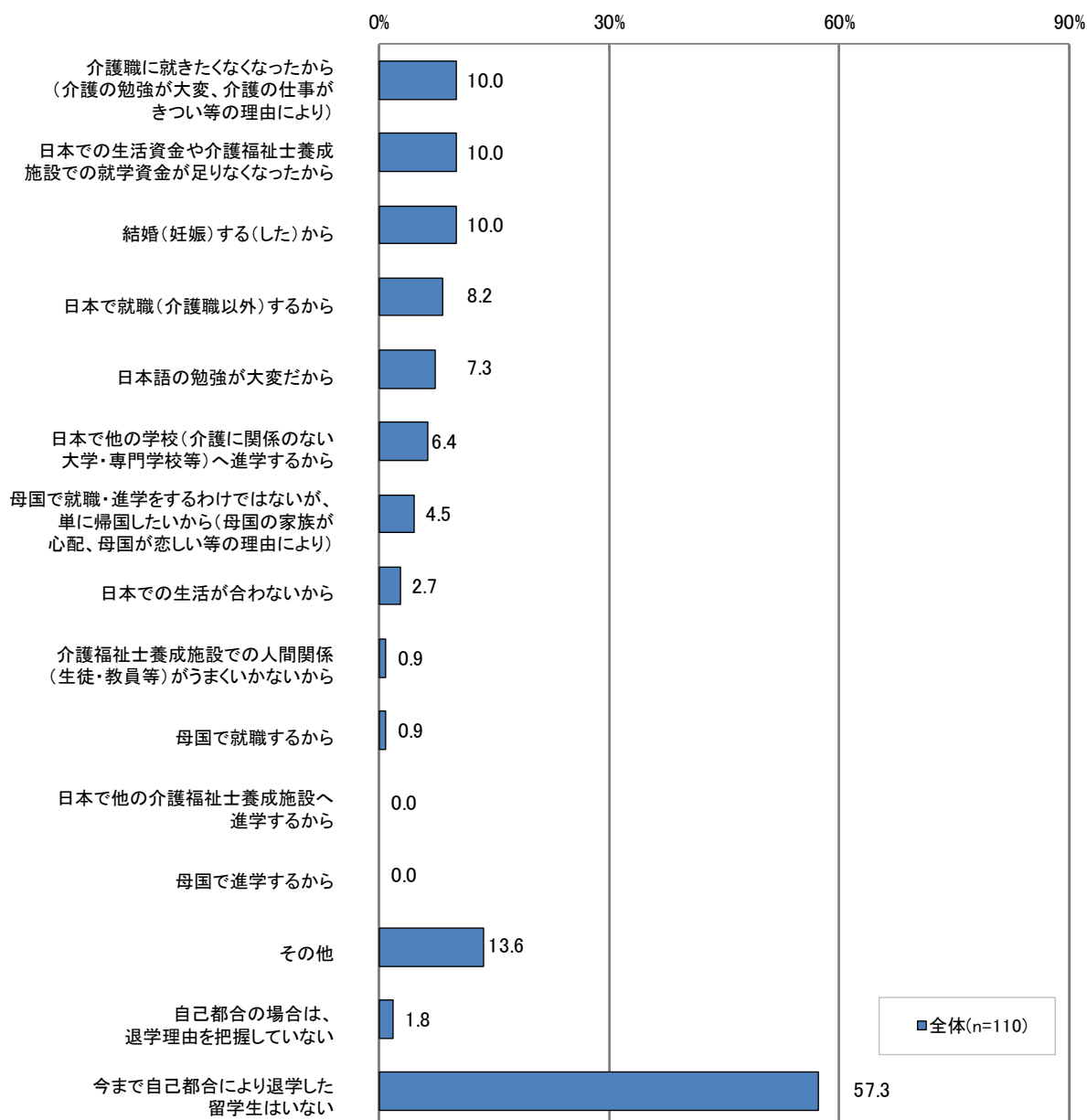


7 外国人留学生の退学理由

7.1 自己都合による退学

留学生の退学理由のうち、自己都合による退学理由については、「介護職に就きたくなくなったから（介護の勉強が大変、介護の仕事がきつい等の理由により）」、「日本での生活資金や介護福祉士養成施設での就学資金が足りなくなったから」、「結婚（妊娠）する（した）から」がともに 10.0%となった。また、「今まで自己都合により退学した留学生はいない」学校が半数となった。

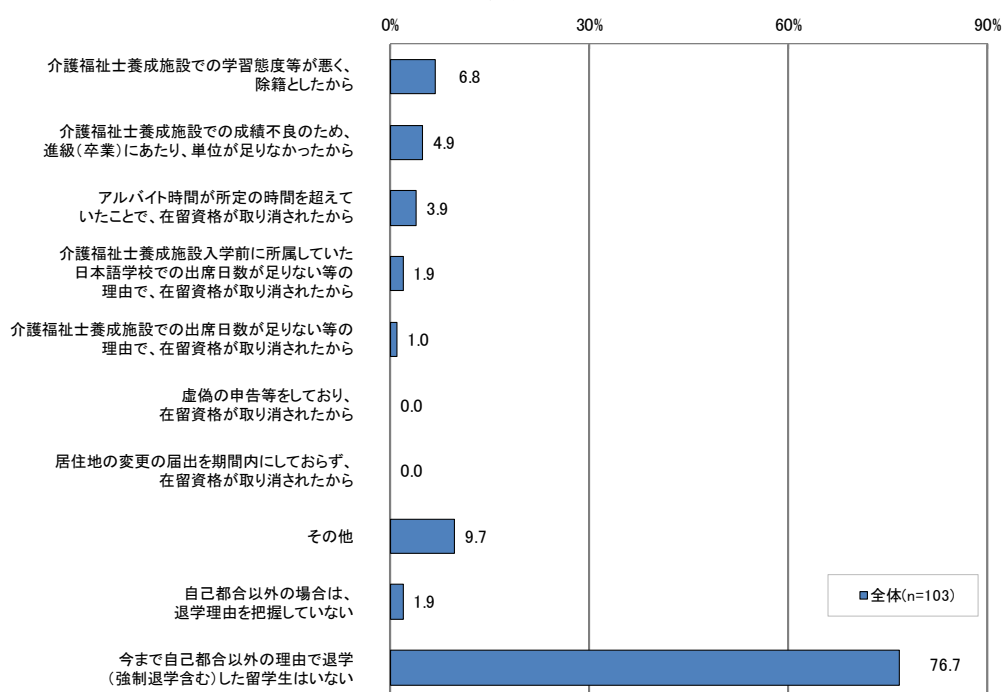
問23. 貴校では、外国人留学生を受入れるようになってから現在までに、どのような自己都合の理由により、外国人留学生は退学しましたか。（複数選択）（n=110）



7.2 自己都合以外による退学

留学生の退学理由のうち、自己都合以外による退学理由については、「介護福祉士養成施設での学習態度等が悪く、除籍としたから」が 6.8%、「介護福祉士養成施設での成績不良のため、進級（卒業）にあたり、単位が足りなかったから」が 4.9%、「アルバイト時間が所定の時間を超えていたことで、在留資格が取り消されたから」が 3.9%となった。「今まで自己都合以外の理由で退学（強制退学含む）した留学生はいない」学校が 8 割弱となった。

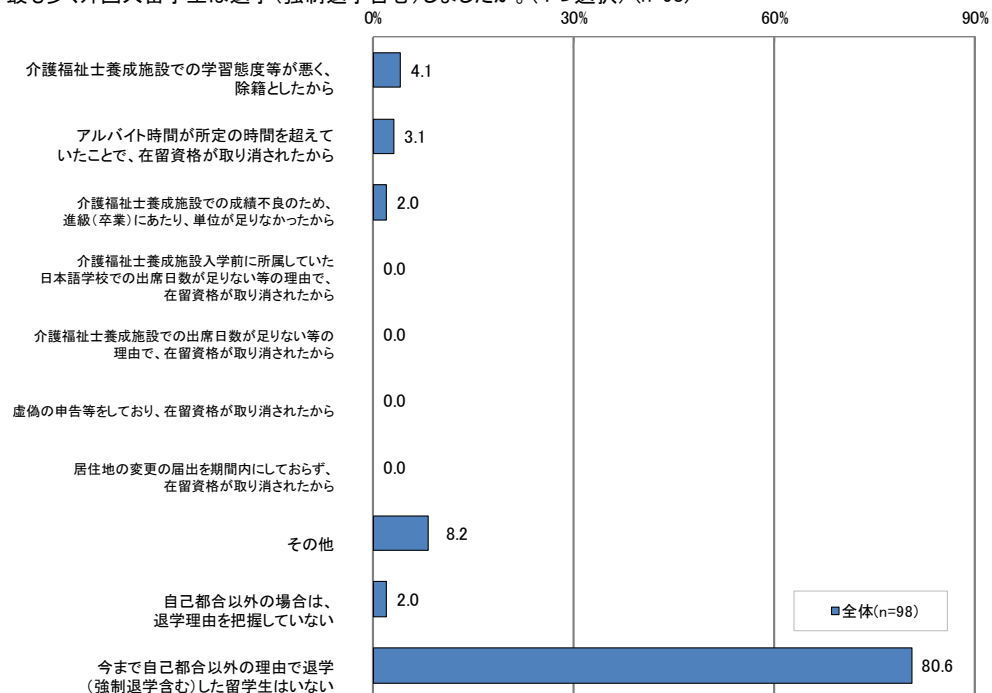
問24. 貴校では、外国人留学生を受入れるようになってから現在までに、どのような自己都合以外の理由により、外国人留学生は退学（強制退学含む）しましたか。（複数選択）（n=103）



7.2.1 自己都合以外による退学の主な理由

退学理由のうち最も多かった理由については、「介護福祉士養成施設での学習態度等が悪く、除籍としたから」が 4.1%、「アルバイト時間が所定の時間を超えていたことで、在留資格が取り消されたから」が 3.1%、「介護福祉士養成施設での成績不良のため、進級（卒業）にあたり、単位が足りなかったから」が 2.0%となった。「今まで自己都合以外の理由で退学（強制退学含む）した留学生はいない」（80.6%）学校が 8 割となっている。

問24. 貴校では、外国人留学生を受入れるようになってから現在までに、どのような自己都合以外の理由により、最も多く外国人留学生は退学（強制退学含む）しましたか。（1つ選択）（n=98）



3. アンケート調査結果(B)

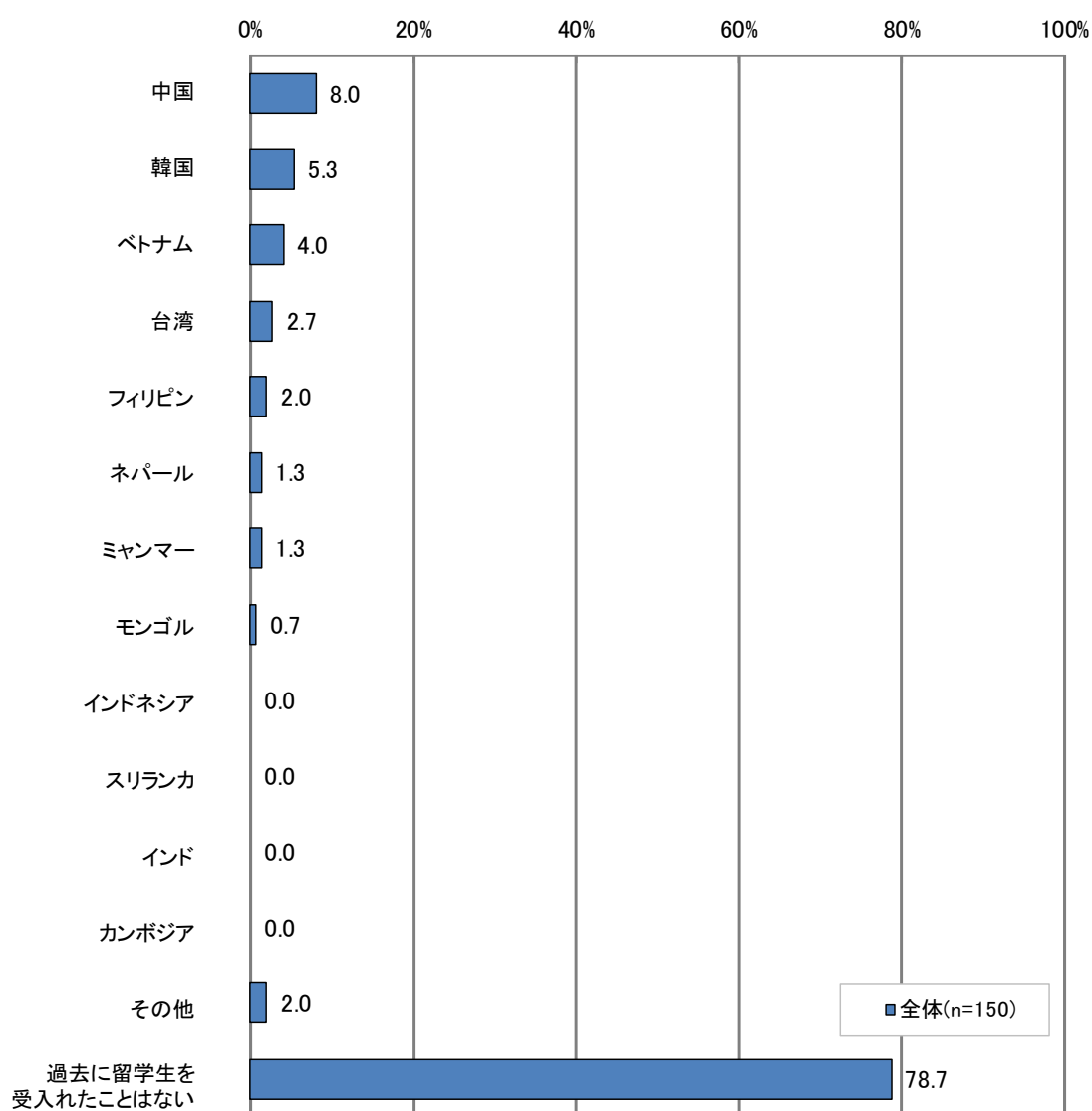
【留学生が所属していない介護福祉士養成施設対象】

1 外国人留学生の受入体制

1.1 過去に受入れた留学生の出身国

「過去に受入れた留学生の出身国」については、「中国」が8.0%、「韓国」が5.3%、「ベトナム」が4.0%となった。また「過去に留学生を受入れたことはない」が8割弱となっている。

問1. 過去に受入れたことのある留学生の出身国を教えてください。(複数選択) (n=150)



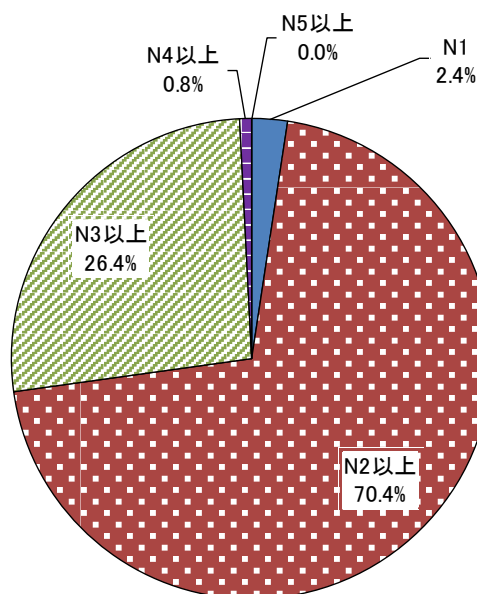
1.2 入学試験等で想定する判定項目

1.2.1 日本語能力

問 2-1. 日本語能力試験(JLPT)

今後留学生を受け入れると仮定した場合、求める日本語能力について、「日本語能力試験(JLPT)」については、「N2 以上」が 70.4%で最も高く、「N3 以上」(26.4%)、「N1」(2.4%)、と続く。

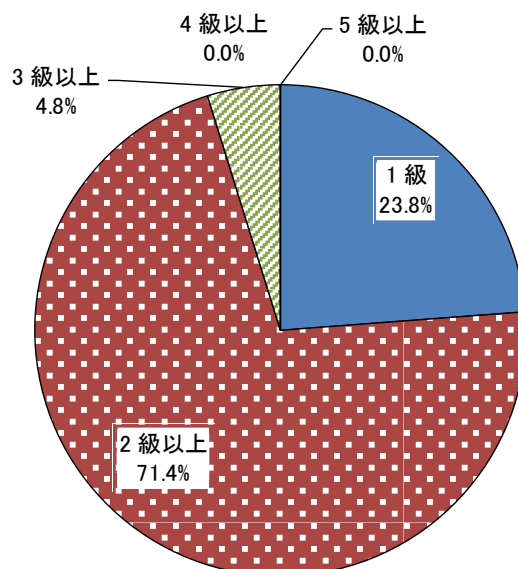
1. 日本語能力試験(JLPT)(1つ選択)(n=125)



問 2-2. 日本語 NAT-TEST

留学生を受け入れると仮定した場合、どのような日本語能力を求めるかについて、「日本語 NAT-TEST」については、「2 級以上」が 71.4%で最も高く、「1 級」(23.8%)、「3 級以上」(4.8%)、となった。

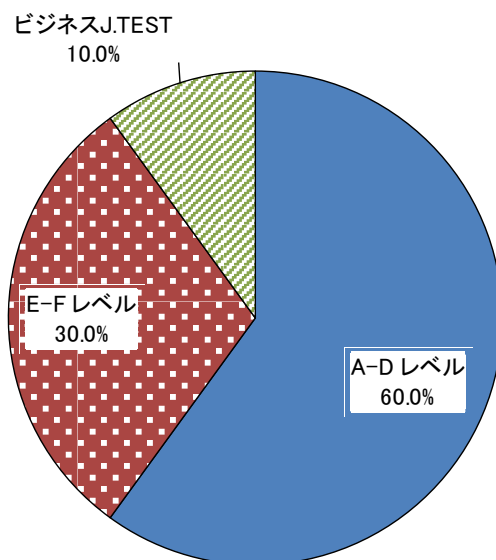
2. 日本語NAT-TEST(1つ選択)(n=21)



問 2-3. 実用日本語検定 J.TEST

留学生を受け入れると仮定した場合、求める日本語能力について、「実用日本語検定 J.TEST」については、「A-D レベル」が 60.0%で最も高く、「E-F レベル」(30.0%)、「ビジネス J.TEST」(10.0%)と続く。

3. 実用日本語検定J.TEST(1つ選択) (n=10)

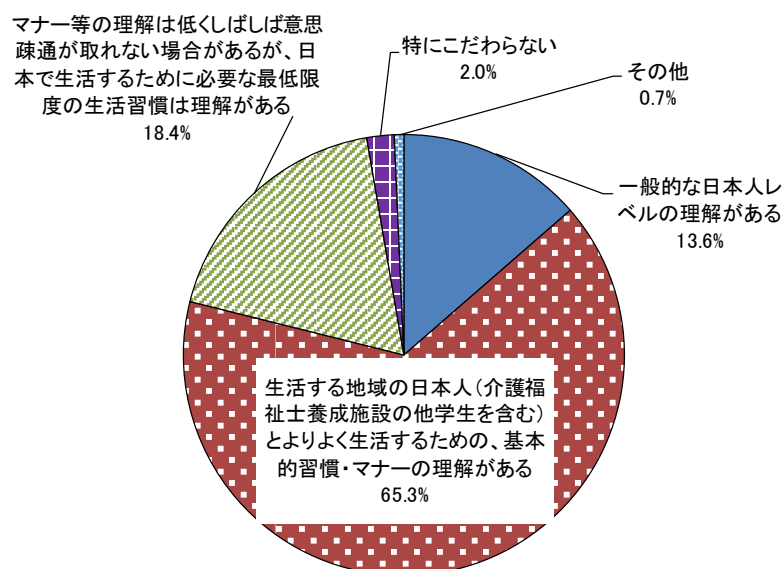


1.3 入学時に外国人留学生に求めるもの

1.3.1 日本の文化・習慣・マナー等の理解度

留学生を受け入れると仮定した場合、求める能力について、「日本の文化・習慣・マナー等の理解度」については、「生活する地域の日本人（介護福祉士養成施設の他学生を含む）とよりよく生活するための、基本的習慣・マナーの理解がある」が 65.3%で最も高く、「マナー等の理解は低くしばしば意思疎通が取れない場合があるが、日本で生活するために必要な最低限度の生活習慣は理解がある」（18.4%）、と続く。

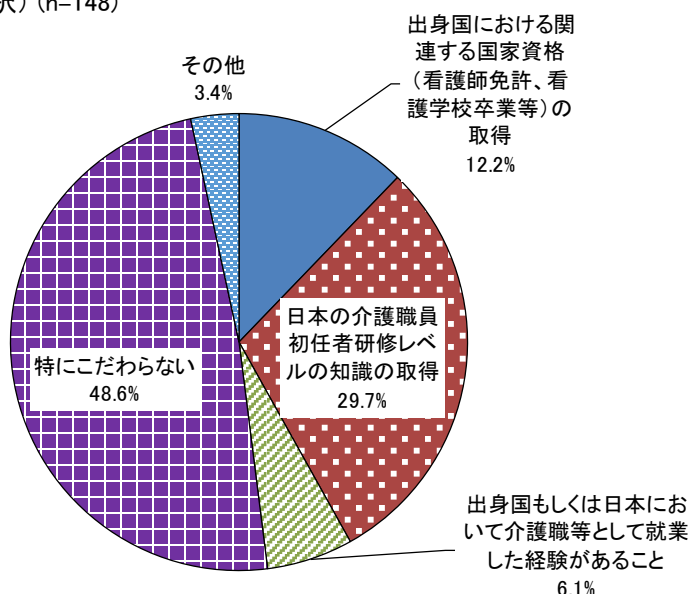
問3. 貴校では、外国人留学生を受け入れると仮定した場合、入学時において、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」をどの程度求めますか。（1つ選択）（n=147）



1.3.2 介護関連の知識等

留学生を受け入れると仮定した場合求める能力について、「介護関連の知識等」については、「特にこだわらない」が 48.6%で最も高く、「日本の介護職員初任者研修レベルの知識の取得」（29.7%）、と続く。

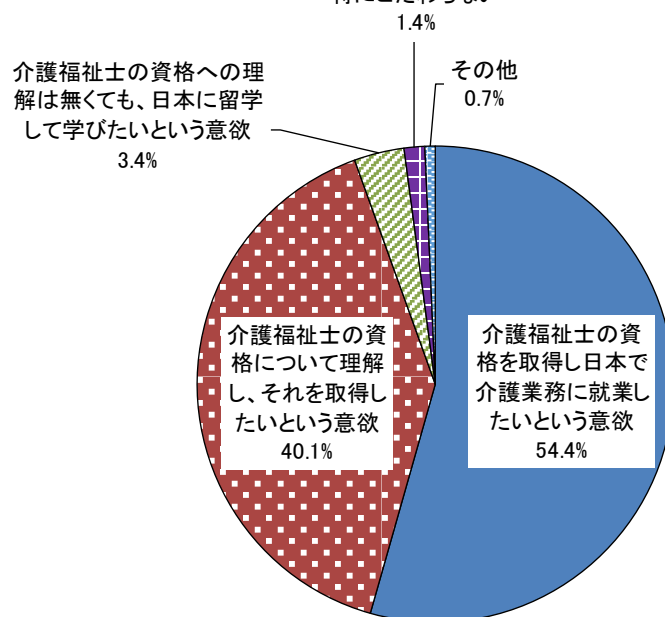
問4. 貴校では、外国人留学生を受け入れると仮定した場合、入学時において、「介護に関連する知識等」をどの程度求めますか。（1つ選択）（n=148）



1.3.3 学習・就業への意欲

留学生を受け入れると仮定した場合、求める能力について、「学習・就業への意欲」については、「介護福祉士の資格を取得し日本で介護業務に就業したいという意欲」が54.4%で最も高く、「介護福祉士の資格について理解し、それを取得したいという意欲」(40.1%)、と続く。

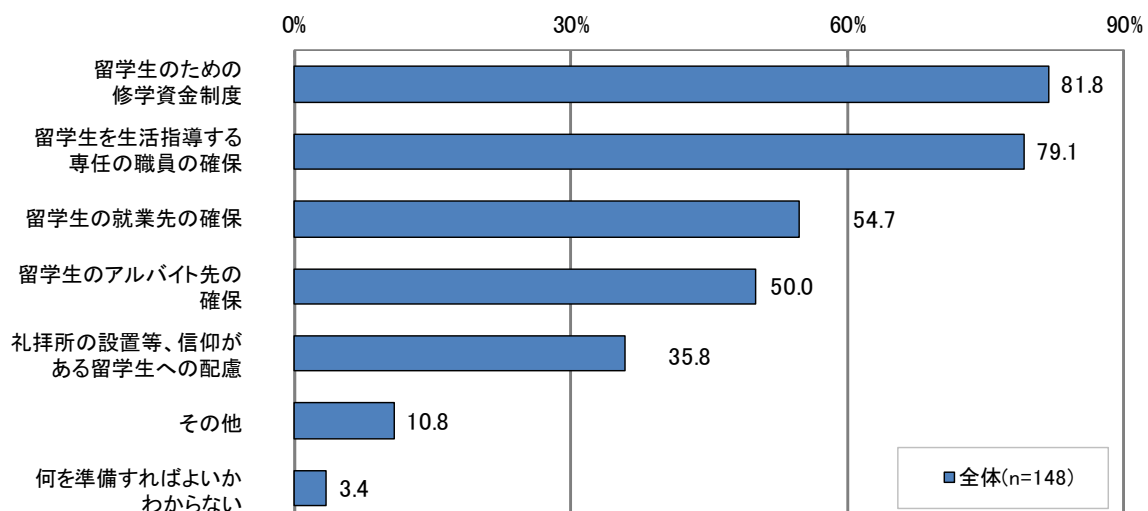
問5. 貴校では、外国人留学生を受け入れると仮定した場合、入学時において、「学業・就業への意欲」をどの程度求めますか。(1つ選択) (n=147) 特にこだわらない



1.4 外国人留学生受入れ体制の整備に必要なこと

留学生を受け入れると仮定した場合、「外国人留学生受入れ体制の整備に必要なこと」については、「留学生のための修学資金制度」(81.8%)、「留学生を生活指導する専任の職員の確保」(79.1%)が上位に挙げられている。

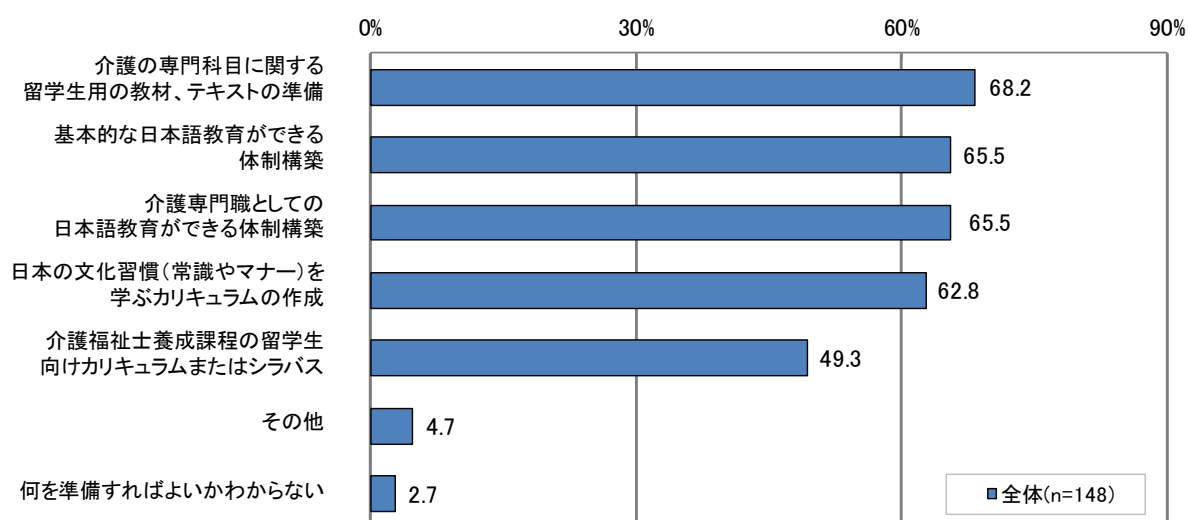
問6. 貴校では、外国人留学生を受け入れると仮定した場合、受入れ体制の整備にあたり、どのようなことが必要だと考えますか。(複数選択) (n=148)



1.5 教育体制の整備に必要なこと

留学生を受け入れると仮定した場合、「教育体制の整備に必要なこと」については、「介護の専門科目に関する留学生用の教材、テキストの準備」(68.2%)が最も多く、「基本的な日本語教育ができる体制構築」(65.5%)、「介護専門職としての日本語教育ができる体制構築」(65.5%)、「日本の文化習慣(常識やマナー)を学ぶカリキュラムの作成」(62.8%)、と続く。

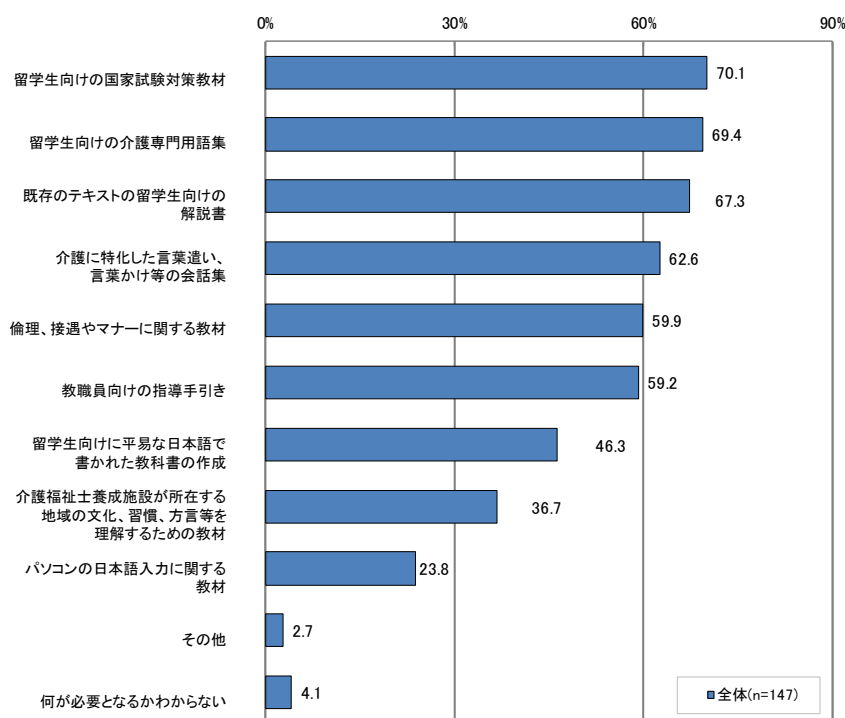
問7. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、教育体制の整備にあたり、どのようなことが必要だと考えますか。(複数選択) (n=148)



1.6 外国人留学生サポートのために必要な教材

留学生を受け入れると仮定した場合、「外国人留学生サポートのために必要な教材」については、「留学生向けの国家試験対策教材」(70.1%)が最も多く、「留学生向けの介護専門用語集」(69.4%)、「既存のテキストの留学生向けの解説書」(67.3%)、「介護に特化した言葉遣い、言葉かけ等の会話集」(62.6%)、と続く。

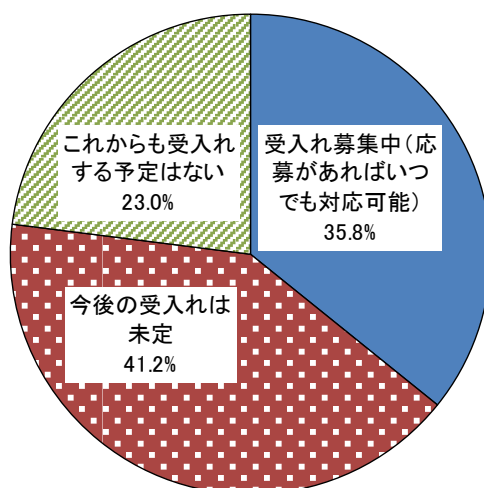
問8. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生をサポートするために、どのような教材が必要だと考えますか。
(複数選択) (n=147)



1.7 介護福祉士養成施設への外国人留学生受入意向

今後の外国人留学生受入れ意向については、「今後の受入れは未定」が 41.2%で最も高く、「受入れ募集中（応募があればいつでも対応可能）」(35.8%)、「これからも受入れする予定はない」(23.0%)となった。

問9. 貴校における、介護福祉士養成課程への外国人留学生の受入れ意向を教えてください。(1つ選択) (n=148)



ii. 養成校に在籍する外国人留学生へのアンケート調査

1. アンケート調査結果まとめ

【前提】

- ・ 日本介護福祉士養成施設協会からのデータ（2018年4月時点での留学生在学数）によると、全国で162校計1,749名の留学生在籍していると予想される中、82校計510名の留学生より回答があった。（母数を上記1,749名とすると、回収率29.1%）
- ・ 留学生の年齢は、「～25歳以下」（55.0%）、「26歳～30歳」（33.7%）、となり、30歳以下の留学生が88.7%を占める。
- ・ 留学生の在学年数は、「半年以上、1年未満」（59.6%）、「1年以上、2年未満」（28.2%）、「半年未満」（8.0%）と、2年未満が大半を占める。
- ・ 留学生の既婚／未婚については、「結婚していない」（84.4%）、「結婚しており相手は日本に住んでいる」（7.7%）、「結婚しており、相手は日本以外（母国等）に住んでいる」（7.9%）となり、未婚者が84.4%、既婚者が15.6%となった。
- ・ 留学生の国籍は、「ベトナム」（44.7%）、「中国」（14.9%）、「ネパール」（12.0%）の順である。

① 介護福祉士養成施設での就学・学習状況について

○介護福祉士養成施設に入学する直前は、日本におり日本語学校に通っている学生が多く、日本語学校の教員に勧められたことから介護福祉士養成施設に入学している留学生が多い。

- ・ 介護福祉士養成施設に入学する直前は、86.0%（n=464）の留学生が日本におり、そのうち90.5%（n=393）が日本語学校に通っていた。また、全留学生のうち33.0%（n=455）が母国においても日本語学校に通っていた経験がある。
- ・ 留学生が日本の介護福祉士養成施設に入学する理由は、「日本で働きたかったから」（46.8%）（n=449）が最も多いが、修業年限3-4年の学校に通っている留学生に限定すると、「将来、日本の介護福祉士の専門知識・技術、そして経験を生かして母国で仕事がしたいから」（51.9%）（n=52）が最も多い。
- ・ 現在通っている介護福祉士養成施設を選んだ理由は、留学生全体では「日本語学校の教員、職員等に勧められたから」（36.8%）（n=446）が最も多いが、介護福祉士養成施設の授業に「満足」していると回答した留学生（n=198）は、「留学生のサポート体制が充実しているから」（33.8%）を挙げている。
- ・ 介護福祉士養成施設の授業に満足している（満足）留学生（n=183）のうち84.7%が日本での生活にも満足（満足・やや満足）している一方、介護福祉士養成施設の授業に満足していない（どちらともいえない・やや不満・不満）留学生（n=117）のうち、51.3%が日本での生活に満足していない（どちらともいえない・やや不満・不満）。
- ・ 介護福祉士養成施設の授業に満足（満足・やや満足）している留学生は、介護職として就職先を決める場合の重視度について、「仕事の内容」、「仕事のやりがい」、「労働時間・休日等の働き方」、「安定的に長期間働くことができるか」の各項目において、満足していない（どちらともいえない・やや不満・不満）留学生に比べ、より重要視している。
- ・ 介護福祉士養成施設の授業に満足していない（どちらともいえない・やや不満・不満）留学

生 (n=118) のうち 50.8%が介護福祉士養成施設の授業における日本語の理解度は低い (どちらともいえない・あまりわからない・まったくわからない)。

② 留学生の日本語習得状況等について

○留学生の保持する日本語に関する資格は日本語能力試験 (JLPT) が最も多く、全留学生の 3 分の 1 は N2 以上を保持している。

○およそ 10 人に 1 人の留学生が介護福祉士養成施設の授業を理解できていない。

- ・ 介護福祉士養成施設入学時の日本語能力・保有資格については、75.9% (n=432) が日本語能力試験 (JLPT) を保持しており、そのうち N2 以上を保持している留学生が 38.5%を占める。また、入学後、79.5% (n=404) の留学生が日本語能力試験 (JLPT) の資格を更新している。
- ・ 介護福祉士養成施設の授業内容の理解については、63.6%の留学生が理解できる (十分理解できる・やや理解できる) としていたが、理解できない (やや理解できない・全く理解できない) とした留学生が 9.8% (n=425) おり、およそ 10 人に 1 人の留学生が、授業内容を理解できていない。
- ・ 介護福祉士養成施設を辞めたいと思った経験については、「1 度も辞めたいと思ったことはない」 (42.0%) (n=426) と「あまり思ったことはない」 (24.2%) で、日常生活における日本語の理解度が高くない (どちらともいえない・あまりわからない・まったくわからない) 留学生に限れば、介護福祉士養成施設を辞めたいと「たまに思う」 (22.2%) 「時々思う」 (23.6%) 「よく思う」 (6.9%) となり、日本語の理解度が必ずしも高くない留学生の方が介護福祉士養成施設を辞めたいと思う頻度が高い傾向にある。

③ 留学生の日本での生活全般について

○7 割の留学生が、日本での生活に満足している。

- ・ 日本での生活の満足度については、「満足」 (35.0%) 「やや満足」 (36.2%) と、71.2%の留学生が日本の生活に満足している。 (n=417)

④ 留学生自身について

○留学生の 4 分の 1 は母国での最終学歴で大学・大学院以上を卒業しており、4 割が短期大学・専門学校を卒業している。また、3 分の 1 の留学生が母国での看護関連の資格・卒業資格を保持している。

○半数の留学生が何らかの奨学金を受けており、そのうち 3 分の 1 は介護施設・事業所からの奨学金であった。また、どのような場合においても返済する必要がない、給付型の奨学金を受けている留学生は 5 分の 1 弱であった。

○ほとんどの留学生がアルバイトを行っており、7 割の留学生が介護施設・事業所でアルバイトを行っている。

○奨学金・借金を受けている留学生よりも、受けていない留学生のほうがアルバイトにかかる時間が長い傾向にある。

- ・ 留学生の母国での最終学歴は、「短期大学・専門学校」 (40.1%) 「高等学校」 (32.9%) 「大学・大学院」 (26.0%) 「高等学校未満」 (1.0%) となった。 (n=416)

- ・ 留学生の母国での看護関連の資格・卒業資格の有無については、「持っている」(36.1%)、「持っていない」(63.9%)となっており、留学生のうち3分の1の学生は看護関連の資格・卒業資格を持っている。(n=416)
- ・ 介護福祉士養成施設の授業料・生活費については、「自分が奨学金を受けて支払っている」(51.0%)(n=414)となり、ほぼ半数の留学生が何らかの奨学金を受けており、奨学金の支給先としては「介護施設・事業所からの奨学金」(37.8%)(n=414)が最も多い。返済の有無については、「どのような場合においても返済する必要がない」(18.7%)(n=414)、「一定の期間介護施設・事業所に就職して働けば返済する必要がなくなる」(64.7%)(n=414)となった。
- ・ 10.1%(n=414)の留学生が借金をしており、うち38.1%(n=42)が現在借金を返済中である。
- ・ 94.4%(n=413)の留学生がアルバイトをしており、内訳は「介護施設のみであるバイトをしている」(55.9%)、「介護施設以外でアルバイトをしており、介護施設ではしていない」(24.2%)、「介護施設以外、介護施設の双方でアルバイトしている」(14.3%)となり、全留学生のうち70.2%の留学生が介護施設でアルバイトをしている。
- ・ 介護施設での1週間のアルバイト時間は、「25時間～28時間未満」(40.1%)(n=292)が最も高く、「20時間～25時間未満」(19.5%)(n=292)が続く。また、奨学金・借金等をしている留学生よりも、していない留学生の方が、アルバイトにかかる時間が長い。
- ・ 介護施設以外での1週間のアルバイト時間は、「20時間～25時間未満」(25.8%)(n=155)が最も多く、「25時間～28時間未満」(21.3%)(n=155)が続く。また、奨学金・借金等をしている学生よりも、していない学生の方が、アルバイトにかかる時間が長い。

2. アンケート調査結果

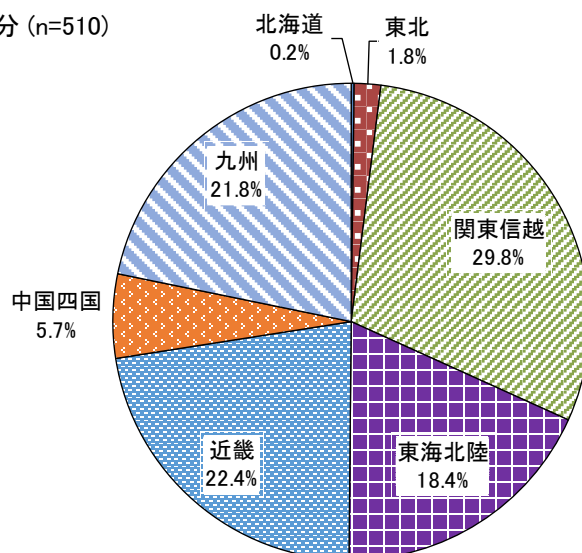
1 アンケート回答者の属性

1.1 留学生の所属する介護福祉士養成施設の区分

1.1.1 エリア区分

留学生の所属する介護福祉士養成施設がある所在地については、「関東信越」が 29.8%、「近畿」が 22.4%、「九州」が 21.8%、「東海北陸」が 18.4%となった。

F4. エリア区分 (n=510)

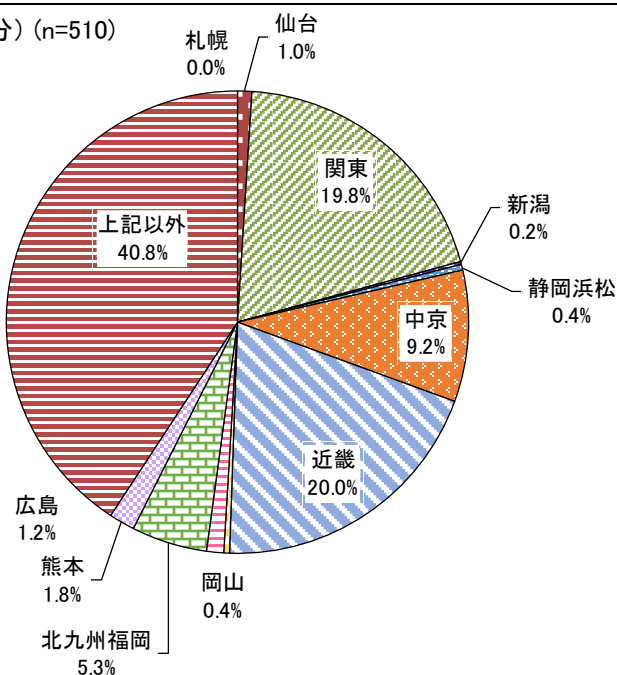


1.1.2 所在地

大都市圏区分

留学生の所属する介護福祉士養成施設がある所在地を大都市圏区分で見ると、「近畿」(20.0%)、「関東」(19.8%)、「中京」(9.2%)、「北九州福岡」(5.3%)、「熊本」(1.8%)、「広島」(1.2%)、「仙台」(1.0%)、「静岡浜松」(0.4%)、「岡山」(0.4%)、「新潟」(0.2%)となり、大都市圏でない「上記以外」が 40.8%となった。

F7. 養成校の所在地(大都市圏区分) (n=510)

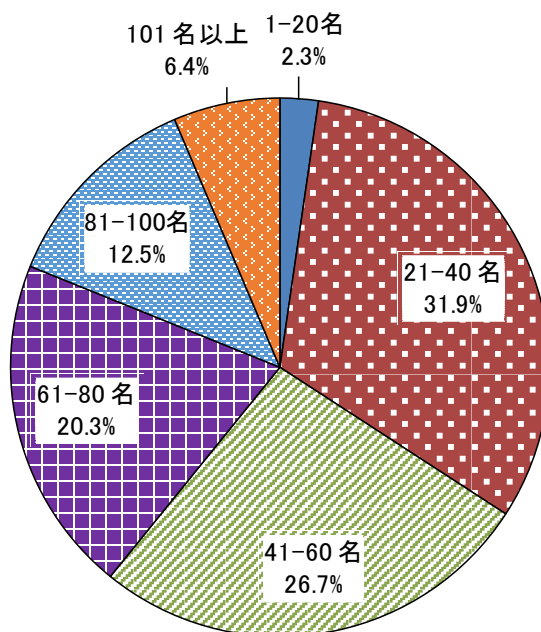


1.2 学生数

1.2.1 学生総数

留学生の所属する介護福祉士養成施設の学生総数の区分は、「21-40 名」(31.9%)が最も多く、「41-60 名」(26.7%)、「61-80 名」(20.3%)、と続く。

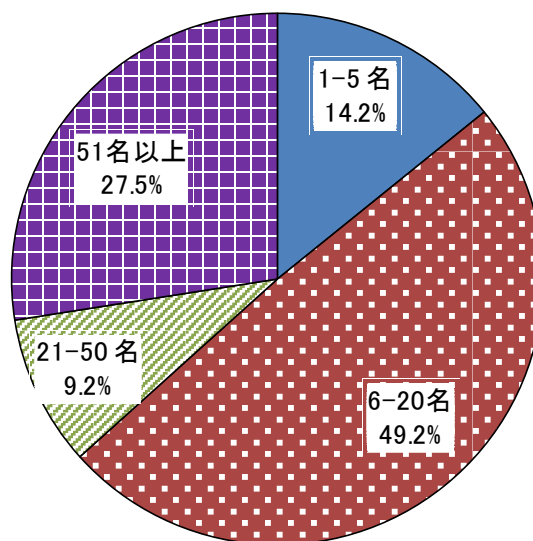
A 票_ 問1_学生総数(H31-H34) (n=439)



1.2.2 留学生総数

留学生の所属する介護福祉士養成施設の留学生総数については、「6-20 名」(49.2%)が最も多く、「51 名以上」(27.5%)、「1-5 名」(14.2%)、「21-50 名」(9.2%)となった。

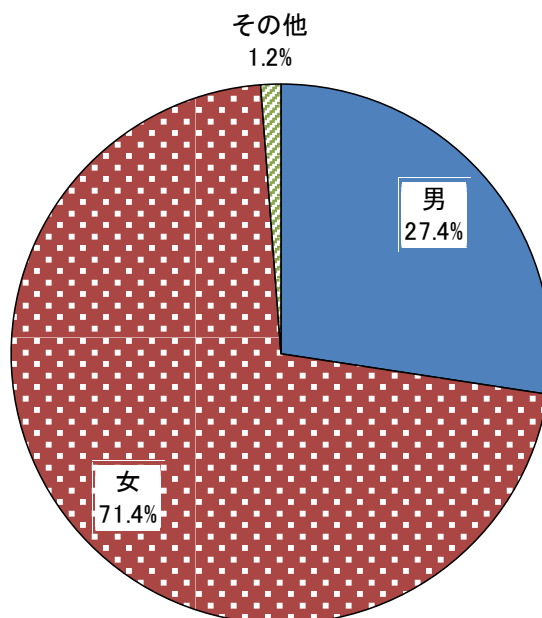
A 票_ 問1_外国人留学生総数(H31-H34) (n=437)



1.3 性別

「女」(71.4%)、「男」(27.4%)となった。

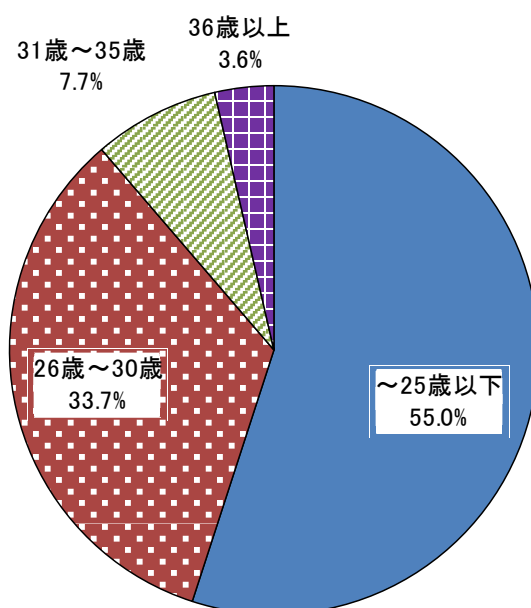
問27. あなたの性別を教えてください。(1つ選択) (n=416)



1.4 年齢

「～25歳以下」(55.0%)が最も多く、「26歳～30歳」(33.7%)、「31歳～35歳」(7.7%)、「36歳以上」(3.6%)となった。

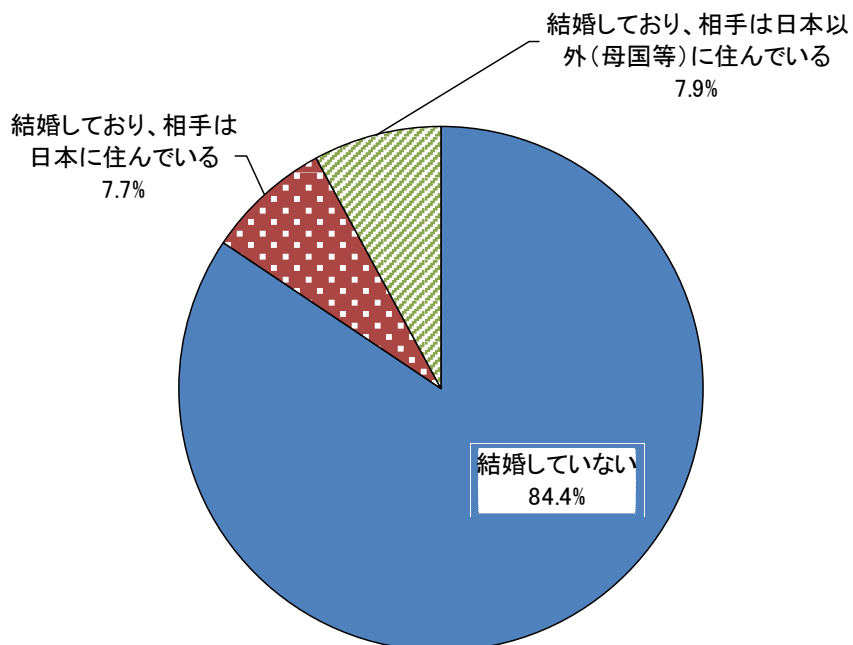
問28. あなたの年齢を教えてください。(1つ選択) (n=416)



1.5 既婚・未婚

「結婚していない」が84.4%、「結婚しており、相手は日本以外（母国等）に住んでいる」が7.9%、「結婚しており、相手は日本に住んでいる」が7.7%となった。

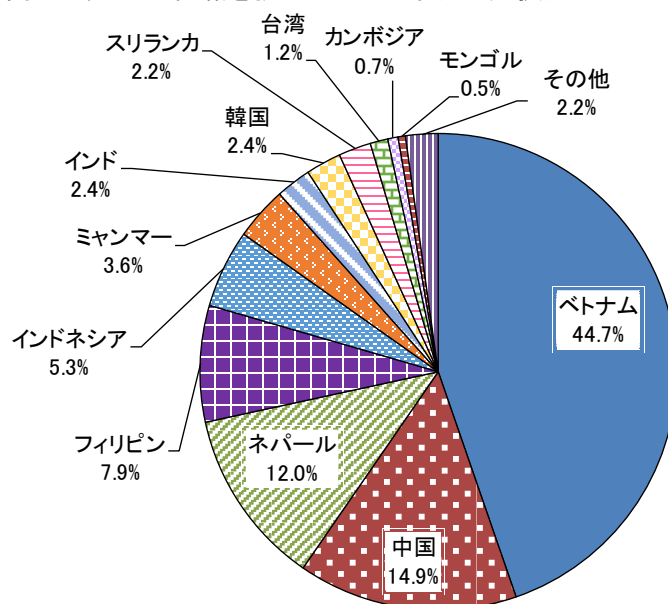
問29. あなたは結婚していますか。（1つ選択）（n=416）



1.6 国籍

「ベトナム」が44.7%で最も高く、「中国」（14.9%）、「ネパール」（12.0%）、と続く。

問30. あなたの国籍を教えてください。（1つ選択）（n=416）

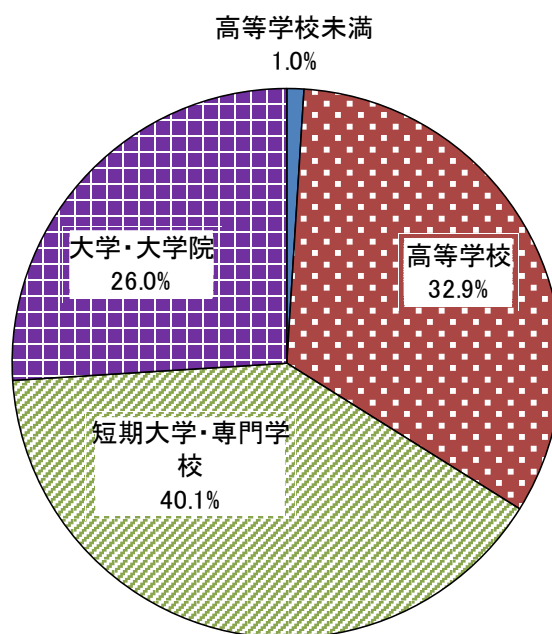


1.7 母国での最終学歴・資格取得・就業経験

問 31-1. 母国での最終学歴

「短期大学・専門学校」(40.1%)が最も多く、「高等学校」(32.9%)、「大学・大学院」(26.0%)、「高等学校未満」(1.0%)となった。

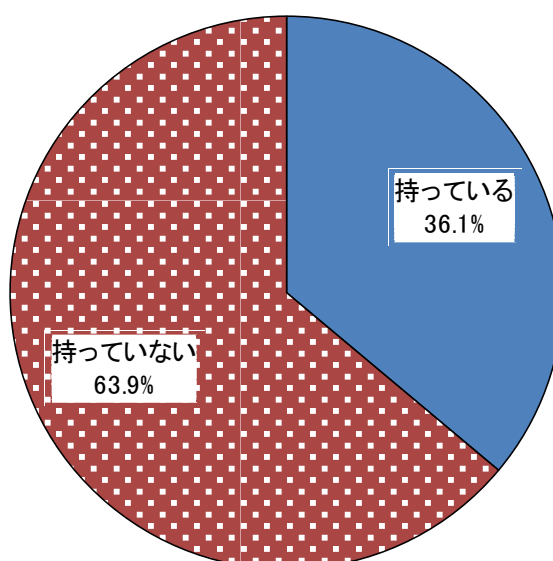
問31(1).あなたの母国での最終学歴(1つ選択) (n=416)



問 31-2. 母国での看護関連の資格・卒業資格の有無

「持っていない」(63.9%)、「持っている」(36.1%)となった。

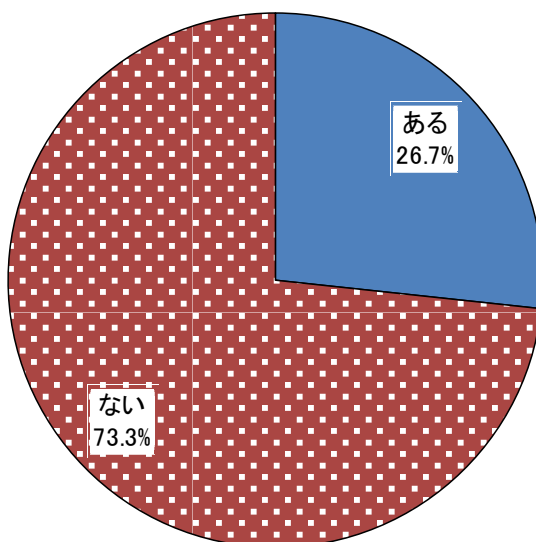
問31(2).母国での看護関連の資格・卒業資格の有無(1つ選択) (n=416)



問 31-3. 母国で看護関連の仕事をした経験

「ない」(73.3%)、「ある」(26.7%)であった。

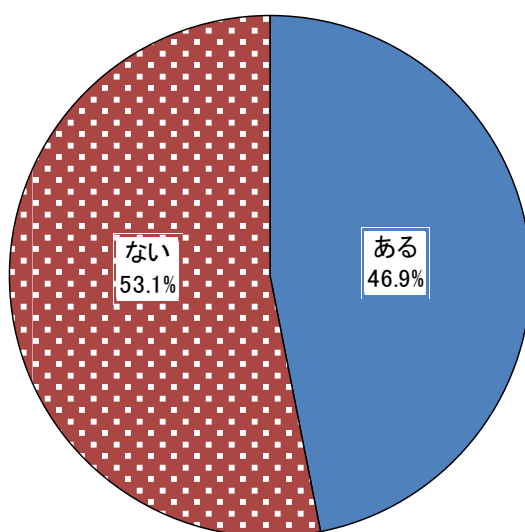
問31(3).母国で看護関連の仕事をした経験(1つ選択)
(n=416)



問 31-4. 母国での看護関連以外の仕事をした経験

「ない」(53.1%)、「ある」(46.9%)となった。

問31(4).母国で看護関連以外の仕事をした経験(1つ選択)
(n=416)

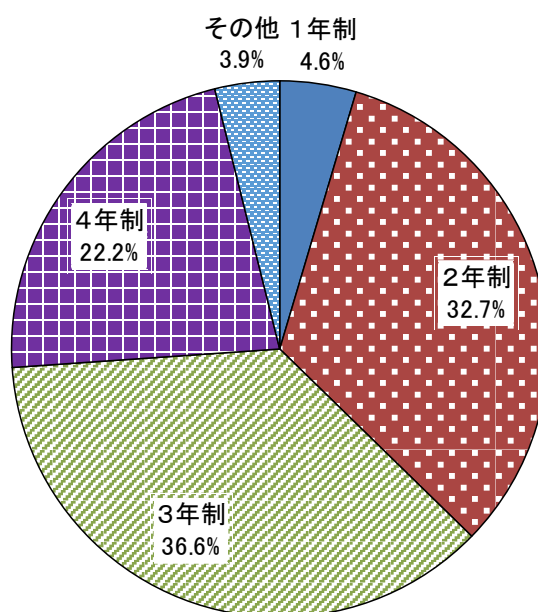


① 看護学校の修業年限

【回答対象: 問 31 で「母国での看護関連の資格・卒業資格の有無」を「持っている」と回答した人】

「3 年制」(36.6%)が最も多く、次いで「2 年制」(32.7%)、「4 年制」(22.2%)、「1 年制」(4.6%)となった。

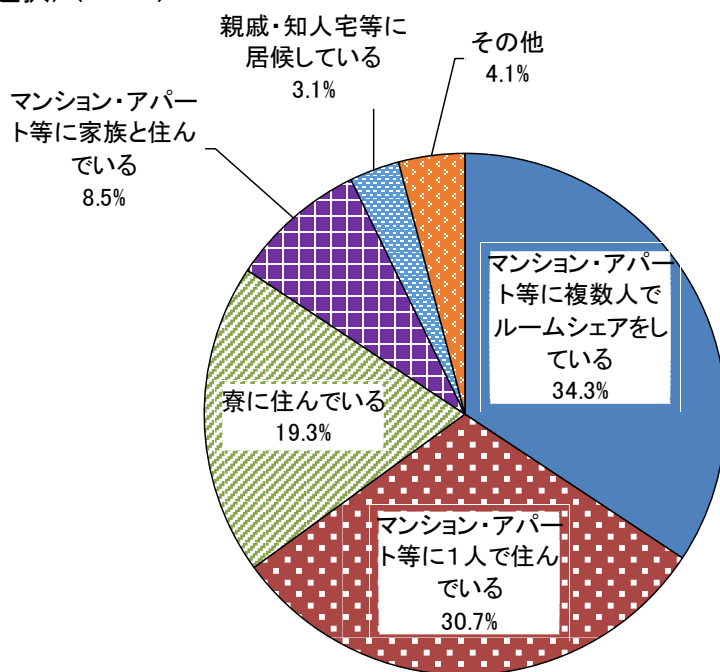
問31-1. あなたが通っていた看護の学校(大学、専門学校、高等学校等)は、何年制でしたか。(1つ選択) (n=153)



1.8 住まい

「マンション・アパート等に複数人でルームシェアをしている」(34.3%)が最も多く、「マンション・アパート等に1人で住んでいる」(30.7%)、「寮に住んでいる」(19.3%)、と続く。

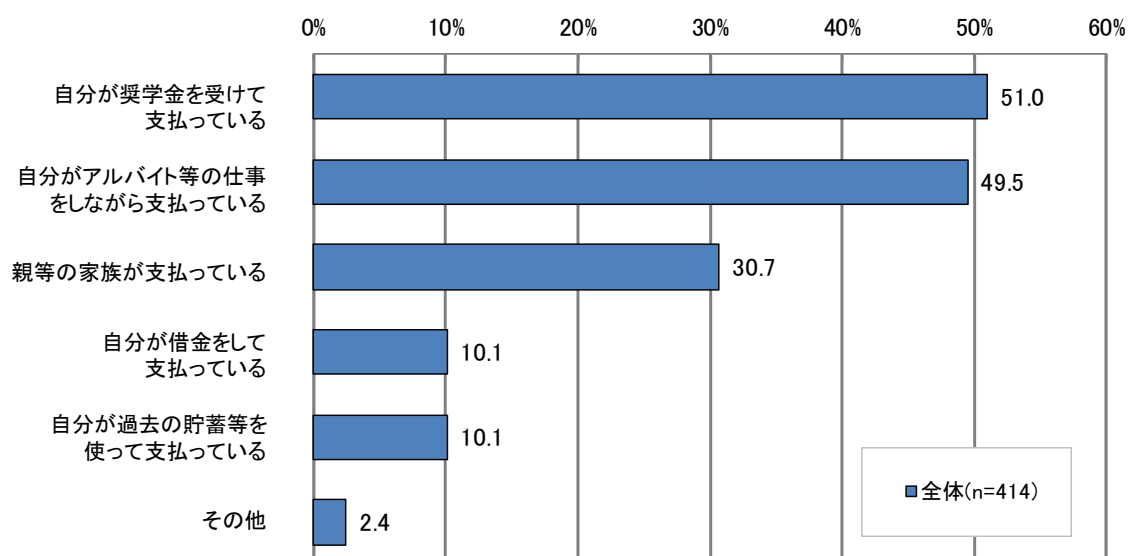
問32. あなたは、どのようなところに住んでいますか。(1つ選択)(n=414)



1.9 介護福祉士養成施設の授業料・生活費

「自分が奨学金を受けて支払っている」(51.0%)が最も多く、「自分がアルバイト等の仕事をしながら支払っている」(49.5%)、「親等の家族が支払っている」(30.7%)、と続く。

問33. あなたは、在籍している介護福祉士養成校の授業料や日本での生活費をどのようにして支払っていますか。(複数選択)(n=414)



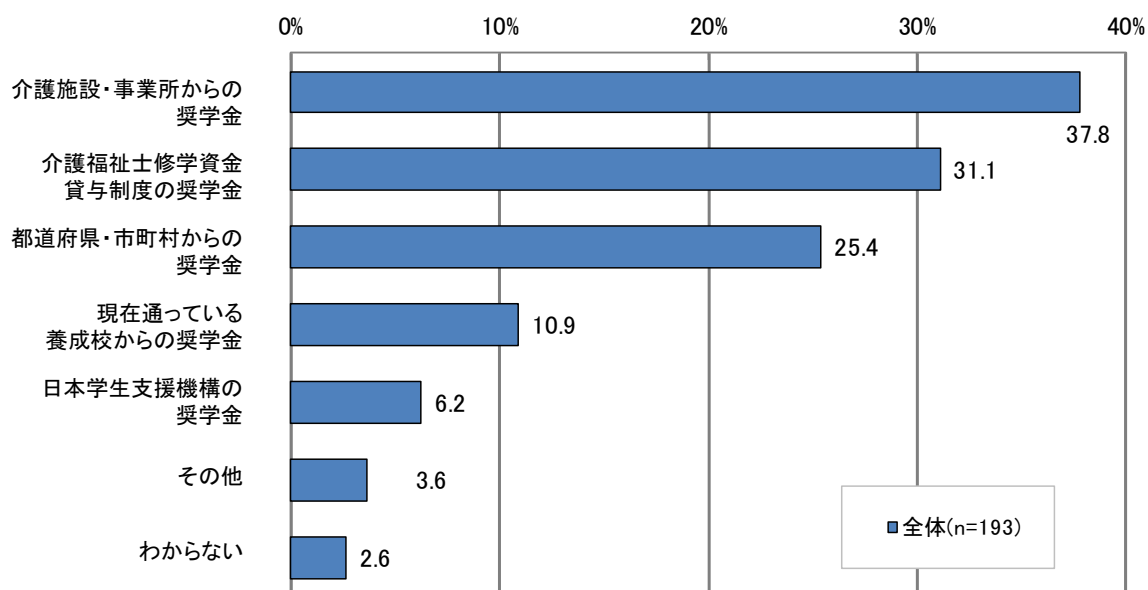
1.9.1 奨学金について

① 奨学金支給先

【回答対象: 問 33 で「自分が奨学金を受けて支払っている」と回答した人】

「介護施設・事業所からの奨学金」(37.8%)が最も多く、「介護福祉士修学資金貸与制度の奨学金」(31.1%)、「都道府県・市町村からの奨学金」(25.4%)、と続く。

問33-1. あなたが受けている奨学金は、どこから受けた奨学金ですか。(複数選択) (n=193)

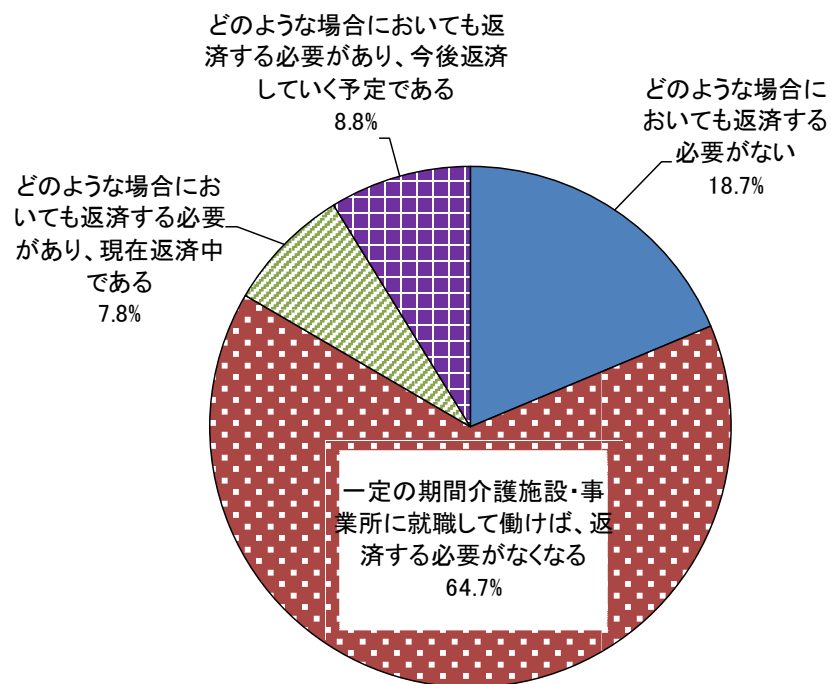


② 奨学金返済の有無

【回答対象: 問 33 で「自分が奨学金を受けて支払っている」と回答した人】

「一定の期間介護施設・事業所に就職して働けば、返済する必要がなくなる」(64.7%)が最も多く、「どのような場合においても返済する必要がない」(18.7%)、と続く。

問33-2. あなたが受けている奨学金は、今後返済する必要はありますか。(1つ選択) (n=193)

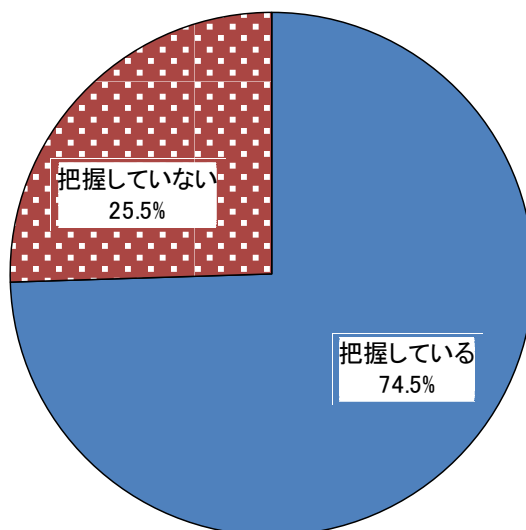


③ 奨学金の総額

【回答対象: 問 33-2 で「一定の期間介護施設・事業所に就職して働けば、返済する必要がなくなる」、「どのような場合においても返済する必要があり、現在返済中である」または「どのような場合においても返済する必要があり、今後返済していく予定である」と回答した人】

「把握している」(74.5%)、「把握していない」(25.5%)となった。

問33-3. あなたが受けている奨学金の総額を把握していますか(1つ選択) (n=157)



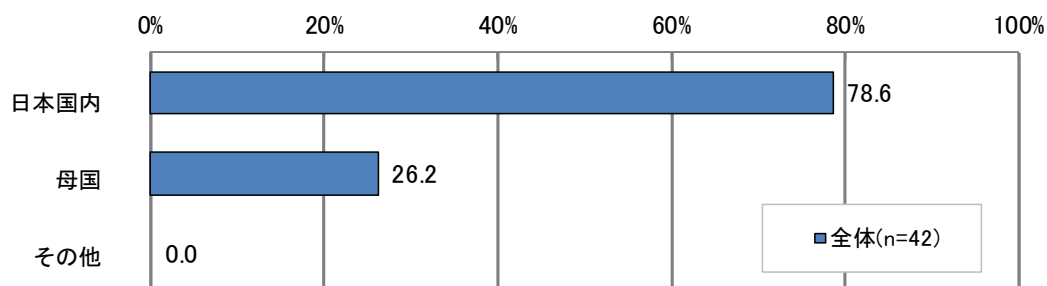
1.9.2 借金について

① 借金をした国

【回答対象: 問 33 で「自分が借金をして支払っている」と回答した人】

「日本国内」(78.6%)、「母国」(26.2%)となった。

問33-4. あなたはどこで借金をしましたか。(複数選択) (n=42)

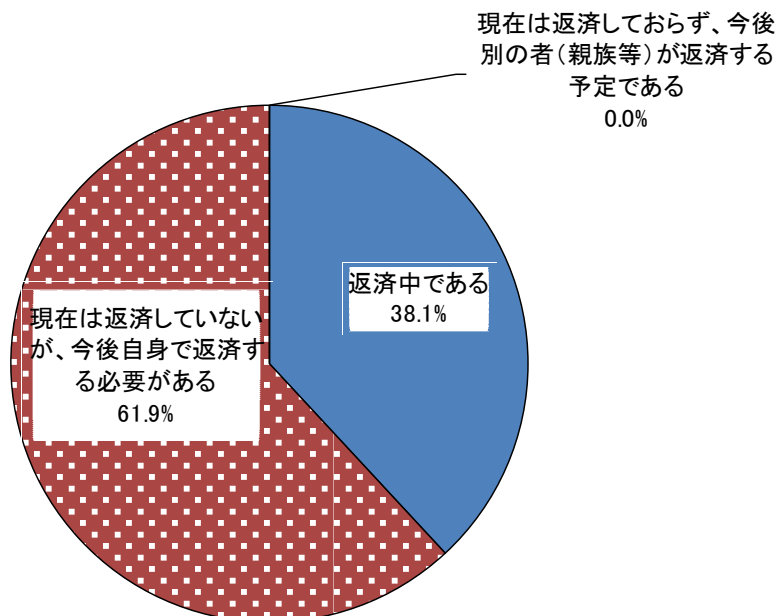


② 借金の返済

【回答対象: 問 33 で「自分が借金をして支払っている」と回答した人】

「現在は返済していないが、今後自身で返済する必要がある」(61.9%)、「返済中である」(38.1%)となった。

問33-5. 現在、あなたは借金を返済中ですか。(1つ選択)
(n=42)

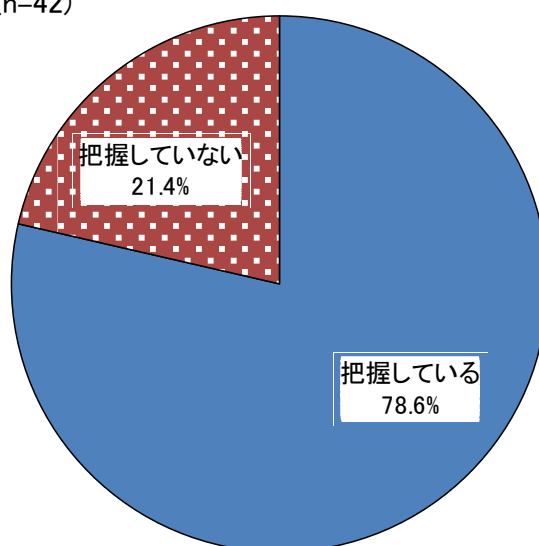


③ 借金の総額

【回答対象: 問 33 で「自分が借金をして支払っている」と回答した人】

「把握している」(78.6%)、「把握していない」(21.4%)となった。

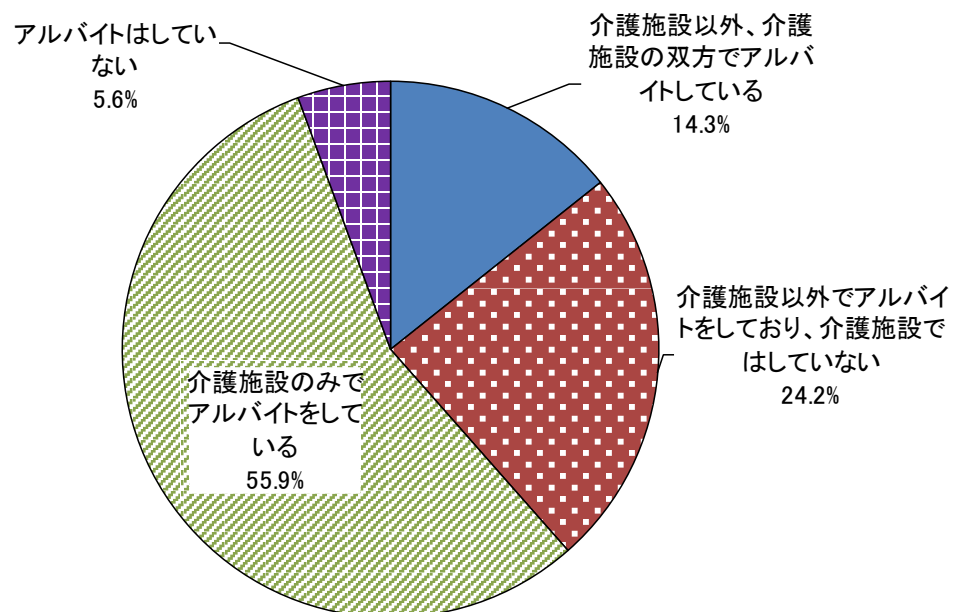
問33-6. あなたが受けている借金の総額を把握していますか。(1つ選択) (n=42)



1.9.3 アルバイトについて

「介護施設のみでアルバイトをしている」(55.9%)が最も多く、「アルバイトはしていない」も 5.6%となった。

問34. あなたは、どこでアルバイトをしていますか。(1つ選択) (n=413)

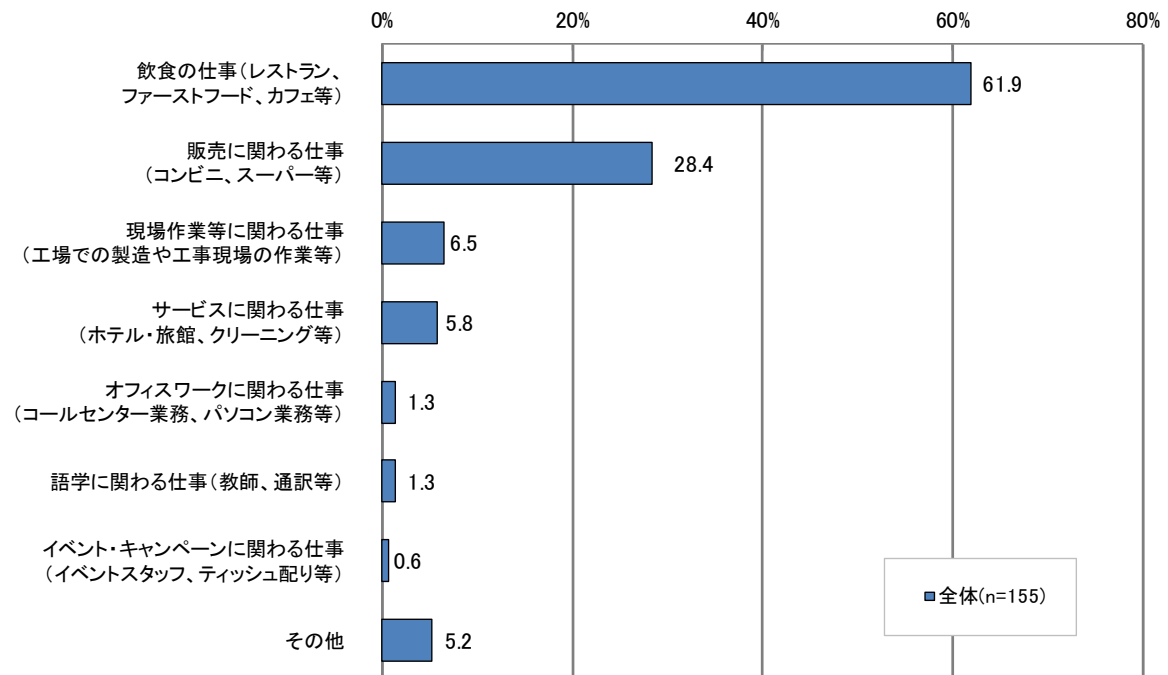


① 介護施設以外のアルバイト先

【回答対象: 問 34 で「介護施設以外、介護施設の双方でアルバイトしている」または「介護施設以外でアルバイトをしており、介護施設ではしていない」と回答した人】

飲食の仕事（レストラン、ファーストフード、カフェ等）」が 61.9%で最も高く、「販売に関わる仕事（コンビニ、スーパー等）」(28.4%)、と続く。

問34-1. あなたは、介護施設以外のアルバイトについて、どこでアルバイトを行っていますか。
(複数選択) (n=155)

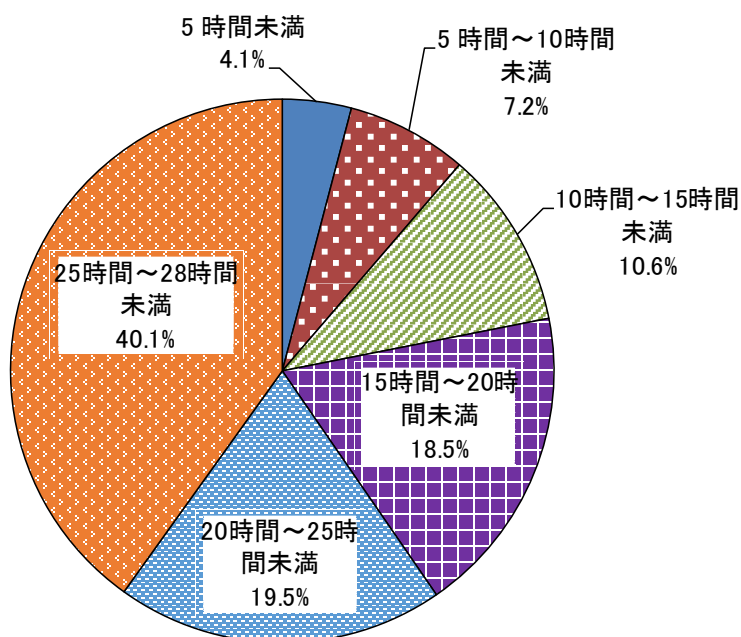


② アルバイトの時間/時給(介護施設)

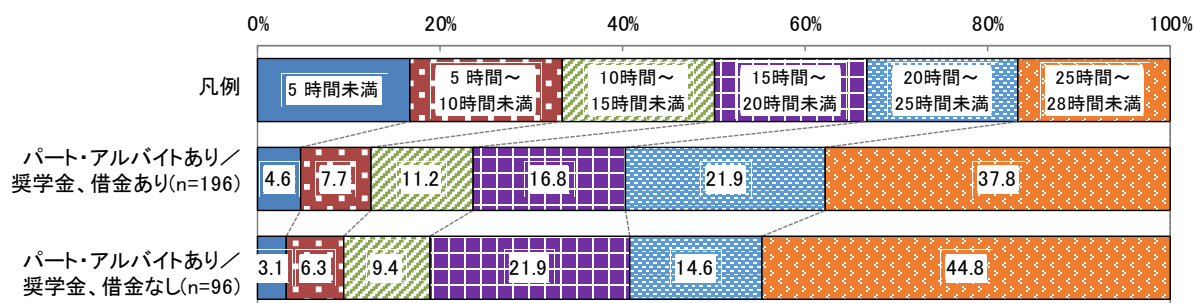
【回答対象:問 34 で「介護施設以外、介護施設の双方でアルバイトしている」、「介護施設以外でアルバイトをしており、介護施設ではしていない」または「介護施設のみでアルバイトをしている」と回答した人】

介護施設でのアルバイトの時間については、「25 時間～28 時間未満」(40.1%)が最も多く、「20 時間～25 時間未満」(19.5%)、「15 時間～20 時間未満」(18.5%)、と続く。また、奨学金、借金がある留学生よりも、ない留学生のほうがアルバイトにかける時間が長い。

問34-2-1. 介護施設でのアルバイト: 1週間のアルバイト時間(1つ選択) (n=292)

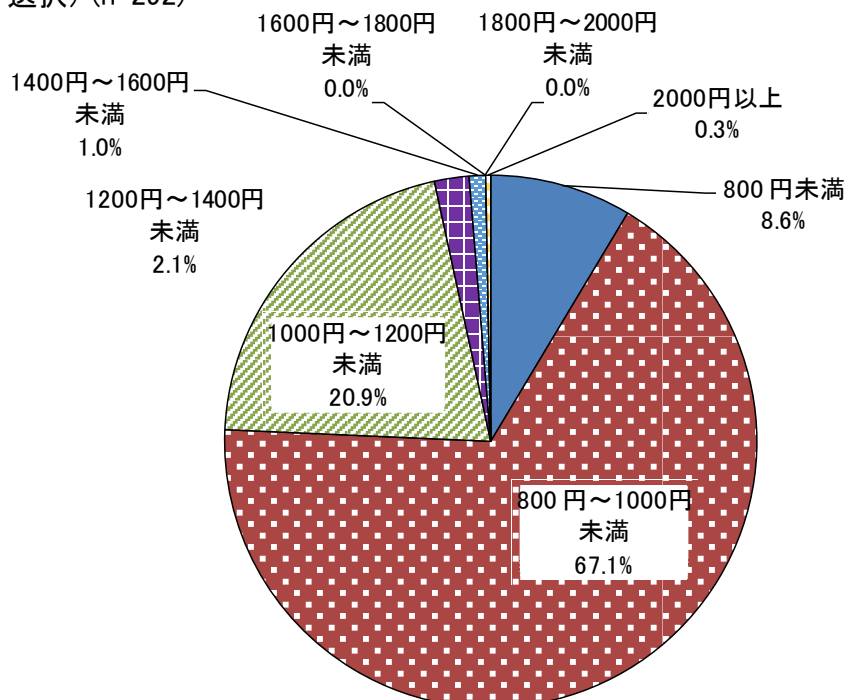


問34-2-1. 介護施設でのアルバイト: 1週間のアルバイト時間(1つ選択)

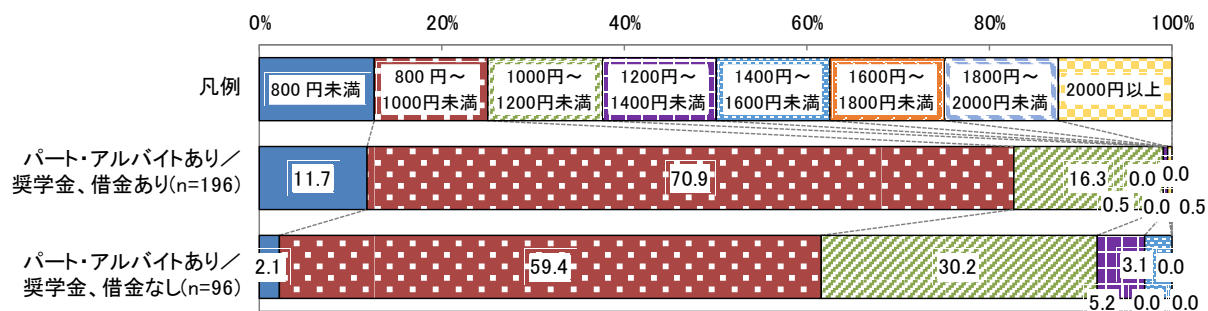


介護施設でのアルバイトの時給については、「800 円～1000 円未満」が 67.1%で最も高く、「1000 円～1200 円未満」(20.9%)、「800 円未満」(8.6%)、と続く。

問34-2-1. 介護施設でのアルバイト:アルバイトの時給(1つ選択) (n=292)



問34-2-1. 介護施設でのアルバイト:アルバイトの時給(1つ選択)

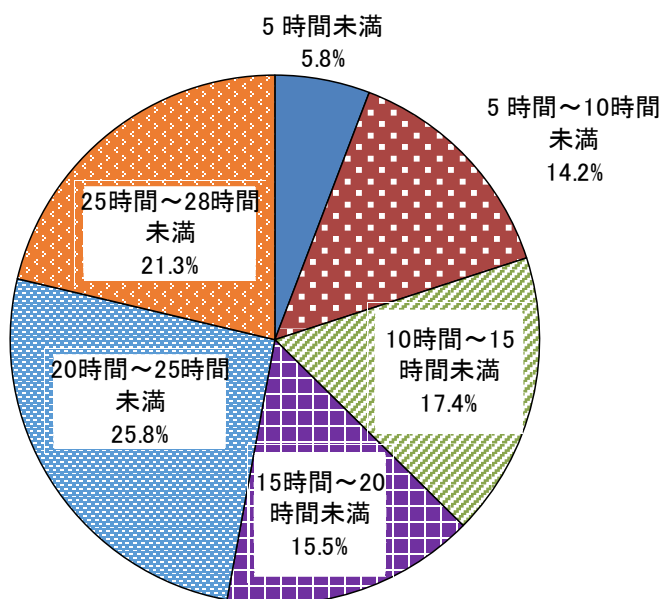


③ アルバイトの時間/時給(介護施設以外)

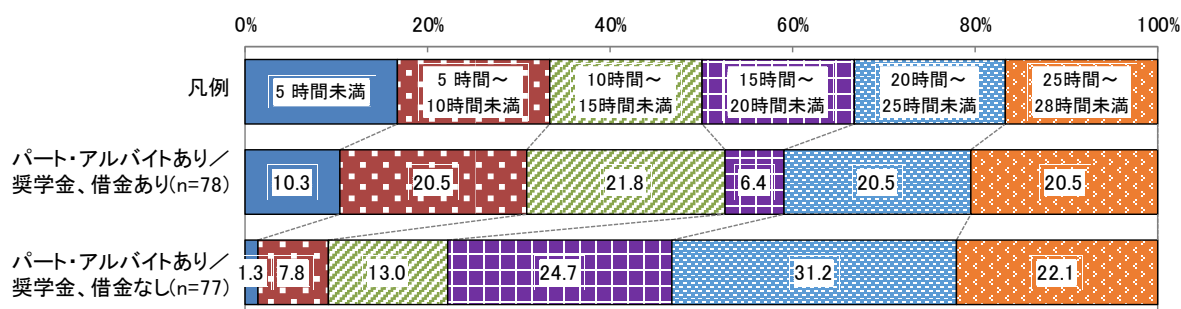
【回答対象:問 34 で「介護施設以外、介護施設の双方でアルバイトしている」、「介護施設以外でアルバイトをしており、介護施設ではしていない」または「介護施設のみでアルバイトをしている」と回答した人】

介護施設以外のアルバイトの時間については、「20 時間～25 時間未満」が 25.8%で最も高く、「25 時間～28 時間未満」(21.3%)、「10 時間～15 時間未満」(17.4%)、と続く。また、奨学金、借金がある留学生よりも、ない留学生のほうがアルバイトにかける時間が長い傾向にある。

問34-2-2. 介護施設以外のアルバイト: 1週間のアルバイト時間(1つ選択) (n=155)

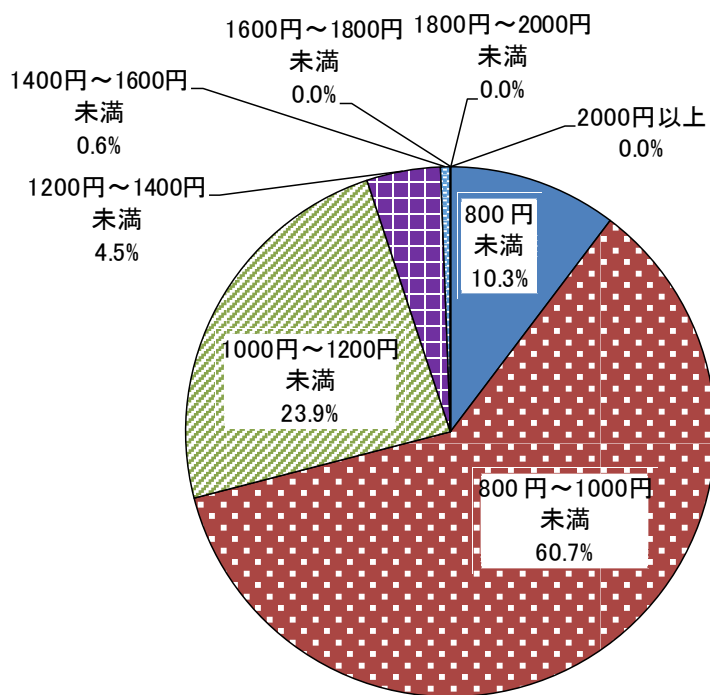


問34-2-2. 介護施設以外のアルバイト: 1週間のアルバイト時間(1つ選択)

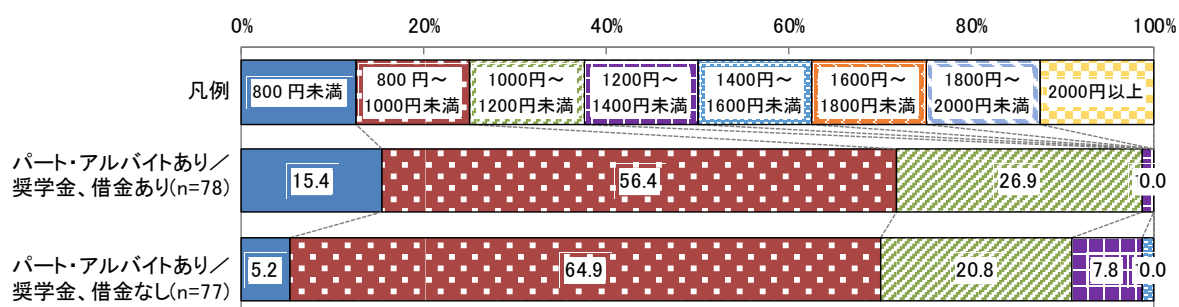


介護施設以外のアルバイトの時給については、「800 円～1000 円未満」が 60.7%で最も高く、「1000 円～1200 円未満」(23.9%)、「800 円未満」(10.3%)と続く。

問34-2-2. 介護施設以外のアルバイト:アルバイトの時給
(1つ選択) (n=155)



問34-2-2. 介護施設以外のアルバイト:アルバイトの時給(1つ選択)

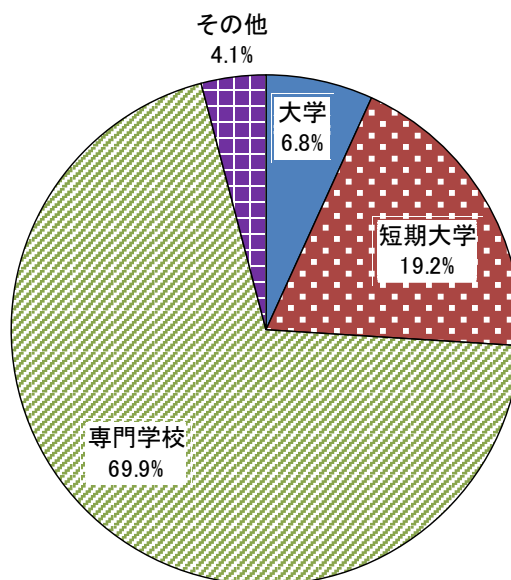


2 介護福祉士養成施設での就学・学習状況の調査結果

2.1 介護福祉士養成施設の種類

「専門学校」(69.9%)が最も多く、「短期大学」(19.2%)、「大学」(6.8%)と続く。

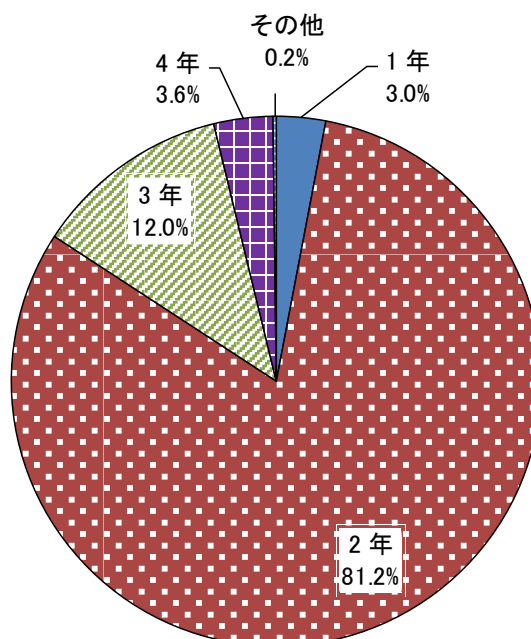
問1.あなたの所属する介護福祉士養成校の種類を教えてください。(1つ選択) (n=468)



2.2 介護福祉士養成課程の修業年限

「2 年」(81.2%)が最も多く、「3 年」(12.0%)、「4 年」(3.6%)、「1 年」(3.0%)と続く。

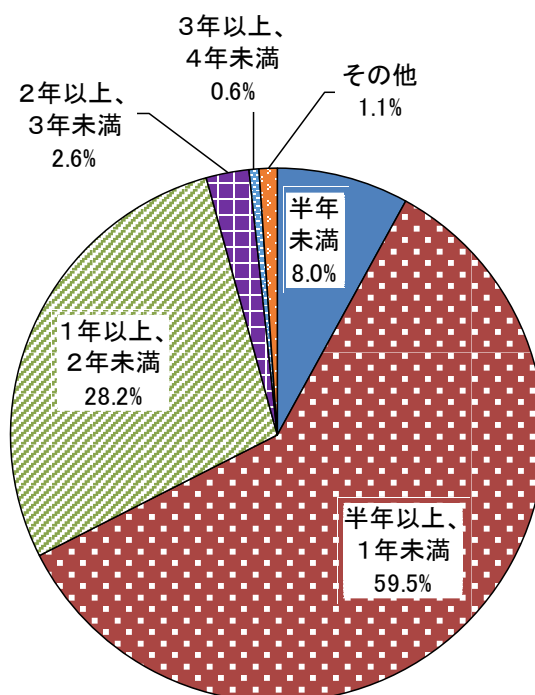
問2.あなたの所属する介護福祉士養成課程の修業年限を教えてください。(1つ選択) (n=467)



2.3 介護福祉士養成施設入学後の経過年数

「半年以上、1年未満」(59.5%)が最も多く、「1年以上、2年未満」(28.2%)、「半年未満」(8.0%)、と続く。

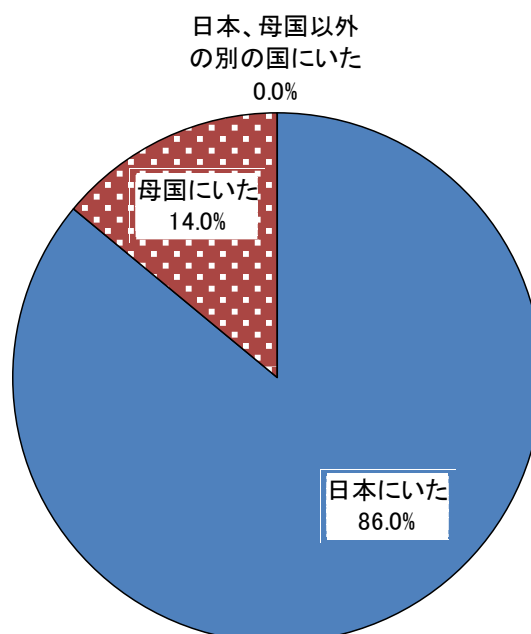
問3.あなたは、介護福祉士養成校に入学してどれくらい経ちますか。(1つ選択) (n=465)



2.4 介護福祉士養成施設入学前の居住地

「日本にいた」(86.0%)が約9割であった。

問4.あなたは、介護福祉士養成校に入学する直前、どこにいましたか。(1つ選択) (n=464)

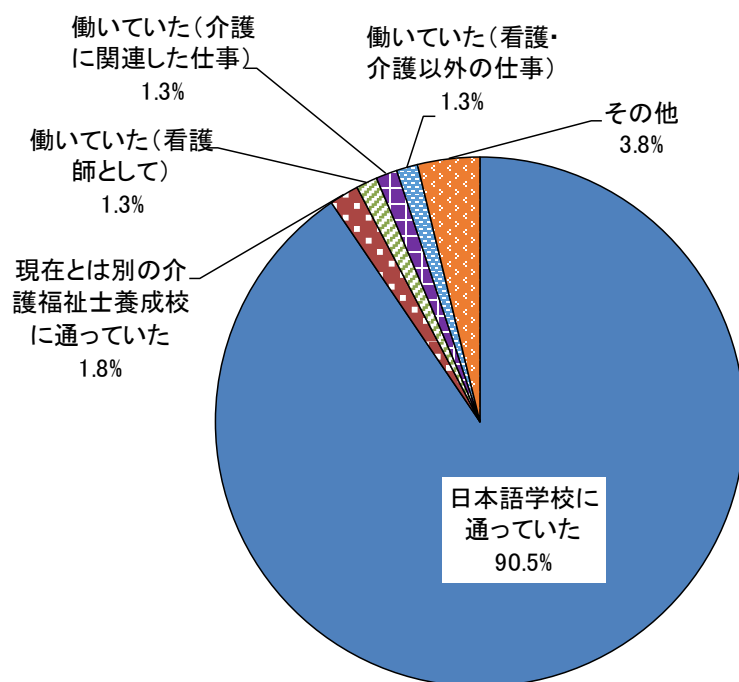


2.4.1 介護福祉士養成施設入学前について

【回答対象: 問 4 で「日本にいた」と回答した人】

「日本語学校に通っていた」(90.5%)が最も多かった。

問4-1.あなたは、介護福祉士養成校に入学する直前、なにをしていましたか。(1つ選択) (n=393)

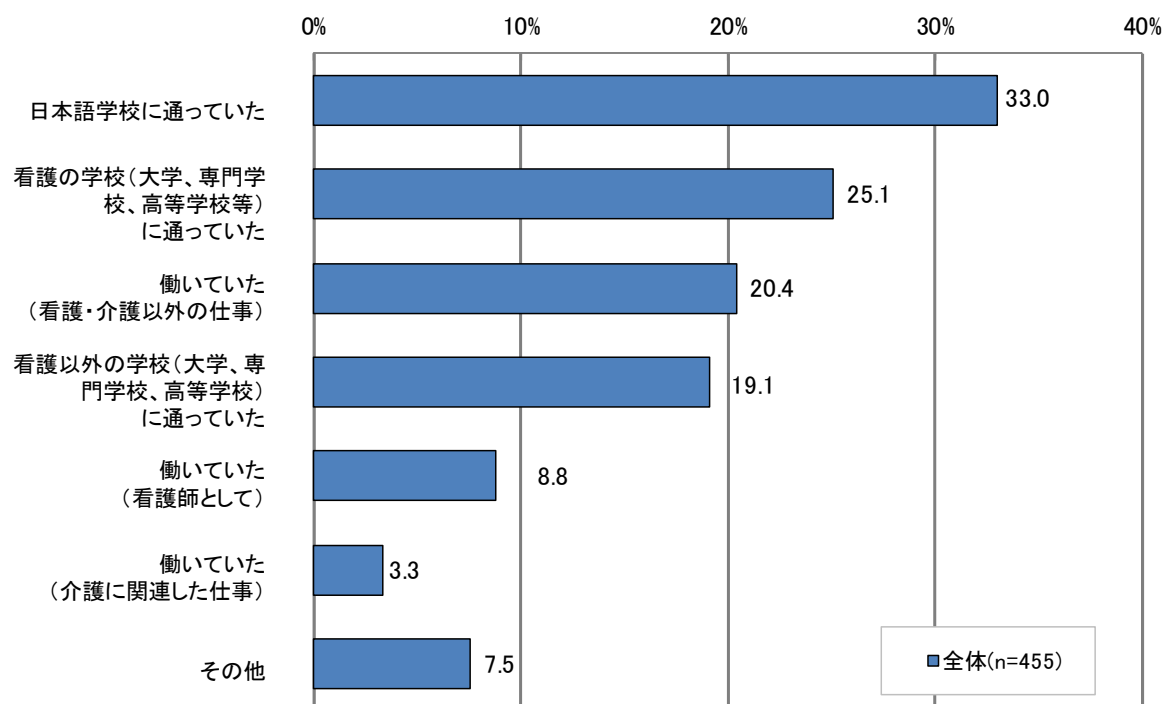


2.4.2 母国で何をしていたか

【回答対象:問 4 で「日本にいた」または「母国にいた」と回答した人】

「日本語学校に通っていた」(33.0%)が最も多く、「看護の学校(大学、専門学校、高等学校等)に通っていた」(25.1%)、「働いていた(看護・介護以外の仕事)」(20.4%)、「看護以外の学校(大学、専門学校、高等学校)に通っていた」(19.1%)、と続く。

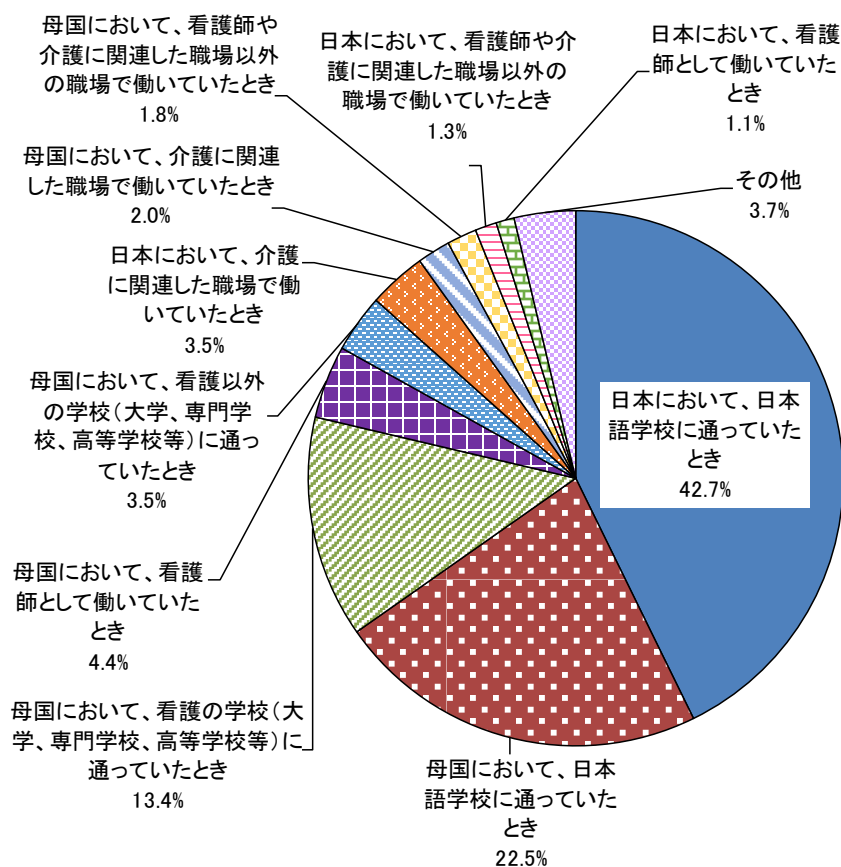
問4-2.あなたは、母国で、なにをしていましたか。(複数選択)(n=455)



2.5 介護福祉士養成施設への入学を決めた時期

「日本において、日本語学校に通っていたとき」(42.7%)が最も多く、「母国において、日本語学校に通っていたとき」(22.5%)、「母国において、看護の学校（大学、専門学校、高等学校等）に通っていたとき」(13.4%)、と続く。

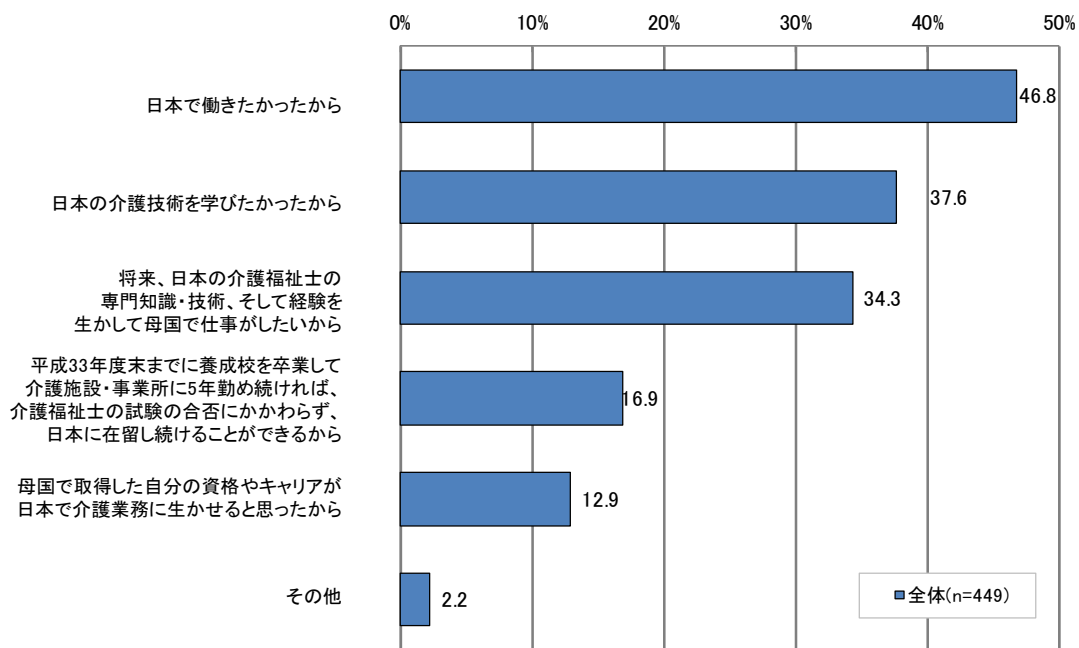
問5.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようと考え始めた時期はいつですか。(1つ選択) (n=454)



2.5.1 介護福祉士養成施設への入学を希望した理由

「日本で働きたかったから」(46.8%)が最も多く、「日本の介護技術を学びたかったから」(37.6%)、「将来、日本の介護福祉士の専門知識・技術、そして経験を生かして母国で仕事がしたいから」(34.3%)、と続く。

問6.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=449)

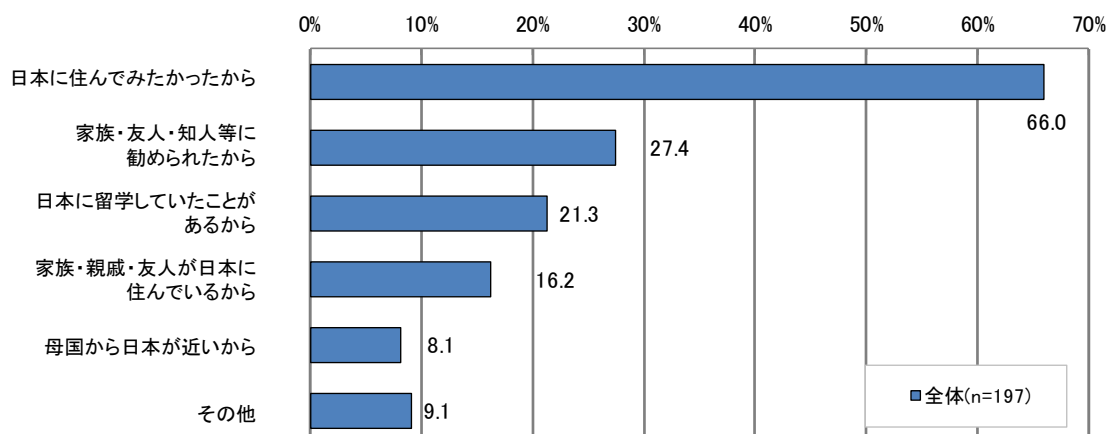


① 日本での就業を希望した理由

【回答対象:問6で「日本で働きたかったから」と回答した人】

「日本に住んでみたかったから」(66.0%)が最も多く、「家族・友人・知人等に勧められたから」(27.4%)、「日本に留学していたことがあるから」(21.3%)、「家族・親戚・友人が日本に住んでいるから」(16.2%)、「母国から日本が近いから」(8.1%)と続く。

問6-1.あなたが、日本で働きたいと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=197)

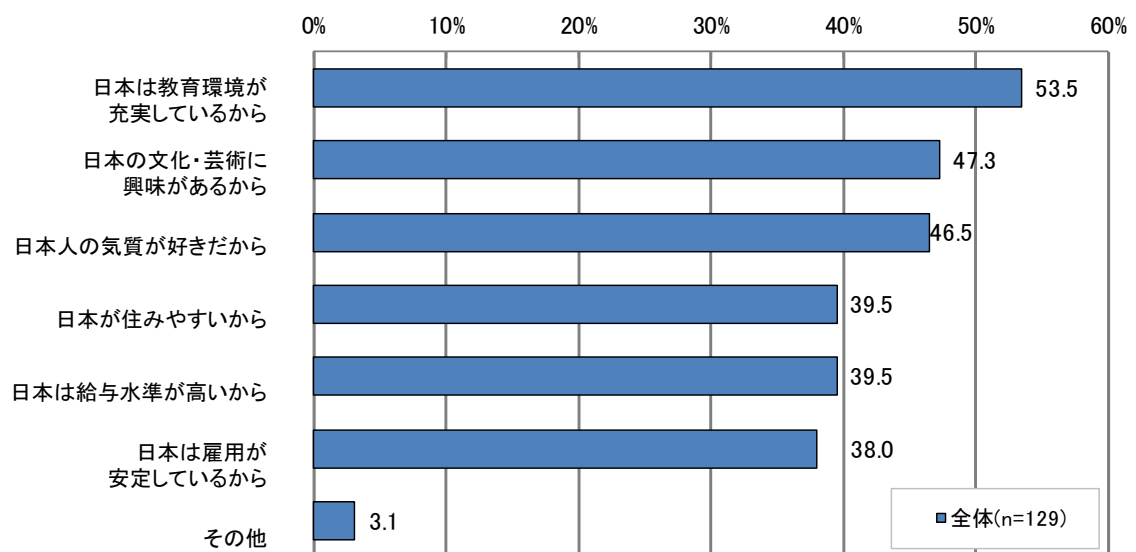


② 日本での居住を希望した理由

【回答対象: 問 6-1 で「日本に住んでみたかったから」と回答した人】

「日本は教育環境が充実しているから」(53.5%)が最も多く、「日本の文化・芸術に興味があるから」(47.3%)、「日本人の気質が好きだから」(46.5%)、「日本が住みやすいから」(39.5%)、「日本は給与水準が高いから」(39.5%)、「日本は雇用が安定しているから」(38.0%)と続く。

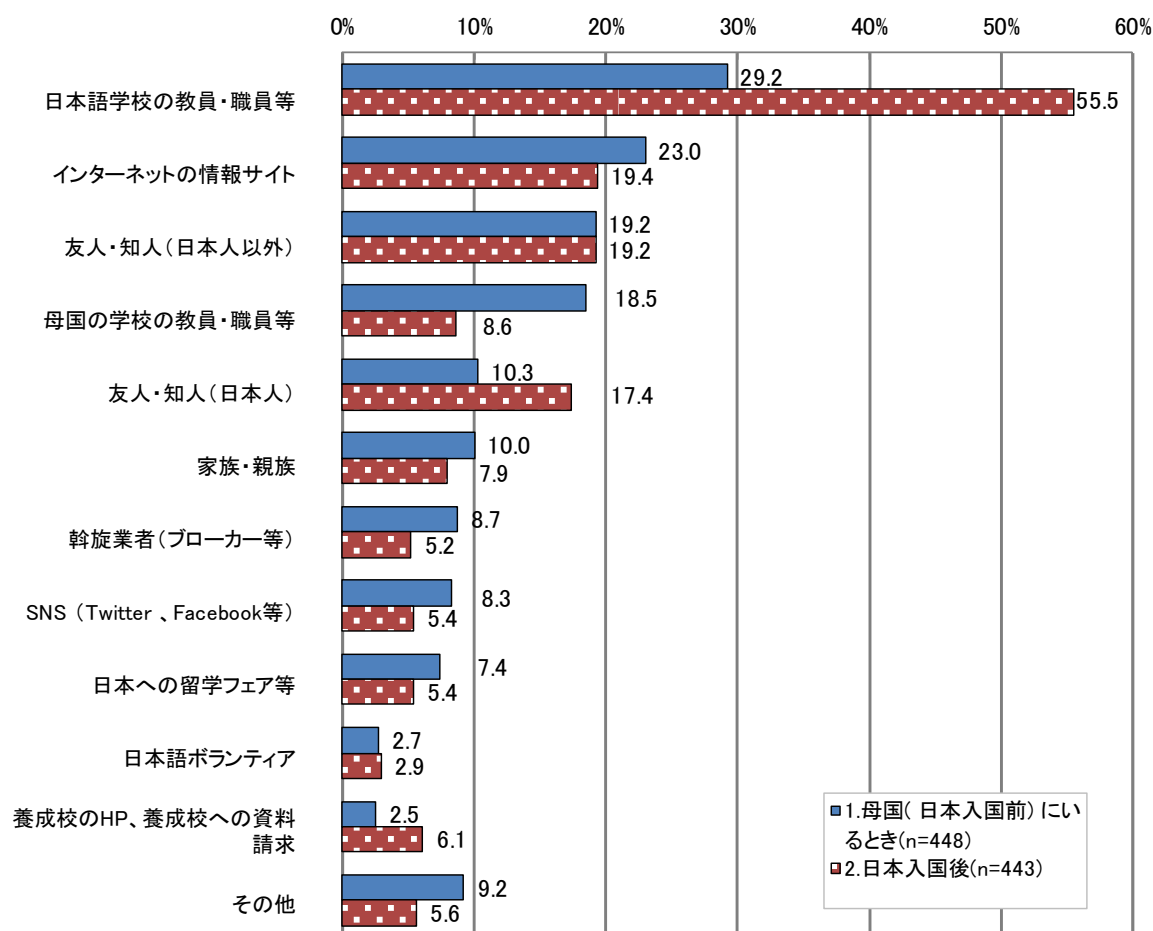
問6-2.あなたが日本に住んでみたかったと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=129)



2.6 介護福祉士養成施設の情報入手先

日本入国後においては、「日本語学校の教員・職員等」(55.5%)が最も多い。

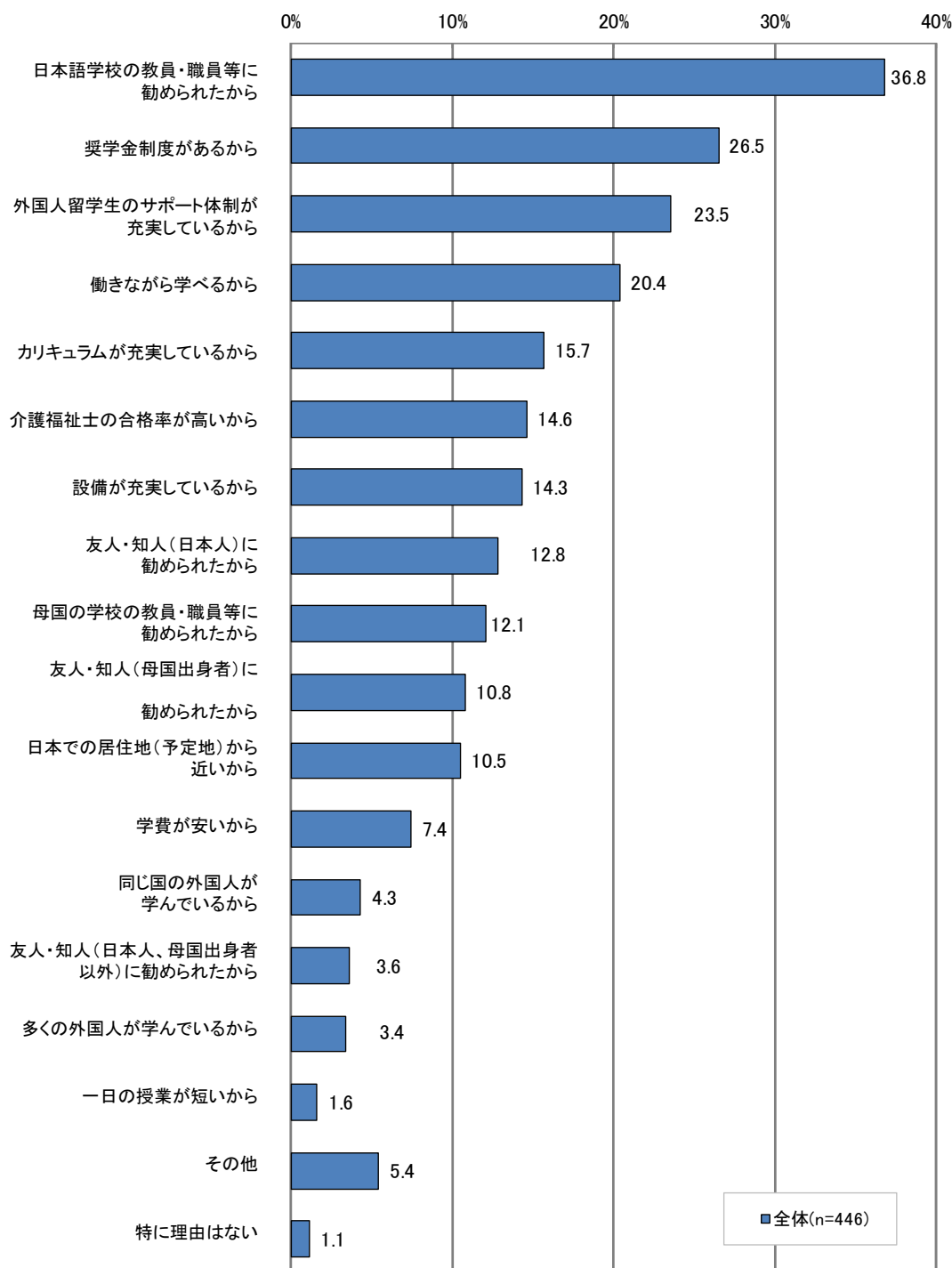
問7.あなたは、現在の介護福祉士養成校に入学するにあたり、どこから情報を入手しましたか。
(複数選択)



2.7 現在の介護福祉士養成施設を選んだ理由

「日本語学校の教員・職員等に勧められたから」(36.8%)が最も多く、「奨学金制度があるから」(26.5%)、「外国人留学生のサポート体制が充実しているから」(23.5%)、「働きながら学べるから」(20.4%)、と続く。

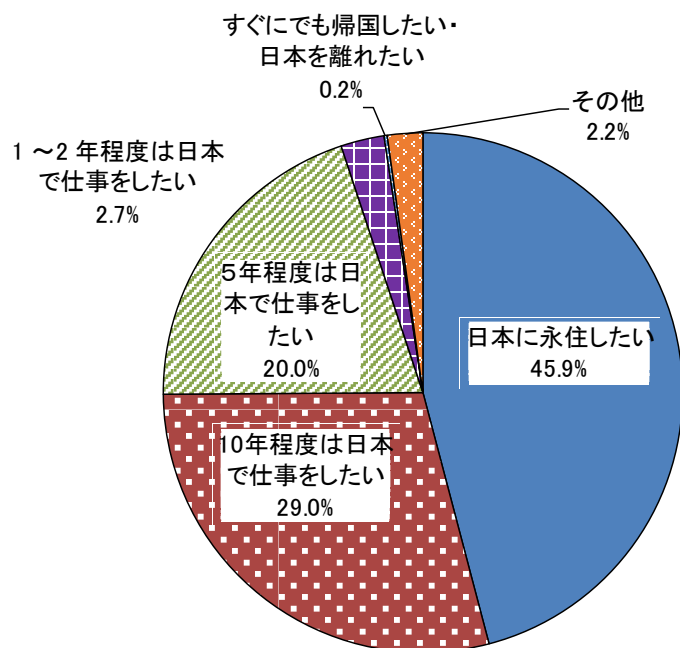
問8.あなたが、現在の介護福祉士養成校を選んだのはなぜですか。(複数選択) (n=446)



2.8 介護福祉士養成施設卒業後の在留意向

「日本に永住したい」(45.9%)が最も多く、「10年程度は日本で仕事をしたい」(29.0%)、「5年程度は日本で仕事をしたい」(20.0%)、と続く。

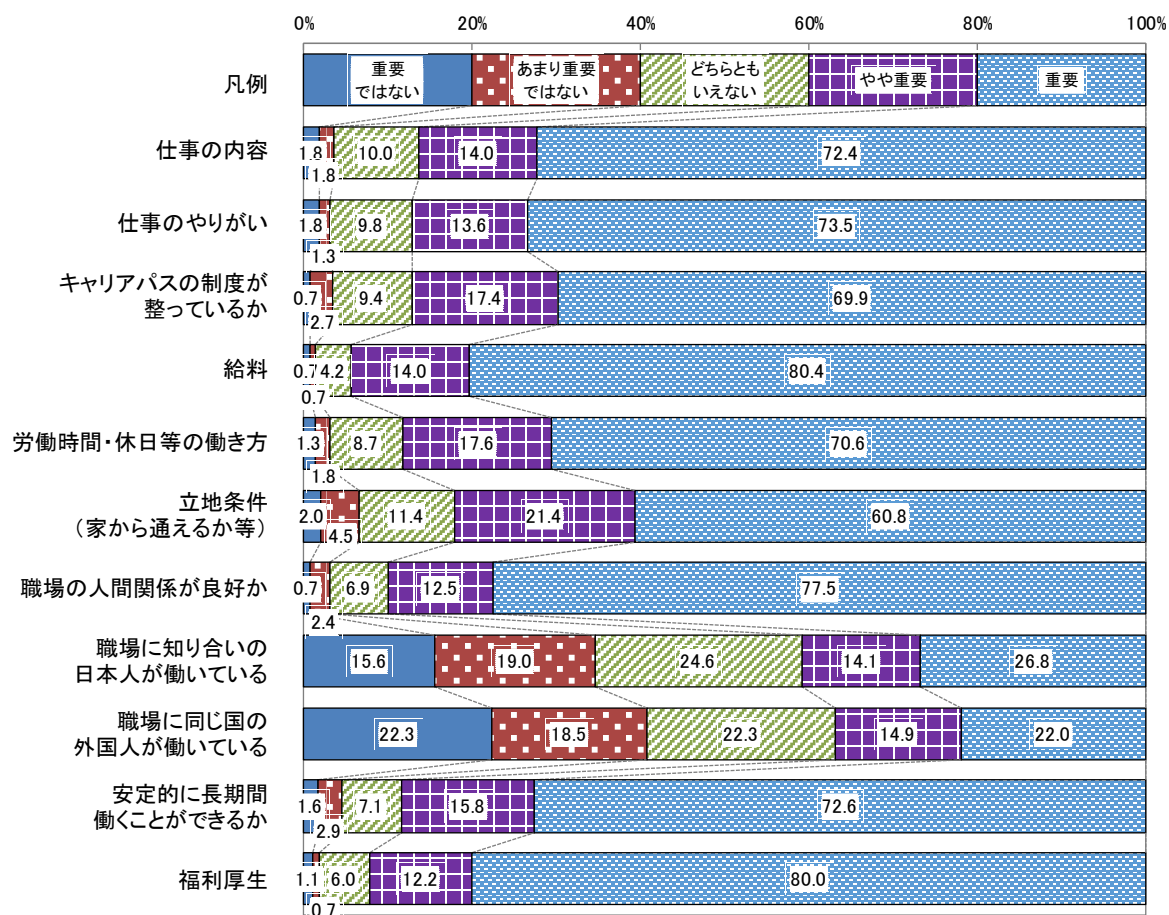
問9.あなたの、介護福祉士養成校を卒業後の在留意向を教えてください。(1つ選択)(n=449)



2.9 介護職(就職先)を決める際重視する事

『職場に知り合いの日本人が働いている』、『職場に同じ国の外国人が働いている』を除いた項目で、“重要”（「やや重要」と「重要」の合計）が8割以上となっている。特に、『給料』は“重要”が9割半ばで高い。

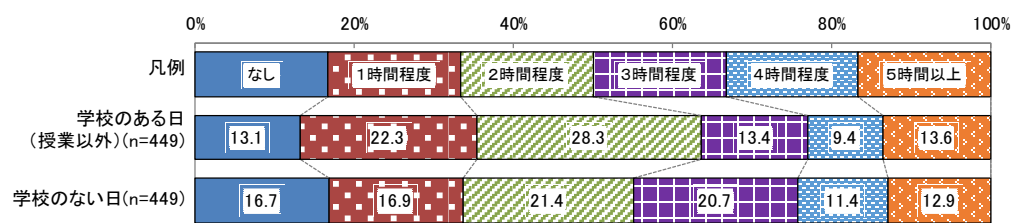
問10. 介護職として就職先を決める場合の重視度(1つ選択)(n=449)



2.10 介護についての学習時間(介護福祉士養成施設以外)

学校のある日の学習時間は、「2 時間程度」が 28.3%、「1 時間程度」が 22.3%で 1～2 時間程度が半数となっている。学校のない日の学習時間は、「2 時間程度」が 21.4%、「3 時間程度」が 20.7%で 2～3 時間程度が約 4 割となっている。

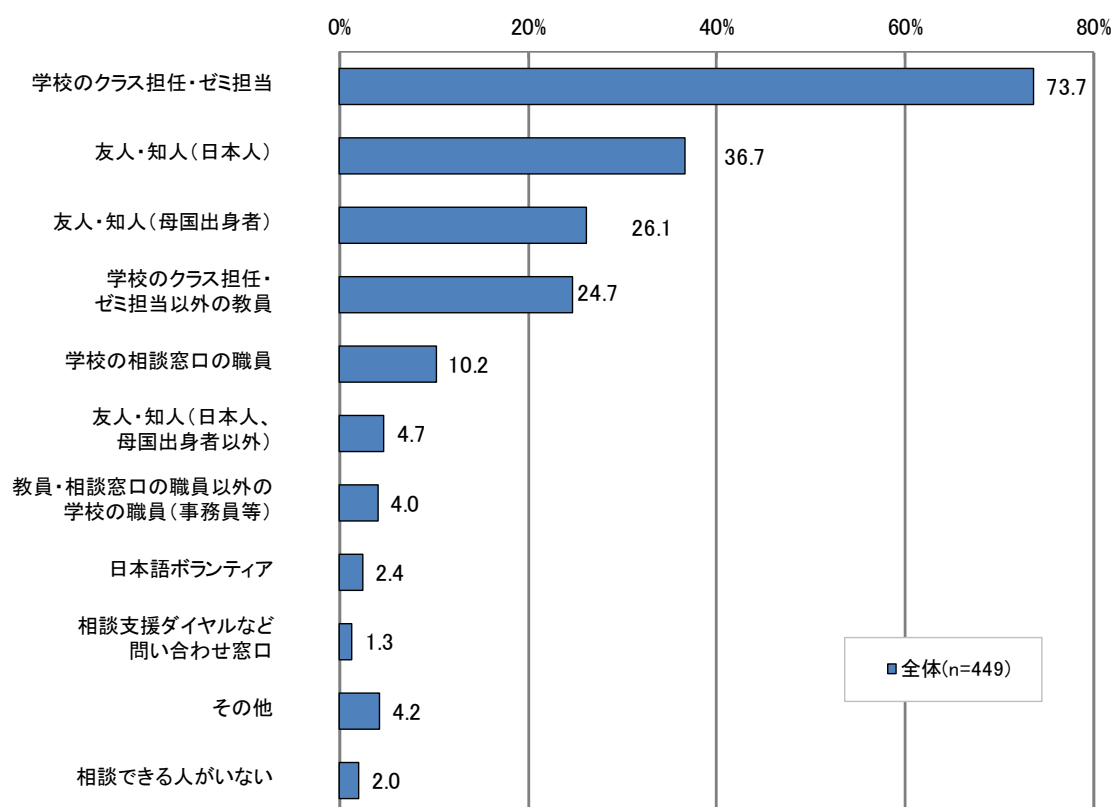
問11. 介護について、学校での学習以外での毎日の平均学習時間



2.11 介護の学習で困ったときの相談相手

「学校のクラス担任・ゼミ担当」(73.7%)が最も多く、「友人・知人(日本人)」(36.7%)、「友人・知人(母国出身者)」(26.1%)、「学校のクラス担任・ゼミ担当以外の教員」(24.7%)と続く。

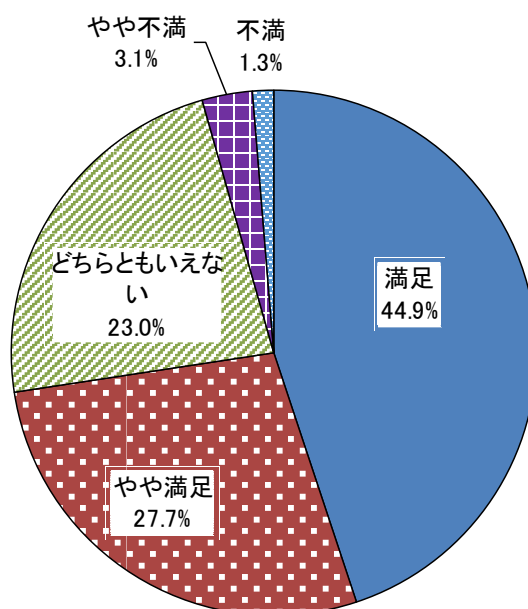
問12. あなたは、介護の学習で困ったとき、誰に相談していますか。(複数選択) (n=449)



2.12 介護福祉士養成施設の授業に対する満足度

「満足」(44.9%)が最も多く、「やや満足」(27.7%)、「どちらともいえない」(23.0%)、「やや不満」(3.1%)、「不満」(1.3%)と続く。

問14. あなたは、介護福祉士養成校の授業をどのように感じていますか。(1つ選択) (n=448)

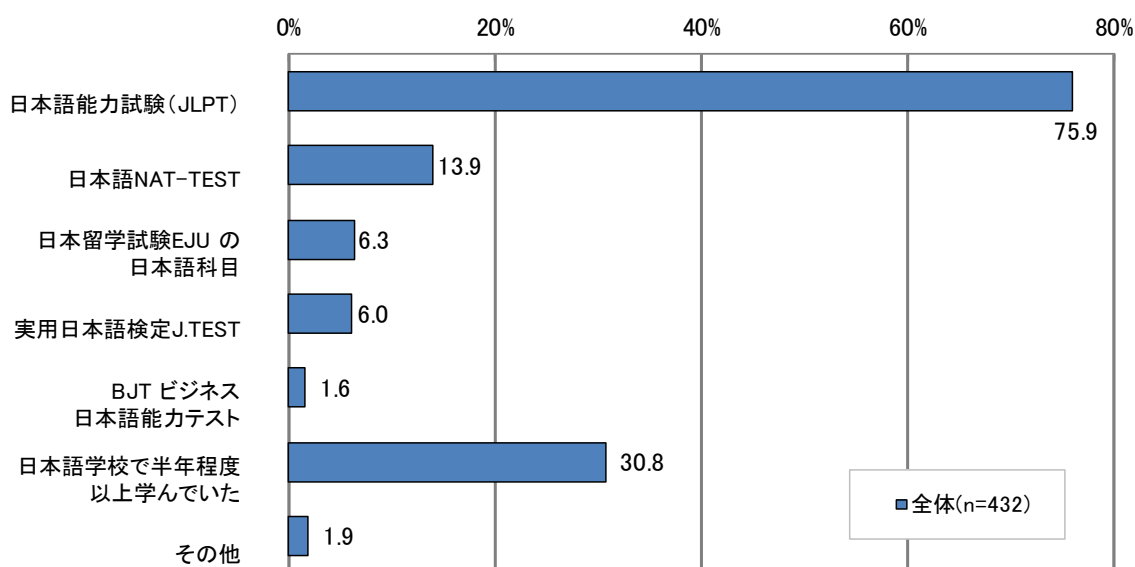


3 留学生の日本語習得状況等

3.1 介護福祉士養成施設入学時の日本語能力・保有資格

「日本語能力試験（JLPT）」(75.9%)が最も多く、「日本語学校で半年程度以上学んでいた」(30.8%)、「日本語 NAT-TEST」(13.9%)、「日本留学試験 EJU の日本語科目」(6.3%)、「実用日本語検定 J.TEST」(6.0%)、「BJT ビジネス日本語能力テスト」(1.6%)と続く。

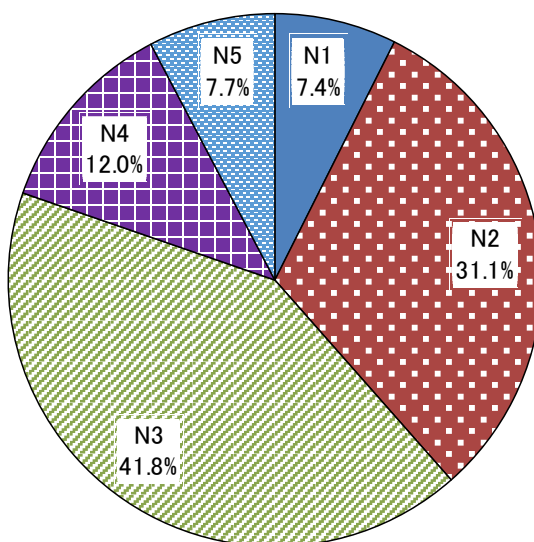
問15. 現在の介護福祉士養成校に入学した際、保持していた資格等について教えてください。(複数選択) (n=432)



問 15-1. 日本語能力試験 (JLPT)

「N3」(41.8%)が最も多く、「N2」(31.1%)、「N4」(12.0%)、「N5」(7.7%)、「N1」(7.4%)と続く。

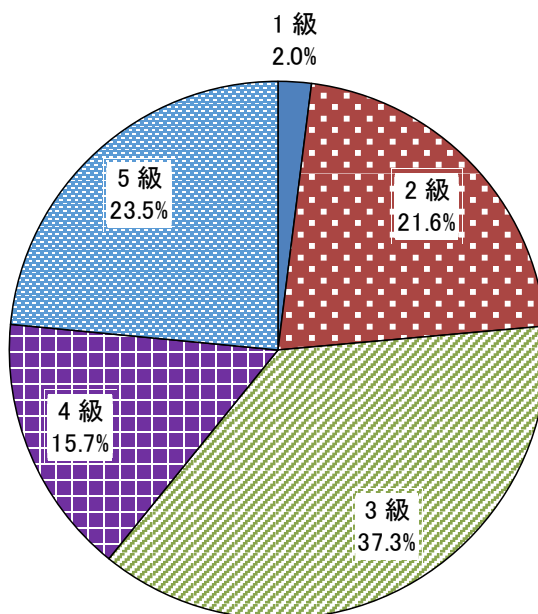
問15-1. 日本語能力試験 (JLPT) で保持していた資格 (1つ選択) (n=299)



問 15-2. 日本語(NAT-TEST)

「3 級」(37.3%)が最も多く、「5 級」(23.5%)、「2 級」(21.6%)、「4 級」(15.7%)、「1 級」(2.0%)となった。

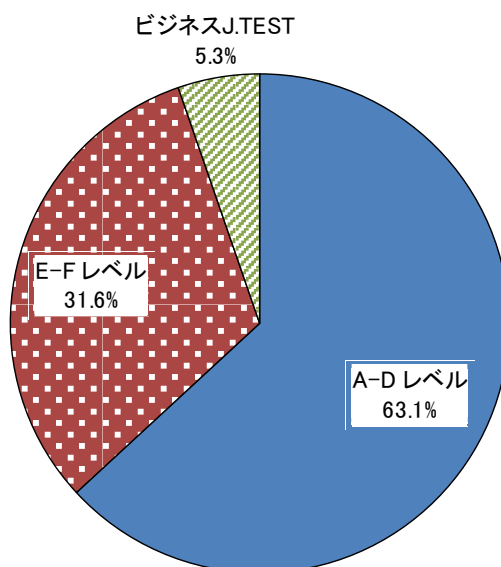
問15-2. 日本語NAT-TESTで保持していた資格(1つ選択)
(n=51)



問 15-3. 実用後日本語検定(J.TEST)

「A-D レベル」(63.1%)が最も多く、「E-F レベル」(31.6%)、「ビジネス J.TEST」(5.3%)となった。

問15-3. 実用日本語検定J.TESTで受験した試験名
(1つ選択) (n=19)



問 15-3-1. 実用日本語検定 J.TEST:A-D レベルの点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	11	369.9	90.0	718.0

問 15-3-2. 実用日本語検定 J.TEST:E-F レベルの点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	5	225.6	80.0	450.0

問 15-3-3. 実用日本語検定 J.TEST:ビジネス J.TEST の点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	1	125.0	125.0	125.0

問 15-4. 日本留学試験 EJU の日本語科目の点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	24	231.6	96.0	380.0

問 15-5.BJT ビジネス日本語能力テストの点数

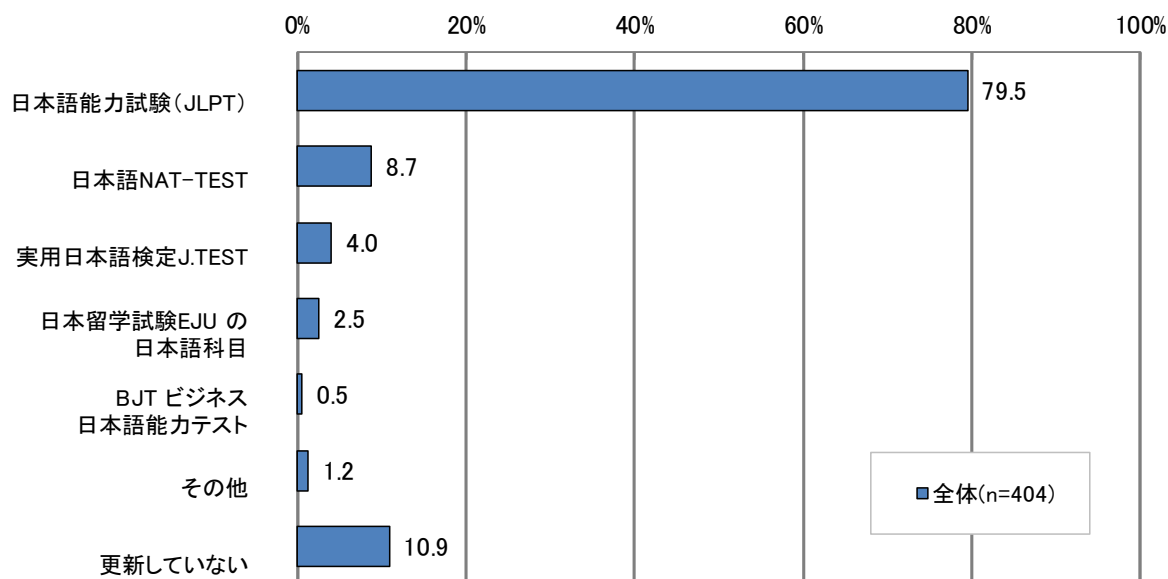
(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	5	558.4	460.0	730.0

3.2 “2018 年 10 月 1 日現在”の日本語能力/更新した資格等

「日本語能力試験 (JLPT)」(79.5%)が最も多く、「日本語 NAT-TEST」(8.7%)、「実用日本語検定 J.TEST」(4.0%)、「日本留学試験 EJU の日本語科目」(2.5%)、「BJT ビジネス日本語能力テスト」(0.5%)と続く。また「更新していない」(10.9%)となった。

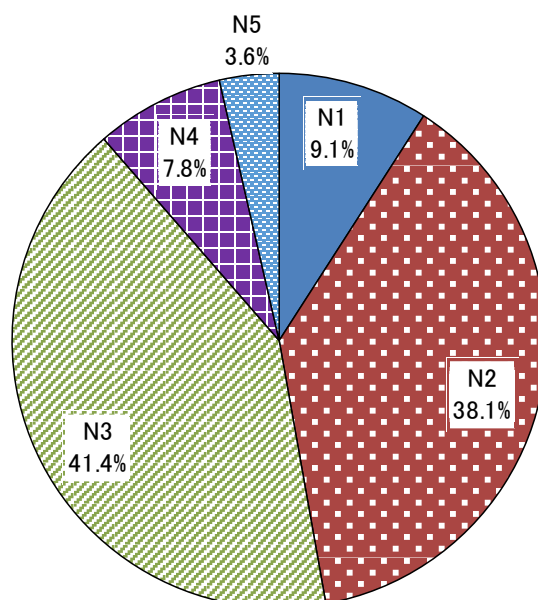
問16. 現在(2018年10月1日現在)、問15でお答えいただいた資格等のうち、更新した資格等について教えてください。(複数選択) (n=404)



問 16-1 日本語能力試験(JLPT)で保持していた資格

「N3」(41.4%)が最も多く、「N2」(38.1%)、「N1」(9.1%)、「N4」(7.8%)、「N5」(3.6%)となった。

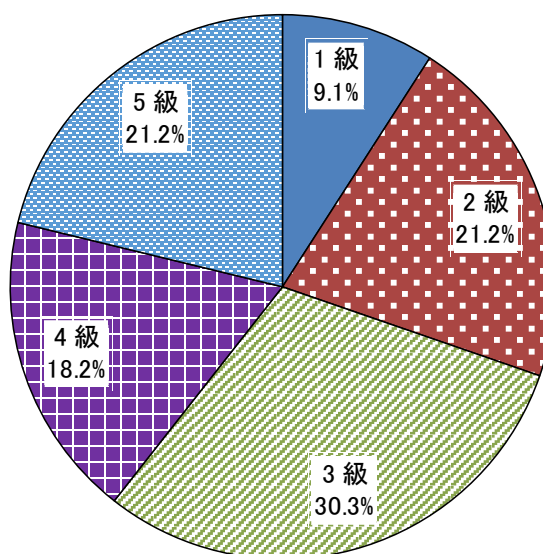
問16-1. 日本語能力試験(JLPT)で保持していた資格
(1つ選択) (n=307)



問 16-2. 日本語(NAT-TEST)で保持していた資格

「3 級」(30.3%)が最も多く、「2 級」(21.2%)、「5 級」(21.2%)、「4 級」(18.2%)、「1 級」(9.1%)となった。

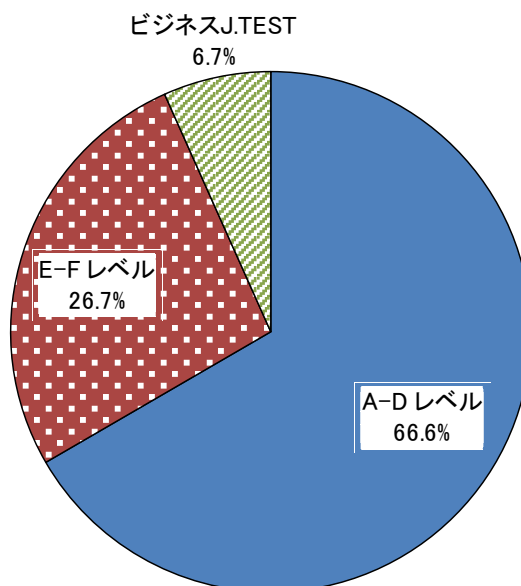
問16-2. 日本語NAT-TESTで保持していた資格(1つ選択)
(n=33)



問 16-3. 実用後日本語検定(J.TEST)で受験した試験名

「A-D レベル」(66.6%)が最も多く、「E-F レベル」(26.7%)、「ビジネス J.TEST」(6.7%)となった。

問16-3. 実用日本語検定J.TESTで受験した試験名
(1つ選択) (n=15)



問 16-3-1. 実用日本語検定 J.TEST:A-D レベルの点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	9	351.7	97.0	718.0

問 16-3-2. 実用日本語検定 J.TEST:E-F レベルの点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	4	321.3	80.0	450.0

問 16-3-3. 実用日本語検定 J.TEST:ビジネス J.TEST の点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	1	125.0	125.0	125.0

問 16-4. 日本留学試験 EJU の日本語科目の点数

(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	10	215.7	96.0	350.0

問 16-5.BJT ビジネス日本語能力テストの点数

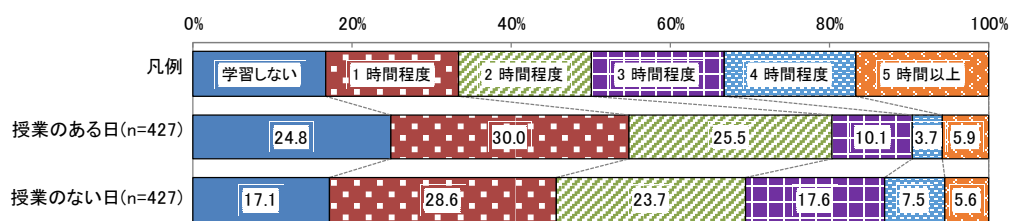
(単位: 点)

	調査数	平均	最小値	最大値
全体	2	420.0	300.0	540.0

3.3 介護福祉士養成施設以外での日本語自主学習時間

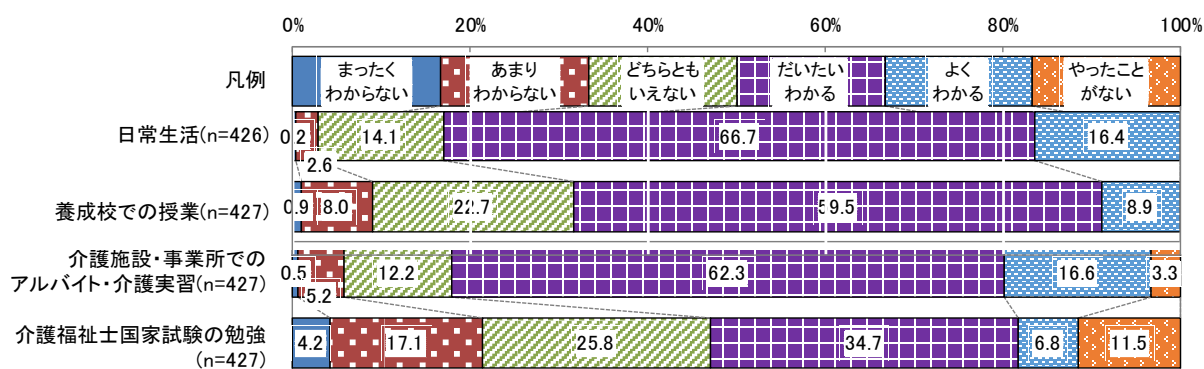
「学習していない」のは、授業のある日で全体の約 4 分の 1、授業のない日で 2 割近くとなっている。授業のある日、授業のない日ともに、日本語自主学習時間は 1～2 時間程度が半数以上となっている。

問17. 日本語について、学校での学習以外での毎日の平均学習時間



3.4 使用場面毎の日本語理解力

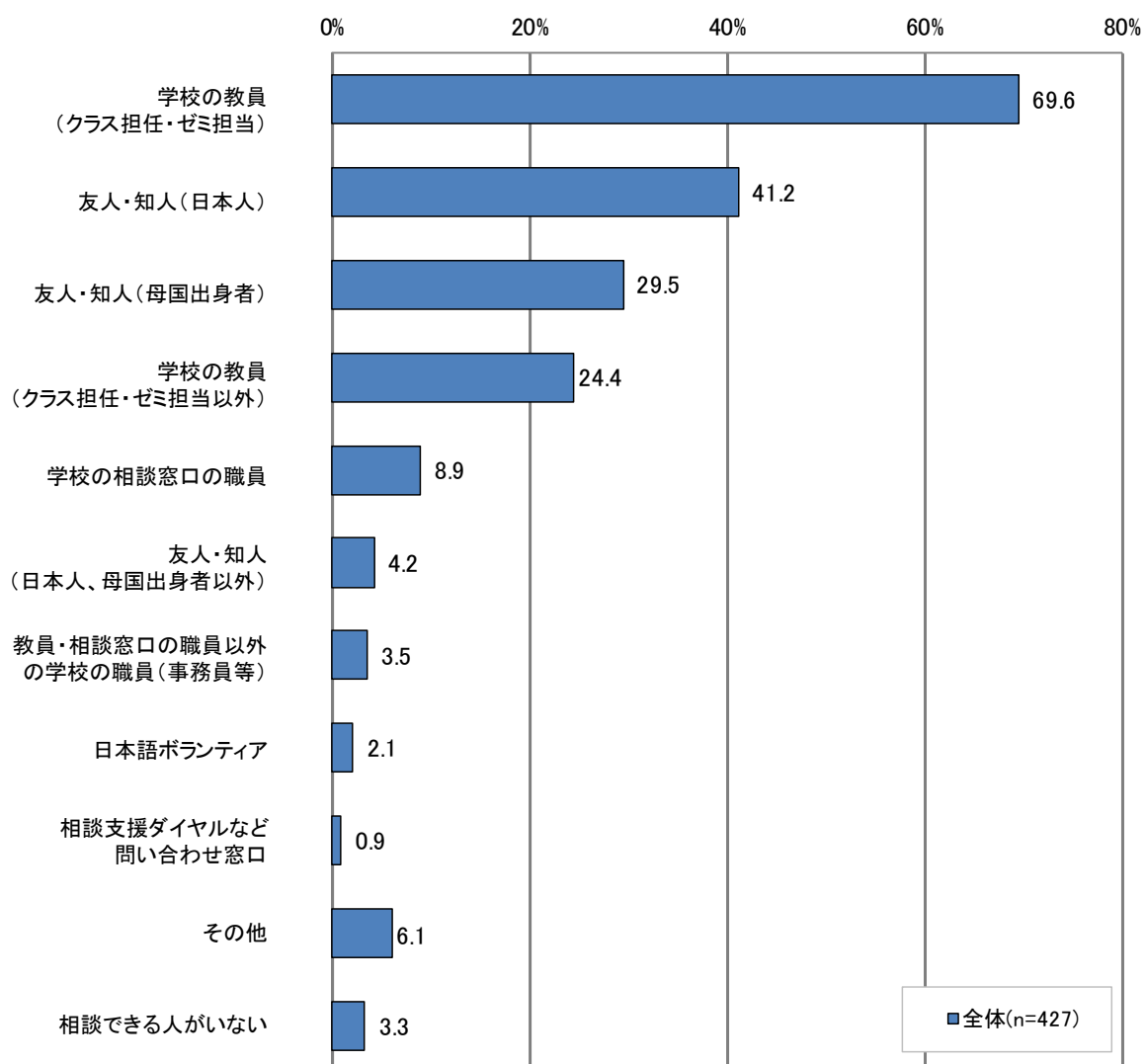
“わからない”（「あまりわからない」と「まったくわからない」の合計）は、『日常生活』、『養成校での授業』、『介護施設・事業所でのアルバイト・介護実習』のいずれでも 1 割未満となっている。一方で、『介護福祉士国家試験の勉強』では、2 割以上が“わからない”となった。



3.5 日本語学習についての相談相手

「学校の教員（クラス担任・ゼミ担当）」(69.6%)が最も多く、「友人・知人（日本人）」(41.2%)、「友人・知人（母国出身者）」(29.5%)、「学校の教員（クラス担任・ゼミ担当以外）」(24.4%)、と続く。

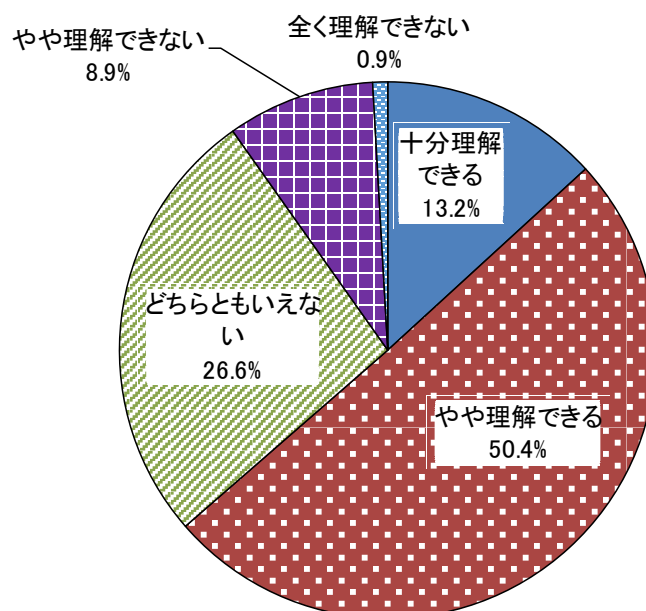
問19. あなたは、日本語学習について困ったとき、誰に相談していますか。（複数選択）（n=427）



3.6 授業内容の理解度

「やや理解できる」(50.4%)が最も多く、「どちらともいえない」(26.6%)、「十分理解できる」(13.2%)、「やや理解できない」(8.9%)、「全く理解できない」(0.9%)となった。

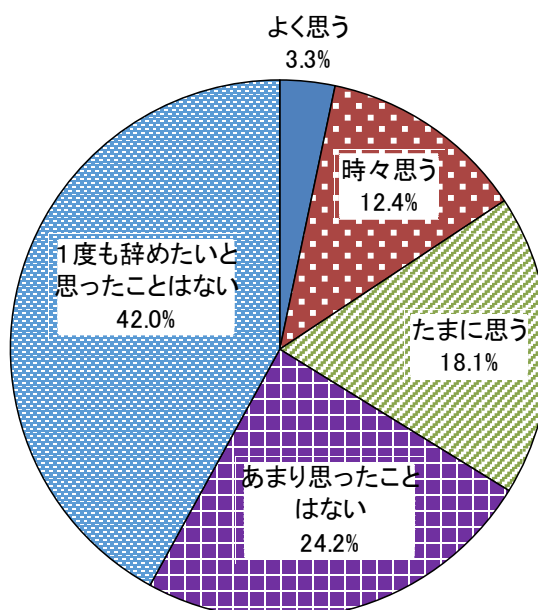
問21. あなたは、授業の内容をどの程度理解できていますか。(1つ選択) (n=425)



3.7 介護福祉士養成施設を辞めたいと思ったこと

「1度も辞めたいと思ったことはない」(42.0%)が最も多く、「あまり思ったことはない」(24.2%)、「たまに思う」(18.1%)、「時々思う」(12.4%)、「よく思う」(3.3%)となった。

問22. あなたは、今までに介護福祉士養成校を辞めたいと思ったことはありますか。(1つ選択) (n=426)

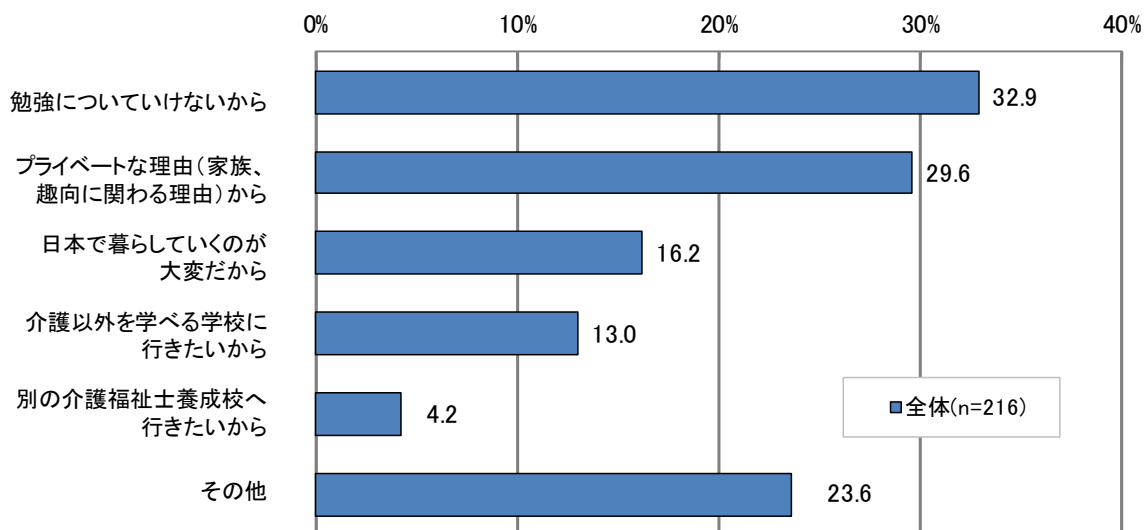


3.7.1 介護福祉士養成施設を辞めたいと思った理由

【回答対象: 問 22 で「よく思う」、「時々思う」、「たまに思う」または「あまり思ったことはない」と回答した人】

「勉強についていけないから」(32.9%)が最も多く、「プライベートな理由(家族、趣向に関わる理由)から」(29.6%)、「日本で暮らしていくのが大変だから」(16.2%)、「介護以外を学べる学校に行きたいから」(13.0%)、と続く。

問22-1. あなたが、介護福祉士養成校を辞めたいと思ったのはなぜですか。
(複数選択) (n=216)

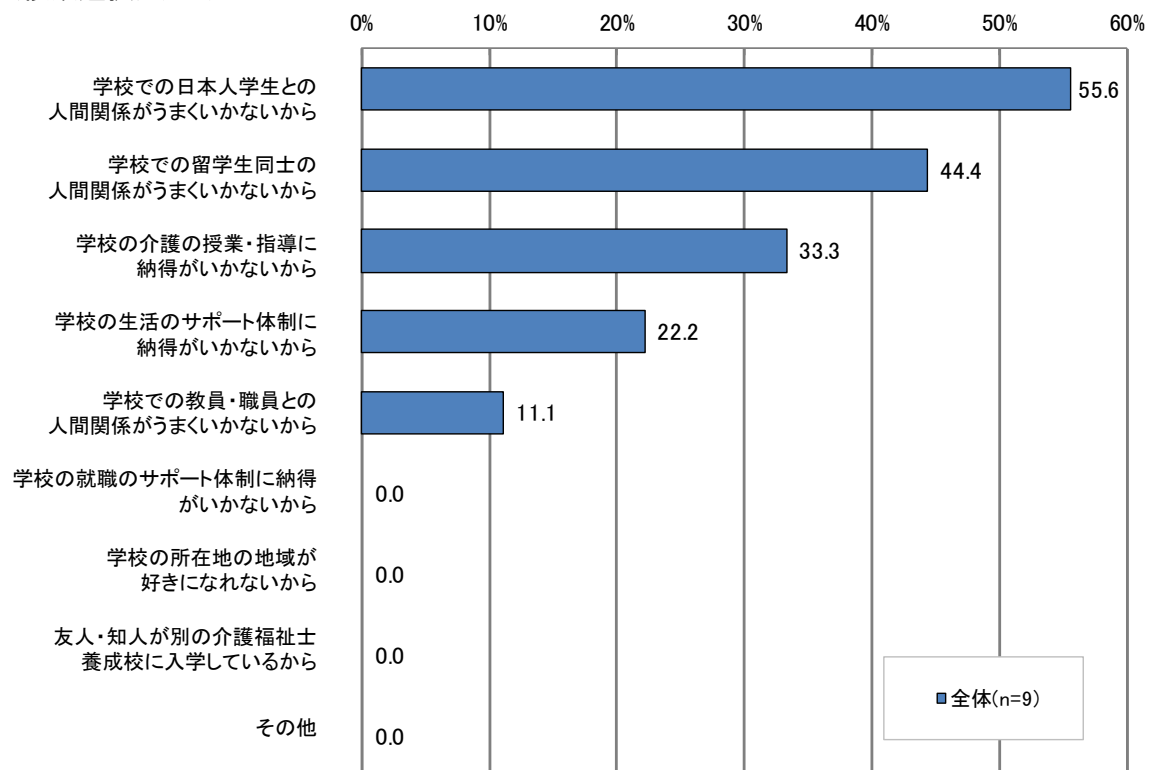


① 別の介護福祉士養成施設に行きたいと思った理由

【回答対象: 問 22-1 で「別の介護福祉士養成校に行きたいから」と回答した人】

「学校での日本人学生との人間関係がうまくいかないから」(55.6%)が最も多く、「学校での留学生同士の間関係がうまくいかないから」(44.4%)、「学校の介護の授業・指導に納得がいけないから」(33.3%)、と続く。

問22A.あなたが、別の介護福祉士養成校に行きたいと思ったのはなぜですか。
(複数選択) (n=9)

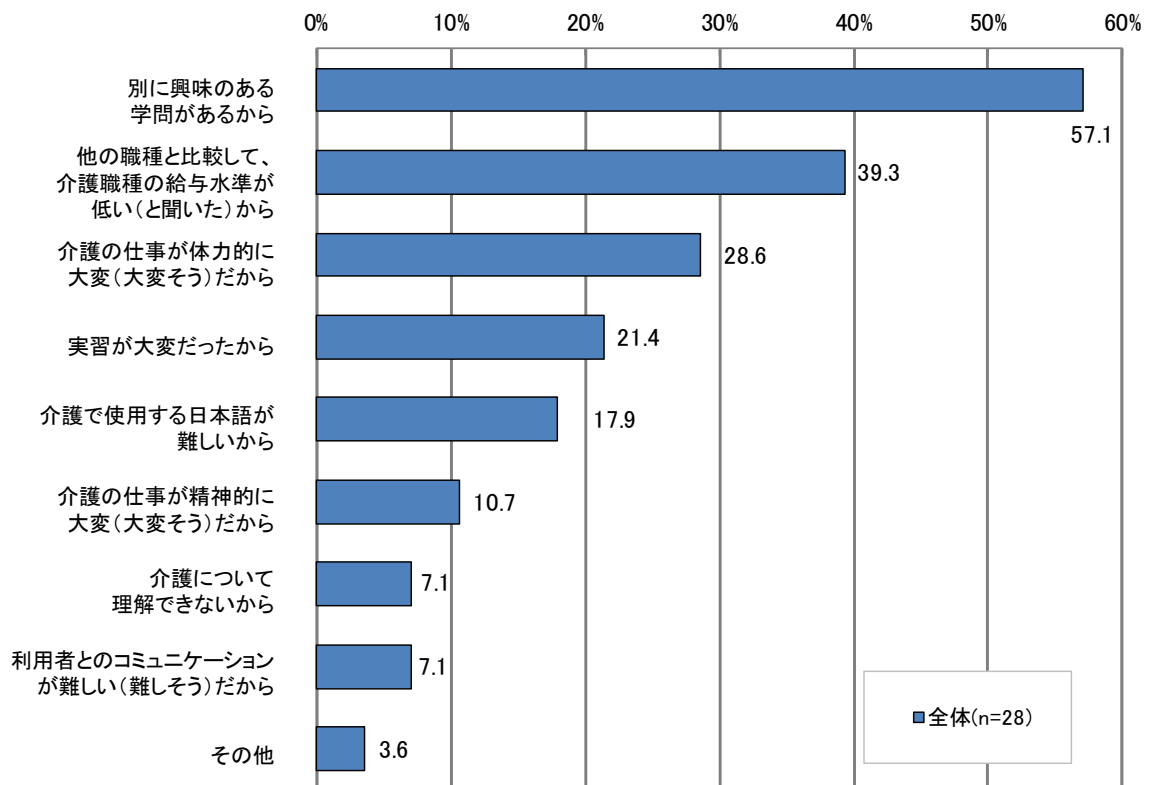


② 介護以外を学べる学校に行きたいと思った理由

【回答対象：問 22-1 で「介護以外を学べる学校に行きたいから」と回答した人】

「別に興味のある学問があるから」(57.1%)が最も多く、「他の職種と比較して、介護職種の給与水準が低い(と聞いた)から」(39.3%)、「介護の仕事が体力的に大変(大変そう)だから」(28.6%)、「実習が大変だったから」(21.4%)、と続く。

問22B.あなたが、介護以外を学べる学校に行きたいと思ったのはなぜですか。
(複数選択) (n=28)

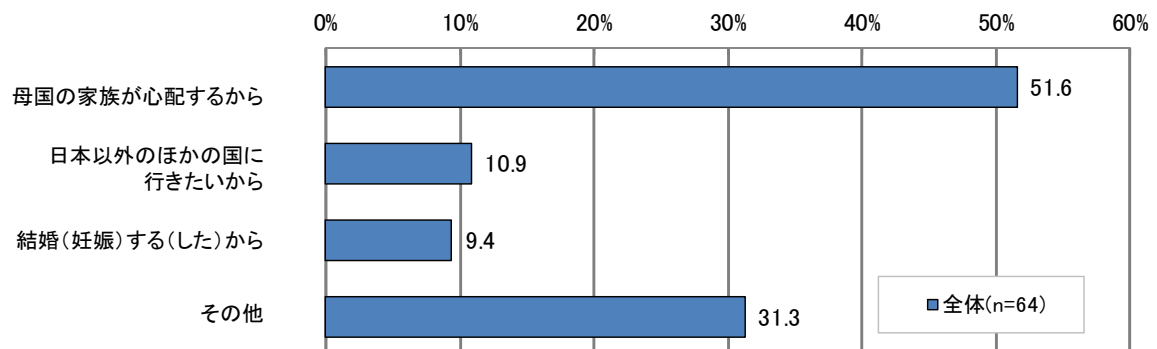


③ 介護福祉士養成施設を辞めたいと思った理由(プライベート)

【回答対象: 問 22-1 で「プライベートな理由(家族、趣向に関わる理由)から」と回答した人】

「母国の家族が心配するから」(51.6%)が最も多く、「日本以外のほかの国に行きたいから」(10.9%)、と続く。また、「その他」(31.3%)については他の仕事に就きたいという意見や疲労がたまったという回答が多かった。

問22C.あなたが、介護福祉士養成校を辞めたいと思った、プライベートな理由を教えてください。
(複数選択) (n=64)

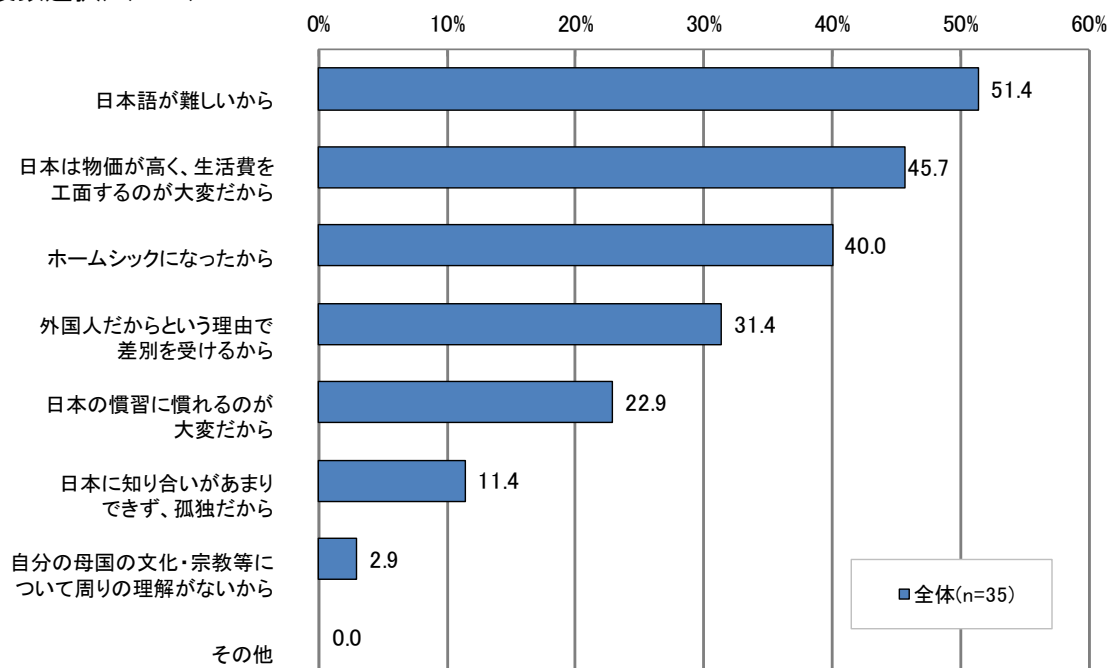


④ 日本で暮らしていくことが難しいと思った理由

【回答対象: 問 22-1 で「日本で暮らしていくのが大変だから」と回答した人】

「日本語が難しいから」(51.4%)が最も多く、「日本は物価が高く、生活費を工面するのが大変だから」(45.7%)、「ホームシックになったから」(40.0%)、と続く。

問22D.あなたが、日本で暮らしていくのが大変だと思ったのはなぜですか。
(複数選択) (n=35)

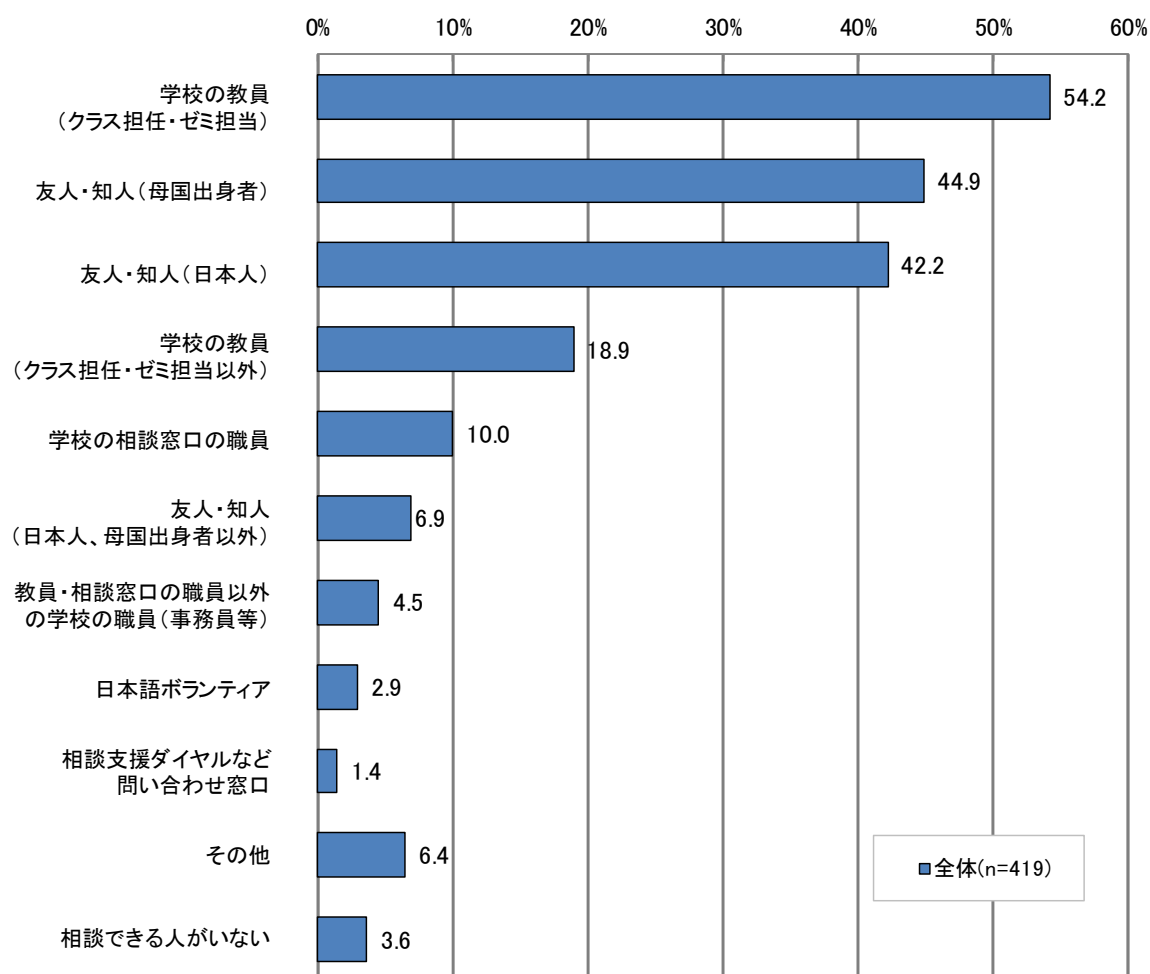


4 留学生の日本での生活全般

4.1 日本での生活に困難を感じた際の相談先

「学校の教員（クラス担任・ゼミ担当）」（54.2%）が最も多く、「友人・知人（母国出身者）」（44.9%）、「友人・知人（日本人）」（42.2%）、と続く。また「相談できる人がいない」（3.6%）となっている。

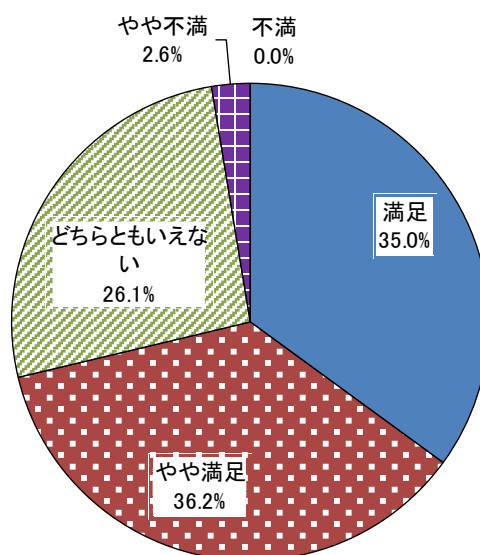
問23. あなたは、日本での生活について困ったとき、誰に相談していますか。
（複数選択）（n=419）



4.2 日本での生活への満足度

「やや満足」(36.2%)が最も多く、「満足」(35.0%)、「どちらともいえない」(26.1%)、「やや不満」(2.6%)、となった。

問26. あなたは、日本での生活をどのように感じていますか。(1つ選択) (n=417)



5 留学生の日本における収入/支出

5.1 奨学金からの収入がある留学生

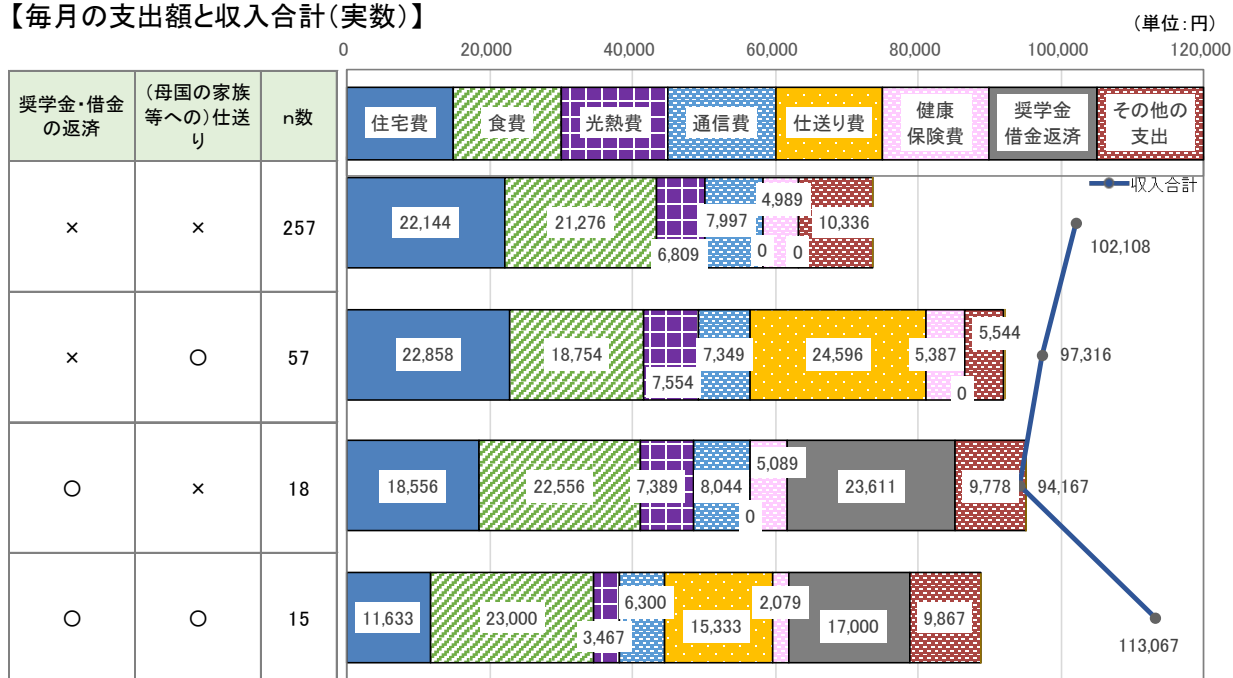
【毎月の収入額】

○:あり
×:なし

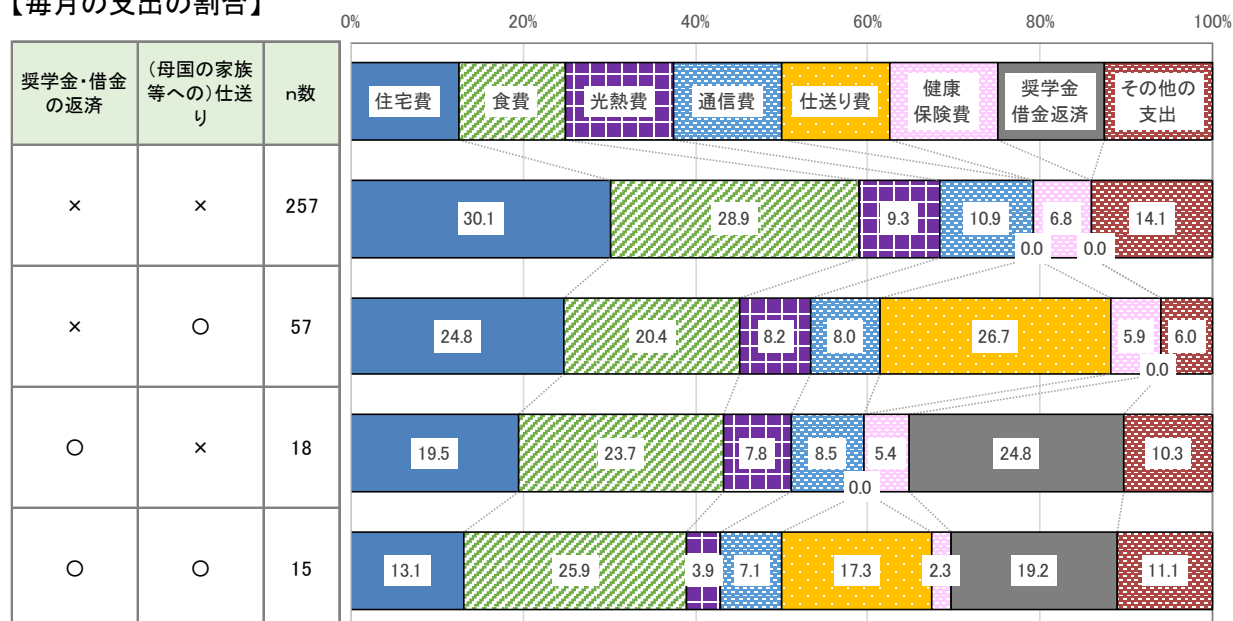
(単位:円)

奨学金・借金の返済	○	○	×	×
(母国の家族等への)仕送り	○	×	○	×
収入合計	113,067	94,167	97,316	102,108
(内訳) 奨学金からの収入	18,467	6,667	14,737	15,676
パート・アルバイトでの収入	85,600	82,222	73,930	81,861
その他の収入	9,000	5,278	8,649	4,590

【毎月の支出額と収入合計(実数)】



【毎月の支出の割合】



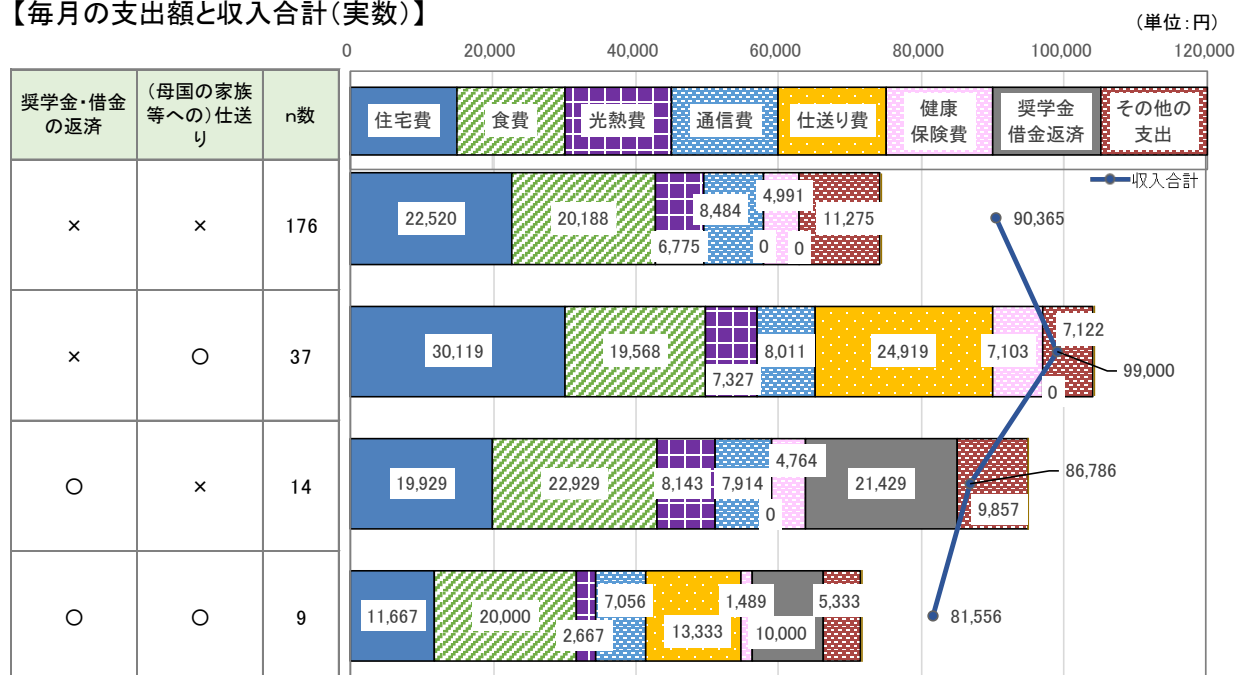
5.2 奨学金からの収入がない留学生

【毎月の収入額】

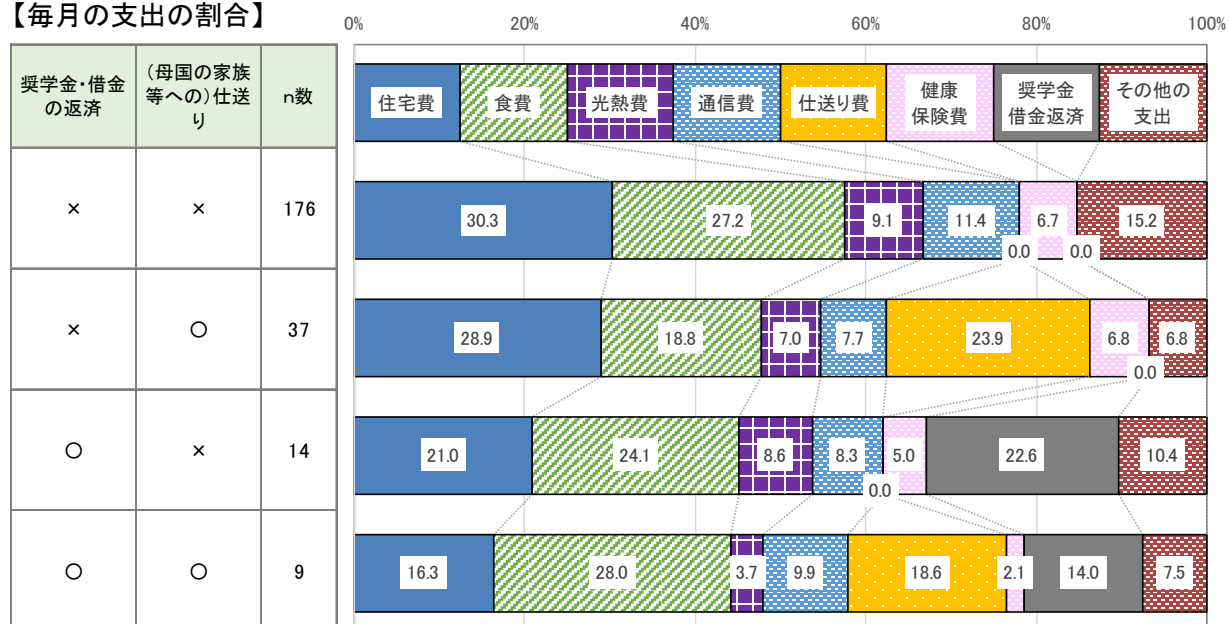
○:あり
×:なし

	(単位:円)			
奨学金・借金の返済	○	○	×	×
(母国の家族等への)仕送り	○	×	○	×
収入合計	81,556	86,786	99,000	90,365
(内訳) 奨学金からの収入	0	0	0	0
パート・アルバイト での収入	81,556	80,000	87,027	85,081
その他の収入	0	6,786	11,973	5,284

【毎月の支出額と収入合計(実数)】



【毎月の支出の割合】



iii. 都道府県における外国人介護人材の支援に関するアンケート調査

1. アンケート調査結果まとめ

【前提】

アンケート調査は、全 47 都道府県のうち、39 都道府県（介護担当部局）より回答があった。
（回収率 83.0%）

① 介護人材活用に関する考えについて

○半数が庁外において、3 割が庁内において外国人介護人材に関する検討の場を設置している。

○6 割の都道府県が第 7 期計画へ外国人人材の活用を明示している。

- ・ 介護人材については 34 件（87%）の都道府県が「現在不足している」と考えている。
- ・ 庁外で介護人材等に関する協議の場を設けている都道府県は 37 件（95%）で、そのうち 21 件で外国人介護人材について検討を行っている。
- ・ 庁内で介護人材等に関する協議の場を設けている都道府県は 15 件（39%）で、そのうち 11 件で外国人介護人材について検討を行っている。
- ・ なお、21 件（57%）の都道府県が、第 7 期高齢者福祉計画等へ外国人人材の活用に関して明示している。

② 介護福祉士養成施設へ通う留学生への支援について

○大半の都道府県で介護福祉士養成施設へ通う留学生数を把握し、支援を行っている。

- ・ 32 件（82%）の都道府県が介護福祉士養成施設へ通う留学生数を把握している。
- ・ 介護福祉士養成施設の留学生に対して、37 件（95%）の都道府県で支援が行われており、最も多い支援は「修学資金等の貸付・給付等の金銭的支援」の 34 件である。

③ 外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所への支援について

○半数の都道府県で、外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所への支援が行われている。

- ・ 外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所への支援は 19 件（49%）の都道府県で行われており、具体的には「外国人求職者向けの資格取得支援」が 6 件、「介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援」が 4 件である。
- ・ 14 件（36%）の都道府県が外国人の就労している介護施設・事業所を把握しており、16 件（41%）が介護施設・事業所の外国人介護人材受入れ意向を把握している。

2. アンケート調査結果

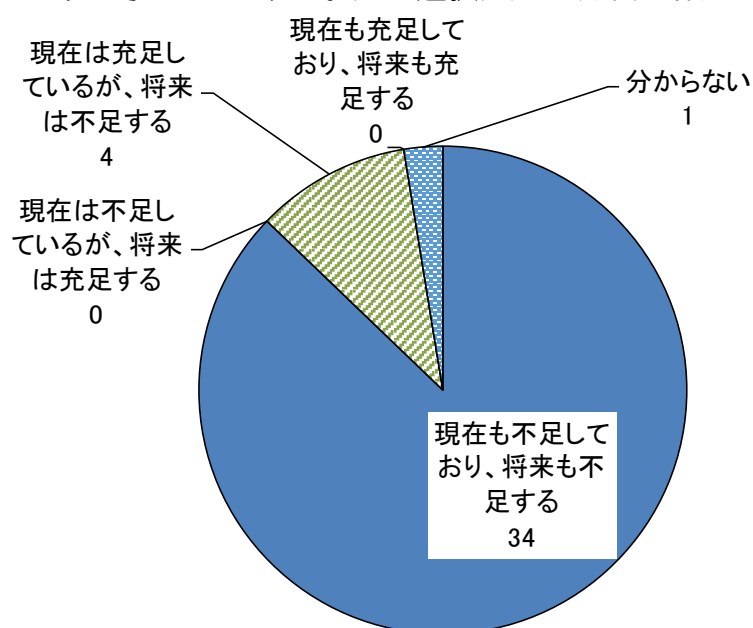
※ 以下、単純集計を掲載。クロス集計については n 数が少ないため対象外

1 都道府県の外国人介護人材活用に対する考え

1.1 介護人材の過不足状況

「現在も不足しており、将来も不足する」(34 件)が最も多く、「現在は充足しているが、将来は不足する」(4 件)と続き、「分からない」(1 件)であった。

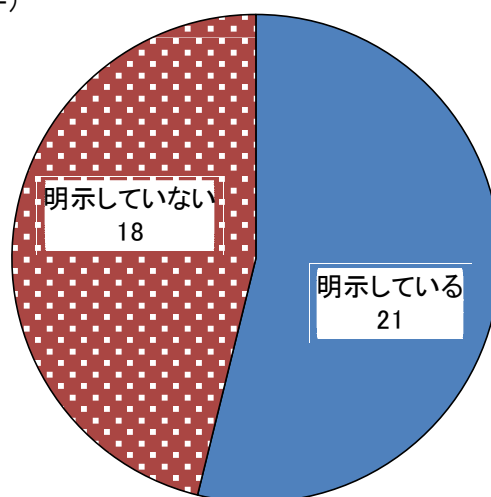
問1.貴都道府県の、介護人材の過不足の状況についてどのように考えていますか。(1 つ選択) (n=39)(単位:件)



1.2 外国人介護人材の活用<第7期高齢者福祉計画等への明示>

「明示している」(21 件)、「明示していない」(18 件)であった。

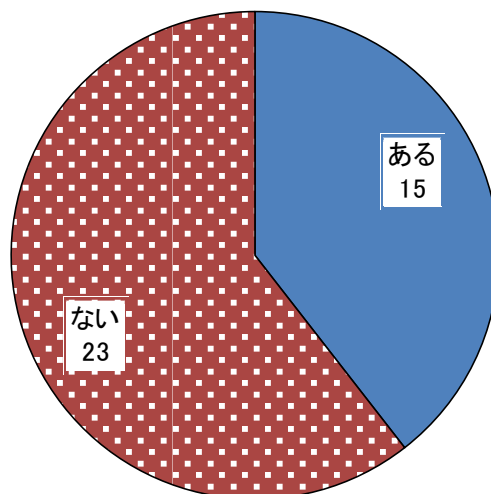
問2.外国人介護人材の活用に関して、第7期計画(第7期高齢者福祉計画等)へ明示を行っていますか。(1 つ選択) (n=39)(単位:件)



1.3 庁内の介護人材等に関する検討会の有無

「ある」(15 件)、「ない」(23 件)であった。

問3.貴都道府県には、庁内に介護人材等に関する協議の場(検討会等)はありますか。(1 つ選択) (n=38)(単位:件)

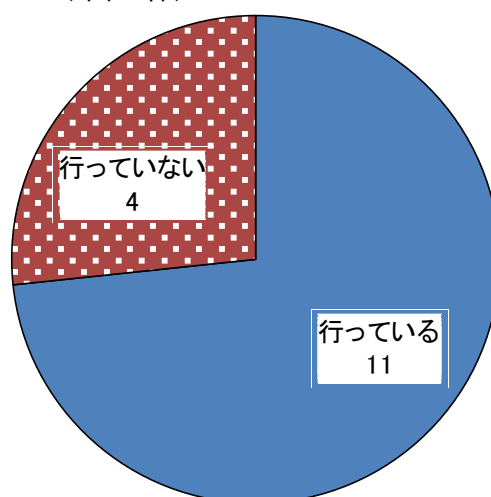


1.3.1 外国人介護人材についての検討

【回答対象:問 3 で「ある」と回答した都道府県】

「行っている」(11 件)、「行っていない」(4 件)であった。

問3-1.庁内の介護人材等に関する協議の場(検討会等)において、外国人介護人材について検討を行っていますか。
(1 つ選択) (n=15)(単位:件)

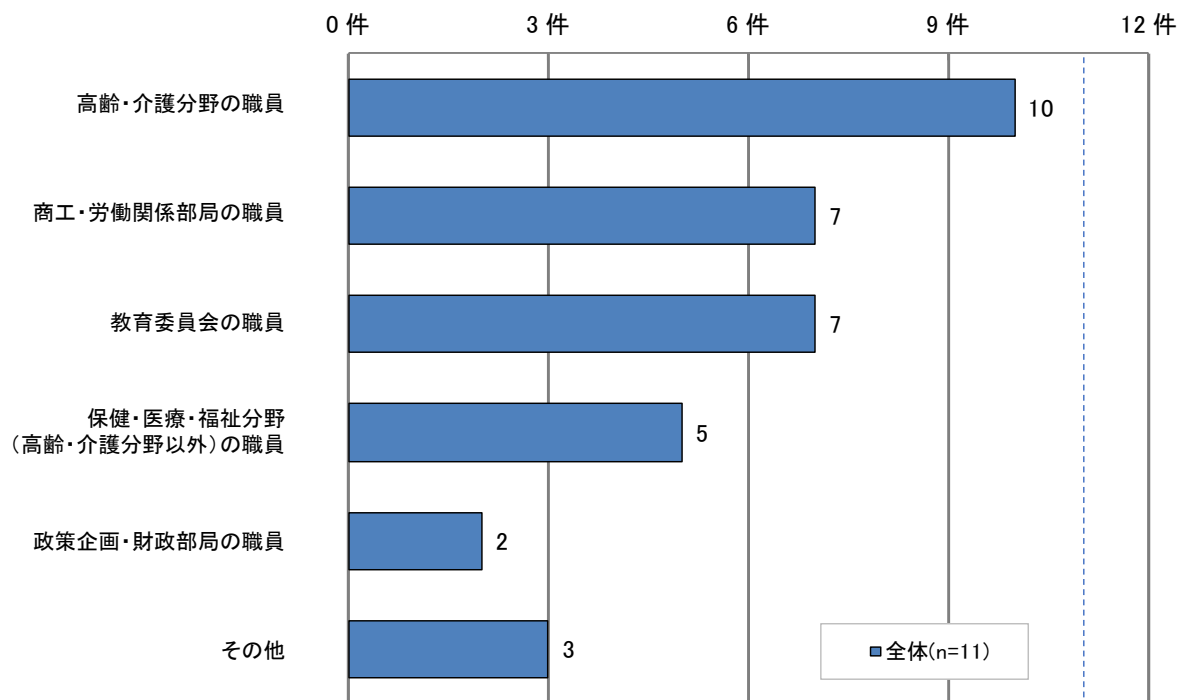


1.3.2 当該協議の場(検討会)への参加者

【回答対象:問 3-1 で「行っている」と回答した都道府県】

「高齢・介護分野の職員」(10 件)が最も多く、「商工・労働関係部局の職員」(7 件)、「教育委員会の職員」(7 件)と続く。

問3-2.当該協議の場(検討会等)にはどのような人が参加していますか。(複数選択)(n=11)
(単位:件)



1.3.3 当該協議の場(検討会)での検討内容

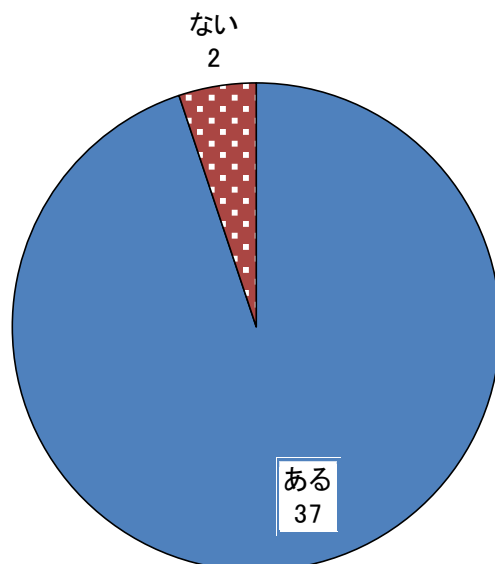
回答があった全 5 件のうち、「外国人介護人材に関する検討」が 4 件あった。
この中で、「部局横断的な海外人材の活用に関するプロジェクトチームを設置し、『海外人材活用の考え方』『海外人材活用に向けた施策・施策体系』等を整理するとともに、外国人介護人材に活躍してもらうための生活環境整備について検討」という回答が見られた。

1.4 庁外の介護人材等に関する検討会の有無

【回答対象:問3で「ない」と回答した都道府県】

「ある」(37件)、「ない」(2件)であった。

問4.貴都道府県には、庁外に介護人材等に関する協議の場(検討会等)はありますか。(1つ選択)(n=39)(単位:件)

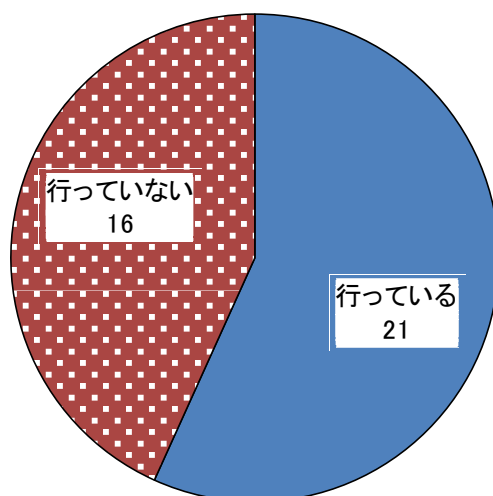


1.4.1 外国人介護人材についての検討

【回答対象:問4で「ある」と回答した都道府県】

「行っている」(21件)、「行っていない」(16件)であった。

問4-1.庁外の介護人材等に関する協議の場(検討会等)において、外国人介護人材について検討を行っていますか。(1つ選択)(n=37)(単位:件)

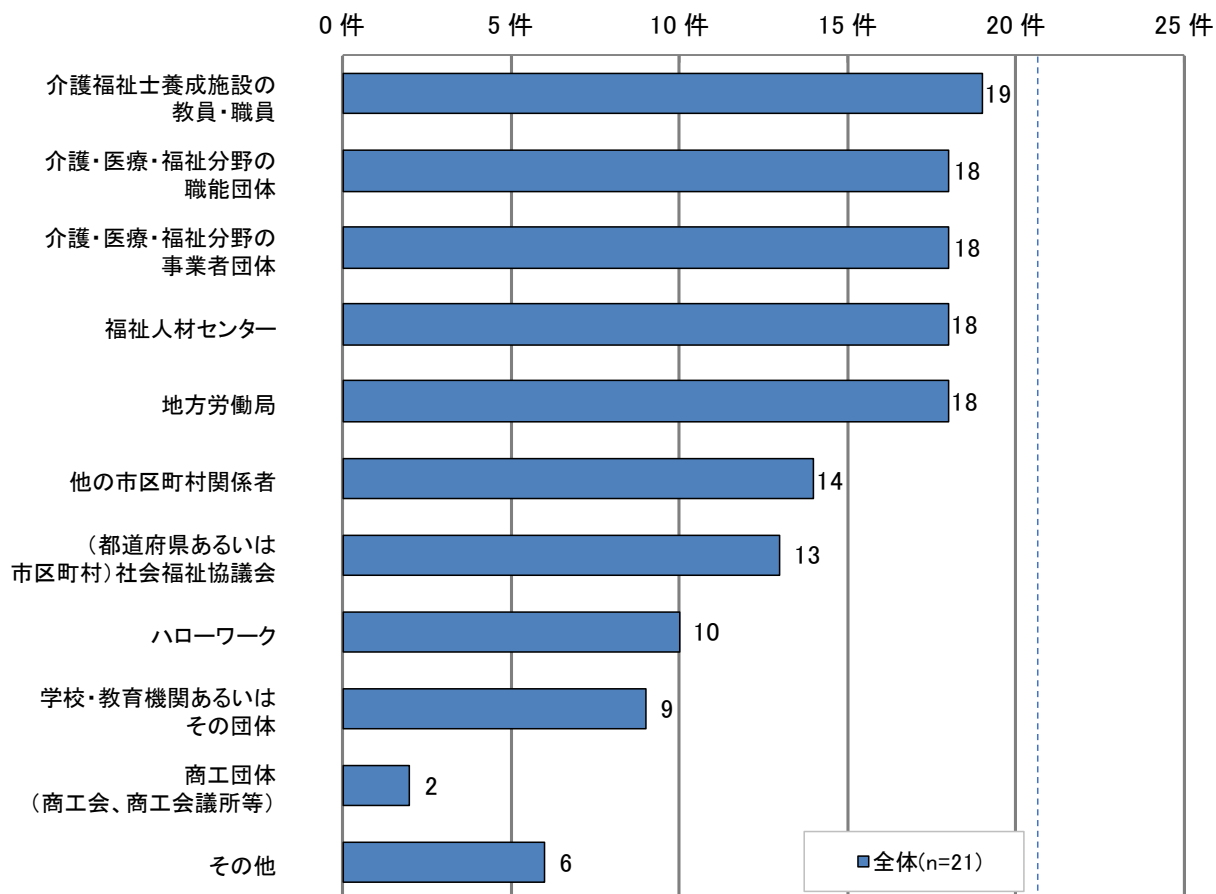


1.4.2 当該協議の場(検討会)への参加者

【回答対象:問 4-1 で「行っている」と回答した都道府県】

「介護福祉士養成施設の教員・職員」(19 件)、「介護・医療・福祉分野の職能団体」(18 件)、「介護・医療・福祉分野の事業者団体」(18 件)、「福祉人材センター」(18 件)、「地方労働局」(18 件)が多く見られた。

問4-2.当該協議の場(検討会等)にはどのような人が参加していますか。(複数選択) (n=21)
(単位:件)



1.4.3 当該協議の場(検討会)における検討内容

回答があった全 8 件のうち、「外国人介護人材受入れにあたっての課題・支援策の検討」が 3 件、「外国人介護人材に関する意見交換」が 2 件あった。
この他、「県内の技能実習監理団体、実習生受入介護施設、関係市が集まり、地域コンソーシアムの立ち上げについて検討」という回答も見られた。

1.5 介護人材に関する協議の場

庁内・庁外ともに介護人材に関して協議の場を設け、外国人介護人材について検討を行っている都道府県は9件であった。

なお、庁内・庁外ともに介護人材に関する検討の場を設けていない都道府県は1件であった。

(単位:件)

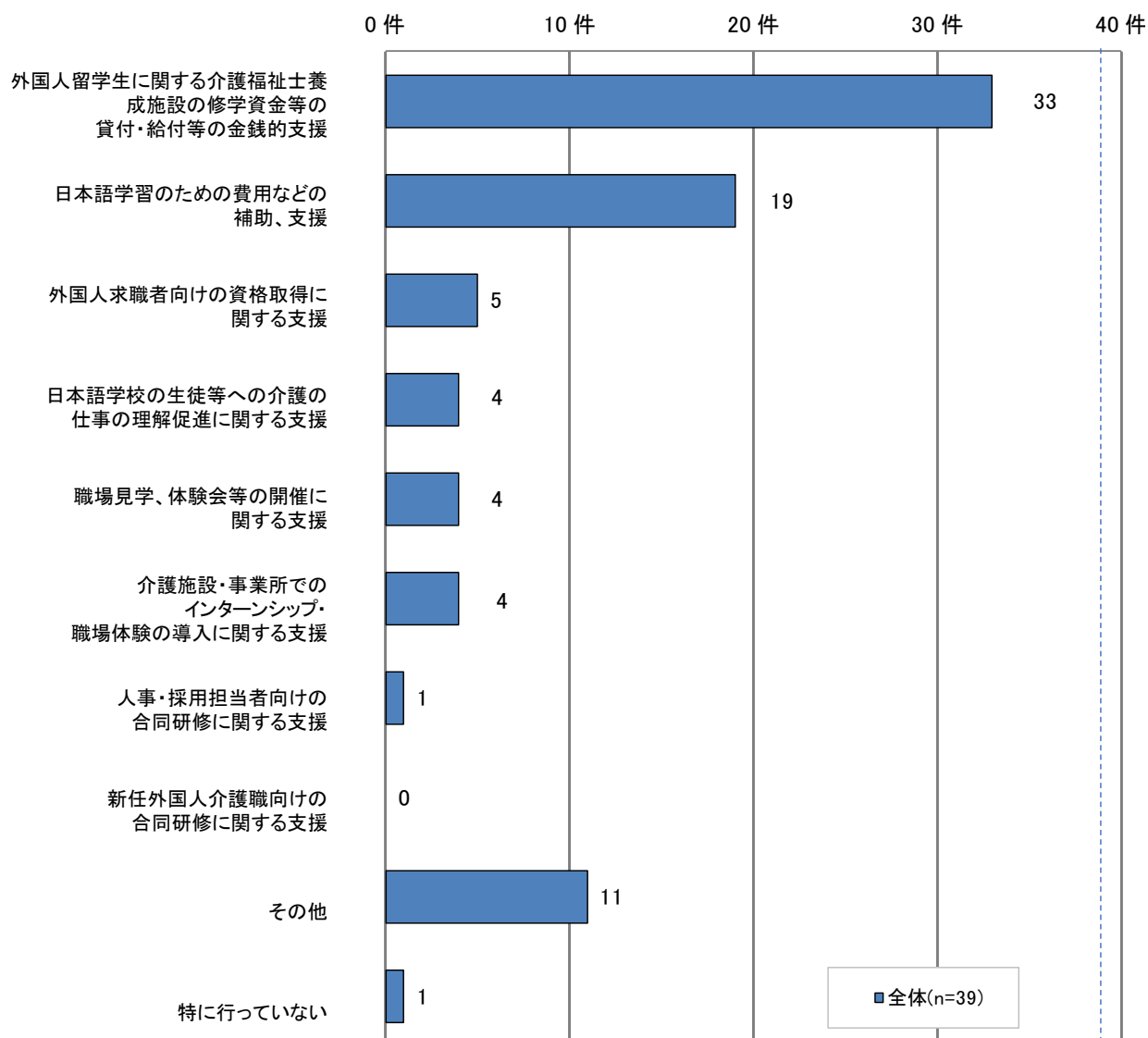
		問4.庁外における介護人材等に関する協議の場(検討会等)／外国人介護人材の検討の有無			
		調査数	検討会等あり／外国人介護人材について検討を行っている	検討会等あり／外国人介護人材について検討を行っていない	検討会等なし
問3.庁内における介護人材等に関する協議の場(検討会等)／外国人介護人材の検討の有無	調査数	39	21	16	2
	検討会等あり／外国人介護人材について検討を行っている	11	9	2	—
	検討会等あり／外国人介護人材について検討を行っていない	4	—	3	1
	検討会等なし	23	11	11	1

1.6 外国人介護人材への支援

【回答対象：問 4-1 で「行っていない」と回答した都道府県】

「外国人留学生に関する介護福祉士養成施設の修学資金等の貸付・給付等の金銭的支援」(33 件)が最も多く、「日本語学習のための費用などの補助、支援」(19 件)が続く。また「特に行っていない」は1 件だった。

問5.貴都道府県において、外国人介護人材に関してどのような支援を行っていますか。(複数選択)
(n=39) (単位: 件)

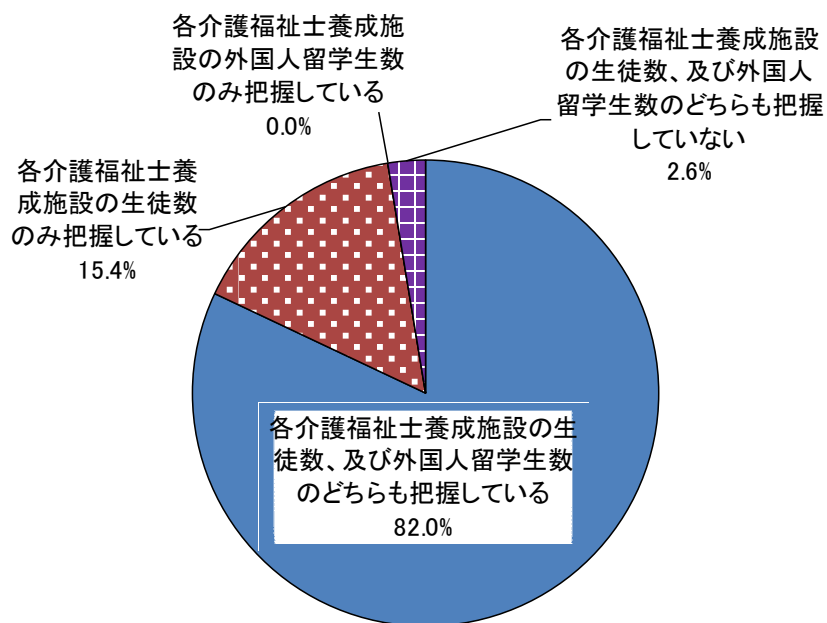


2 介護福祉士養成施設へ通う学生への支援

2.1 介護福祉士養成施設の生徒数・外国人留学生数の把握

「各介護福祉士養成施設の外国人留学生のみを把握している」都道府県は無く、「各介護福祉士養成施設の生徒数、及び外国人留学生数のどちらも把握している」が32件であった。

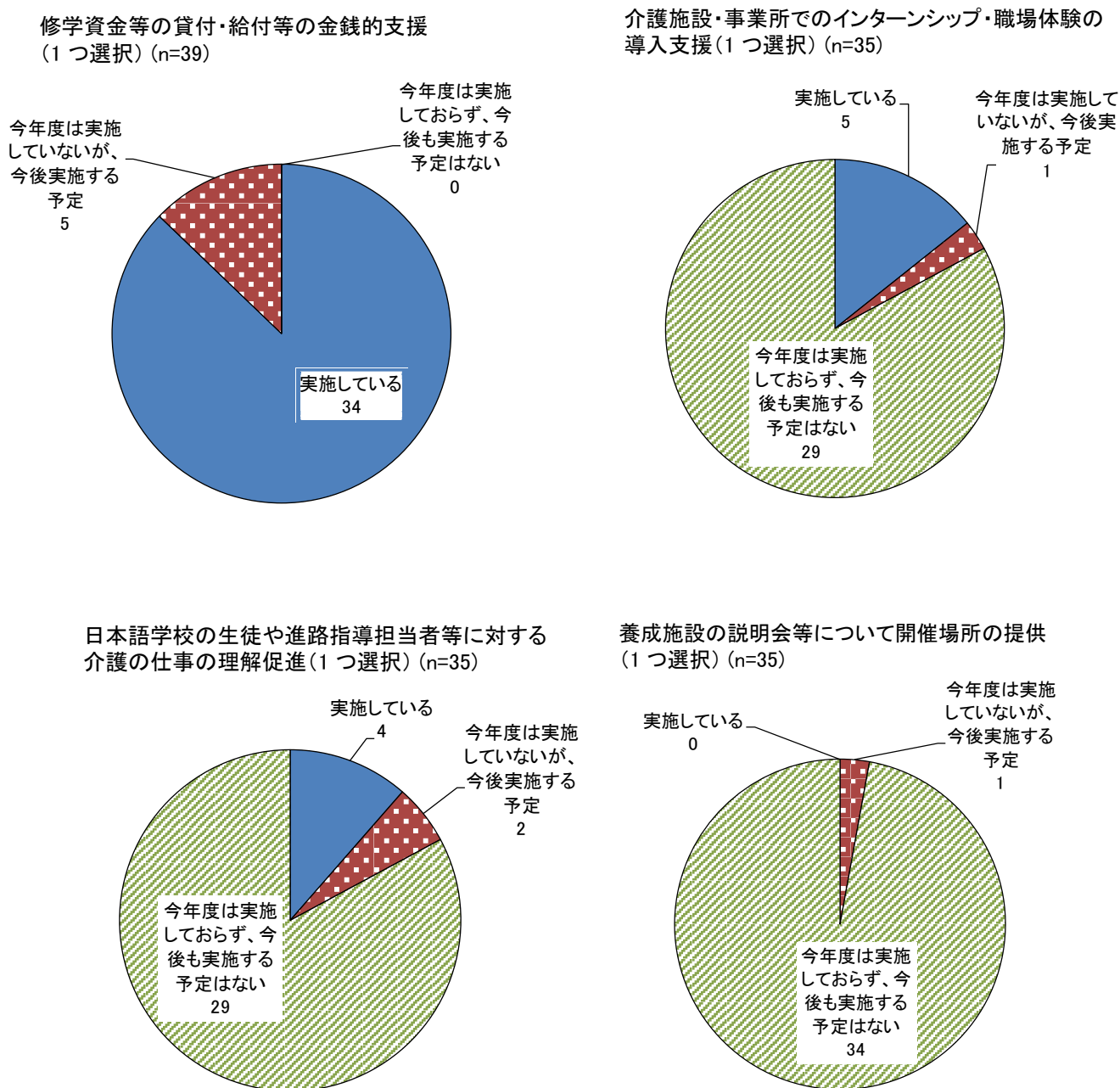
問6.貴都道府県にある介護福祉士養成施設の生徒数と外国人留学生の数を把握していますか。(1つ選択)(n=39)(単位:件)



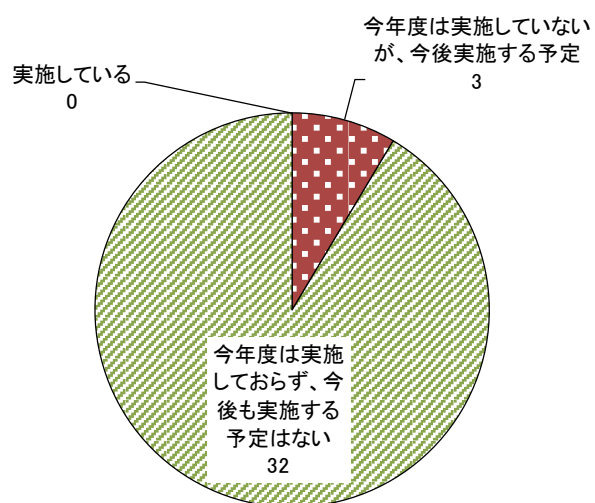
2.2 介護福祉士養成施設の外国人留学生への支援

「実施している」回答のうち、「修学資金等の貸付・給付等の金銭的支援」(34件)が最も多く、「介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援」(5件)、「日本語学校の生徒や進路指導担当者等に対する介護の仕事の理解促進」(4件)と続く。なお、来年度以降注力して実施しようと考えている事業として、回答があった全7件が「金銭的支援」であり、このうち5件が介護福祉士養成施設内で行う日本語カリキュラムへの経費補助であった。

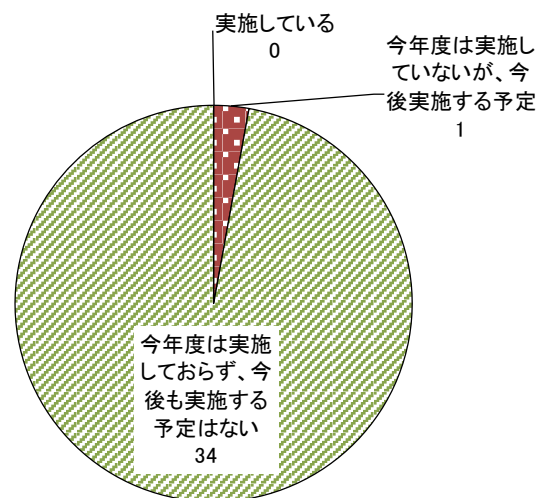
問7.貴都道府県において、介護福祉士養成施設の外国人留学生に対して実施している支援(1つ選択)
(単位:件)



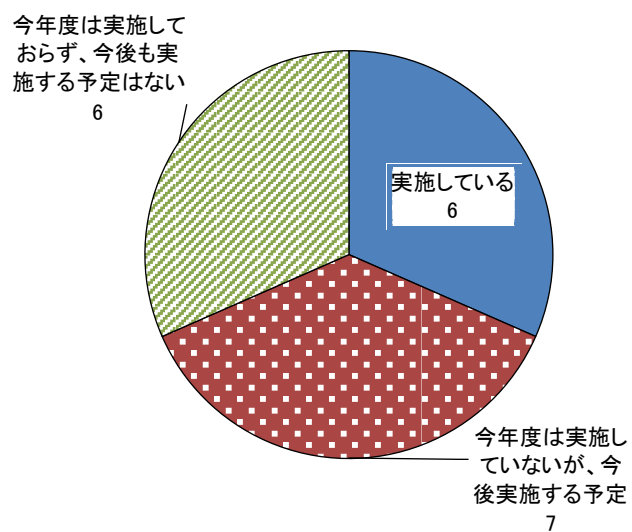
生活支援相談等の窓口開設(1つ選択) (n=35)



日本語に関する相談等の窓口開設(1つ選択) (n=35)



その他(1つ選択) (n=19)



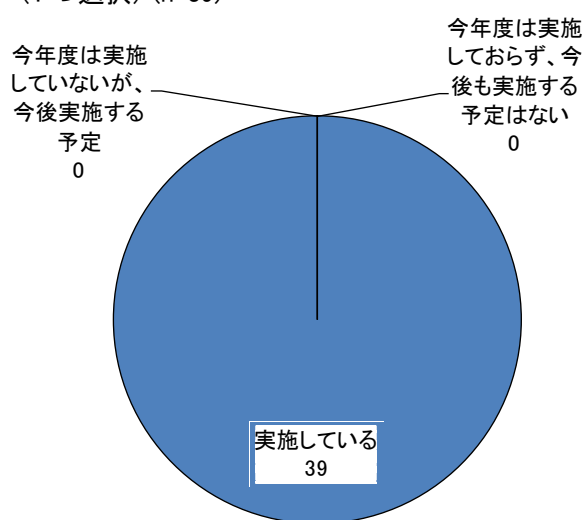
2.3 介護福祉士養成施設の日本人学生への支援

「修学資金等の貸付・給付等の金銭的支援」は全都道府県で行われており、「進路指導担当者等に対する介護の仕事の理解促進」「介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援」（16件）と続く。

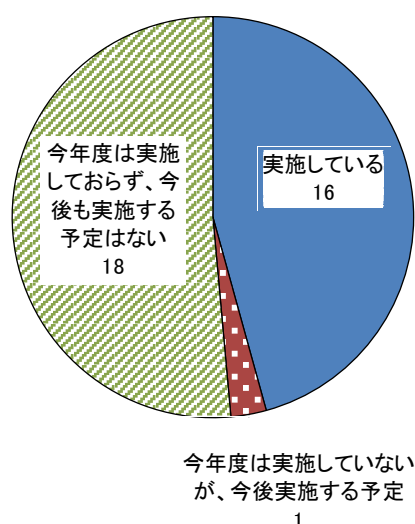
なお、来年度以降注力して実施しようと考えている事業として、回答があった全9件のうち、「金銭的支援」（4件）、「理解促進」（3件）であった。

問8.貴都道府県において、介護福祉士養成施設が日本人学生に対して実施している支援(1つ選択)
(単位:件)

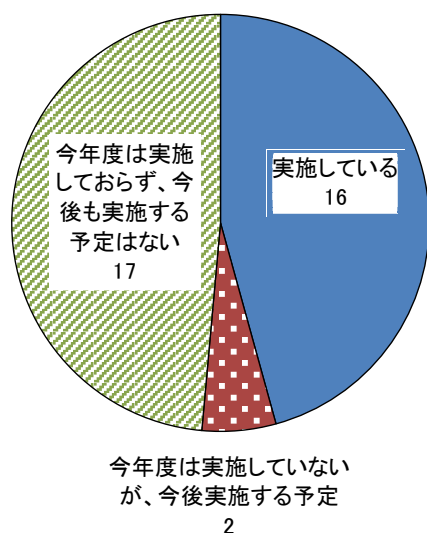
修学資金等の貸付・給付等の金銭的支援
(1つ選択) (n=39)



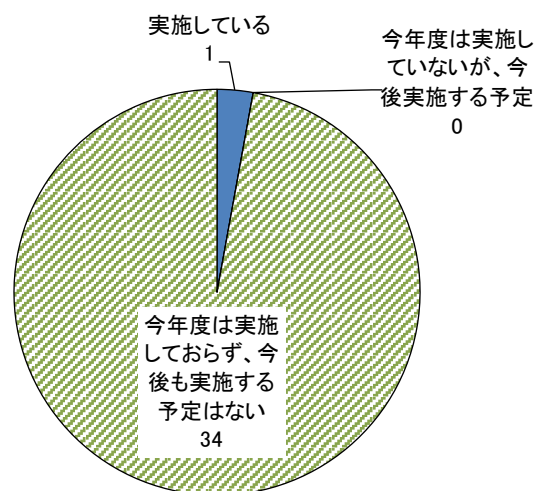
進路指導担当者等に対する介護の仕事の理解促進
(1つ選択) (n=35)



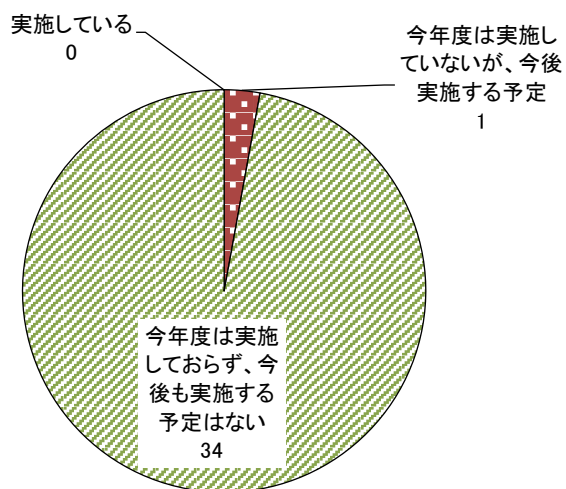
介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援(1つ選択) (n=35)



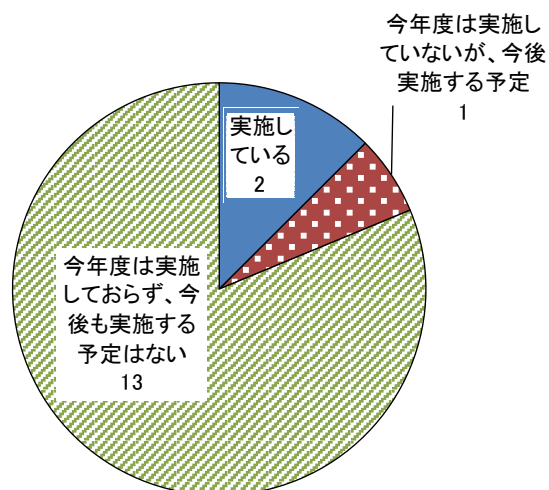
養成施設の説明会等について開催場所の提供
(1つ選択) (n=35)



生活支援相談等の窓口開設(1つ選択)(n=35)



その他(1つ選択)(n=16)



2.4 介護福祉士養成施設との連携の上での課題

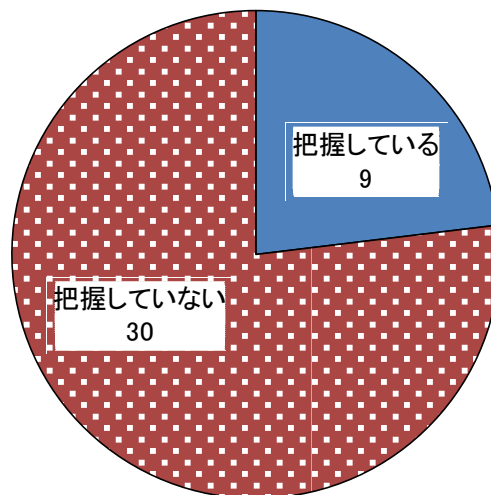
全5件の回答のうち、「介護福祉士養成施設へ通う学生の減少」について3件が挙げていた。その他、「養成校連絡会に加入している学校とそうでない学校があり、別途対応する必要がある。」「外国人留学生の在籍数が極めて少ないため、課題の把握がされていない。」という回答が見られた。

3 外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所への支援

3.1 都道府県指定の介護職員初任者研修実施機関のうち、外国人を対象とする実施機関の把握

「把握している」(9件)、「把握していない」(30件)であった。

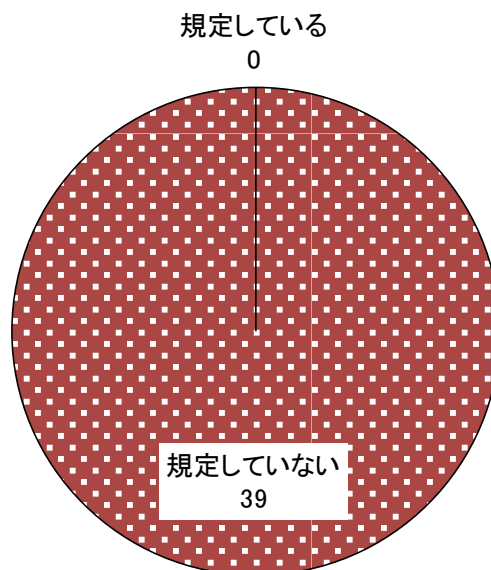
問10. 貴都道府県が指定する介護職員初任者研修の実施機関のうち、外国人を対象とする実施機関を把握していますか。(1つ選択)(n=39)(単位:件)



3.2 介護職員初任者研修実施機関に対する、外国人への研修実施要件・留意事項等の規定導入

全都道府県で「規定していない」という回答であった。

問11. 貴都道府県では、介護職員初任者研修実施機関に対して、外国人に関する何らかの事柄を、研修実施要件や留意事項として規定していますか。(1つ選択)(n=39)(単位:件)

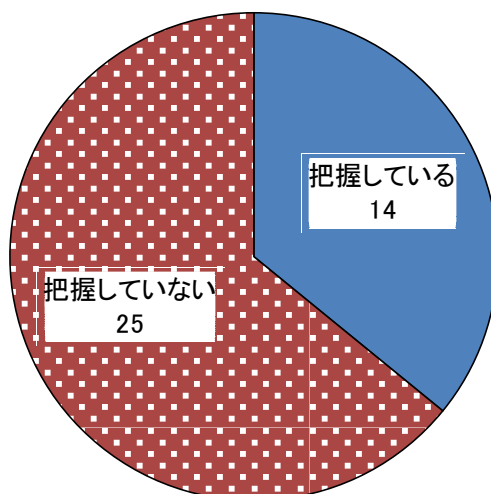


3.3 外国人が就労する介護施設・事業所の把握

【回答対象: 問 11 で「規定していない」と回答した都道府県】

「把握している」(14 件)、「把握していない」(25 件)であった。

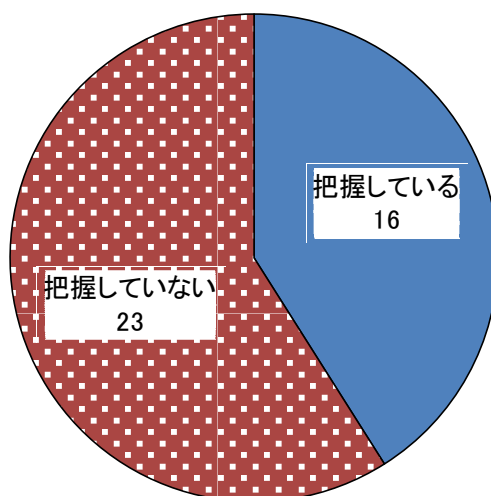
問12. 貴都道府県では、外国人が就労する介護施設・事業所を把握していますか。(1 つ選択) (n=39)(単位: 件)



3.4 介護施設・事業所の外国人介護人材受入れ意向の把握

「把握している」(16 件)、「把握していない」(23 件)であった。

問13. 貴都道府県では、介護施設・事業所の外国人介護人材の受入れ意向を把握していますか。(1 つ選択) (n=39)(単位: 件)

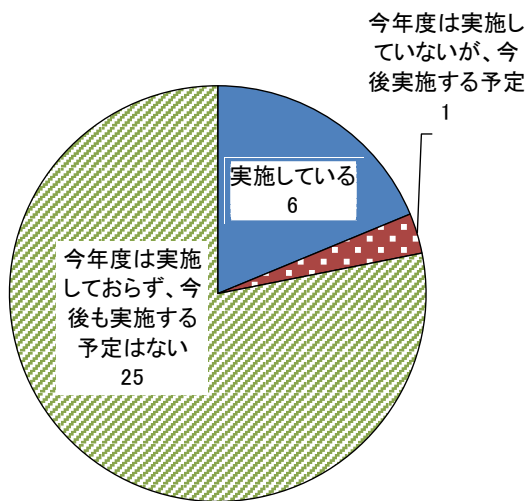


3.5 外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所に対する事業の実施

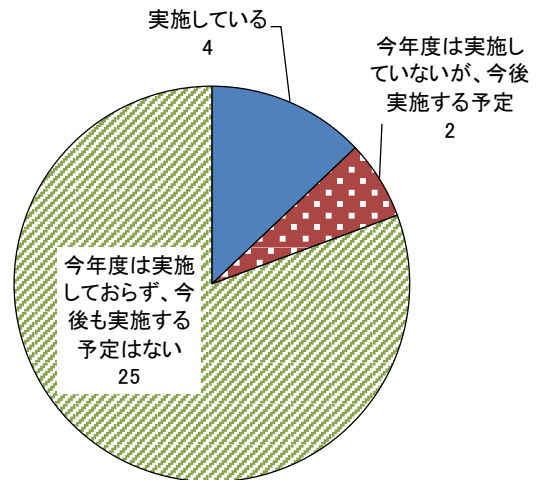
「実施している」回答のうち、「外国人求職者向けの資格取得支援」（6件）が最も多く、「介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援」（4件）と続く。

問14. 貴都道府県で実施している、外国人介護人材受入れに向けた介護施設・事業所に対する事業（1つ選択）
（単位：件）

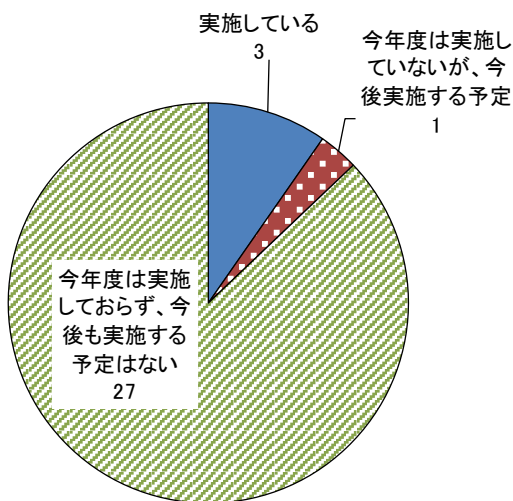
外国人求職者向けの資格取得支援（1つ選択）（n=32）



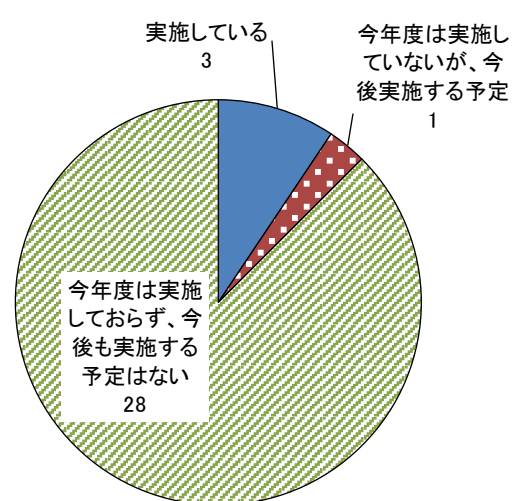
介護施設・事業所でのインターンシップ・職場体験の導入支援（1つ選択）（n=31）



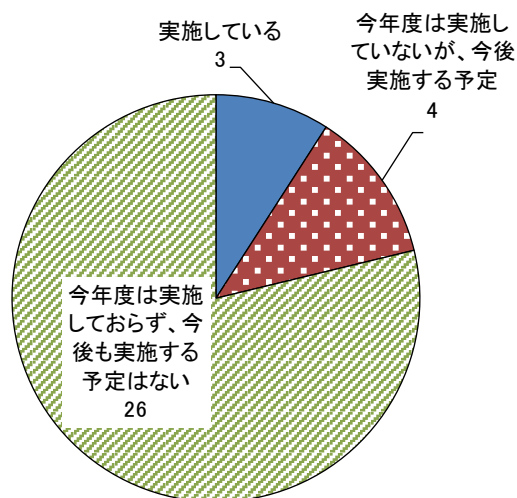
日本語学校の生徒等への介護の仕事の理解促進（1つ選択）（n=31）



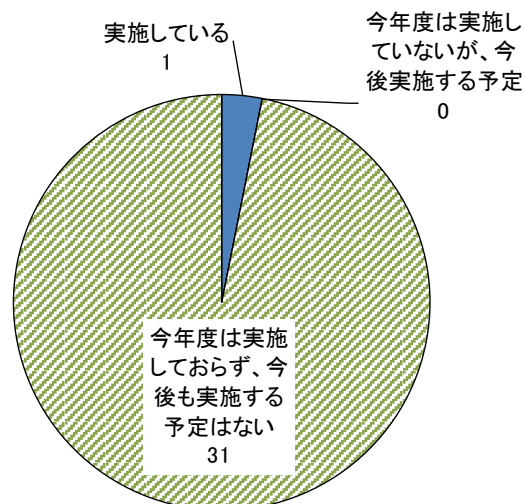
職場見学、体験会等の開催（1つ選択）（n=32）



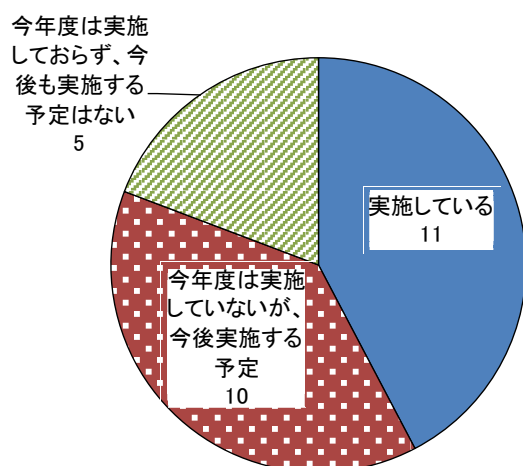
人事・採用担当者向けの合同研修(1つ選択) (n=33)



新任外国人介護職向けの合同研修(1つ選択) (n=32)



その他(1つ選択) (n=26)



3.6 介護施設・事業所との連携

全 11 件の回答のうち、「受入れの実績、ノウハウが無い」(7 件)が最も多く、その他、「外国人介護人材に関する制度について理解が進んでいない」「施設・事業所の外国人介護人材受入れスタンスに差がある」といった意見が見られた。

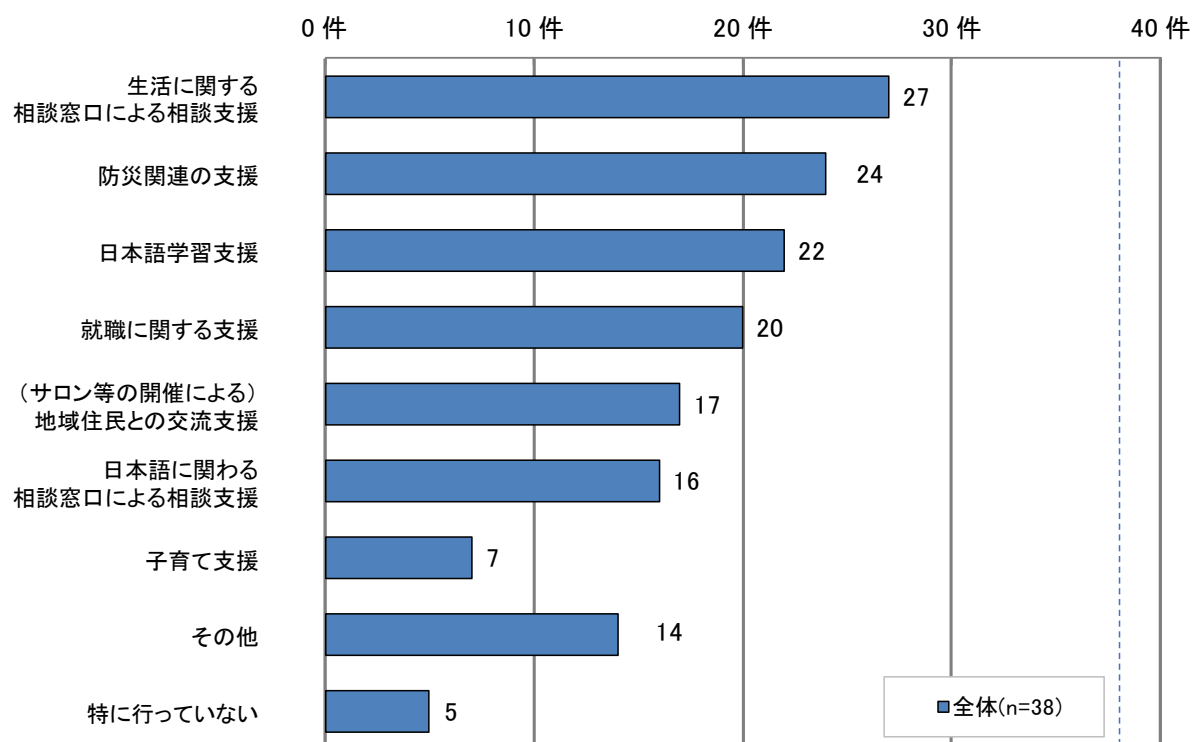
3.7 外国人介護人材受入れを進める上での課題

全 13 件の回答のうち、「介護施設・事業所の受入れニーズが出来ていない」(3 件)が最も多く、「受入れの制度について理解が進んでいない」(2 件)と続く。
その他、「財源の確保」「日本語やコミュニケーション」といった意見が見られた。

4 在留外国人全般への支援

「生活に関する相談窓口による相談支援」(27 件)が最も多く、「防災関連の支援」(24 件)、「日本語学習支援」(22 件)、「就職に関する支援」(20 件)と続く。また「特に行っていない」(5 件)となっている。

問17. 貴都道府県では、在留外国人全般に対して、どのような支援を行っていますか。(複数選択) (n=38) (単位:件)



iv. 介護施設における外国人介護人材の採用・雇用に関するアンケート調査

【卒業生が所属している介護施設対象】

1. アンケート調査結果まとめ

【回答者属性】

- ・ 平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生を採用した介護施設が対象（n=29）。
- ・ 29 件中、法人の運営主体は社会福祉法人（社協除く）が 19 件、医療法人が 7 件であった。
- ・ 施設・事業所の従業員数は、50 人未満が 8 件、50～100 人未満が 13 件、100 人以上が 8 件であった。

① 外国人介護人材全般の受入れについて

○日本人介護職員の採用が難しいなか、国籍に拘らず優秀な人材を求める傾向がみられる

○外国人介護人材の採用を最近 2 年以内に始めたところが多い

- ・ 外国人介護人材を採用する目的（複数回答）は、「国籍に関係なく、優秀な人材を受入れるため」が 29 件中 25 件、「日本人介護職員の採用が困難なため」が 16 件であった。
- ・ 初めて外国人介護人材を採用・雇用した時期は、2 年以内（平成 29～30 年度）が 18 件であった。
- ・ 外国人介護人材の採用において、日本人介護職員と比べて難しい点（複数回答）としては、「在留管理など、外国人雇入れ特有のこと」が 20 件、「日本語でコミュニケーションをとること」が 18 件であった。

② 平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生の採用・就労について

○多くの施設・事業所が、留学生の採用にあたり何らかの対応を実施しており、半数は職場・介護に係る相談・指導担当を設置。記録方法の見直しや生活環境の整備なども実施されている。

○介護業務に対応したコミュニケーションスキルへの満足度は高いが、なかには日本語でのコミュニケーションへの不安などを理由に、仕事内容を制限・免除しているケースがみられる

○就業規則に日本人介護職員との差を設けているところはほぼない

- ・ 介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生を採用するにあたり、24 の介護施設・事業所では何らかの準備・見直しを実施していた。準備・見直し内容（複数回答）としては、「職場・介護に係る相談・指導担当の設置」が 15 件であった。日本人介護職員採用時との違い（自由回答）をみると、記録方法の見直し、業務マニュアルの英文化・簡単な日本語への変換、生活環境の整備などが挙げられている。
- ・ 採用時に、『介護業務に対応したコミュニケーションスキル（職員・利用者等との会話）』を重視した施設・事業所が 29 件中 26 件と多い（「重視した」20 件、「やや重視した」6 件）。
- ・ 採用前に期待していた『介護業務に対応したコミュニケーションスキル（職員・利用者等との会話）』に対して、25 件の施設・事業所が満足している（「満足」20 件、「やや満足」5 件）。
- ・ 日本人介護職員と介護福祉士養成施設を卒業した外国人留学生との間で、就業規則の違いが「ある」介護施設・事業所は 1 件であった。この 1 件では、住居・転居への支援を手厚くしており、今後、日本人介護職員から不満が出る可能性があることを懸念していた。
- ・ 同程度の資格・勤務経験年数の日本人介護職員と比べたときに、仕事内容等で制限・免除していることが「ある」施設・事業所は 29 件中 10 件で、その内容（複数回答）として、「電話

応対」が6件、「記録、申し送り等」「夜勤など、勤務時間帯」がそれぞれ4件であった。理由（複数回答）としては、「日本語でのコミュニケーションに不安があるから」が5件、「緊急時・事故発生時の対応に不安があるから」が3件であった。

③ 介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の今後の採用意向

○多くが在留資格「介護」の採用意向をもっている

- ・ 29件中26件の介護施設・事業所に、介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方の採用意向があった。
- ・ 介護福祉士養成施設や介護協に求めることは、「日本語によるコミュニケーション能力の確保」が21件、「介護知識・技能の質の確保」が17件、「安定的な採用数の確保」が16件であった。

2. アンケート調査結果

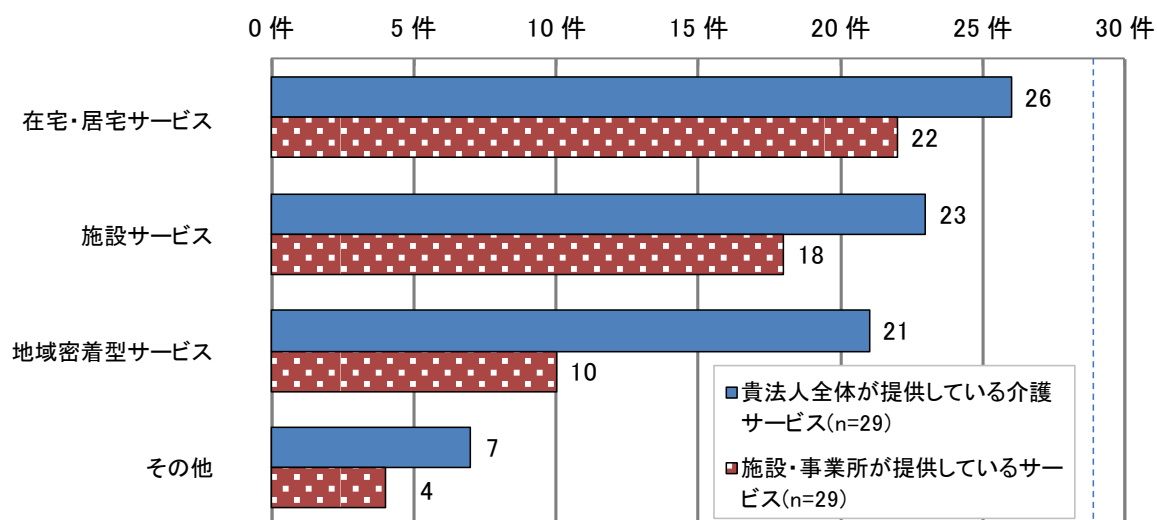
※ 以下、単純集計を掲載。クロス集計については n 数が少ないため対象外

1 回答法人(介護施設)について

1.1 法人および施設・事業所が提供している介護サービスの種類

施設・事業所では、「在宅・居宅サービス」が 22 件、「施設サービス」が 18 件、「地域密着型サービス」が 10 件となっている。

問1.提供している介護サービスの種類(複数選択) (n=29)



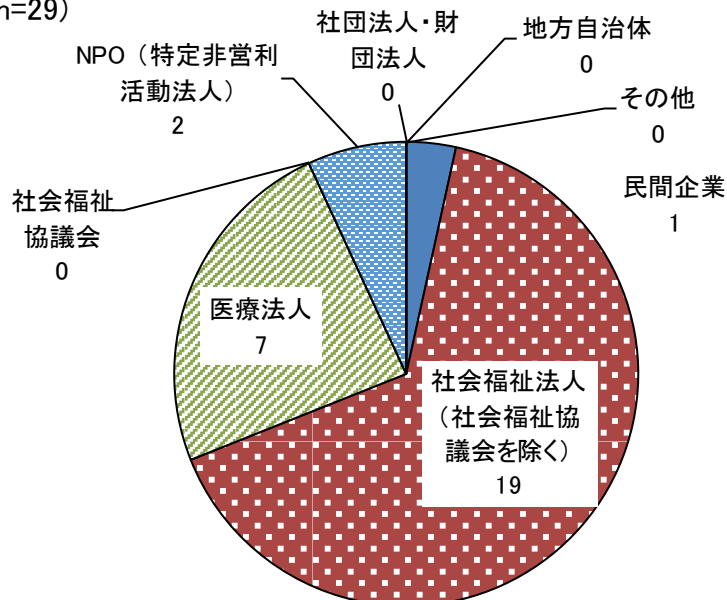
問1.貴法人、貴施設が提供している介護サービスの全ての種類を教えてください。(複数選択)(単位:件)

サービス提供種類		サービス内容	貴法人	貴施設
介護サービス	在宅サービス	訪問介護	16	7
		訪問入浴介護	3	0
		訪問看護	9	2
		訪問リハビリテーション	7	4
		通所介護	23	12
		通所リハビリテーション	11	6
		福祉用具貸与	5	0
		特定福祉用具購入	5	0
		住宅改修	0	0
		短期入所生活介護	21	15
		短期入所療養介護	11	6
		居宅療養管理指導	3	0
		特定施設入居者生活介護	5	2
	居宅介護支援サービス	居宅介護支援	26	11
	施設サービス	介護老人福祉施設	17	13
介護老人保健施設		11	6	
介護療養型医療施設		1	1	
介護予防サービス	介護予防訪問介護	16	7	
	介護予防訪問入浴介護	3	0	
	介護予防訪問看護	9	1	
	介護予防訪問リハビリテーション	8	4	
	介護予防通所介護	21	10	
	介護予防通所リハビリテーション	11	6	
	介護予防福祉用具貸与	5	0	
	介護予防特定福祉用具購入	5	0	
	介護予防住宅改修	0	0	
	介護予防短期入所生活介護	20	13	
	介護予防短期入所療養介護	10	6	
	介護予防居宅療養管理指導	2	0	
	介護予防特定施設入居者生活介護	3	1	
	指定介護予防支援	3	1	
	地域密着型サービス	夜間対応型訪問介護	0	0
認知証対応型通所介護		7	2	
小規模多機能型居宅介護		10	2	
認知症対応型共同生活介護		16	7	
地域密着型特定施設入居者生活介護		0	0	
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護		5	2	
看護小規模多機能型居宅介護		0	0	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		1	1	
介護予防認知症対応型通所介護		7	3	
介護予防小規模多機能型居宅介護		7	2	
介護予防認知症対応型共同生活介護		6	1	
その他		7	4	

1.2 法人の運営主体

「社会福祉法人（社会福祉協議会を除く）」（19 件）が最も多く、「医療法人」（7 件）、
「NPO（特定非営利活動法人）」（2 件）、「民間企業」（1 件）と続く。「社会福祉協議会」、
「社団法人・財団法人」、「地方自治体」は 0 件だった。

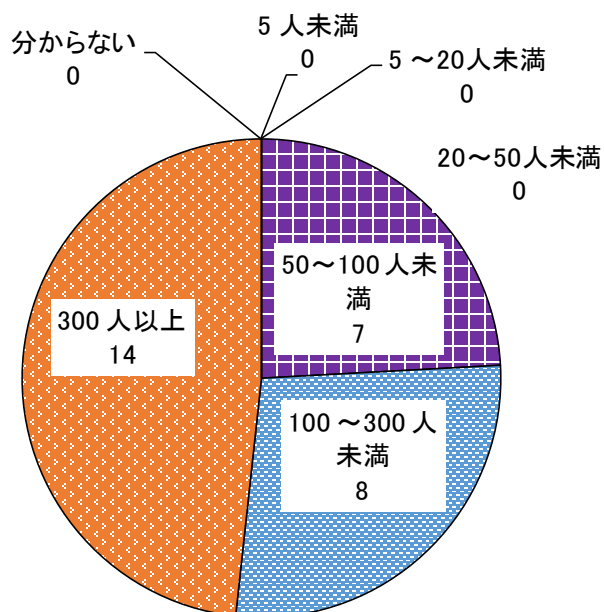
問2.貴法人の運営主体を教えてください。(1 つ選択)(単位:件)
(n=29)



1.3 法人全体の従業員数

「300 人以上」（14 件）が最も多く、「100 ～300 人未満」（8 件）、「50～100 人未満」（7 件）と続く。

問3.貴法人全体の従業員数を教えてください。(1 つ選択)(単位:件)
(n=29)

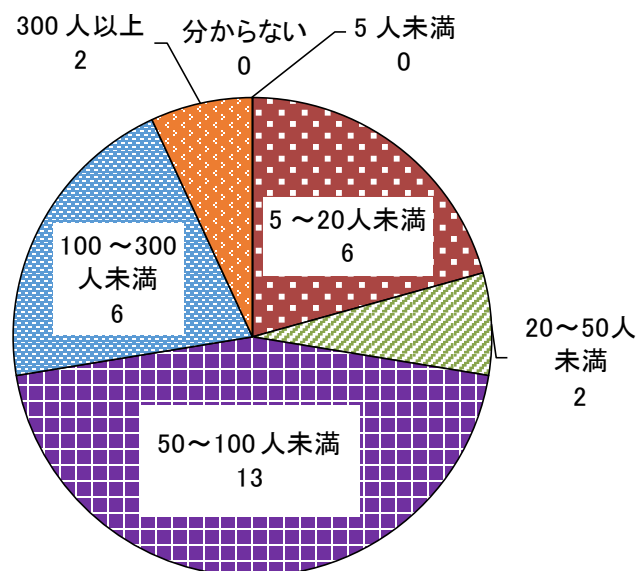


1.3.1 施設・事業所全体の従業員数

「50～100 人未満」(13 件)が最も多く、「5 ～20 人未満」(6 件)、「100 ～300 人未満」(6 件)、「20～50 人未満」、「300 人以上」(それぞれ 2 件)と続く。

問3-1.貴施設・貴事業所全体の従業員数を教えてください。

(1 つ選択) (n=29) (単位: 件)

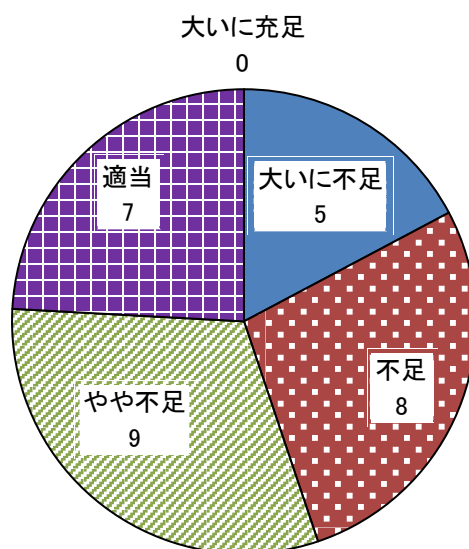


2 施設・事業所における人材受入れの取組(日本人・外国人問わず)

2.1 介護人材の過不足状況

「不足」が 22 件（「やや不足」が 9 件、「不足」が 8 件、「大いに不足」が 5 件）、「適当」は 7 件であった。「大いに充足」は 0 件だった。

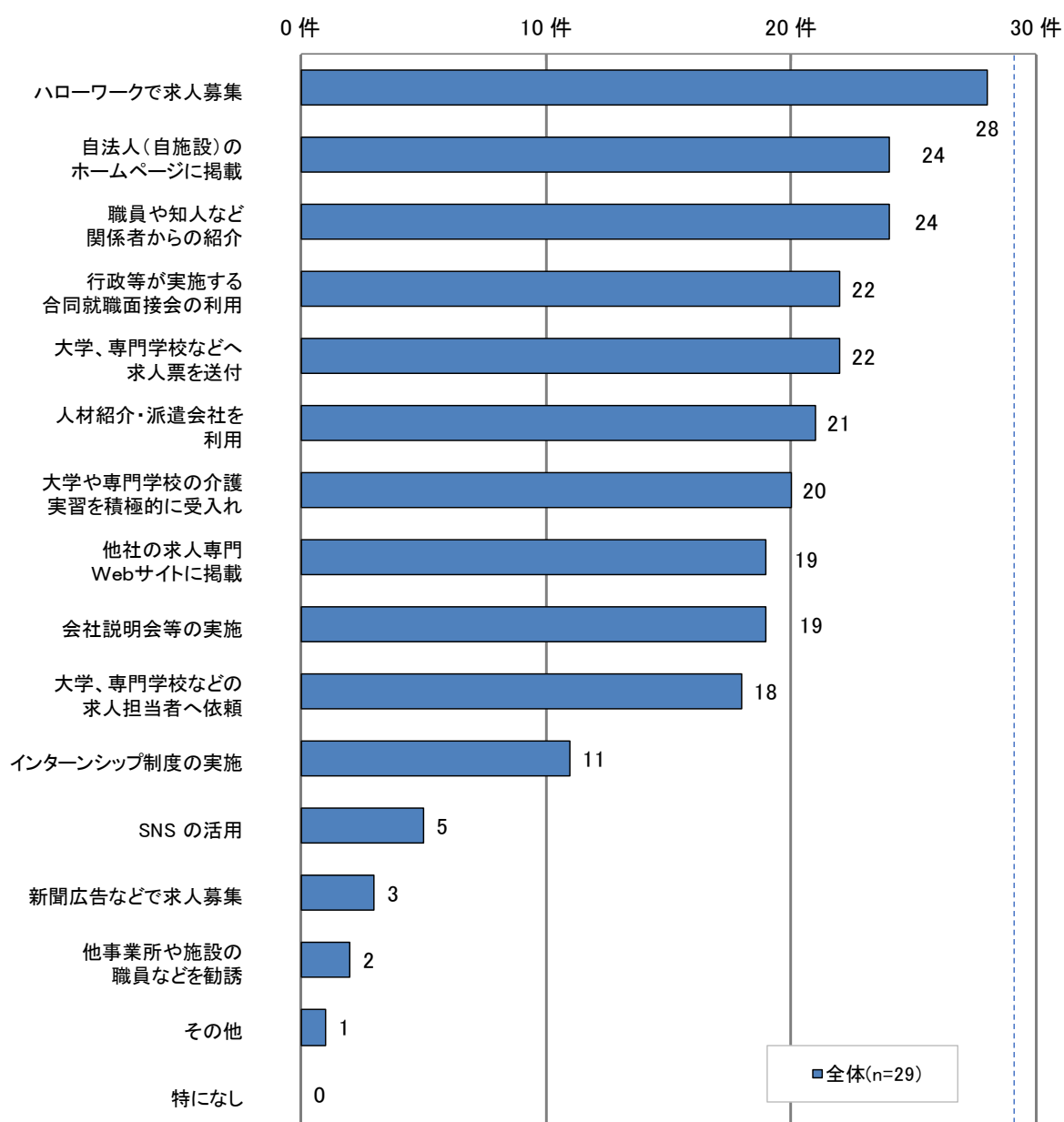
問4.貴施設・貴事業所では、介護人材の過不足の状況はどうですか。(1 つ選択) (n=29) (単位:件)



2.2 介護人材受入れのための施策

「ハローワークで求人募集」(28件)が最も多く、「自法人(自施設)のホームページに掲載」、「職員や知人など関係者からの紹介」(それぞれ24件)、「行政等が実施する合同就職面接会の利用」、「大学、専門学校などへ求人票を送付」(それぞれ22件)、「人材紹介・派遣会社を利用」(21件)、「大学や専門学校の介護実習を積極的に受入れ」(20件)、「他社の求人専門Webサイトに掲載」、「会社説明会等の実施」(それぞれ19件)、「大学、専門学校などの求人担当者へ依頼」(18件)と続く。

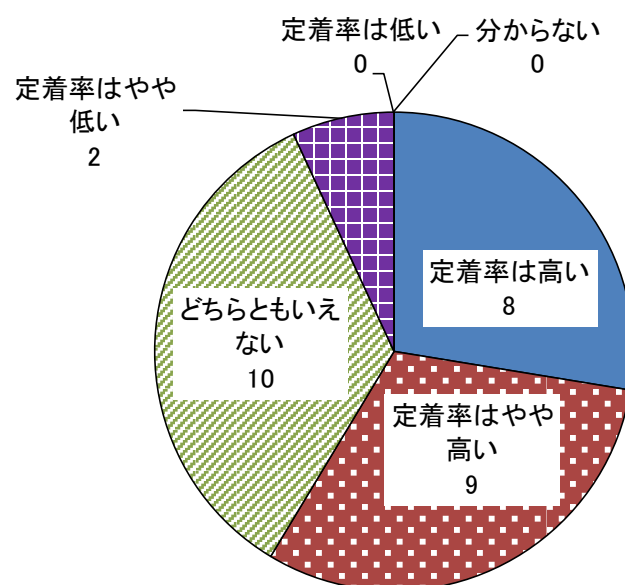
問5.貴施設・貴事業所では、介護人材を受入れるためにどのような施策に取り組んでいますか。(複数選択)(n=29)



2.3 介護人材の定着状況

「どちらともいえない」(10件)が最も多い。「定着率は高い」は17件(「定着率はやや高い」が9件、「定着率は高い」が8件)、「定着率は低い」は2件(「定着率はやや低い」が2件、「定着率は低い」が0件)であった。「分からない」は0件であった。

問6.貴施設・貴事業所の現在の介護人材の定着状況についてどのように考えていますか。(1つ選択)(n=29)(単位:件)



3 施設・事業所における外国人介護人材の採用

3.1 平成30年4月1日時点の外国人介護人材の人数(在留資格別)

29施設の外国人介護人材の人数(合計)をみると、在留資格「介護」が50人で最も多く、次いで「留学生・就学生」が42人となっている。各施設の外国人人材に占める卒業生の割合をみると、100.0%の施設が7件となっている。

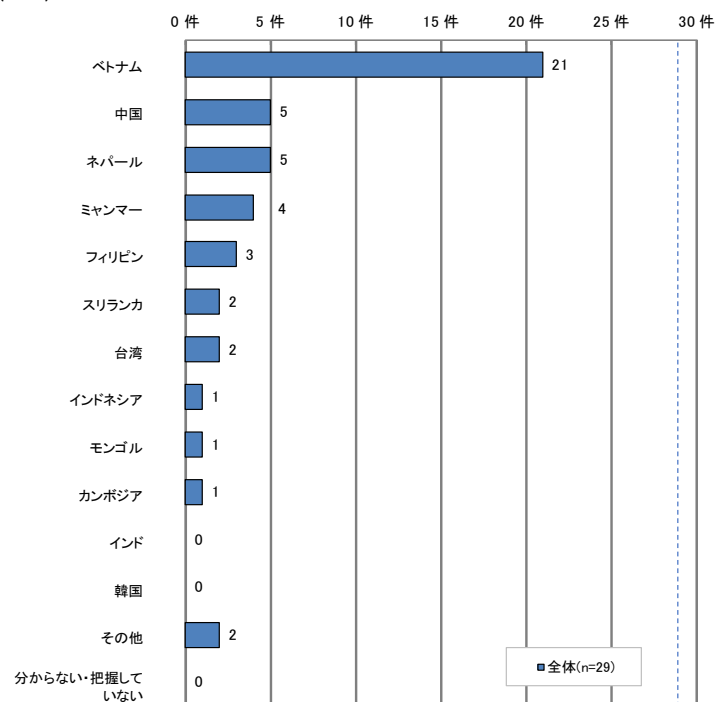
問7.平成30年4月1日時点の貴施設・貴事業所の外国人介護人材※の人数を在留資格別に教えてください。正規・非正規等の雇用形態は問いません。(人数を記入。いない場合は「0」と記入)※日本に帰化された方は含みません

(人)								
	在留資格「介護」	平成30年3月に養成校を卒業した外国人留学生	日本人や永住者の配偶者	EPA介護福祉士候補者・EPA資格取得者・技能実習生	留学生・就学生	その他	各施設の外国人人材の人数(合計)	外国人人材に占める卒業生の割合(%)
1	2	2	0	0	0	0	2	100.0
2	1	1	0	0	0	1	2	50.0
3	1	1	0	0	0	0	1	100.0
4	7	6	1	1	6	0	15	40.0
5	1	1	0	0	2	0	3	33.3
6	8	4	0	0	8	0	16	25.0
7	1	1	0	0	0	0	1	100.0
8	1	1	0	0	1	0	2	50.0
9	6	2	1	0	5	0	12	16.7
10	1	1	3	0	0	0	4	25.0
11	1	0	0	0	0	0	1	-
12	0	0	0	0	1	0	1	-
13	0	0	0	0	5	0	5	-
14	3	1	0	3	0	0	6	16.7
15	1	1	0	0	1	0	2	50.0
16	0	0	0	0	0	0	0	
17	1	1	0	0	2	0	3	33.3
18	1	1	0	0	3	0	4	25.0
19	1	1	0	1	0	0	2	50.0
20	1	1	1	0	0	0	2	50.0
21	1	1	0	0	0	0	1	100.0
22	1	1	1	0	0	0	2	50.0
23	1	1	0	0	0	0	1	100.0
24	1	1	0	0	0	0	1	100.0
25	1	1	0	0	0	0	1	100.0
26	1	1	0	0	4	0	5	20.0
27	1	1	0	0	2	0	3	33.3
28	3	3	0	0	2	0	5	60.0
29	2	2	0	2	0	0	4	50.0
合計	50	38	7	7	42	1	107	35.5
割合	43.9	33.3	6.1	6.1	36.8	0.9	93.9	

3.2 平成 30 年 4 月 1 日時点の外国人介護人材の国籍

「ベトナム」(21 件)が最も多く、「中国」、「ネパール」(それぞれ 5 件)、「ミャンマー」(4 件)、「フィリピン」(3 件)と続く。また「分からない・把握していない」は、0 件となっている。

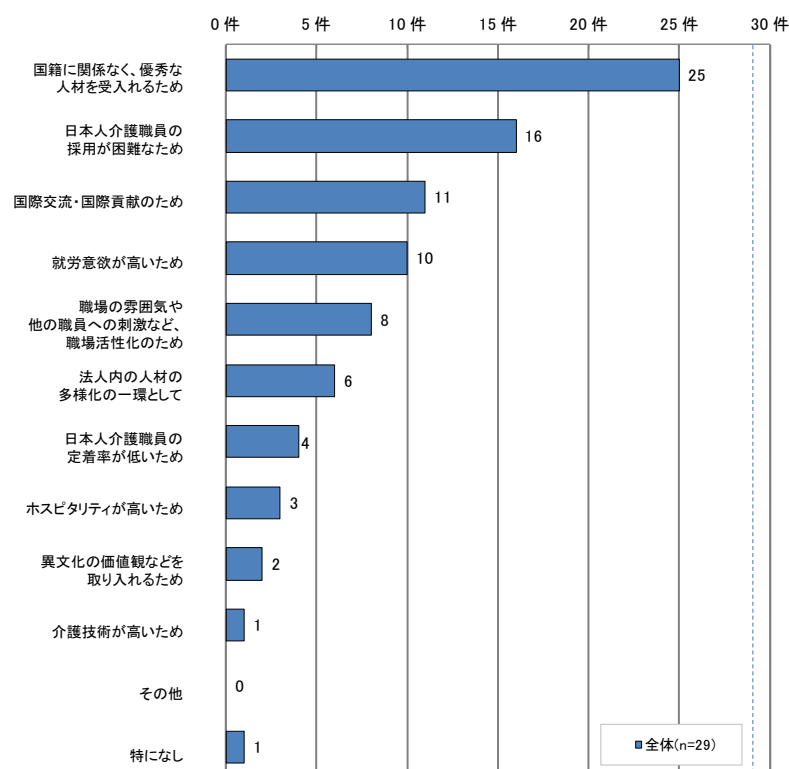
問8.平成30年4月1日時点の貴施設・貴事業所の外国人介護人材の国籍を教えてください。(複数選択) (n=29)



3.3 外国人介護人材の採用目的

「国籍に関係なく、優秀な人材を受入れるため」(25 件)が最も多く、「日本人介護職員の採用が困難なため」(16 件)と続く。また「特になし」は 1 件となっている。

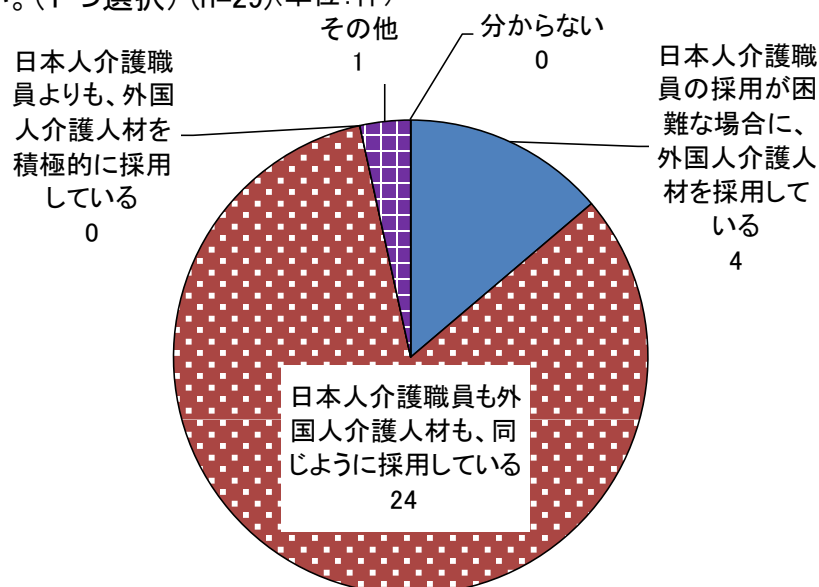
問9.外国人介護人材の採用目的を教えてください。(複数選択) (n=29)



3.4 介護人材採用方針における外国人介護人材の位置付け

「日本人介護職員も外国人介護人材も、同じように採用している」(24 件)が最も多い。
「日本人介護職員の採用が困難な場合に、外国人介護人材を採用している」は4件であった。

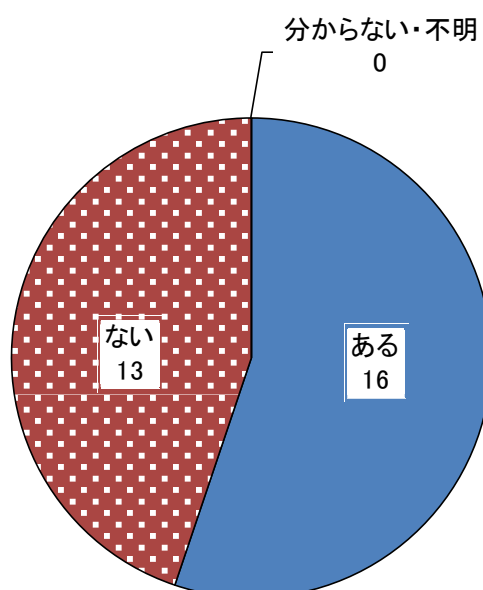
問10. 貴施設・貴事業所における介護人材の採用方針において、外国人介護人材はどのような位置付けか教えてください。(1 つ選択) (n=29)(単位:件)



3.5 平成 30 年 3 月以前の外国人介護人材雇用の有無

「ある」が16件、「ない」が13件となっている。

問11. 貴施設・貴事業所では、平成30年3月以前に外国人介護人材を雇用したことがありますか。(1 つ選択) (n=29)(単位:件)



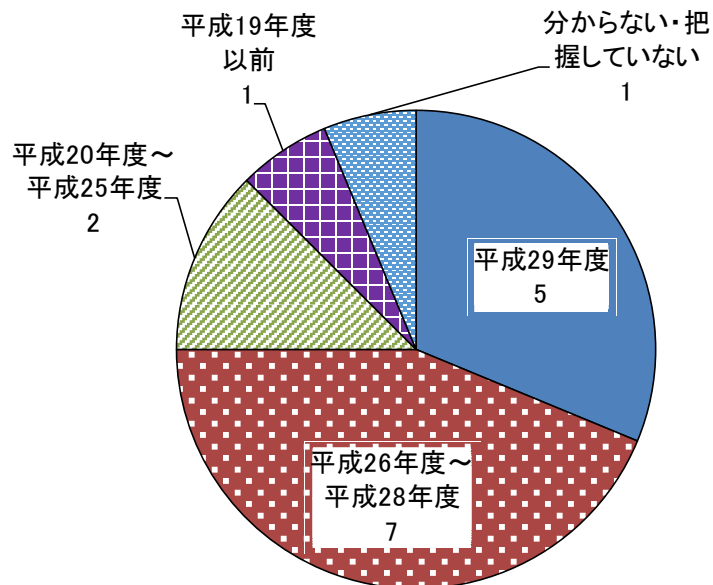
3.5.1 平成 30 年 3 月以前に雇用した外国人介護人材について

① 初めて外国人介護人材を採用・雇用した時期

【回答対象：問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「平成 26 年度～平成 28 年度」が 7 件、平成 29 年度が 5 件となっている。問 11 とあわせると、“平成 29～30 年度”が 18 件となっている。

問11-1(1).初めて外国人介護人材を採用・雇用した時期はいつ頃ですか。(1 つ選択) (n=16)(単位:件)

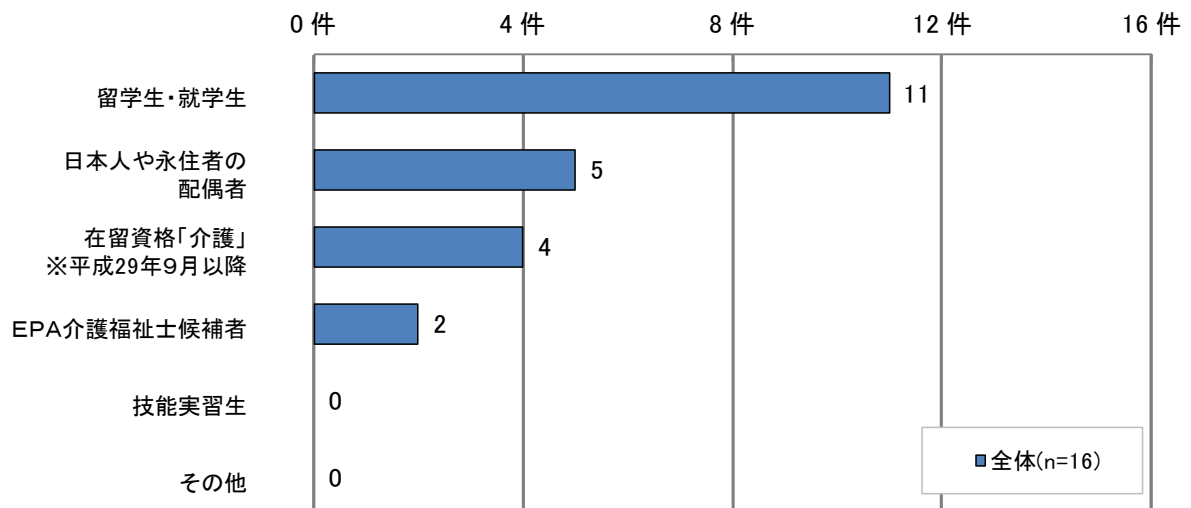


② 在留資格

【回答対象：問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「留学生・就学生」(11 件)が最も多く、「日本人や永住者の配偶者」(5 件)、「在留資格「介護」」(4 件)、「E P A 介護福祉士候補者」(2 件)と続く。

問11-1(2).平成30年3月以前に雇用したことのある外国人介護人材の在留資格を教えてください。(複数選択) (n=16)

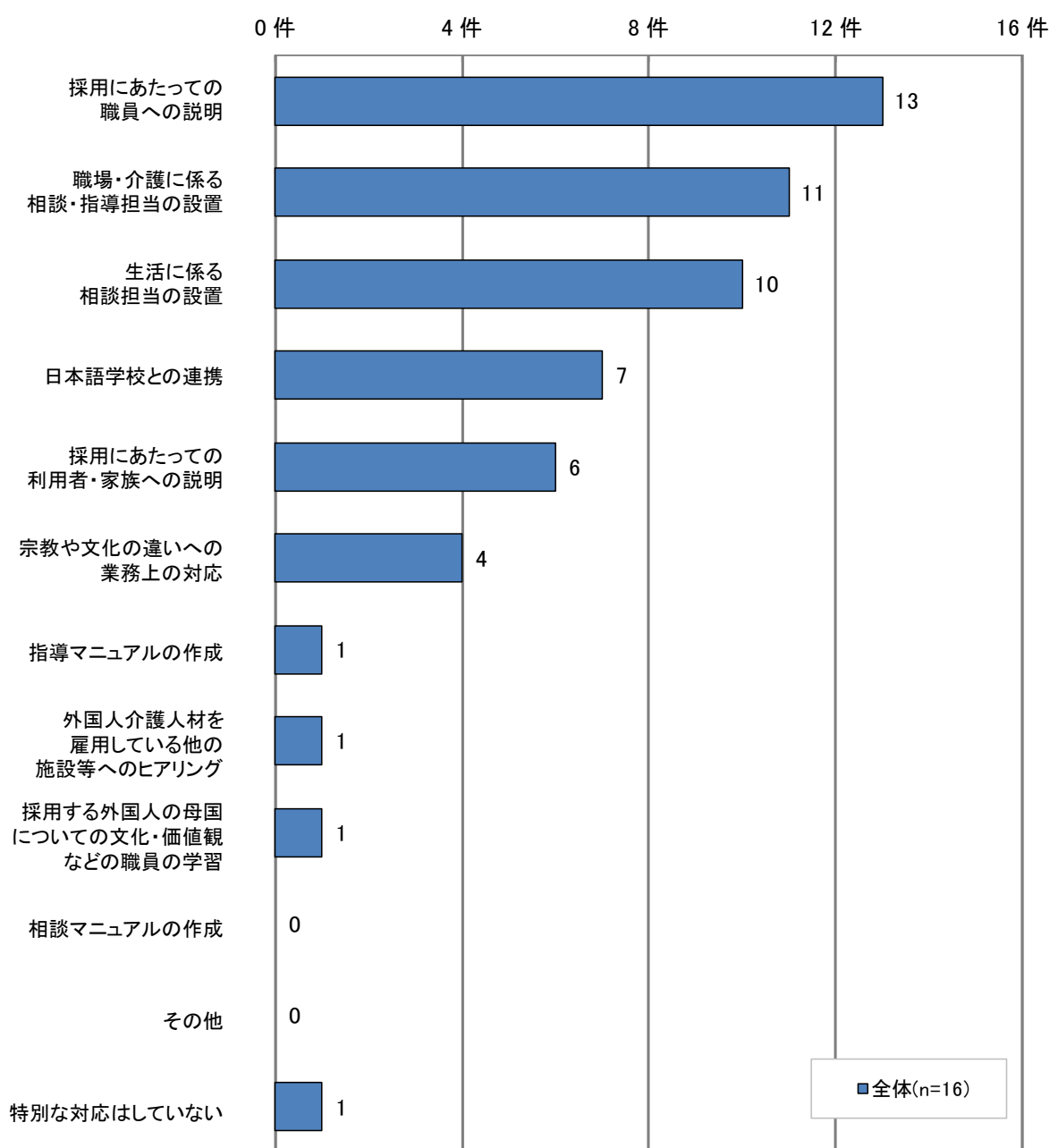


3.5.2 採用にあたっての新たな準備・見直し

【回答対象: 問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「採用にあたっての職員への説明」(13 件)が最も多く、「職場・介護に係る相談・指導担当の設置」(11 件)、「生活に係る相談担当の設置」(10 件)、「日本語学校との連携」(7 件)、「採用にあたっての利用者・家族への説明」(6 件)と続く。また「特別な対応はしていない」は 1 件となっている。

問11-2. 外国人介護人材の採用にあたって、貴施設・貴事業所で新たに準備したことや見直したことがあれば教えてください。(複数選択) (n=16)

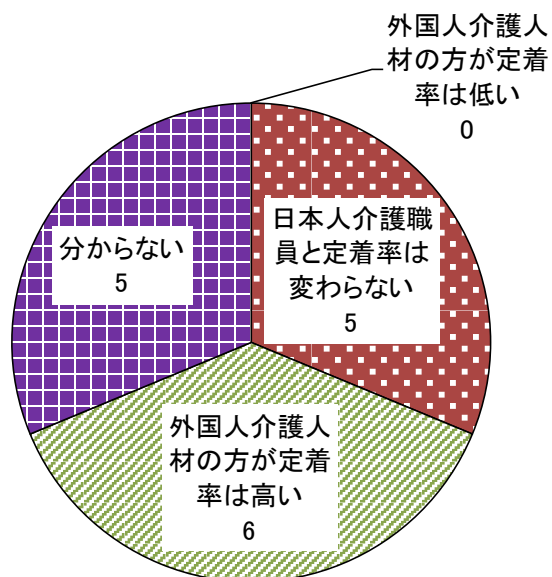


3.5.3 外国人介護人材の定着状況

【回答対象: 問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「外国人介護人材の方が定着率は高い」(6 件)が最も多く、「日本人介護職員と定着率は変わらない」、「分からない」はそれぞれ 5 件となっている、「外国人介護人材の方が定着率は低い」は 0 件だった。

問11-3. 日本人介護職員と比較した場合、外国人介護人材の定着状況についてどのように考えていますか。外国人介護人材全般についてご回答ください。(1 つ選択) (n=16)(単位: 件)

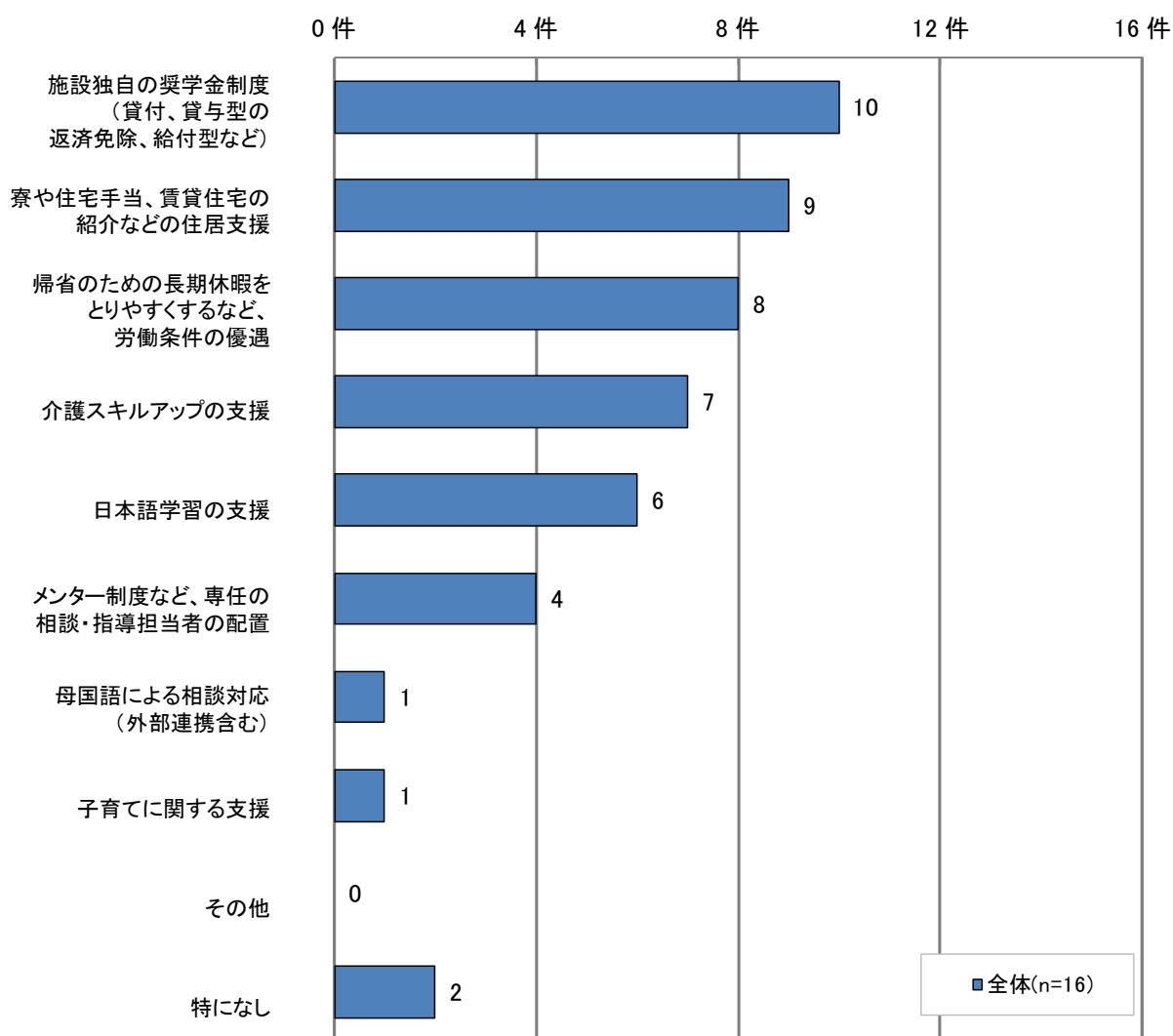


3.5.4 外国人介護人材の定着に結びついた取組

【回答対象: 問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「施設独自の奨学金制度（貸付、貸与型の返済免除、給付型など）」（10 件）が最も多く、「寮や住宅手当、賃貸住宅の紹介などの住居支援」（9 件）、「帰省のための長期休暇をとりやすくするなど、労働条件の優遇」（8 件）、「介護スキルアップの支援」（7 件）、「日本語学習の支援」（6 件）と続く。また「特になし」は 2 件となっている。

問11-4. 外国人介護人材の定着に結びついた取組があれば、教えてください。外国人介護人材全般についてご回答ください。（複数選択）（n=16）

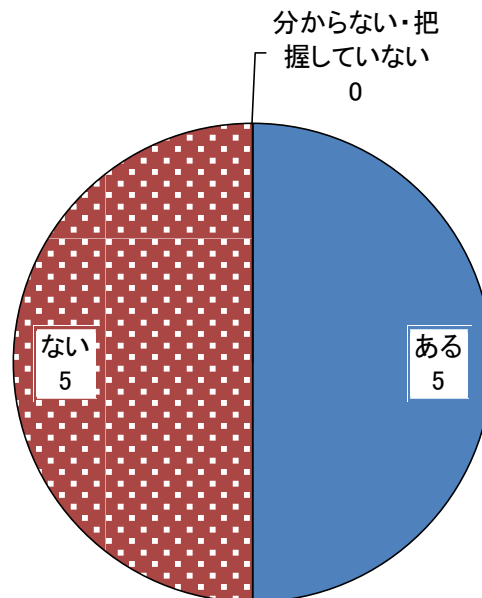


3.5.5 多様な国籍の外国人介護人材の採用・雇用面での苦勞

【回答対象: 問 8 で複数国籍を回答した施設・事業所】

「ある」、「ない」とともに、5 件だった。

問11-5. 多様な国籍の外国人介護人材の採用や雇用にあたって苦勞したことはありますか。(1 つ選択) (n=10)(単位: 件)



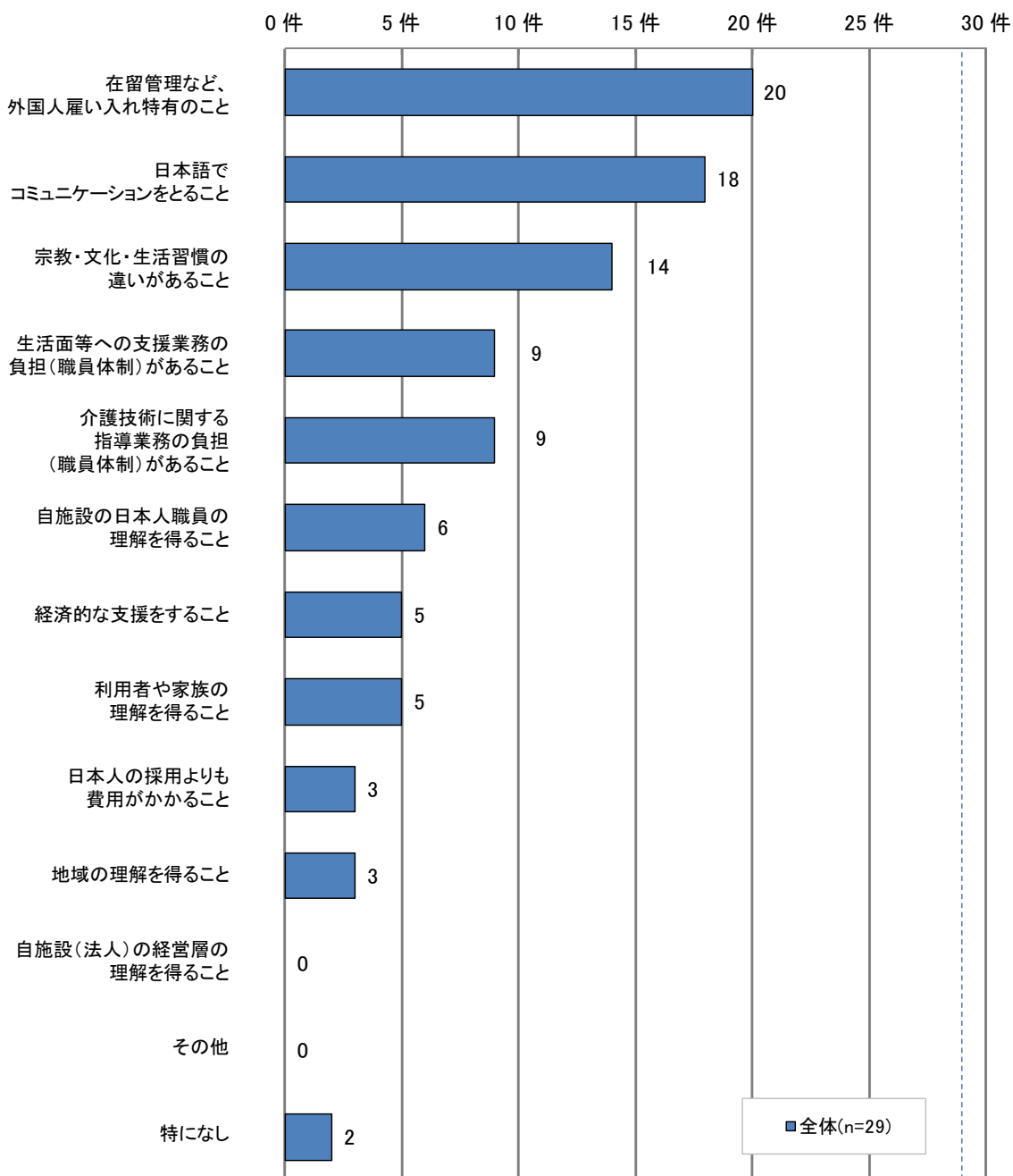
【「ある」と回答した施設・事業所の自由回答(抜粋)】

- ・介護現場での専門用語の理解と説明が大変。
- ・入国管理局とのビザのやり取りが初めての事なので大変だった。
- ・学校との連携をしっかりとしていないと大変だと感じた。
- ・文化の違い。日本での生活（ごみの区別）、Wi-Fi の設置（母国での連絡はネットを使用するので必要）。
- ・N1 であっても、会話能力が低い。文化の違いにより、行事などへの関心度が違う。

3.6 外国人介護人材/日本人介護職員の採用面での比較

「在留管理など、外国人雇い入れ特有のこと」(20 件)が最も多く、「日本語でコミュニケーションをとること」(18 件)が続く。また「特になし」は2 件となっている。

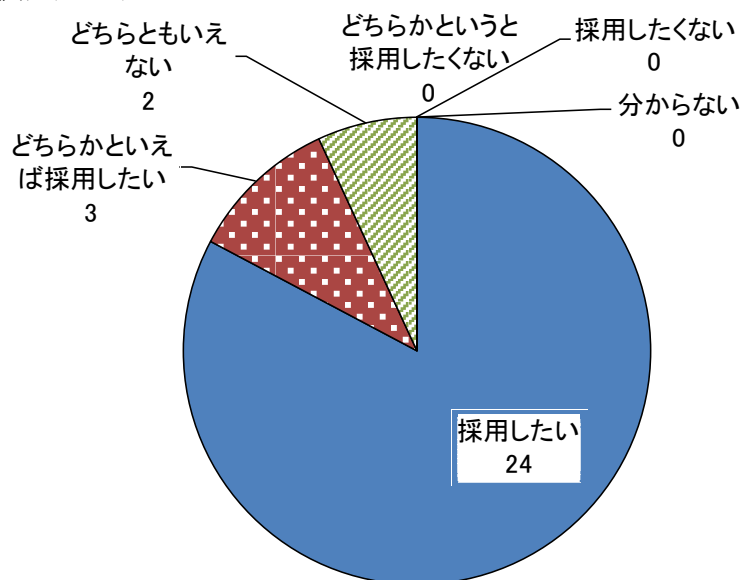
問12. 外国人介護人材の採用において、日本人介護職員と比べて難しい点がありますか。
(複数選択) (n=29)



3.7 今後の外国人介護人材の採用意向

“採用したい”は27件（「採用したい」が24件、「どちらかといえば採用したい」が3件）であった。「どちらかというと採用したくない」、「採用したくない」は0件だった。

問13. 今後、外国人介護人材を採用したいですか。(1つ選択) (n=29)(単位:件)

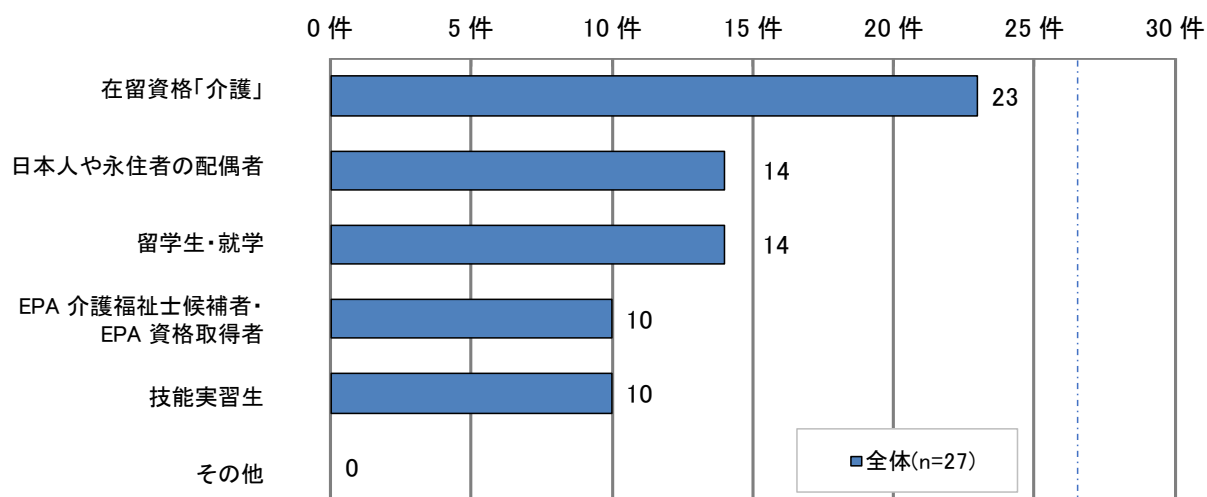


3.7.1 外国人介護人材を採用・雇用する際に望む在留資格

【回答対象: 問13で「採用したい」「どちらかといえば採用したい」と回答した施設・事業所】

「在留資格「介護」」(23件)が最も多く、「日本人や永住者の配偶者」、「留学生・就学」(それぞれ14件)、「EPA 介護福祉士候補者・EPA 資格取得者」、「技能実習生」(それぞれ10件)と続く。

問13-1. どのような在留資格の外国人介護人材を採用・雇用したいとお考えですか。(複数選択) (n=27)



4 施設・事業所で採用した外国人留学生について

“平成30年3月に介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方”対象

4.1 介護福祉士国家試験の受験・合格状況/国籍/現在の雇用状況

25の施設・事業所から、38人の“平成30年3月に介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方”について、介護福祉士国家試験の受験・合格状況、現在の雇用状況に関する回答があった。

介護福祉士国家試験の受験・合格状況をみると、「受験し、不合格となった」が18人、「受験し、合格している」が17人となっている。

現在の雇用状況をみると、38人全員が「働いている」となった。

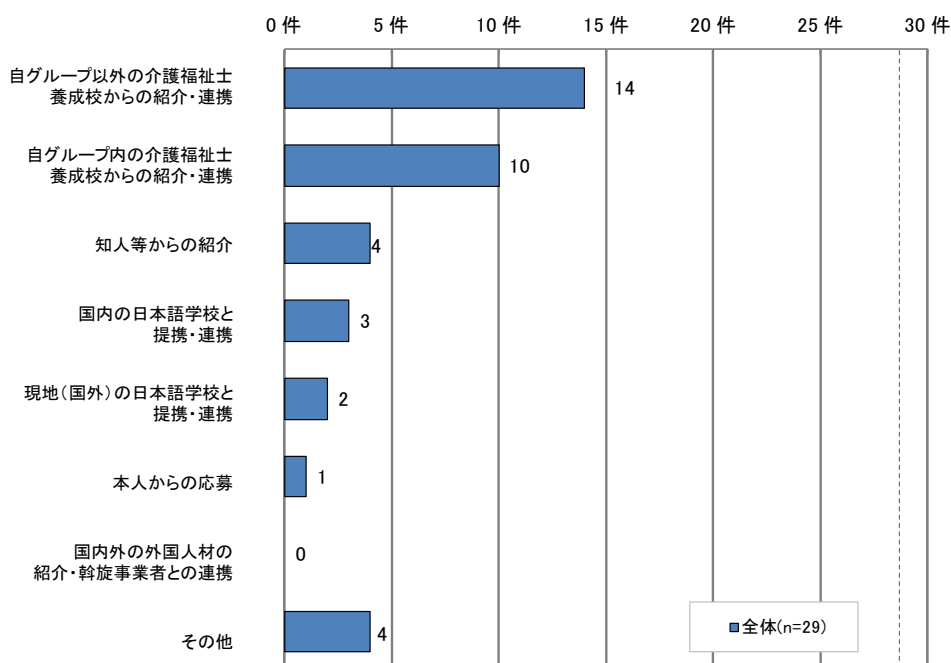
問14. 貴施設・貴事業所で採用した、“平成30年3月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”について、介護福祉士国家試験の受験・合格状況、国籍、現在の雇用状況を教えてください。（採用者ごとに、それぞれの項目について最もあてはまるもの1つに○）(n=29)

		介護福祉士国家試験の受験・合格状況				現在の雇用状況	
		受験し、合格している	受験し、不合格となった	受験していない	把握していない	働いている	休職している/退職した/その他
採用者 (n=38)		17	18	3	0	38	0
国籍	ベトナム (n=19)	6	11	2	0	19	0
	ネパール (n=7)	3	3	1	0	7	0
	中国 (n=5)	5	0	0	0	5	0
	その他 (n=7)	3	4	0	0	7	0

4.2 募集先又は紹介元

「自グループ以外の介護福祉士養成校からの紹介・連携」(14件)が最も多く、「自グループ内の介護福祉士養成校からの紹介・連携」(10件)と続く。

問15. “平成30年3月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”の募集先又は紹介元を教えてください。（複数選択）(n=29)

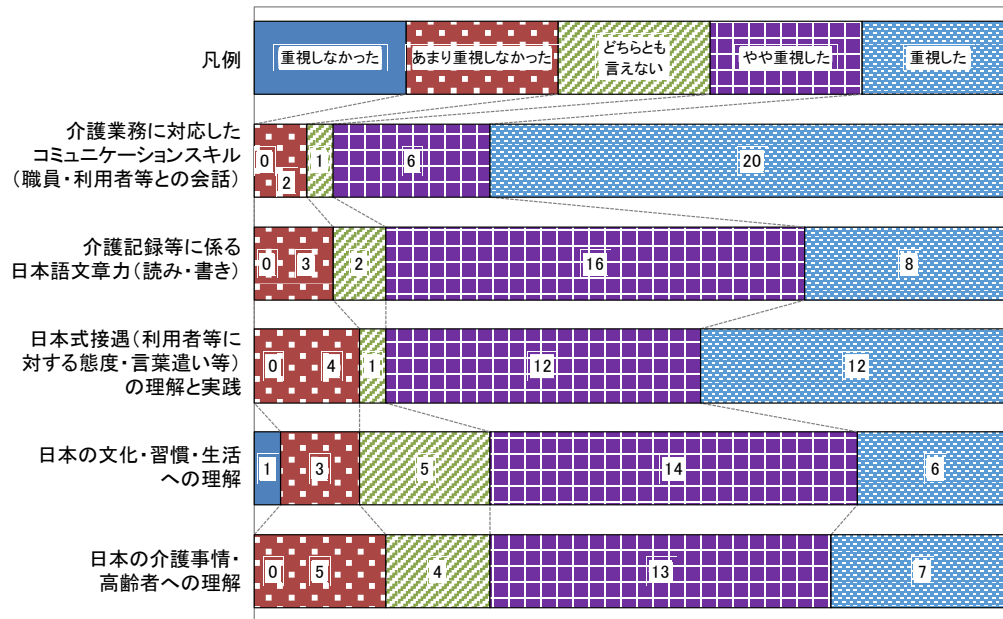


4.3 採用時に重視したスキル等

『介護業務に対応したコミュニケーションスキル（職員・利用者等との会話）』では、「重視した」が20件と多い。

『介護記録等に係る日本語文章力（読み・書き）』、『日本式接遇（利用者等に対する態度・言葉遣い等）の理解と実践』では、“重視”（「重視した」と「やや重視した」の合計）が24件であった。

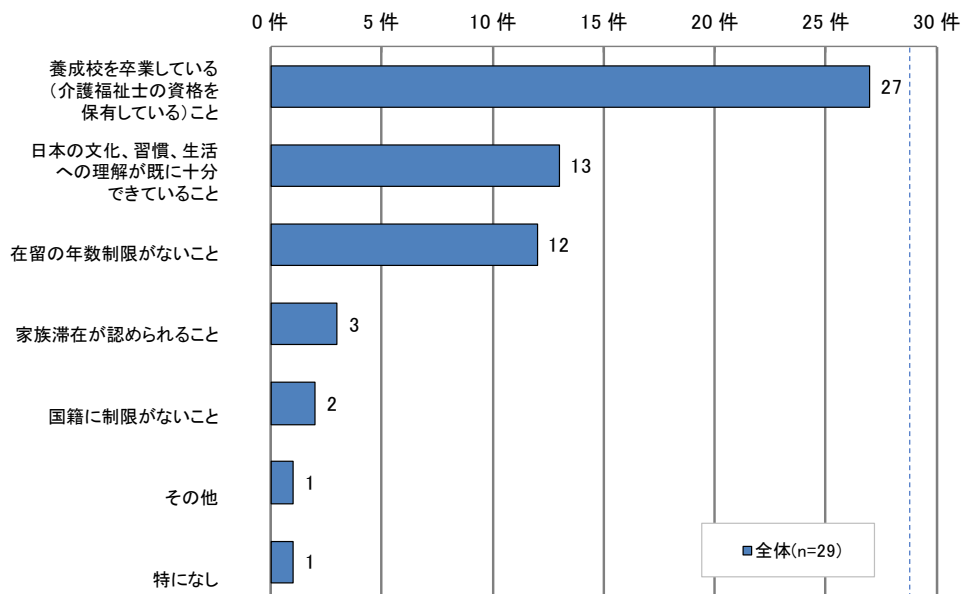
問16-1～5. 重視したスキル等（1つ選択）（n=29）（単位：件）



4.4 採用を決める上での在留資格「介護」のプラス面

「養成校を卒業している（介護福祉士の資格を保有している）こと」（27件）が最も多く、「日本の文化、習慣、生活への理解が既に十分できていること」（13件）、「在留の年数制限がないこと」（12件）と続く。また「特になし」は1件となっている。

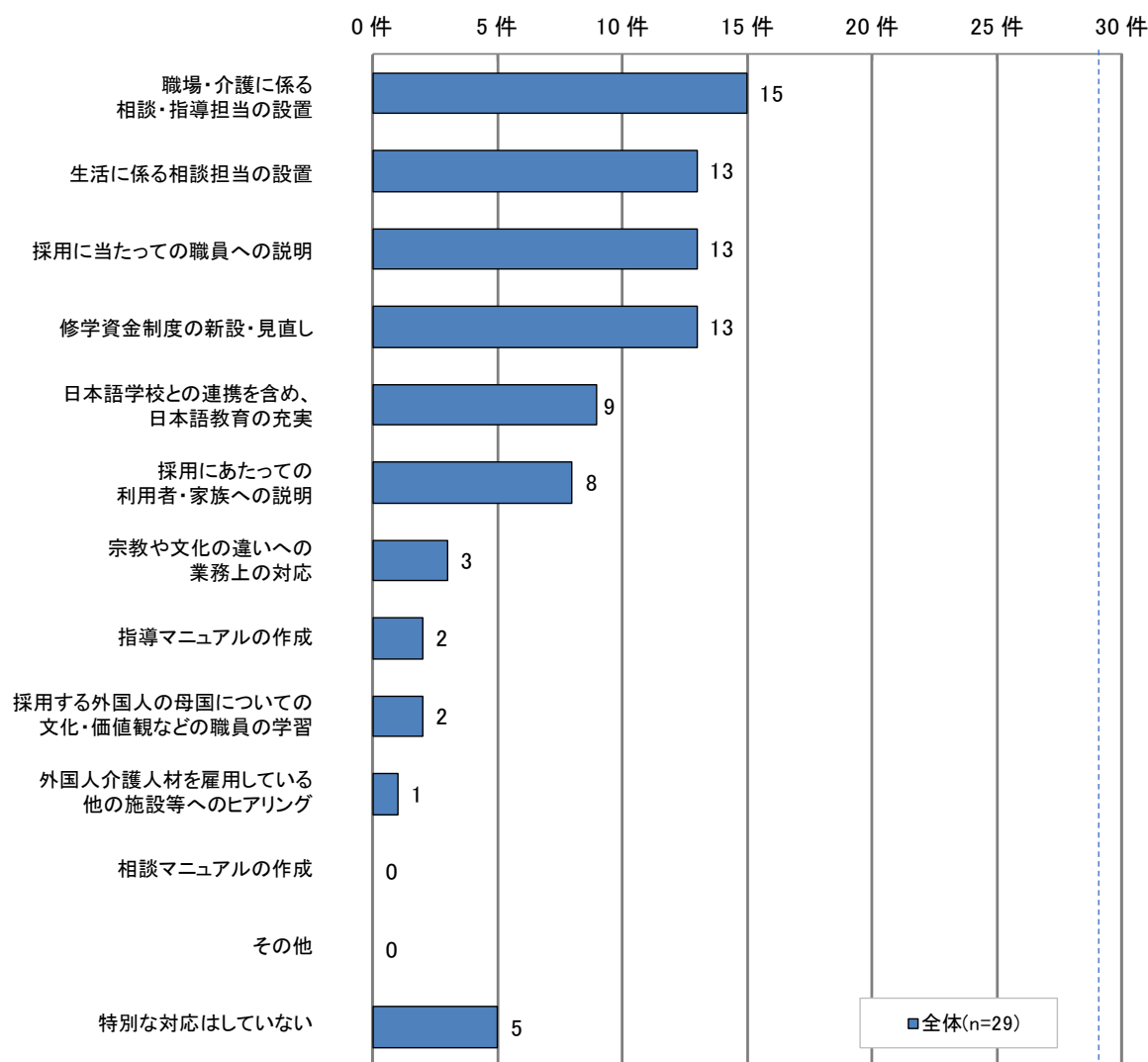
問17. “平成30年3月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”の採用を決める上で、在留資格「介護」がプラスに働いたことがあれば教えてください。（複数選択）（n=29）



4.5 採用にあたっての新たな準備・見直し

「職場・介護に係る相談・指導担当の設置」(15 件)が最も多く、「生活に係る相談担当の設置」、「採用に当たっての職員への説明」、「修学資金制度の新設・見直し」(それぞれ 13 件)と続く。また「特別な対応はしていない」は 5 件となっている。

問18. “平成30年3 月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”の採用にあたって、貴施設・貴事業所で新たに準備したことや見直したことがあれば教えてください。(複数選択) (n=29)



【問 18-1.新たに準備や見直したことについて、日本人介護職員を採用した場合との違い(自由回答)】

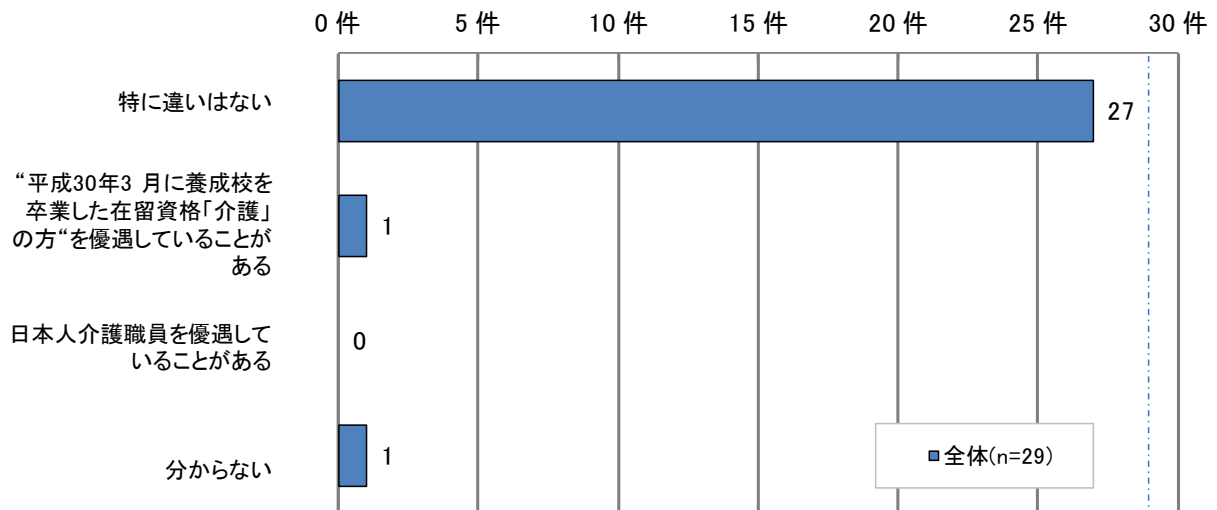
- ・特別な違いはないが、職員・利用者・家族様への説明を行った。
- ・文化（言葉遣いなど）の違いを指導担当者に理解させ、かつ現場スタッフに理解を求めなければならない。
- ・日常会話とは違い、仕事だと注意や指導したことがなかなか理解できなかったり、若干プライドが高いため、良い面で作用するとプライドを持ってしっかりと仕事をしてもらえるが、指導内容がきちんと理解できないと、少しむくれてしまい、改善に至らないことがあり、指導の仕方に工夫が必要。
- ・採用担当者が就労後もフォロー体制を施設の相談員と一体となり対応するために、窓口は一本化した。
- ・仕事上、生活上の課題にできるだけ丁寧に相談に応じている。
- ・記録の簡素化。
- ・記録方法についての検討。
- ・書類の作成について、解りやすい表現や細かいことも記録するようにした。
- ・業務マニュアルの英文化。
- ・業務指導マニュアルの見直し（内容は変更せず、主に外国人でも分かりやすい日本語に変更等）。
- ・住まいのサポート。
- ・生活支援として寮（賃貸アパート）を準備した。
- ・時間をかけても、大切に、育つような職場環境が必要。
- ・職場に慣れるために歓迎会を実施。
- ・外国人職員の交流の場を設けている。
- ・母国へ赴き、家族への説明を行った。
- ・日本人との採用の違いは特別にはない。日本人でも外国人でも能力の高い人は高く、そうでない方に対しては、指導しないといけないことは一緒。
- ・養成学校時代に研修生として施設で約1ヶ月過ごしていた。その頃の印象が大変良かったので、養成校の先生、本人とも相談し、学費援助を行い、採用に至った。日本人の初心者よりも順応するのが早く、特別な準備、見直しはしていない。

4.6 日本人介護職員との就業規則の違い

「特に違いはない」(27 件)が最も多い。「“平成 30 年 3 月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”を優遇していることがある」が 1 件、「分からない」が 1 件、「日本人介護職員を優遇していることがある」は 0 件であった。

「“平成 30 年 3 月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”を優遇していることがある」とした 1 件の自由回答をみると、「住まいの手配や、引越し支援などを手厚くしていることへの不満が、今後、日本人職員から出される可能性がある」としている。

問19. “平成30年3 月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”と日本人介護職員との間では、何らかの就業規則上の違いがありますか。(複数選択) (n=29)

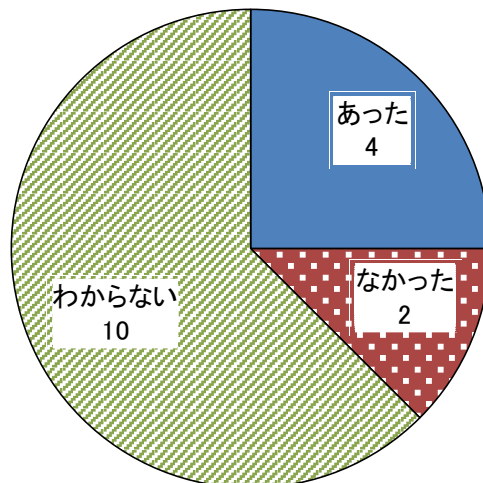


4.7 同程度の勤務経験年数の外国人介護人材との受入れとの比較<良かった点>

【回答対象: 問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「わからない」が 10 件、「あった」が 4 件、「なかった」が 2 件となっている。

問20. 同程度の勤務経験年数の外国人介護人材の受入れと比べて、良かった点がありましたか。(1 つ選択) (n=16)(単位: 件)



【「あった」と回答した施設・事業所の自由回答(抜粋)】

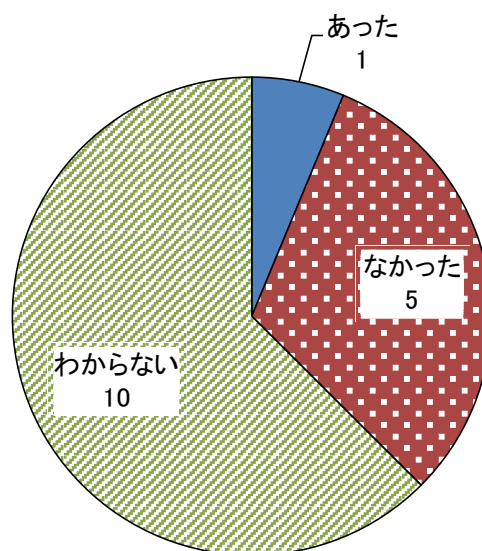
- ・日本人と差はある。外国人の方が、出世意欲がある。頑張らないと生きていけないように感じる。外国人同士では文化の違い、個人の資質のことになる。
- ・介護の知識（専門用語）や基本的な介助技術があり、指導面での困難はない。
- ・知識、技能が高い。
- ・EPA介護福祉候補者受入れには、それなりの予算が必要。それに比べ、養成校卒業者の外国人受け入れについてはお金がかからない。

4.8 同程度の勤務経験年数の外国人介護人材との受入れとの比較＜難しかった点＞

【回答対象:問 11 で「ある」と回答した施設・事業所】

「わからない」が 10 件、「なかった」が 5 件、「あった」が 1 件となっている。

問21. 同程度の勤務経験年数の外国人介護人材の受入れと比べて、難しい点がありましたか。(1 つ選択) (n=16) (単位:件)



【「あった」と回答した施設・事業所の自由回答(抜粋)】

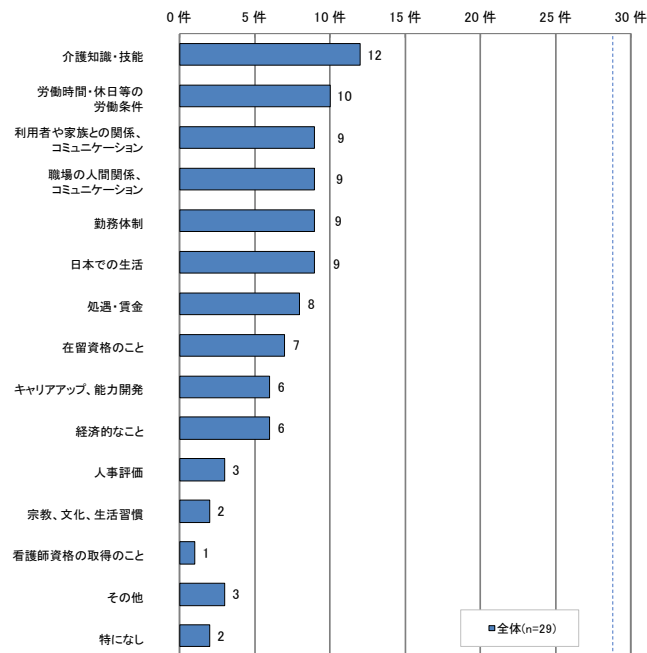
- ・日本語についての理解、利用者とのコミュニケーション。

5 介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方の雇用・就労状況

5.1 相談内容

「介護知識・技能」(12件)が最も多く、「労働時間・休日等の労働条件」(10件)、「利用者や家族との関係、コミュニケーション」、「職場の人間関係、コミュニケーション」、「勤務体制」、「日本での生活」(それぞれ9件)、「処遇・賃金」(8件)、「在留資格のこと」(7件)、「キャリアアップ、能力開発」、「経済的なこと」(それぞれ6件)と続く。また「特になし」は2件となっている。

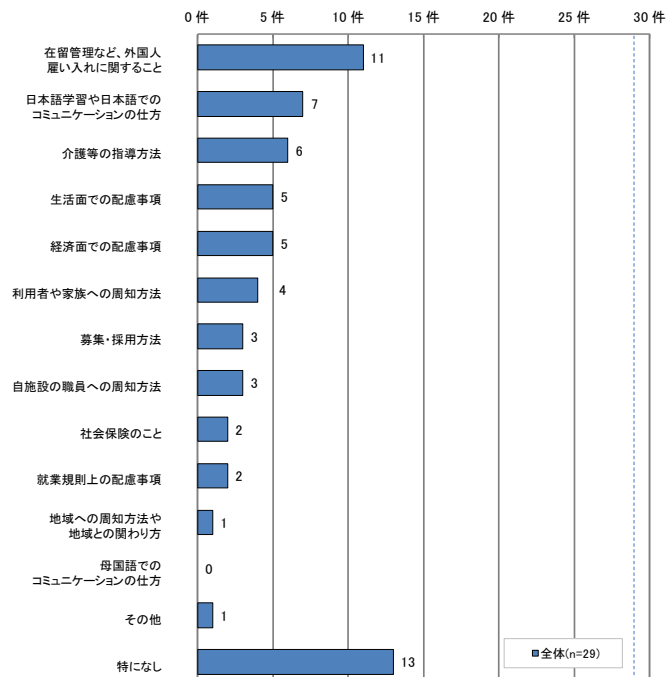
問22. “平成30年3月に養成校を卒業した”在留資格「介護」の方”から相談される内容を教えてください。(複数選択) (n=29)



5.2 就労時の他機関(先進的取組を行った事業者)・専門家への相談内容

「在留管理など、外国人雇い入れに関する事」(11件)が最も多く、「日本語学習や日本語でのコミュニケーションの仕方」(7件)、「介護等の指導方法」(6件)と続く。また「特になし」は13件となっている。

問23. 養成校を卒業した”在留資格「介護」の方”の就労にあたって、先進的に取り組んだ事業者や外部の専門家等に相談したことはありましたか。(複数選択) (n=29)

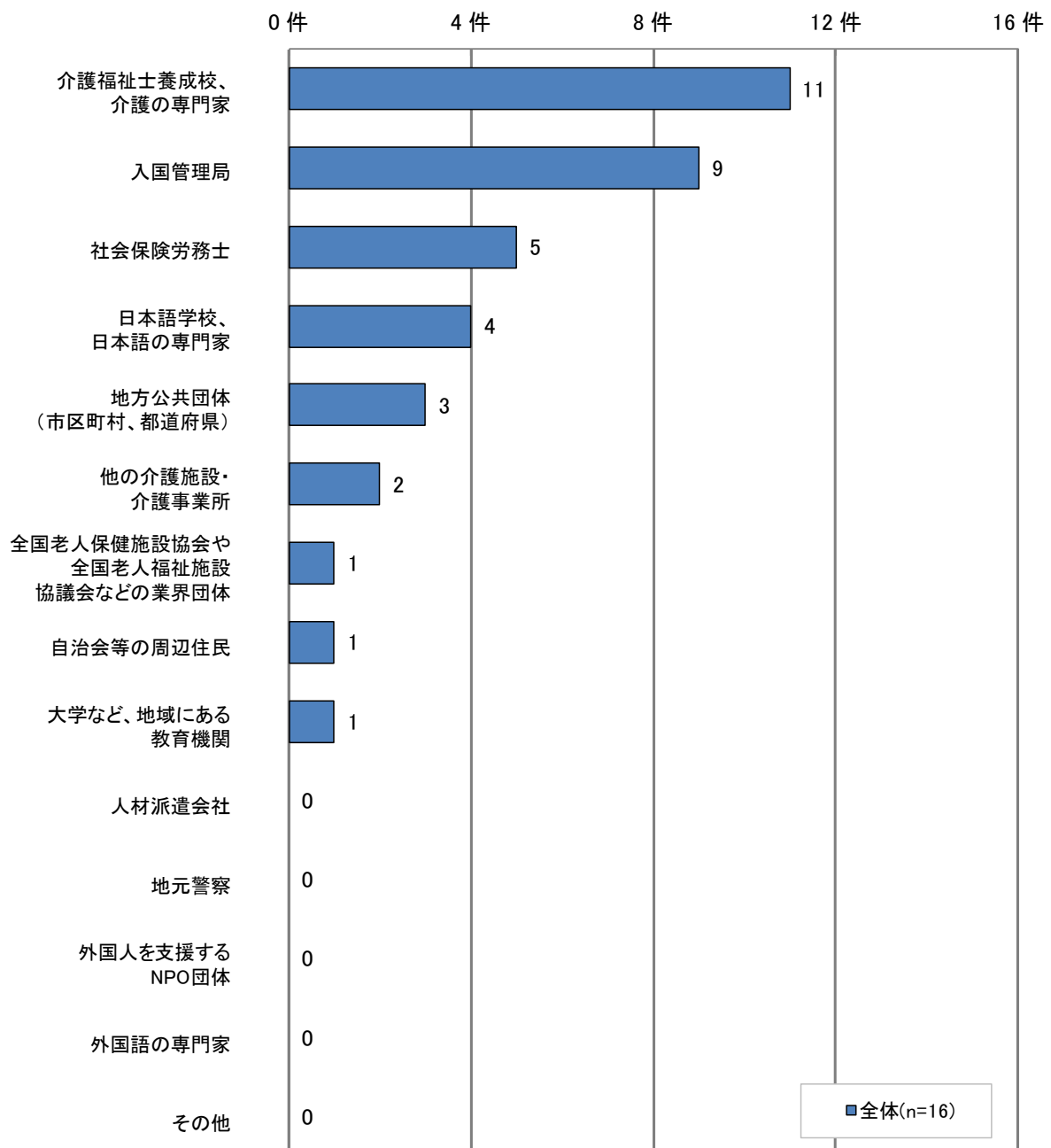


5.2.1 就労時の相談先(5.2 以外の専門家・機関・施設)

【回答対象: 問 23 で何らか相談したことがあると回答した施設・事業所】

「介護福祉士養成校、介護の専門家」(11 件)が最も多く、「入国管理局」(9 件)となっている。

問23-1. 相談した相手を教えてください。(複数選択) (n=16)

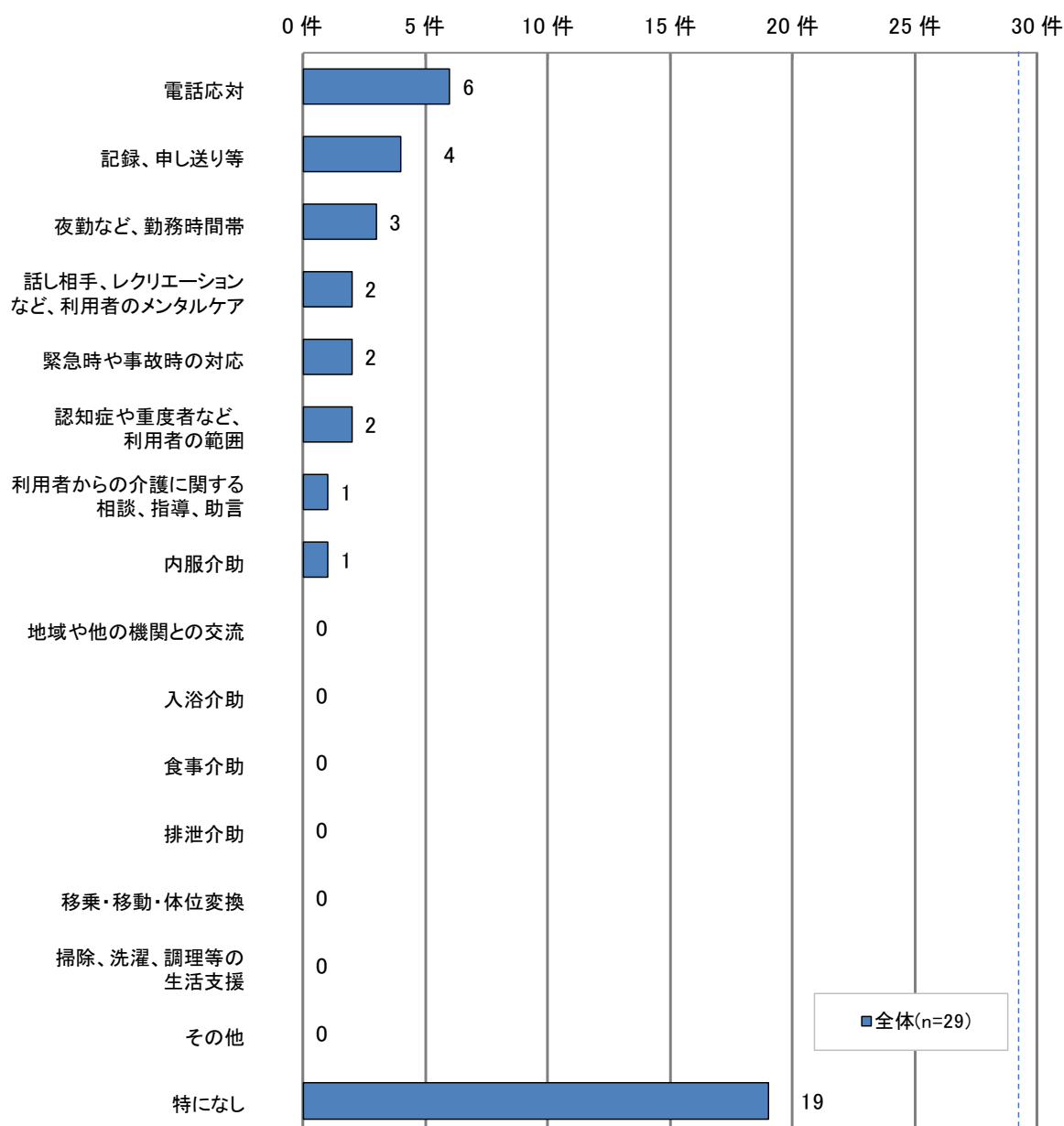


5.3 日本人介護職員と比較した業務内容の制限・免除

「特になし」が19件となっている。

制限・免除内容としては、「電話対応」が6件、「記録、申し送り等」が4件、「夜勤など、勤務時間帯」が3件、「話し相手、レクリエーションなど、利用者のメンタルケア」、「緊急時や事故時の対応」、「認知症や重度者など、利用者の範囲」（それぞれ2件）となっている。

問24. 養成校を卒業した在留資格「介護」の方の仕事内容等で、同程度の資格・勤務経験年数の日本人介護職員と比べたときに、制限・免除していることはありますか。
(複数選択) (n=29)

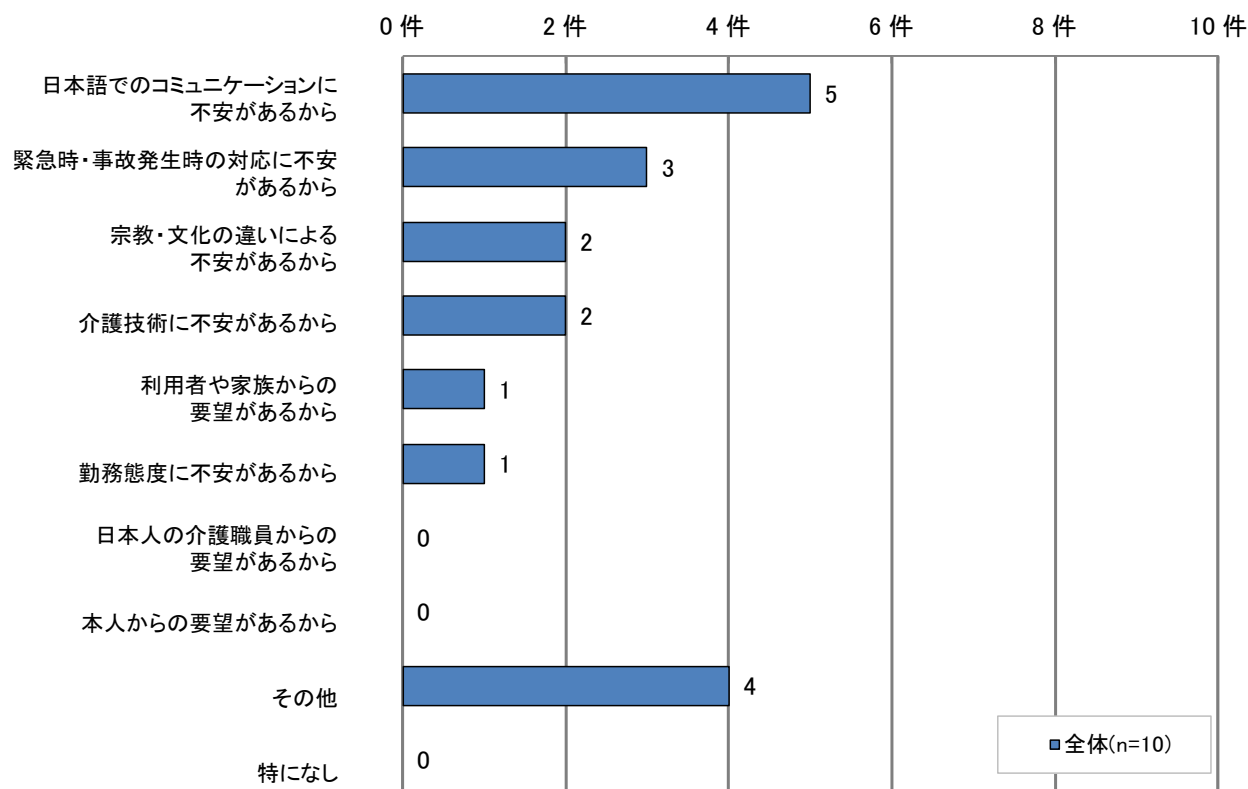


5.3.1 業務内容の制限・免除の理由

【回答対象：問 24 でなんらか制限・免除していると回答した施設・事業所】

「日本語でのコミュニケーションに不安があるから」が 5 件、「緊急時・事故発生時の対応に不安があるから」が 3 件、「宗教・文化の違いによる不安があるから」、「介護技術に不安があるから」がそれぞれ 2 件となっている。

問24-1. 同程度の資格・勤務経験年数の日本人介護職員と比べて、仕事内容等を制限・免除している理由を教えてください。(複数選択) (n=10)



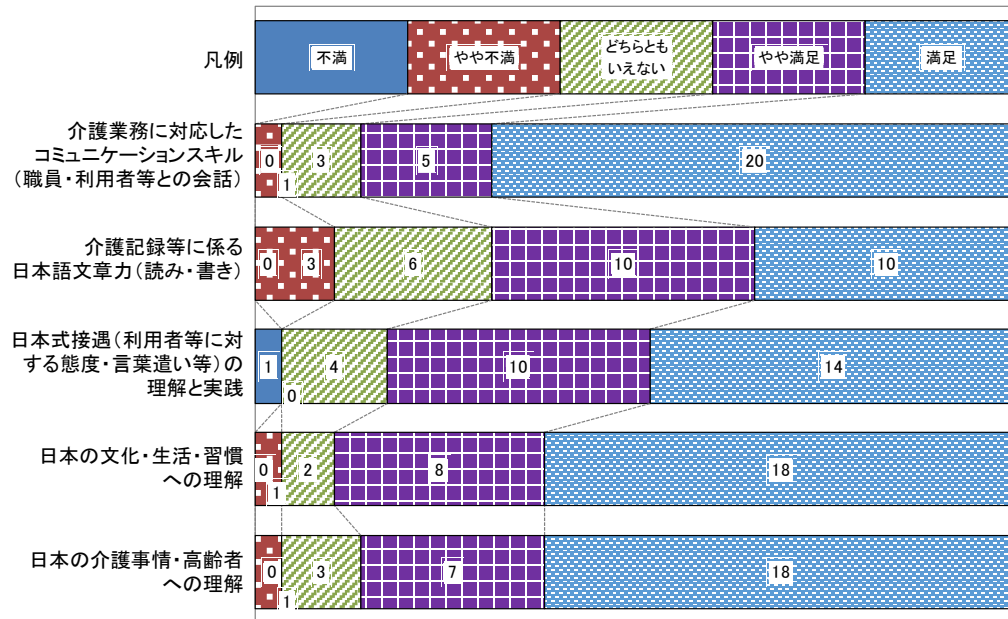
【「その他」の回答(抜粋)】

・情報伝達する時の正確さや臨機応変な対応などは、少しずつ確実に身につけていって欲しいと考えている。

5.4 採用前の期待および現在の満足度

“満足”（「満足」と「やや満足」の合計）をみると、『日本の文化・生活・習慣への理解』は26件（「満足」が18件、「やや満足」が8件）、『介護業務に対応したコミュニケーションスキル（職員・利用者等との会話）』（「満足」が20件、「やや満足」が5件）、『日本の介護事情・高齢者への理解』（「満足」が18件、「やや満足」が7件）がそれぞれ25件となっている。

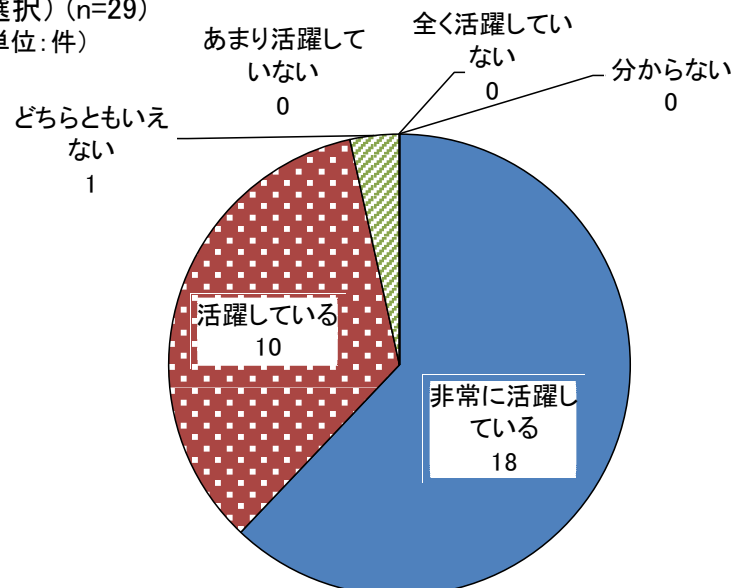
問26-1～5. 養成校を卒業した在留資格「介護」の方への満足度（1つ選択）（n=29）（単位：件）



5.5 雇用後の活躍状況

“活躍しているが”28件とほぼ全数となっている（「非常に活躍している」が18件、「活躍している」が10件）。

問27. “平成30年3月に養成校を卒業した在留資格「介護」の方”について、雇用後の活躍状況を教えてください。（1つ選択）（n=29）（単位：件）

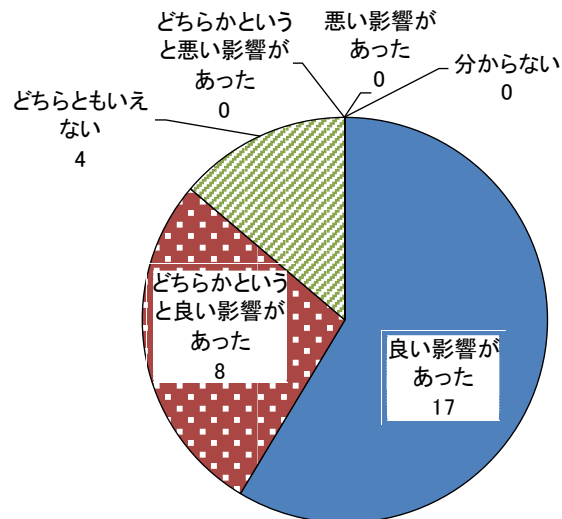


6 “平成 30 年 3 月に介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方”の採用による変化

6.1 職場環境への影響

“良い影響があった”が 25 件と多い（「良い影響があった」が 17 件、「どちらかという
と良い影響があった」が 8 件）。「どちらかという悪い影響があった」、「悪い影響が
あった」という回答はなかった。

問28. 職場環境への影響を教えてください。(1 つ選択)
(n=29) (単位: 件)



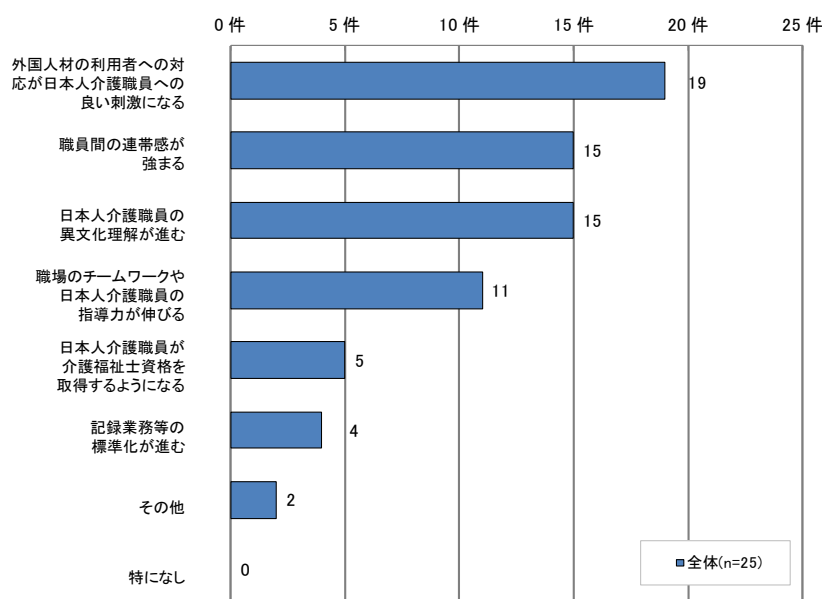
6.1.1 良い影響

の内容

【回答対象: 問 28 で「良い影響があった」「どちらかという良い影響があった」と回答した施設・事業所】

「外国人材の利用者への対応が日本人介護職員への良い刺激になる」(19 件)が最も多く、
次いで「職員間の連帯感が強まる」、「日本人介護職員の異文化理解が進む」がそれぞれ
15 件で続く。また「特になし」は 0 件となっている。

問28-1. 良い影響の内容を教えてください。(複数選択) (n=25)



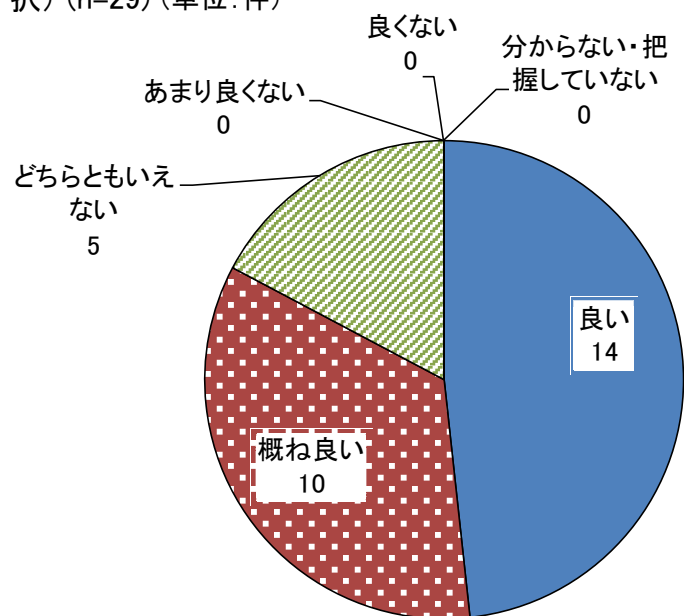
【「その他」の回答(抜粋)】

・良い意味での競争意識が生まれた。

6.2 利用者・家族からの反応

“良い”が 24 件（「良い」が 14 件、「概ね良い」が 10 件）が多い。「あまり良くない」、「良くない」は 0 件であった。

問29. 利用者や家族からの反応を教えてください。（1 つ選択）（n=29）（単位：件）

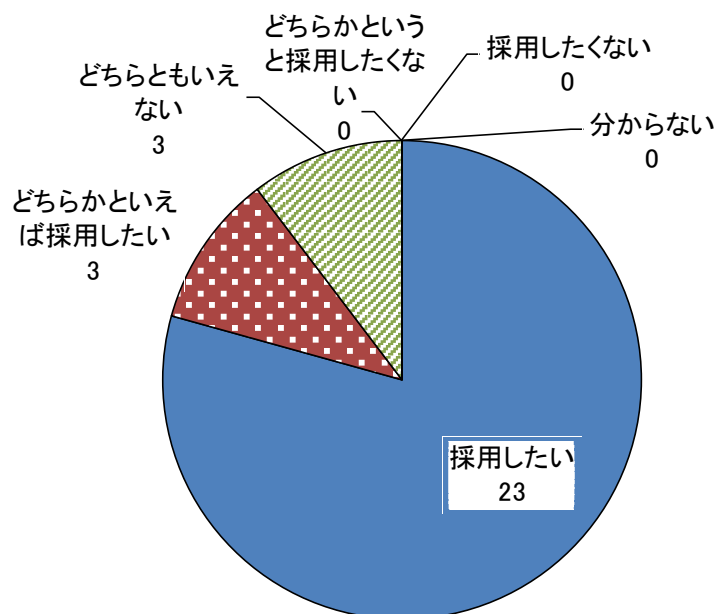


7 介護福祉士養成施設を卒業した在留資格「介護」の方の今後の採用

7.1 今後の採用意向

“採用したい”が26件（「採用したい」が23件、「どちらかといえば採用したい」が3件）が多い。「どちらかというと採用したくない」、「採用したくない」という回答はなかった。

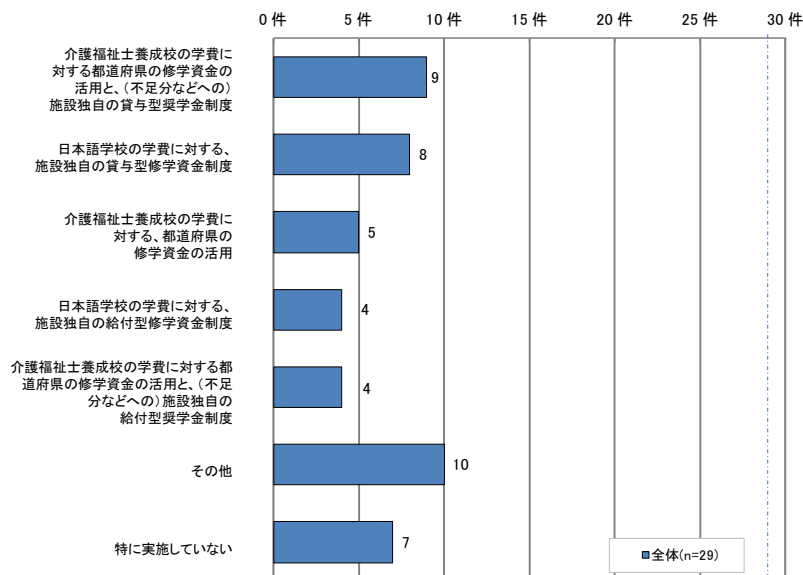
問30. 今後も、介護福祉士養成校を卒業した在留資格「介護」の方を採用したいですか。（1つ選択）（n=29）（単位：件）



7.2 日本語学校や介護福祉士養成施設への学費支援

「介護福祉士養成校の学費に対する都道府県の修学資金の活用と、(不足分などへの)施設独自の貸与型奨学金制度」(9件)が最も多く、「日本語学校の学費に対する、施設独自の貸与型修学資金制度」(8件)と続く。また「特に実施していない」は7件となっている。

問31. 日本語学校や介護福祉士養成校の学費に対する支援として、実施していることはありますか。(複数選択) (n=29)



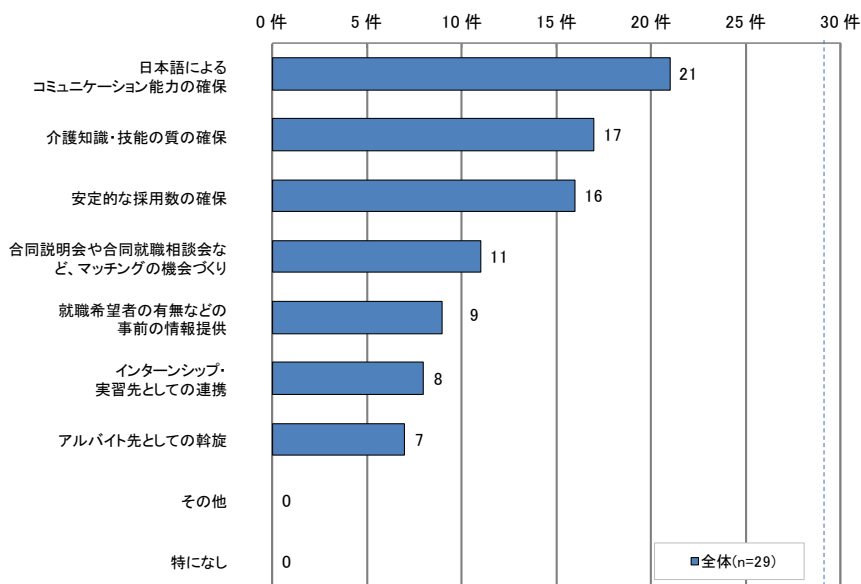
【「その他」の回答(抜粋)】

- ・独自の修学資金支援及び貸与型奨学金
- ・介護福祉士養成校の学費に対する、法人の奨学金制度
- ・介護福祉士養成校の学費に対する、施設独自の給付型奨学金制度

7.3 介護福祉士養成施設や日本介護福祉士養成施設協会に求めること

「日本語によるコミュニケーション能力の確保」(21件)が最も多く、「介護知識・技能の質の確保」(17件)、「安定的な採用数の確保」(16件)と続く。また「特になし」は0件であった。

問32. 養成校を卒業した在留資格「介護」の方の採用について、介護福祉士養成校や日本介護福祉士養成施設協会にどのようなことを求めますか。(複数選択) (n=29)



v. 介護施設等で働く外国人介護職員に対するアンケート調査

【介護施設で働く卒業生対象】

1. アンケート調査結果まとめ

【回答者属性】

- ・ 平成30年3月に介護福祉士養成施設を卒業し、介護施設・事業所に就職した方が対象(n=22)。
- ・ 22人中、男性7人、女性15人、年齢は25歳以下が2人、26～30歳が17人、31歳以上が3人であった。国籍は、ベトナムが10人、ネパールが4人、フィリピンが3人、中国が2人であった。
- ・ 母国での最終学歴は、半数以上の13人が「大学・大学院」であった。
- ・ 母国での看護関連の資格・卒業資格を「持っている」のは4人であった。

① 介護福祉士養成施設への入学について

○介護福祉士養成施設への入学を決めたのは、来日後の日本語学校在学時である人が多い。入学の理由は、「日本で働きたかったから」のほか、日本の介護知識・技術の学び・経験を得ること等を理由に挙げている

- ・ 介護福祉士養成施設への入学を決めた時期は、「日本において、日本語学校に通っていたとき」が22人中18人で最も多く、母国にいたときに決めたのは1人だった。
- ・ 入学を決めた理由（複数回答）は、「日本で働きたかったから」が12人、「将来、日本の介護福祉士の専門知識・技術、そして経験を活かして母国で仕事がしたいから」が10人、「日本の介護技術を学びたかったから」が9人であった。

② 現在の職場に関する就職活動・就業の状況

○多くの回答者が現在の仕事に満足しているが、なかには自分の能力等に見合った仕事内容になっていないと感じる人も少なからずいる

○就職活動で困ったことや現在の職場で困っていることとして、日本語能力を上げる人が多い

- ・ 現在の仕事の満足度は、“満足”が22人中19人であった（「満足」11人、「やや満足」8人）。
- ・ 現在従事している仕事内容について、「同じ介護施設・事業所の日本人の同期や同僚と比べ、仕事内容が制限されている」と感じている人は5人、「母国で取得した資格からみると、現在の仕事内容に納得いかない」は3人、「母国での学歴からみると、現在の仕事内容に納得いかない」は2人（最終学歴は「大学・大学院」「短期大学・専門学校」各1名）であった。
- ・ 11人が就職活動・就職時に困難を感じており、その内容（複数回答）は「日本語能力の面で面接官等と意思疎通が困難なことがあった」が6人、「介護福祉士国家試験の勉強との両立」が3人であった。
- ・ 現在の職場で困っていることがある人は18人で、その内容（複数回答）として16人が「自身の日本語能力」を挙げている。

2. アンケート調査結果

※ 以下、単純集計を掲載。クロス集計については n 数が少ないため対象外

1 回答者(介護施設・事業所等で働いている外国人介護職員)の経歴等

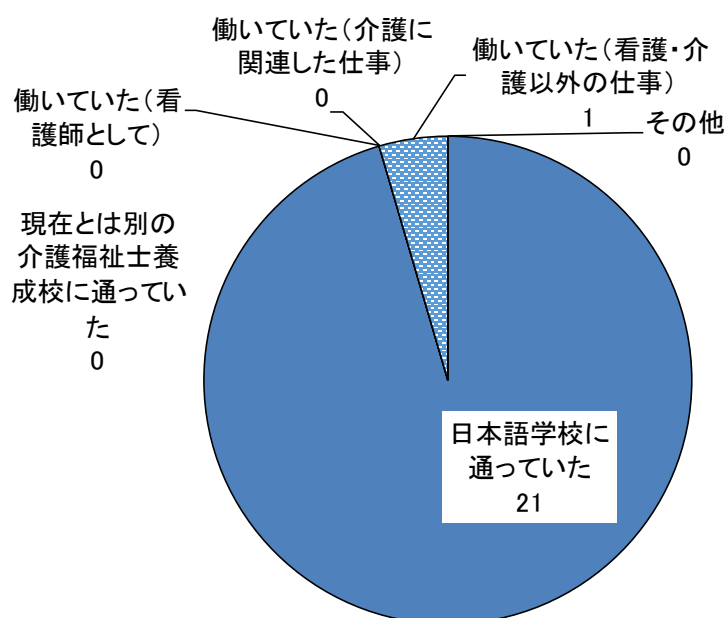
1.1 介護福祉士養成施設入学前の所在地

全 22 人が、介護福祉士養成施設入学前に「日本にいた」と回答している。

1.1.1 介護福祉士養成施設入学直前の経歴

「日本語学校に通っていた」が 21 人、「働いていた（看護・介護以外の仕事）」が 1 人となっている。

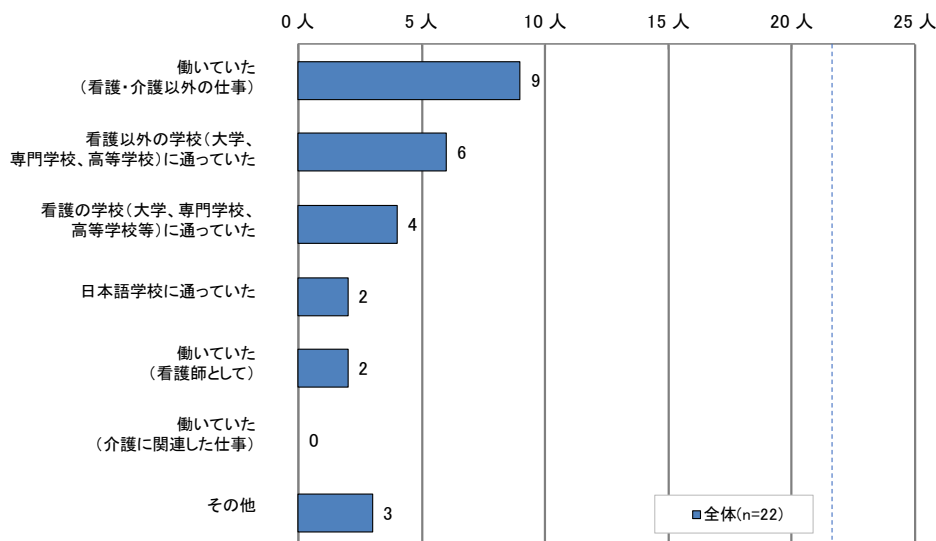
問1-1.あなたは、介護福祉士養成校に入学する直前、なにをしていましたか。(1つ選択) (n=22)(単位:人)



1.1.2 介護福祉士養成施設入学前の経歴（日本語学校、または別の介護福祉士養成施設に通っていた方）

「働いていた（看護・介護以外の仕事）」（9人）が最も多く、「看護以外の学校（大学、専門学校、高等学校）に通っていた」（6人）、「看護の学校（大学、専門学校、高等学校等）に通っていた」（4人）と続く。

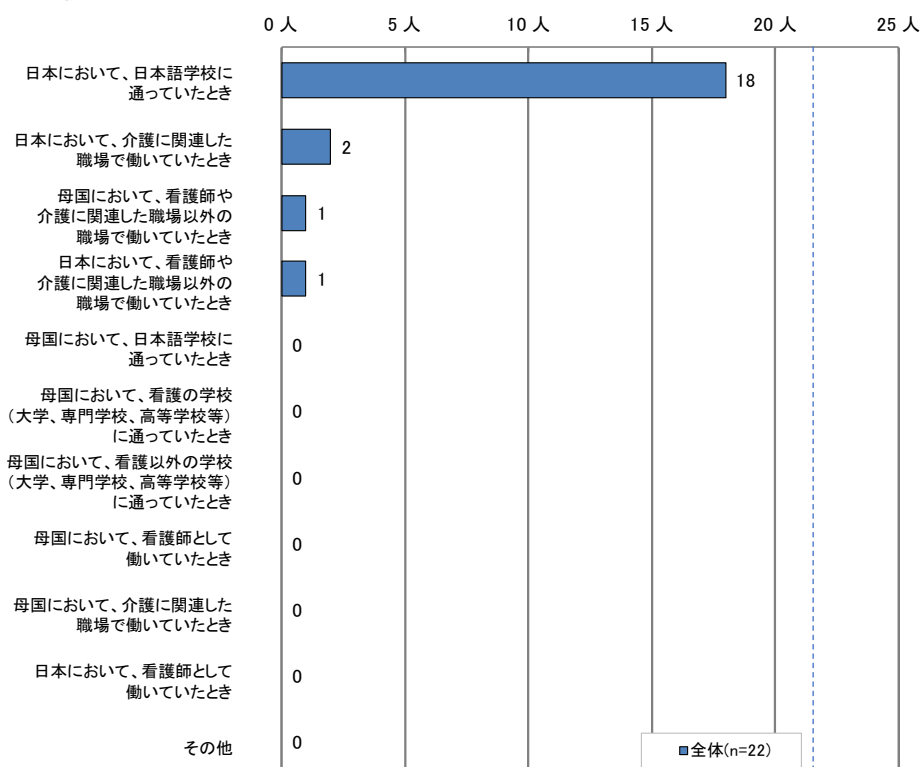
問1-2.あなたは、母国で、なにをしていましたか。（複数選択）（n=22）



1.2 日本の介護福祉士養成施設への入学を決めた時期

「日本において、日本語学校に通っていたとき」（18人）が最も多く、「日本において、介護に関連した職場で働いていたとき」は2人、「母国において、看護師や介護に関連した職場以外の職場で働いていたとき」、「日本において、看護師や介護に関連した職場以外の職場で働いていたとき」がそれぞれ1人となっている。

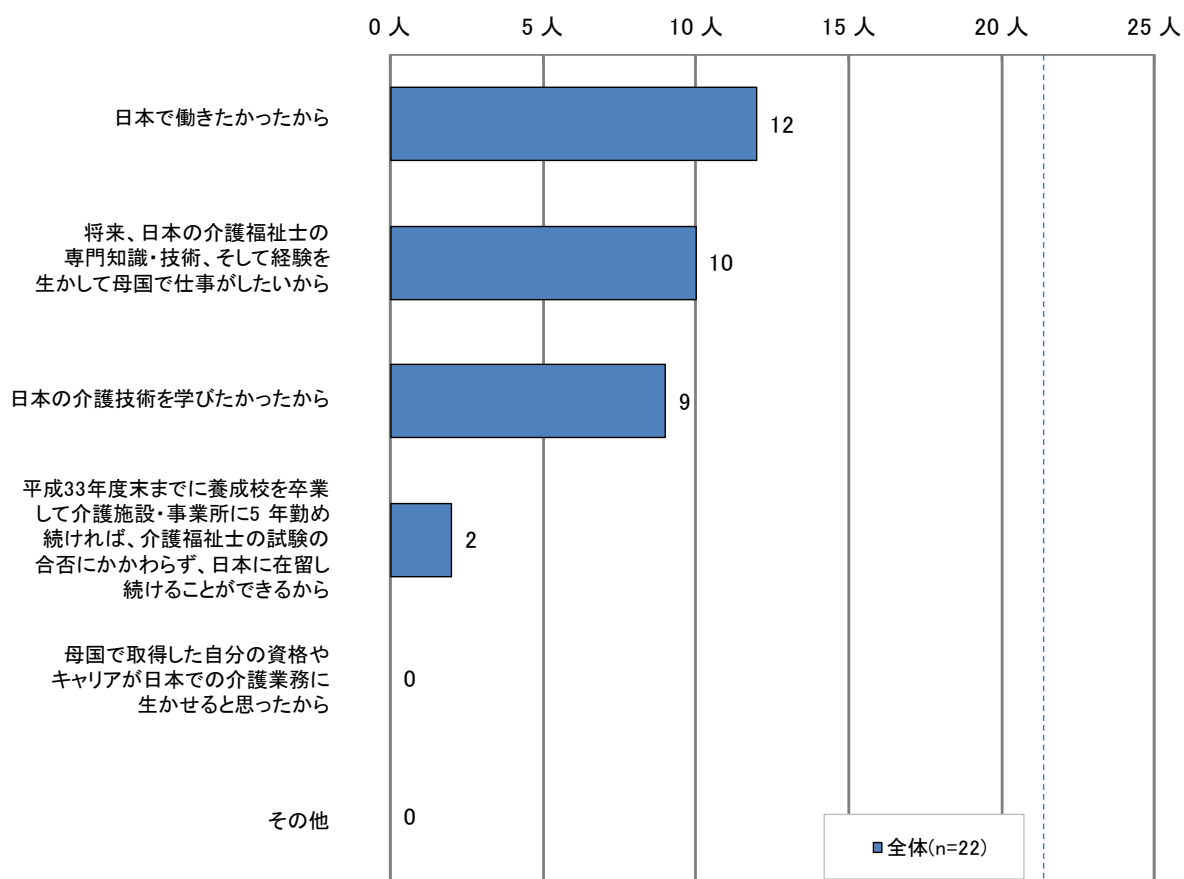
問2.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようと考え始めた時期はいつですか。（1つ選択）（n=22）



1.3 日本の介護福祉士養成施設への入学を決めた理由

「日本で働きたかったから」(12人)が最も多く、「将来、日本の介護福祉士の専門知識・技術、そして経験を生かして母国で仕事がしたいから」(10人)、「日本の介護技術を学びたかったから」(9人)と続く。

問3.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=22)

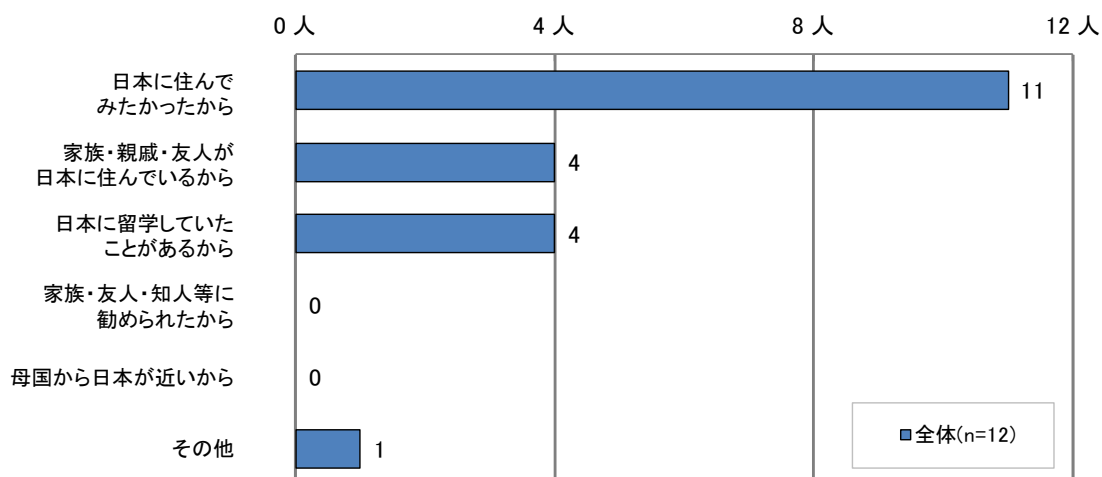


1.3.1 日本での就業を望んだ理由

【回答対象: 問 3 で「日本で働きたかったから」と回答した人】

「日本に住んでみたかったから」(11 人)が最も多く、「家族・親戚・友人が日本に住んでいるから」、「日本に留学していたことがあるから」がそれぞれ 4 人となっている。

問3-1.あなたが、日本で働きたいと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=12)

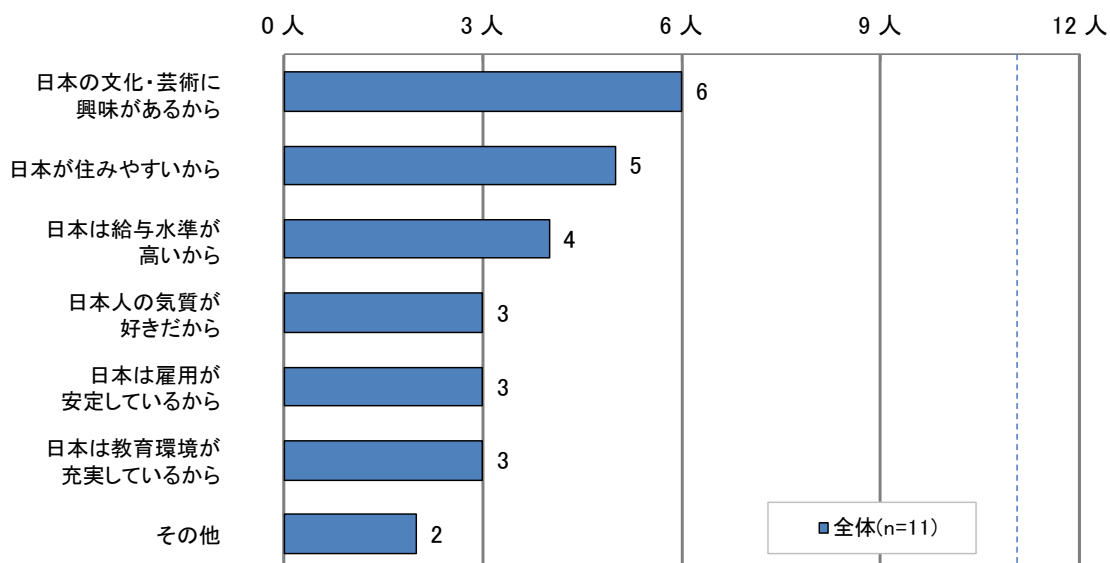


1.3.2 日本への居住を望んだ理由

【回答対象: 問 3-1 で「日本に住んでみたかったから」と回答した人】

「日本の文化・芸術に興味があるから」(6 人)が最も多く、「日本が住みやすいから」(5 人)、「日本は給与水準が高いから」(4 人)と続く。

問3-2.あなたが日本に住んでみたかったと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=11)

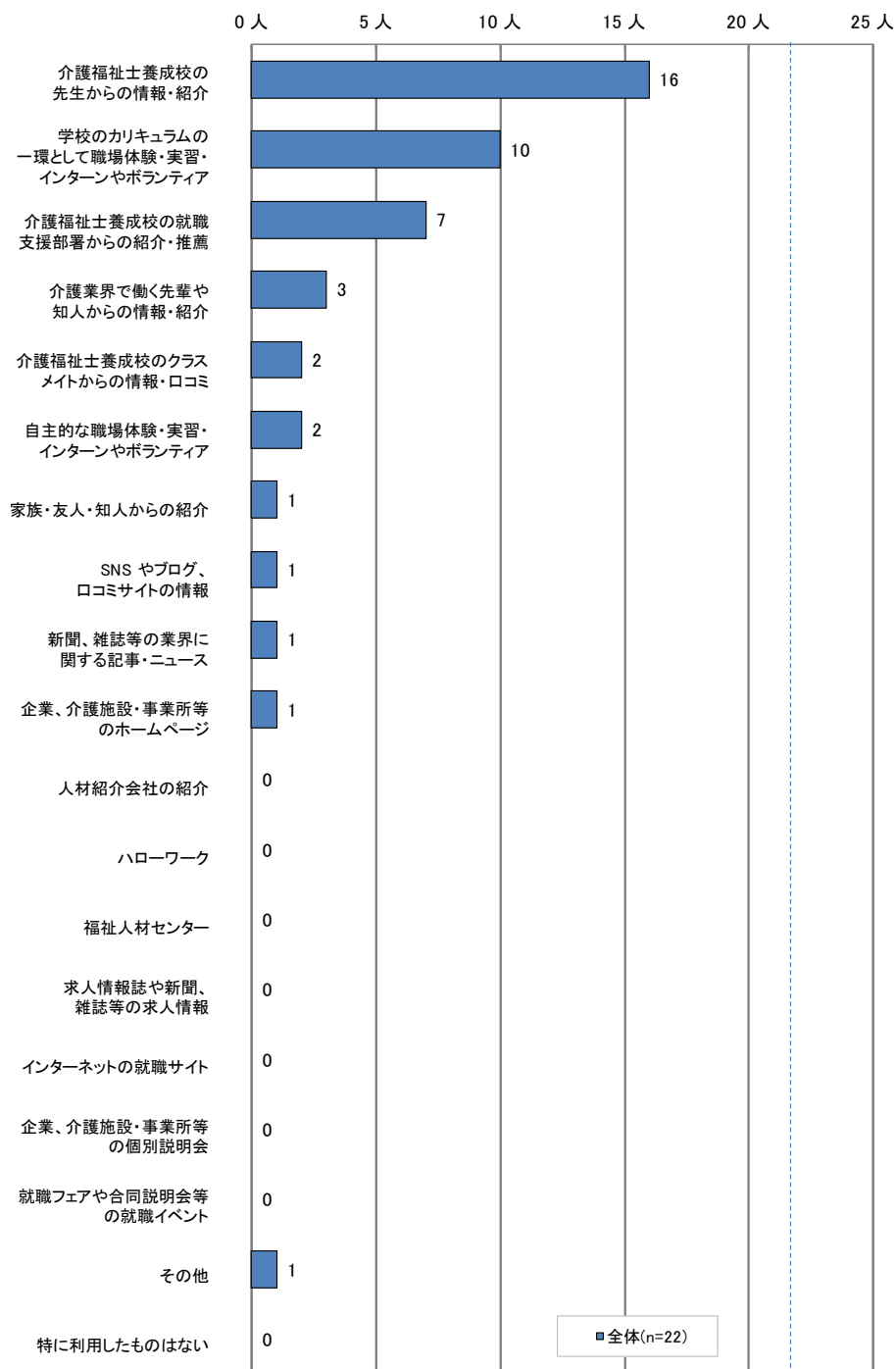


2 現在の職場に就職する際の就職活動

2.1 就職に向けた情報収集・相談の際利用したツール

「介護福祉士養成校の先生からの情報・紹介」(16 人)が最も多く、「学校のカリキュラムの一環として職場体験・実習・インターンやボランティア」(10 人)、「介護福祉士養成校の就職支援部署からの紹介・推薦」(7 人)と続く。また「特に利用したものはない」は 0 人となっている。

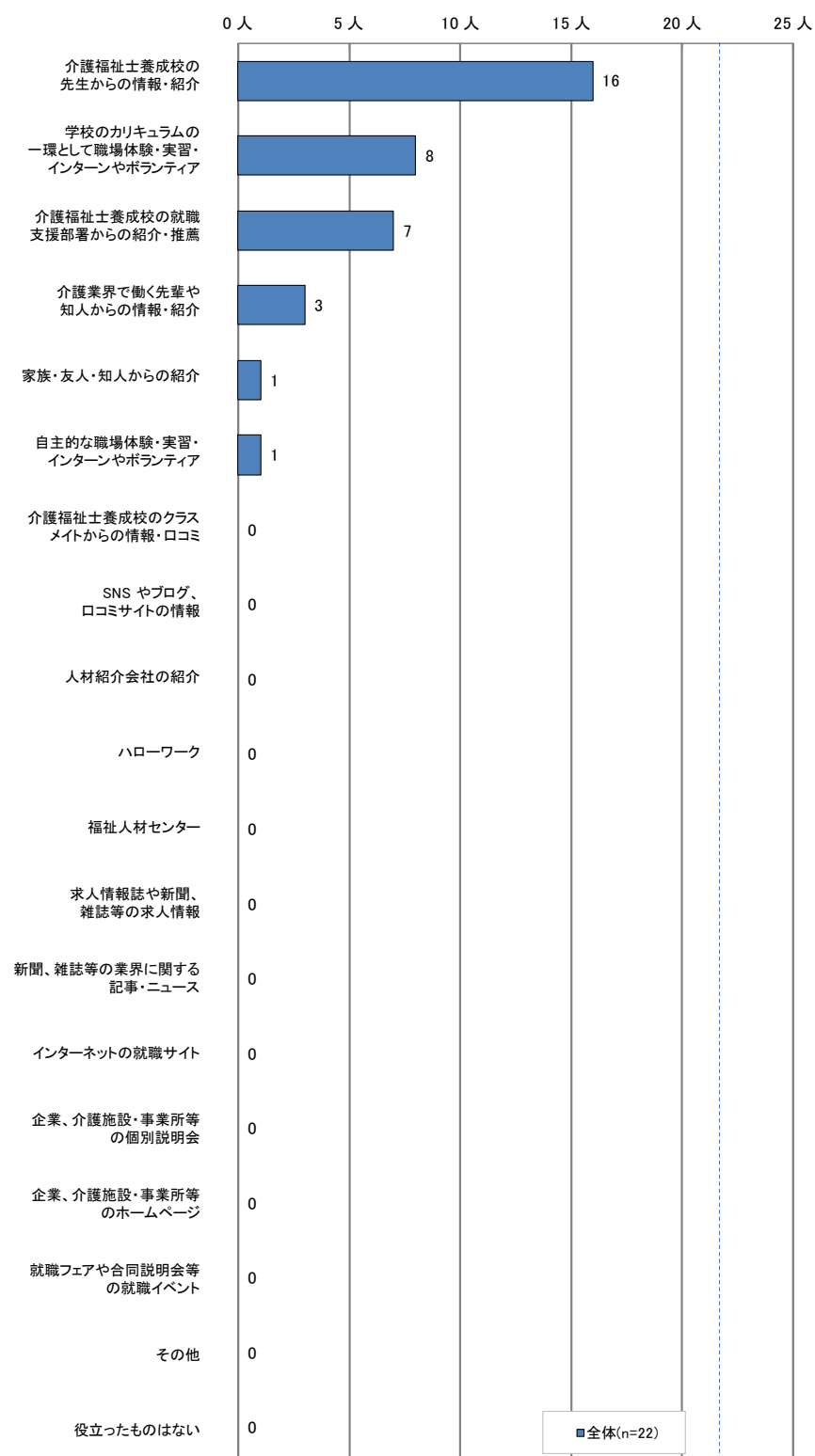
問4.あなたが、就職に向けた情報収集・相談等を行う際に、これまで利用したものはありますか。(複数選択) (n=22)



2.2 就職に向けた情報収集・相談の際有効だったツール

「介護福祉士養成校の先生からの情報・紹介」(16 人)が最も多く、「学校のカリキュラムの一環として職場体験・実習・インターンやボランティア」(8 人)、「介護福祉士養成校の就職支援部署からの紹介・推薦」(7 人)と続く。また「役立ったものはない」は0 人となっている。

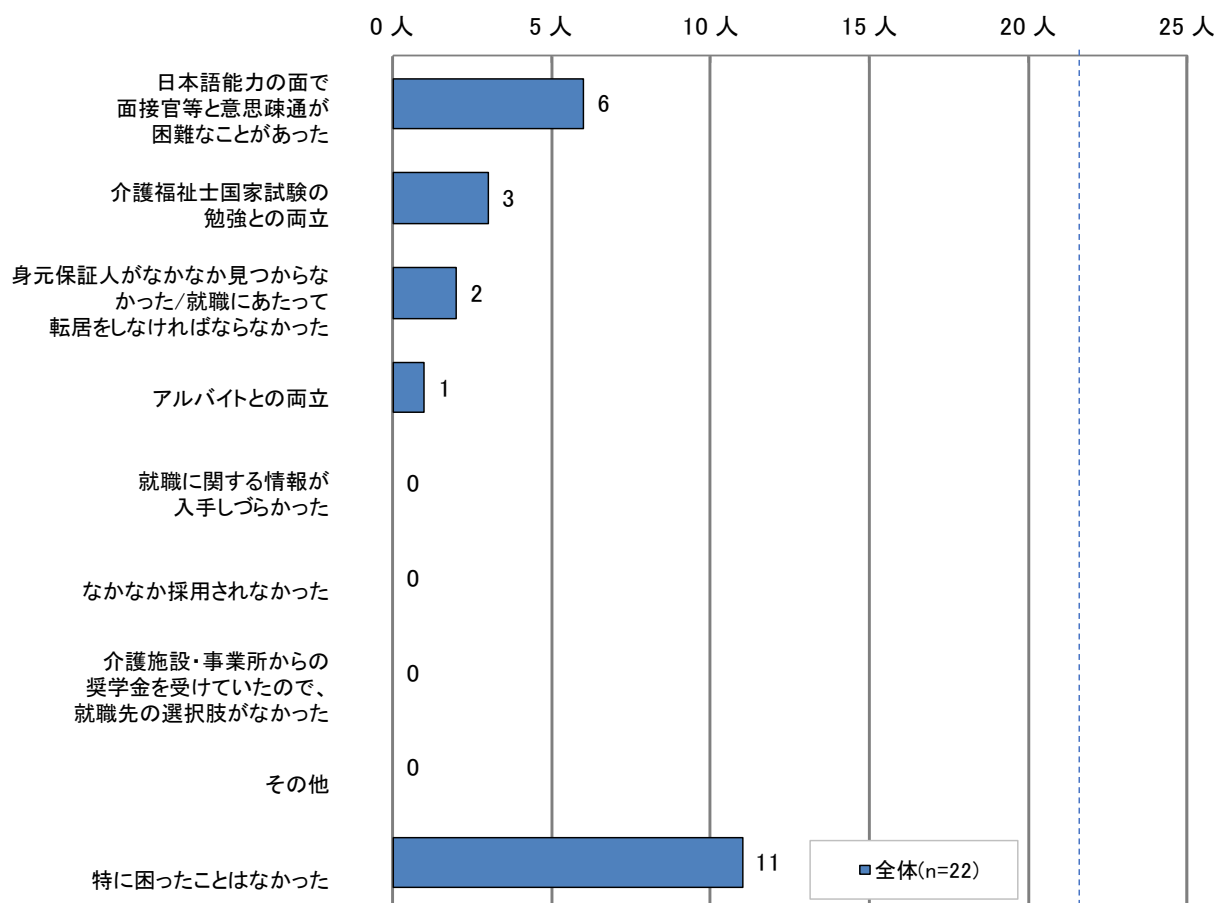
問5.就職に向けた情報収集・相談等を行う際に、これまで利用したものの中で、実際に役立った、有効だったと感じるものはありますか。(複数選択) (n=22)



2.3 就職活動・就職時に感じた困難

「日本語能力の面で面接官等と意思疎通が困難なことがあった」(6人)が最も多く、「介護福祉士国家試験の勉強との両立」(3人)、「身元保証人がなかなか見つからなかった就職にあたって転居をしなければならなかった」(2人)、「アルバイトとの両立」(1人)となっている。また「特に困ったことはなかった」は11人となっている。

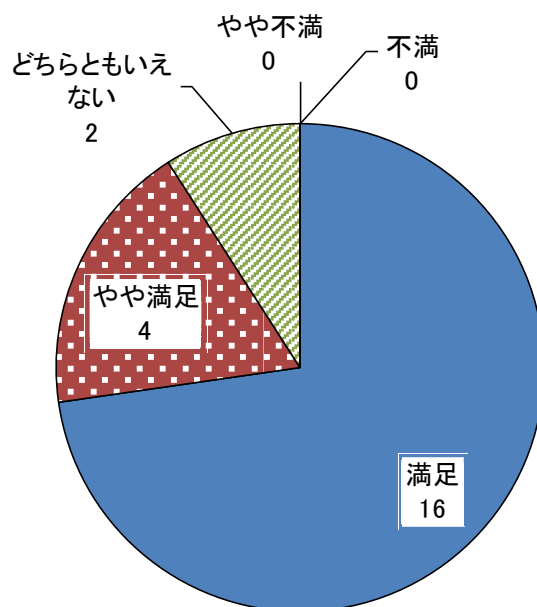
問6.あなたは、就職活動・および就職するうえで困ったことはありましたか。(複数選択) (n=22)



2.4 就職活動の際の介護福祉士養成施設のサポートに対する満足度

“満足”が20人（「満足」が16人、「やや満足」が4人）が多い。「やや不満」、「不満」は0人となっている。

問7.あなたが、就職活動をした際、介護福祉士養成校のサポートをどのように感じましたか。(1つ選択)(n=22)(単位:人)



【問8.就職活動時に、養成校のサポートで満足した点／不満だった点(自由回答)】

【満足した点】

- ・相談に乗ってくれたり、アドバイスをくれたりした。
- ・面接練習や求人情報のアップデートほか、社会人マナーを教えてもらえた。
- ・ビジネスマナー、PCの使い方など、教えてもらえた。
- ・養成校に通いながら就職先のアルバイトをしていたが、交通や勉強面でのサポートが充実していた。
- ・面接の練習、履歴書の書き方などを教えてもらえた。
- ・いくつかの施設を紹介してもらえた。

【不満だった点】

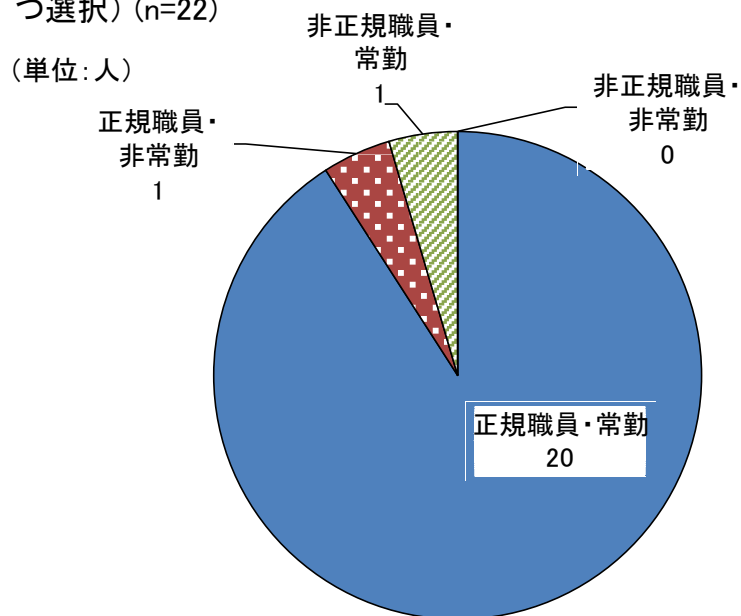
- ・特定の施設だけ紹介された。
- ・給料が、他の職業と比べると少し低い。

3 現在の就業状況・今後の展望

3.1 現在の雇用・勤務形態

「正規職員・常勤」(20人)が最も多く、「正規職員・非常勤」(1人)、「非正規職員・常勤」(1人)となっている。

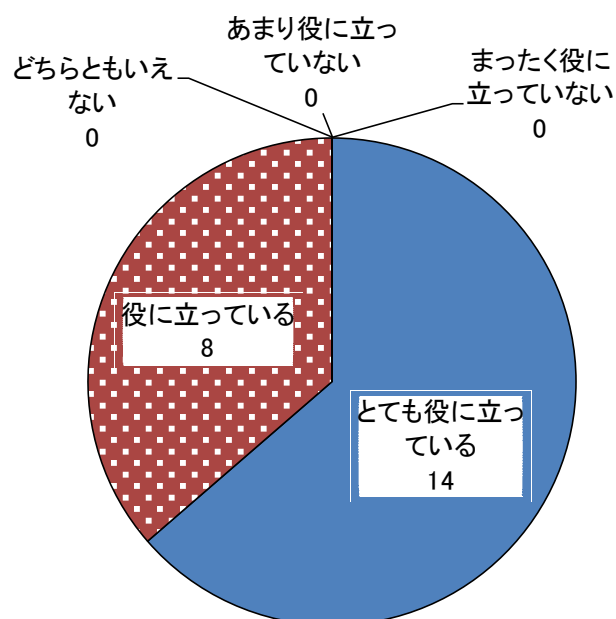
問9.あなたは、現在、どのような雇用・勤務形態ですか。(1つ選択)(n=22)



3.2 介護福祉士養成施設で学習したことのメリット

“役に立っている”が22人(“とても役に立っている”が14人、“役に立っている”が8人)であった。

問10.あなたが介護福祉士養成校で学習したことは、現在の職場でどの程度役に立っていますか。(1つ選択)(n=22)(単位:人)



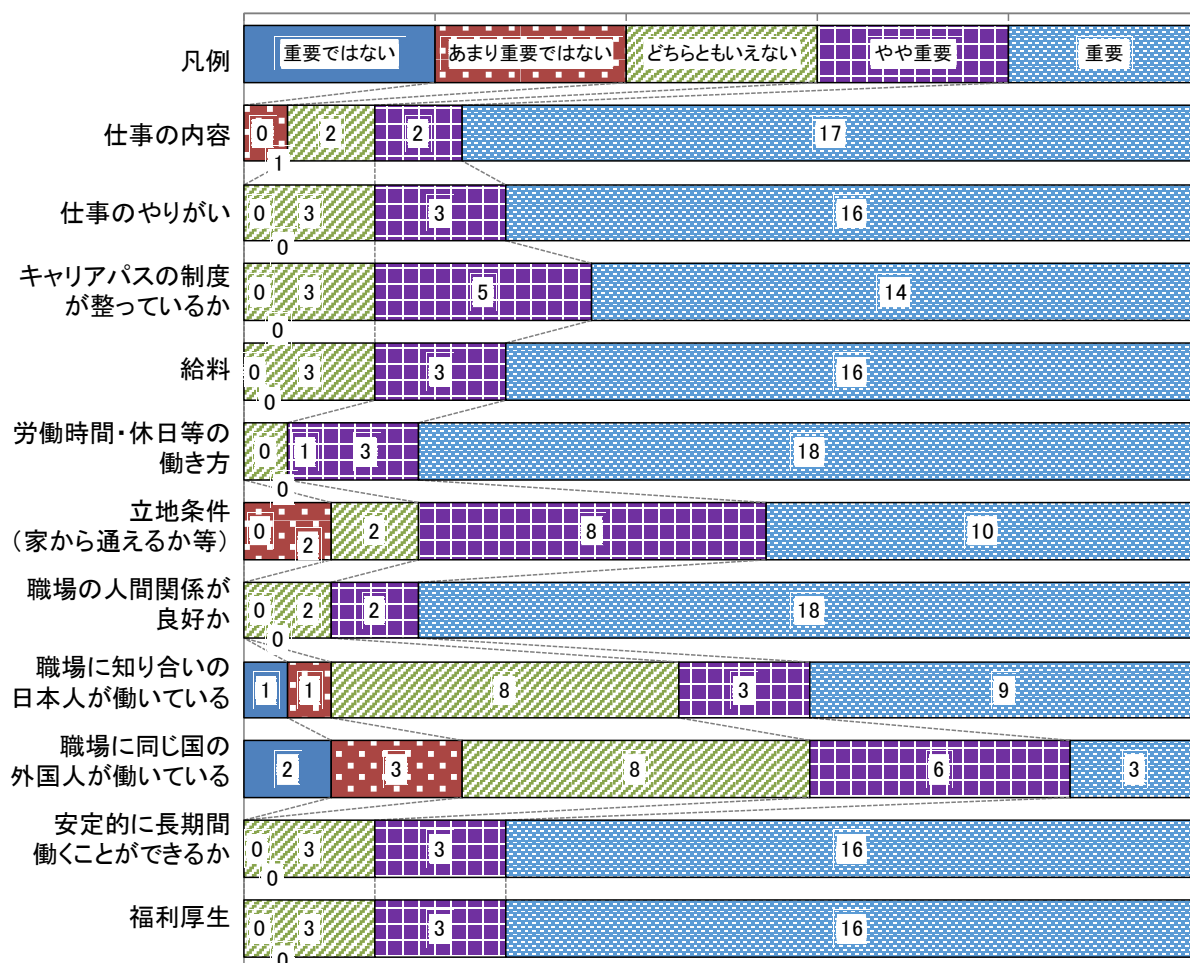
3.3 仕事をする上で重視する事

『労働時間・休日等の働き方』では、“重要”（「重要」と「やや重要」の合計）が 21 人となっている。

『職場の人間関係が良好か』では、“重要”が 20 人となっている。

問11. 仕事をしていく中での重視度(1つ選択) (n=22)

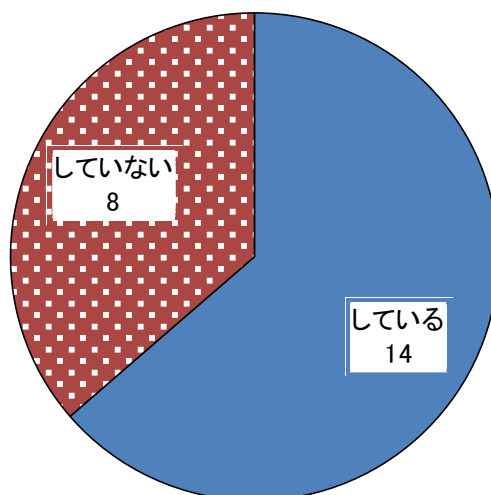
(単位:人)



3.4 母国の家族への仕送り

「している」が14人、「していない」が8人となっている。

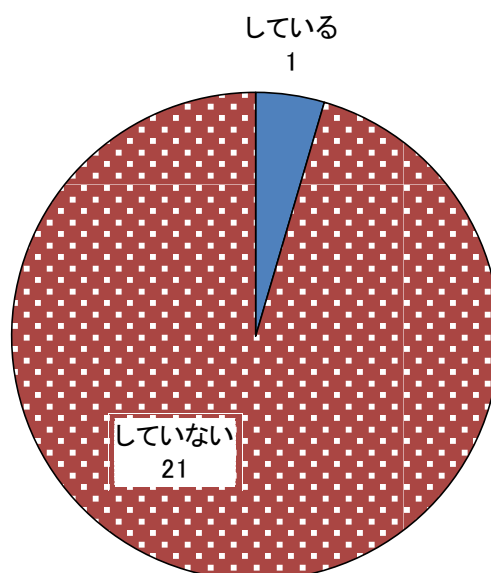
問13. あなたは、母国の家族等に仕送りをしていますか。(1つ選択) (n=22)(単位:人)



3.5 現在の仕事以外での就業

「していない」が21人、「している」が1人となっている。

問14. あなたは、現在の仕事以外に、他に仕事(パート・アルバイト等)をしていますか。(1つ選択) (n=22)(単位:人)

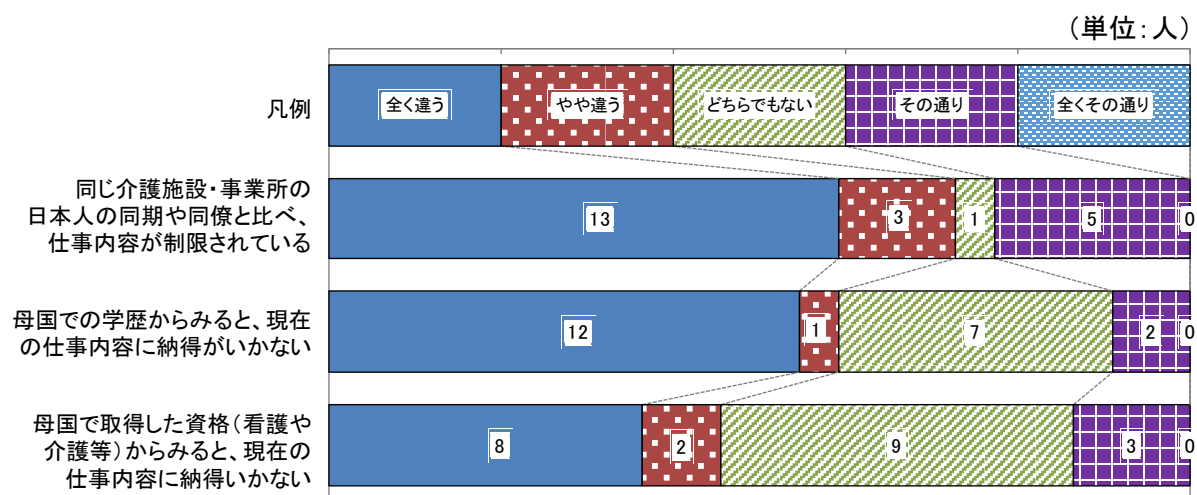


3.6 現在従事している業務について

『同じ介護施設・事業所の日本人の同期や同僚と比べ、仕事内容が制限されている』では、「その通り」が5人となっている。

『母国での学歴からみると、現在の仕事内容に納得がいかない』では「その通り」が2人、
『母国で取得した資格（看護や介護等）からみると、現在の仕事内容に納得がいかない』では3人となっている。

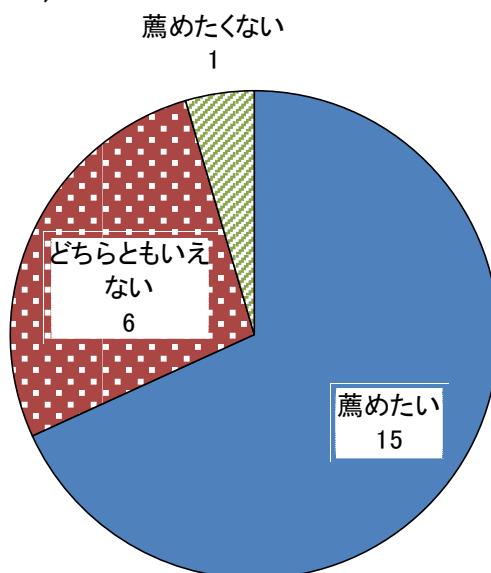
問15. 仕事の内容について感じる事(1つ選択) (n=22)



3.7 現在の職場の他者への推薦意向

「薦めたい」が15人、「どちらともいえない」が6人、「薦めたくない」が1人となっている。

問16. あなたは、現在の職場を他の人に薦めたいですか。
(1つ選択) (n=22)
(単位:人)



【問 17.現在の職場の推薦意向の理由(自由回答)】

【薦めたい】

- ・生活環境で不便は感じていないし、利用者や職場の人間関係において良好な関係が築けており不満を感じていない。
- ・ボーナスが良い。
- ・上司と同僚はとても優しく、ちゃんと面倒をみている。少しずつでも自分が成長しているを感じている。とても感謝している。
- ・日本の仕事方法は母国と違う事が多い。色々な良い経験を体験している。
- ・知らないことがあれば聞くと教えてくれる。
- ・困ったときに先輩たちが、いつも優しく教えてくれて、安心して仕事ができる。
- ・ベトナムには施設がない。
- ・ここで仕事しながら、介護技術を勉強して、経験があればベトナムでも介護の仕事ができる。
- ・介護職として、ご利用者とコミュニケーションをとることが、勉強になる。
- ・「介護はきつい」というイメージとは異なる。結構楽なほうだと思う。
- ・あまり残業がなく、休みも多い。
- ・職場の人間関係が良いので、働きやすい。

【どちらともいえない】

- ・介護の仕事は、給料が低い、大変、疲れるなどのイメージがあり、薦めにくい
- ・納得していないところがあるため、薦める程ではない。

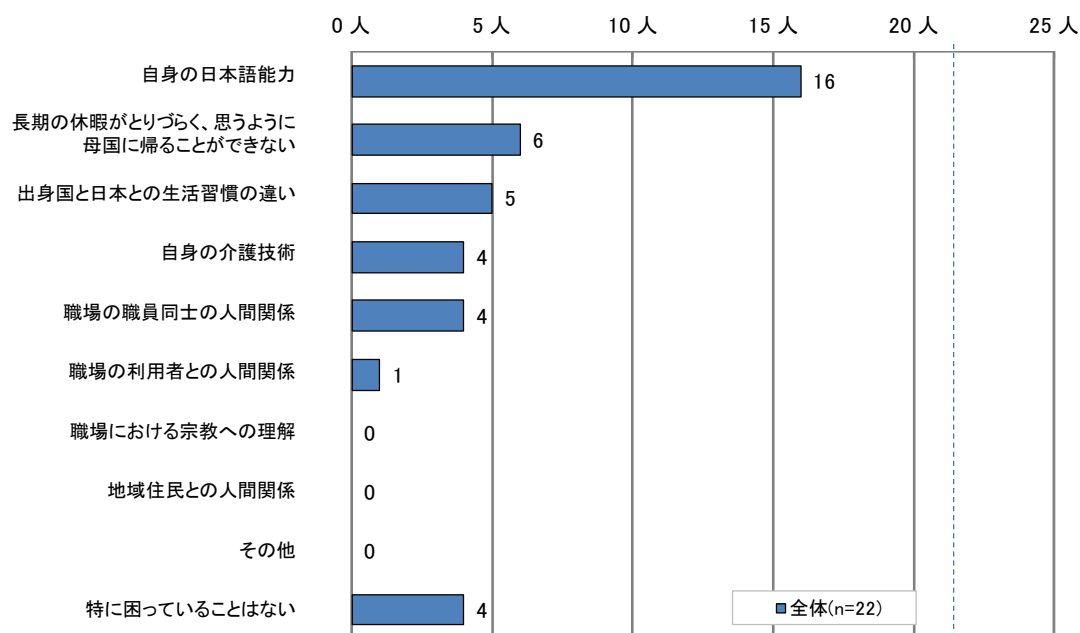
【薦めたくない】

- ・大変である。

3.8 現在の職場で直面している困難

「自身の日本語能力」(16 人)が最も多く、「長期の休暇がとりづらく、思うように母国に帰ることができない」が6人、「出身国と日本との生活習慣の違い」が5人、「自身の介護技術」、「職場の職員同士の人間関係」がそれぞれ4人となっている。また「特に困っていることはない」は4人となっている。

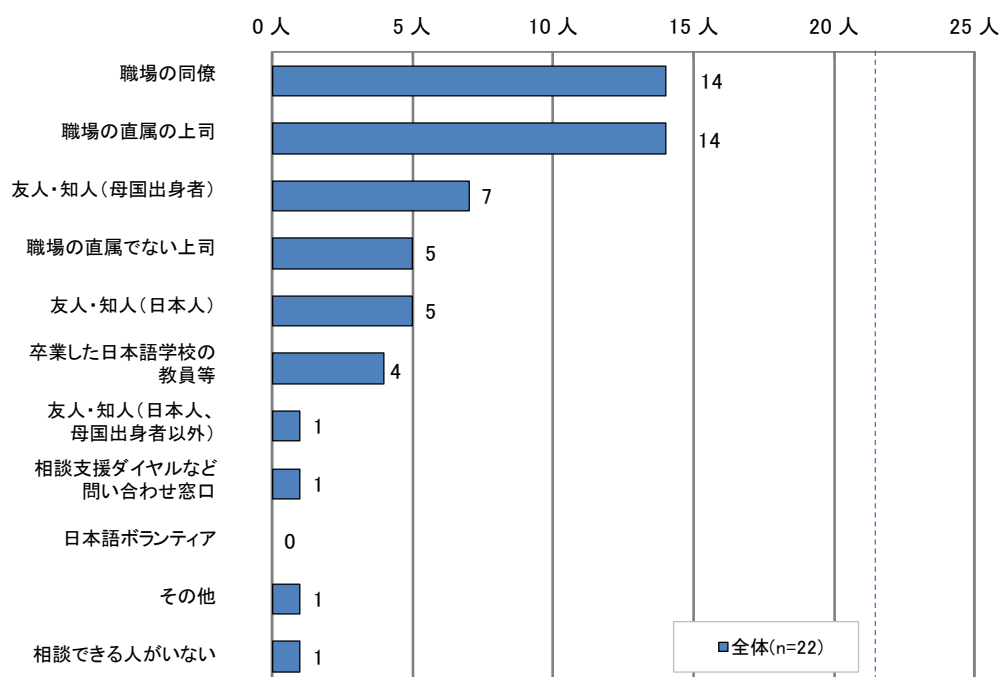
問18. あなたは、現在の職場で困っていることはありますか。(複数選択) (n=22)



3.9 現在の職場で困難を感じた際の相談先

「職場の同僚」、「職場の直属の上司」(それぞれ14人)が多く、「友人・知人(母国出身者)」(7人)と続く。また「相談できる人がいない」は1人となっている。

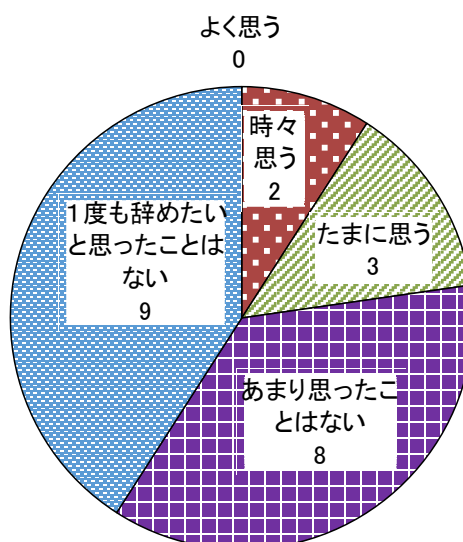
問19. あなたは、現在の職場で困ったとき、誰に相談をしていますか。(複数選択) (n=22)



3.10 現職からの退職を考えた経験

「1度も辞めたいと思ったことはない」(9人)が最も多く、「あまり思ったことはない」が8人、「たまに思う」が3人、「時々思う」が2人となっている。

問20. あなたは、今までに現在の職場を辞めたいと思ったことはありますか。(1つ選択) (n=22)(単位:人)

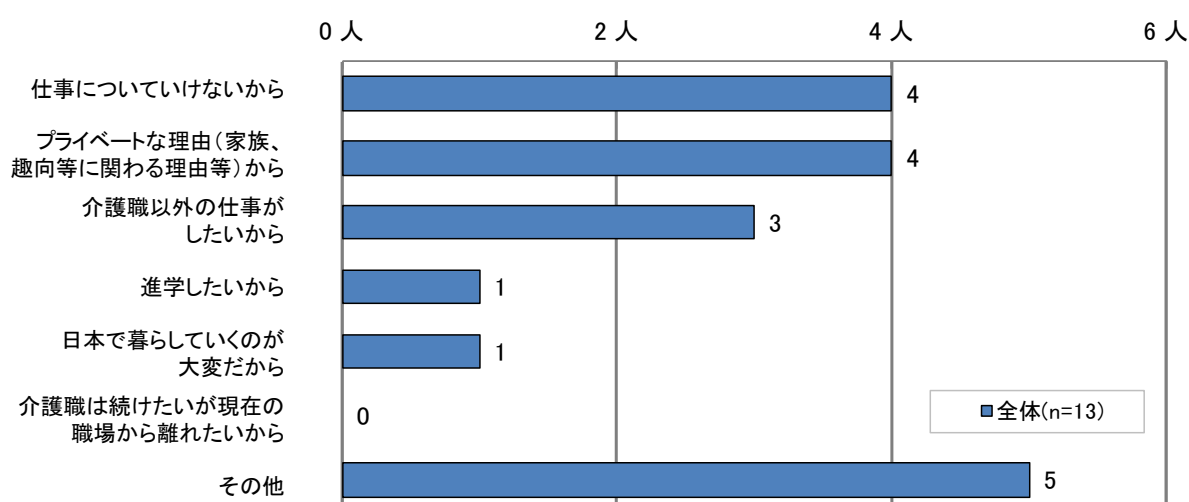


3.10.1 現在の職場をやめたいと思った理由

【回答対象: 問20で「よく思う」「時々思う」「たまに思う」「あまり思ったことはない」と回答した人】

「仕事についていけないから」、「プライベートな理由(家族、趣向等に関わる理由等)から」が4人となっている。

問20-1. あなたが、現在の職場を辞めたいと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=13)



【「その他」の回答(抜粋)】

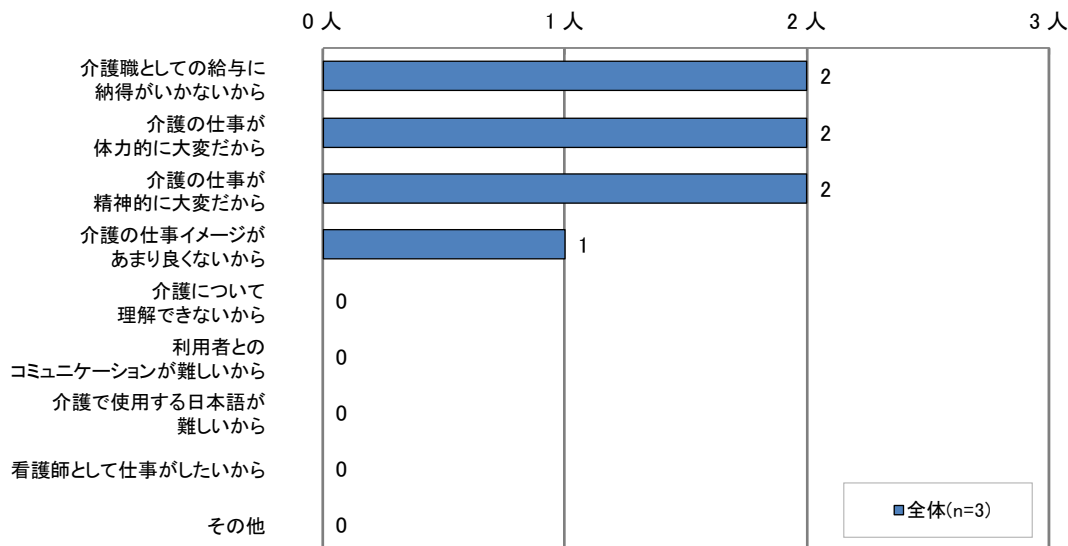
- ・家族の介護が必要になった。
- ・健康問題。

○ 介護職以外を希望する理由

【回答対象: 問 20-1 で「介護職以外の仕事がしたいから」と回答した人】

「介護職としての給与に納得がいけないから」、「介護の仕事が体力的に大変だから」、「介護の仕事が精神的に大変だから」がそれぞれ 2 人、「介護の仕事イメージがあまり良くないから」が 1 人となっている。

問20B.あなたが、介護職以外の仕事がしたいと思ったのはなぜですか。(複数選択) (n=3)



○ 希望する進学先

【回答対象: 問 20-1 で「進学したいから」と回答した人】

回答対象 1 人の回答は、「日本や母国以外の別の国の医療や介護に関係のない学校(大学・専門学校等)」だった。

○ 現職からの退職を考えた理由(プライベート面)

【回答対象: 問 20-1 で「プライベートな理由(家族、趣向等に関わる理由等)から」と回答した人】

「母国の家族が心配するから」が 4 人、「日本以外のほかの国に行きたいから」が 2 人となっている。

○ 日本での暮らしを困難と感じた理由

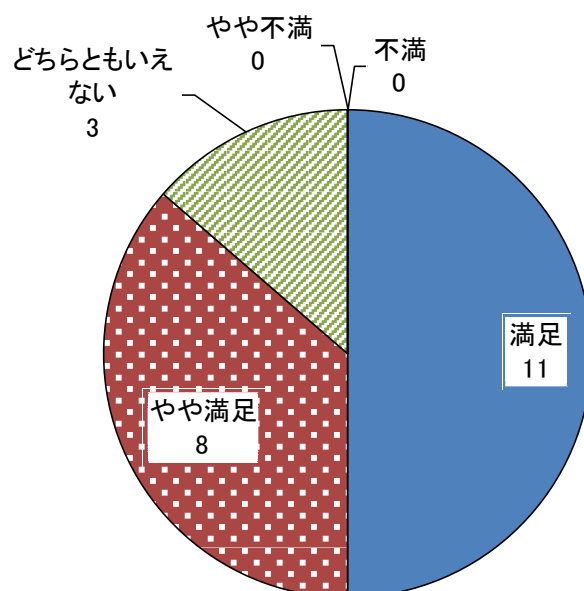
【回答対象: 問 20-1 で「日本で暮らしていくのが大変だから」と回答した人】

回答対象 1 人の回答は、「日本に知り合いがあまりできず、孤独だから」、「ホームシックになったから」だった。

3.11 現在の業務に対する満足度

“満足”が19人（「満足」が11人、「やや満足」が8人）が多い。「やや不満」、「不満」は0人となっている。

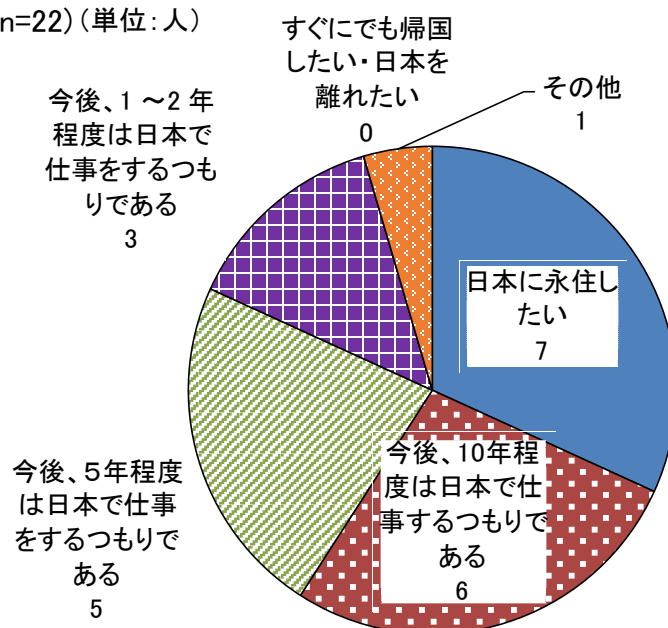
問21. あなたは、現在の仕事をどのように感じていますか。
(1つ選択) (n=22)(単位:人)



3.12 在留意向

「日本に永住したい」(7人)が最も多く、「今後、10年程度は日本で仕事するつもりである」(6人)、「今後、5年程度は日本で仕事をするつもりである」(5人)、「今後、1～2年程度は日本で仕事をするつもりである」(3人)と続く。

問22. あなたの、在留意向を教えてください。(1つ選択)
(n=22)(単位:人)



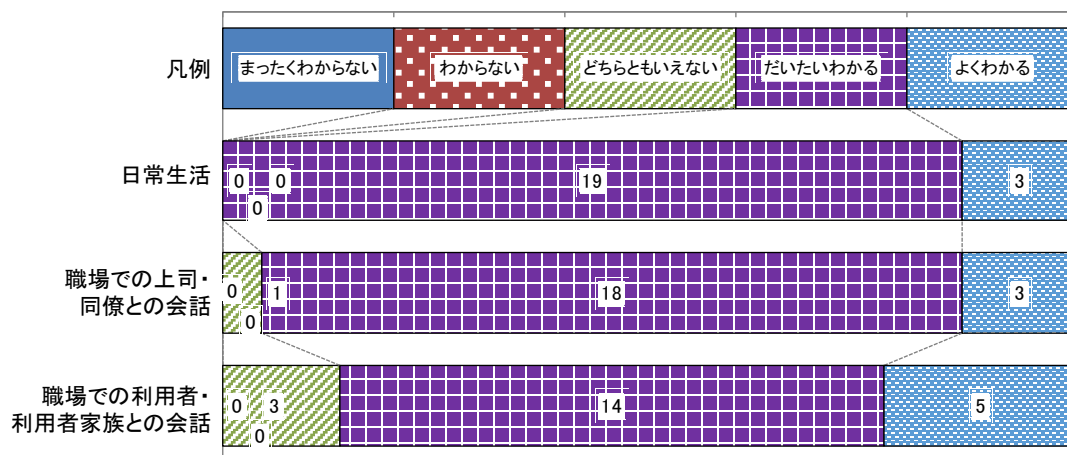
4 日本での生活全般

4.1 使用場面毎の日本語理解力

『日常生活』での日本語は、22 人全員が“わかる”（「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計）と回答している。

『職場での上司・同僚との会話』での日本語は、“わかる”が 21 人、『職場での利用者・利用者家族との会話』での日本語は、“わかる”が 19 人となっている。

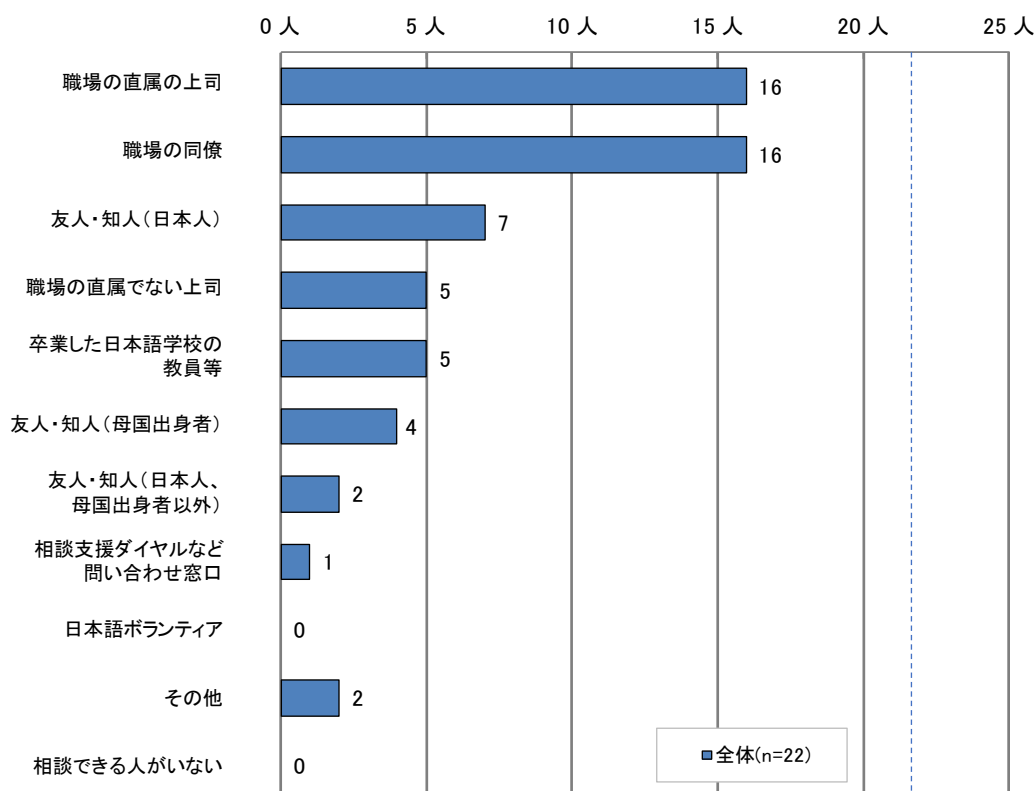
問23. 日本語の理解度(1つ選択) (n=22) (単位:人)



4.2 日本語による会話で困難を感じた際の相談先

「職場の直属の上司」、「職場の同僚」（それぞれ 16 人）が多い。また「相談できる人がいない」と回答した人はいなかった。

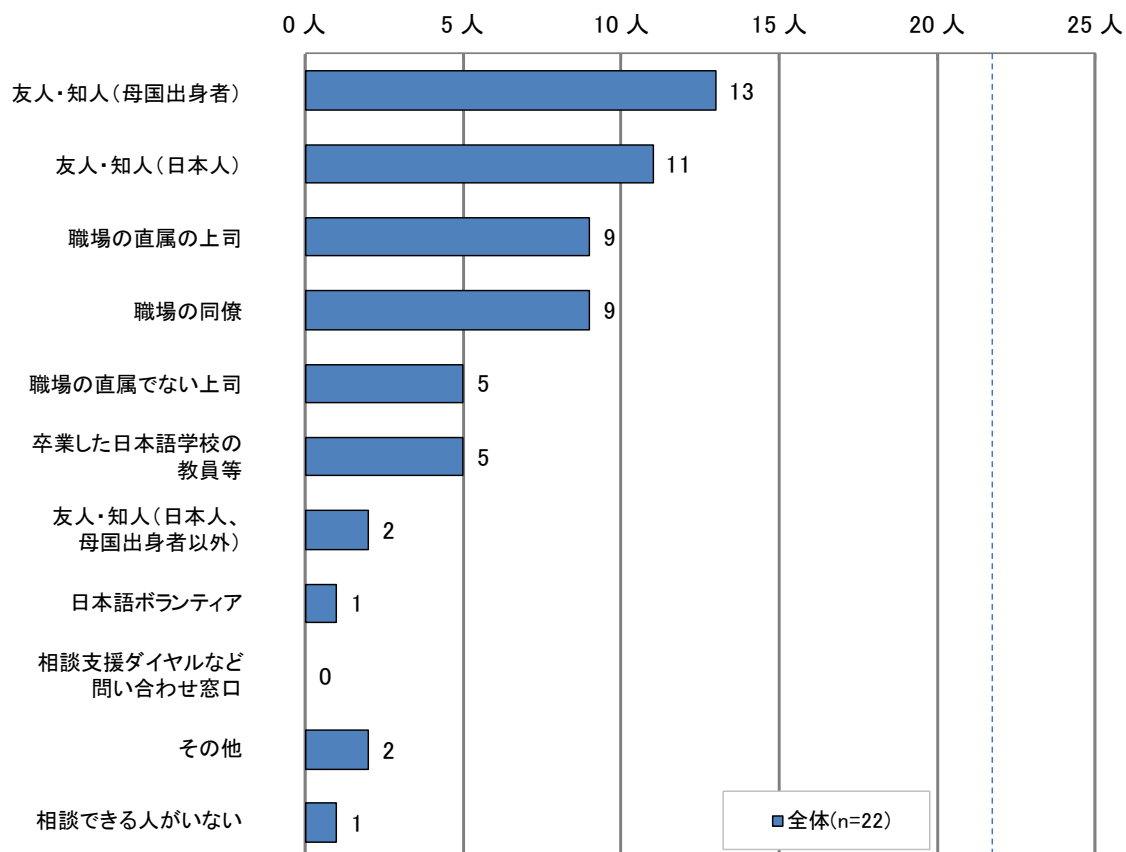
問24. あなたは、日本語の会話で困ったとき、誰に相談していますか。(複数選択) (n=22)



4.3 日本での生活に困難を感じた際の相談先

「友人・知人（母国出身者）」（13人）が最も多く、「友人・知人（日本人）」（11人）、「職場の直属の上司」、「職場の同僚」（それぞれ9人）と続く。また「相談できる人がいない」が1人となっている。

問25. あなたは、日本での生活で困ったとき、誰に相談していますか。（複数選択）（n=22）



【問 26.日本の生活で困っていること(自由回答)】

- ・生活に関して、特に困ったことはないが、冬になるととても寒く、自分の身体にあまり良くないと思っている。
- ・車の購入など、色々な手続き。
- ・給料が安く、生活はできてもお金を稼ぐのは難しいこと。
- ・行政に関することがあまり分からない。(保険、税金等)
- ・税金、保険、年金の支払いなど。
- ・税金。
- ・介護の在留資格を取るまでにお金がかかりすぎる。
- ・文化、言葉。
- ・不動産（物件）の賃貸時は非常に難しい。

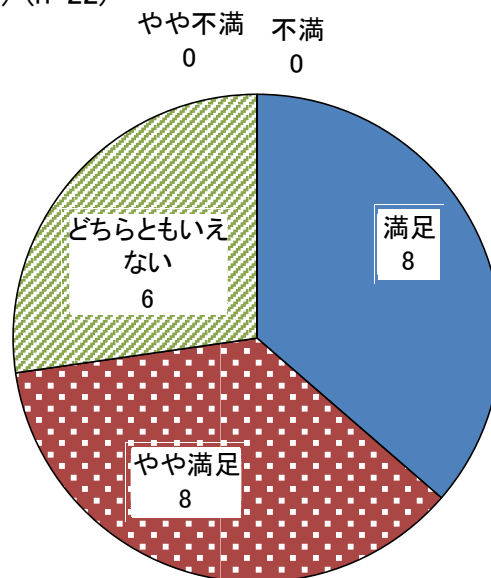
【問 27.日本の生活で支援してほしいこと(自由回答)】

- ・ 自立した生活が出来るように支援する(アルバイト、居室等を無料で紹介する)。
- ・ 生活の安定。
- ・ 給料が安い。
- ・ 税金免除。
- ・ 外国人向きの税金の相談窓口あれば良いと思う。
- ・ 養成校にいる時、「申告書」を書いたことがないので、高額な税金が取られた。市役所に相談に行っても、何も役に立たなかった。
- ・ 生活範囲が狭い。友達がいない。
- ・ 外国人に向く活動が欲しい。
- ・ 不動産（物件）の賃貸支援。
- ・ 家族をつれてきたい。

4.4 日本での生活への満足度

“満足”は16人（「満足」が8人、「やや満足」が8人）となっている。不満と回答した人はいなかった。

問28. あなたは、日本での生活をどのように感じていますか。(1つ選択) (n=22)
(単位:人)

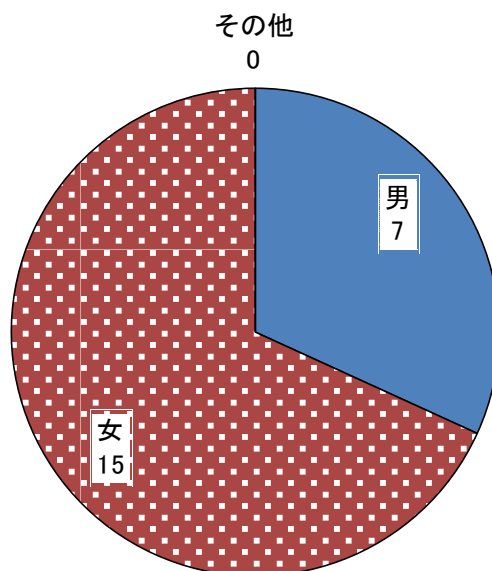


5 回答者(介護施設・事業所等で働いている外国人介護職員)自身の情報

5.1 性別

「女」が15人、「男」が7人となっている。

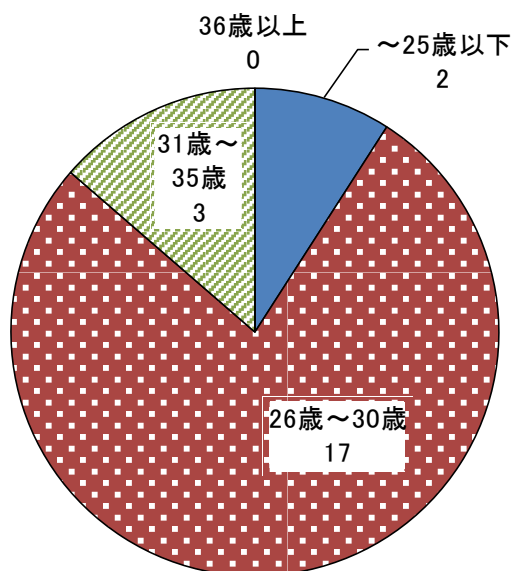
問29. あなたの性別を教えてください。(1つ選択) (n=22)(単位:人)



5.2 年齢

「26歳～30歳」が17人、「31歳～35歳」が3人、「～25歳以下」が2人となっている。

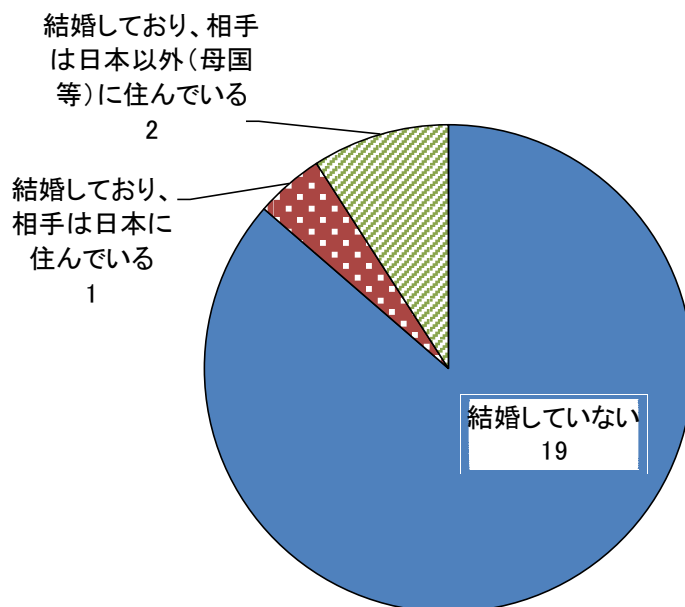
問30. あなたの年齢を教えてください。(1つ選択) (n=22)(単位:人)



5.3 既婚・未婚

「結婚していない」が19人、「結婚しており、相手は日本以外（母国等）に住んでいる」が2人、「結婚しており、相手は日本に住んでいる」が1人となっている。

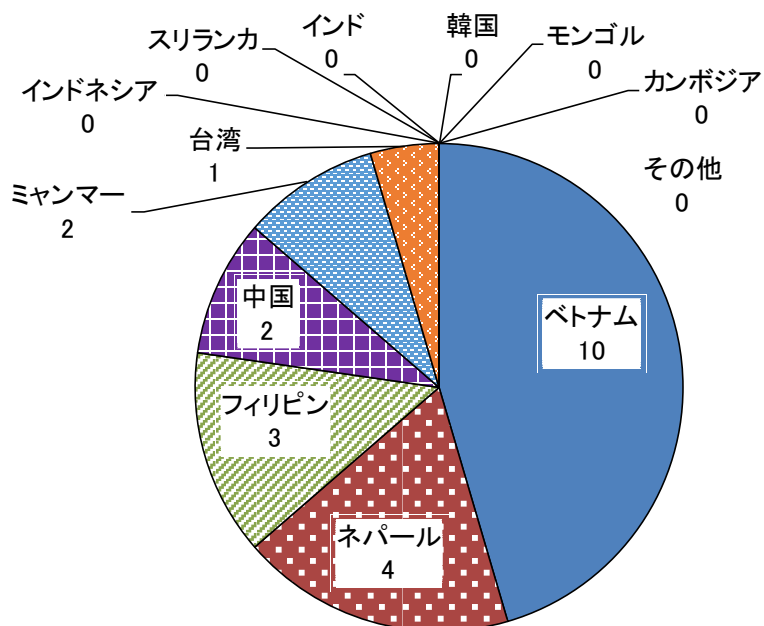
問31. あなたは結婚していますか。(1つ選択) (n=22) (単位:人)



5.4 国籍

「ベトナム」が10人、「ネパール」が4人、「フィリピン」が3人、「中国」、「ミャンマー」がそれぞれ2人となっている。

問32. あなたの国籍を教えてください。(1つ選択) (n=22) (単位:人)



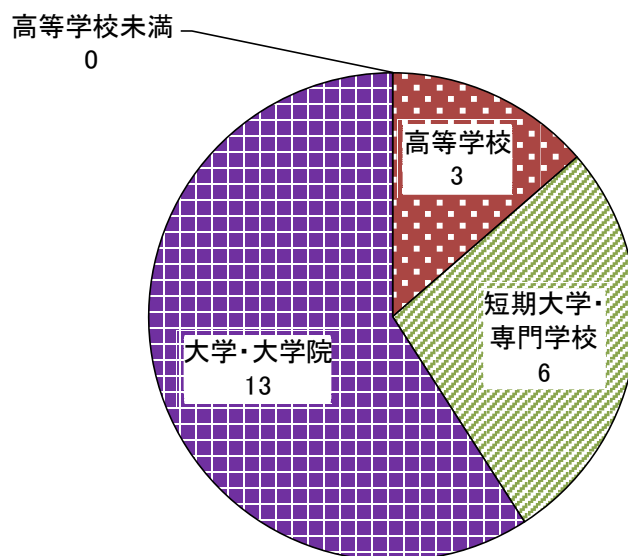
5.5 母国での最終学籍/資格取得/就業経験

5.5.1 母国での最終学籍・看護関連の資格/卒業資格/職歴

① 最終学籍

「大学・大学院」(13 人)が最も多く、「短期大学・専門学校」(6 人)、「高等学校」(3 人)と続く。

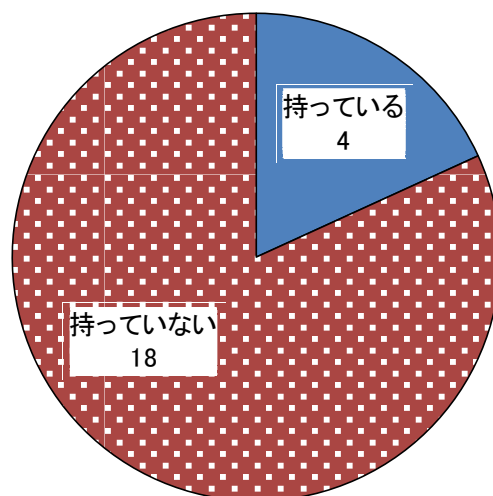
問33(1).あなたの母国での最終学歴(1つ選択) (n=22)(単位:人)



② 看護関連の資格・卒業資格

「持っていない」が18人、「持っている」が4人となっている。

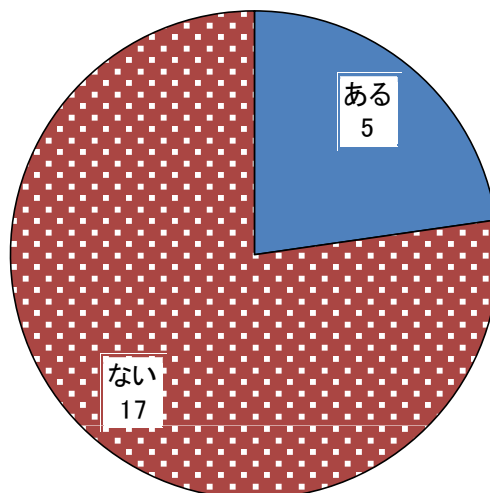
問33(2).母国での看護関連の資格・卒業資格の有無(1つ選択) (n=22)(単位:人)



③ 看護関連の就業経験

「ない」が17人、「ある」が5人となっている。

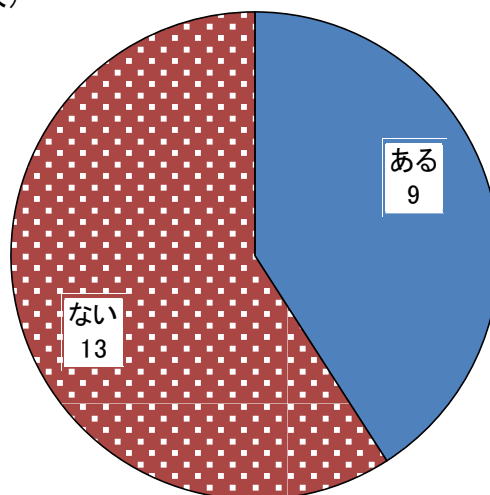
問33(3).母国で看護関連の仕事をした経験(1つ選択)
(n=22)(単位:人)



④ 看護関連以外の就業経験

「ない」が13人、「ある」が9人となっている。

問33(4).母国で看護関連以外の仕事をした経験(1つ選択)
(n=22)(単位:人)

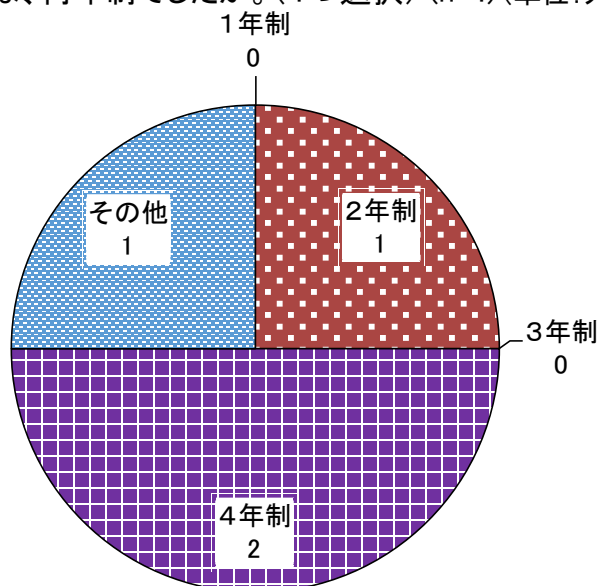


5.5.2 母国の看護学校の修業年限

【回答対象: 問 33 で「持っている」と回答した人】

「4 年制」が 2 人、「2 年制」が 1 人となっている。

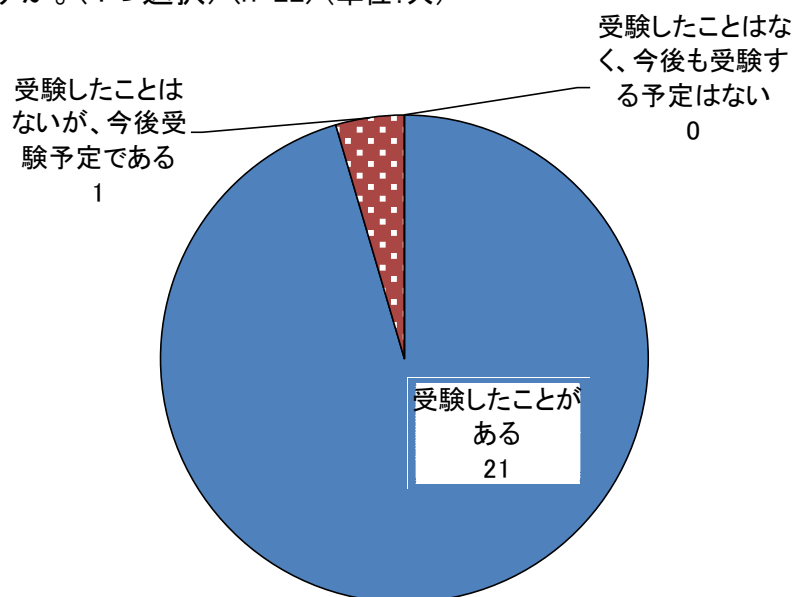
問33-1. あなたが通っていた看護の学校(大学、専門学校、高等学校等)は、何年制でしたか。(1つ選択) (n=4)(単位:人)



5.6 介護福祉士国家試験の受験歴

「受験したことがある」が 21 人、「受験したことはないが、今後受験予定である」が 1 人となっている。

問34. あなたは、介護福祉士国家試験を受験したことはありますか。(1つ選択) (n=22)(単位:人)



5.6.1 介護福祉士資格の有無

【回答対象: 問 34 で「受験したことがある」と回答した人】

「持っている」が 15 人、「持っていないが、今後受験予定」が 5 人、「持っておらず、今後受験する予定はない」が 1 人となっている。

問34-1. 介護福祉士の資格は持っていますか。(1つ選択)

(n=21)(単位:人)

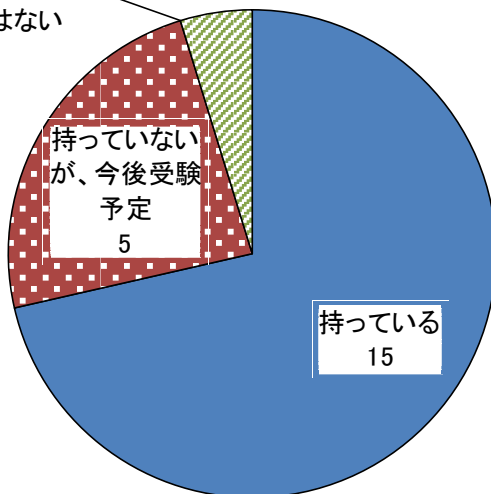
持っておらず、
今後受験する
予定はない

1

持っていない
が、今後受験
予定

5

持っている
15



5.7 現在就業中の介護施設・事業所の区分

「介護老人福祉施設」が9人となっている。

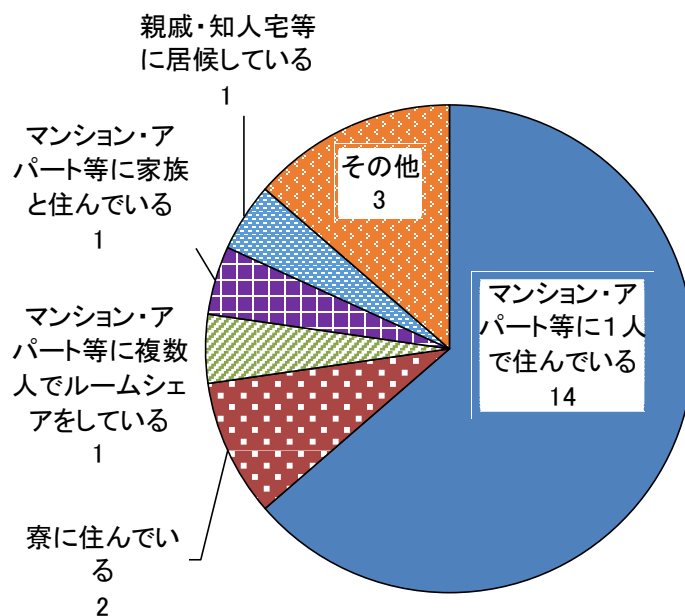
問35. あなたが働いている介護施設・事業所の区分は、どれにあてはまりますか。(複数選択)

サービス提供種類		サービス内容	人数(人)
介護サービス	在宅サービス	訪問介護	2
		訪問入浴介護	-
		訪問リハビリテーション	-
		通所介護	4
		通所リハビリテーション	-
		福祉用具貸与	-
		短期入所生活介護	5
		短期入所療養介護	1
		居宅療養管理指導	-
		特定施設入居者生活介護	1
	居宅介護支援サービス	居宅介護支援	2
	施設サービス	介護老人福祉施設	9
		介護老人保健施設	2
		介護療養型医療施設	-
介護予防サービス		介護予防訪問介護	-
		介護予防訪問入浴介護	-
		介護予防訪問リハビリテーション	-
		介護予防居宅療養管理指導	-
		介護予防通所介護	1
		介護予防通所リハビリテーション	-
		介護予防短期入所生活介護	1
		介護予防短期入所療養介護	-
		短期入所療養介護	-
		介護予防特定施設入居者生活介護	-
		介護予防福祉用具貸与	-
		指定介護予防支援	-
地域密着型サービス		夜間対応型訪問介護	-
		認知証対応型通所介護	-
		小規模多機能型居宅介護	2
		認知症対応型共同生活介護	2
		認知症対応型共同生活介護(短期利用型)	-
		地域密着型特定施設入居者生活介護	-
		地域密着型介護老人福祉施設	1
		介護予防認知症対応型通所介護	-
		介護予防小規模多機能型居宅介護	-
その他		介護予防認知症対応型共同生活介護	1
			3

5.8 住まい

「マンション・アパート等に1人で住んでいる」(14人)が最も多く、「寮に住んでいる」が2人、「マンション・アパート等に複数人でルームシェアをしている」、「マンション・アパート等に家族と住んでいる」、「親戚・知人宅等に居候している」がそれぞれ1人となっている。

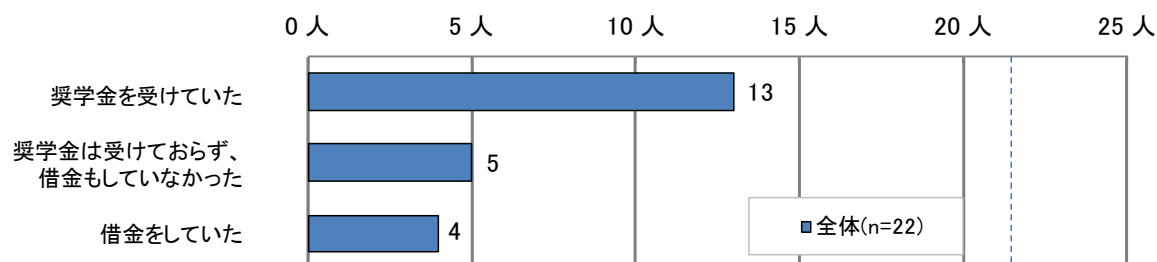
問36. あなたは、どのようなところに住んでいますか。(1つ選択)(n=22)(単位:人)



5.9 介護福祉士養成施設・日本語学校通学時の奨学金/借金について

「奨学金を受けていた」(13人)が最も多く、「奨学金は受けておらず、借金もしていなかった」が5人、「借金をしていた」が4人となっている。

問37. あなたが、介護福祉士養成校や日本語学校等に通っていたとき、奨学金を受けていたり、何らかの借金をしていたりしましたか(複数選択)(n=22)



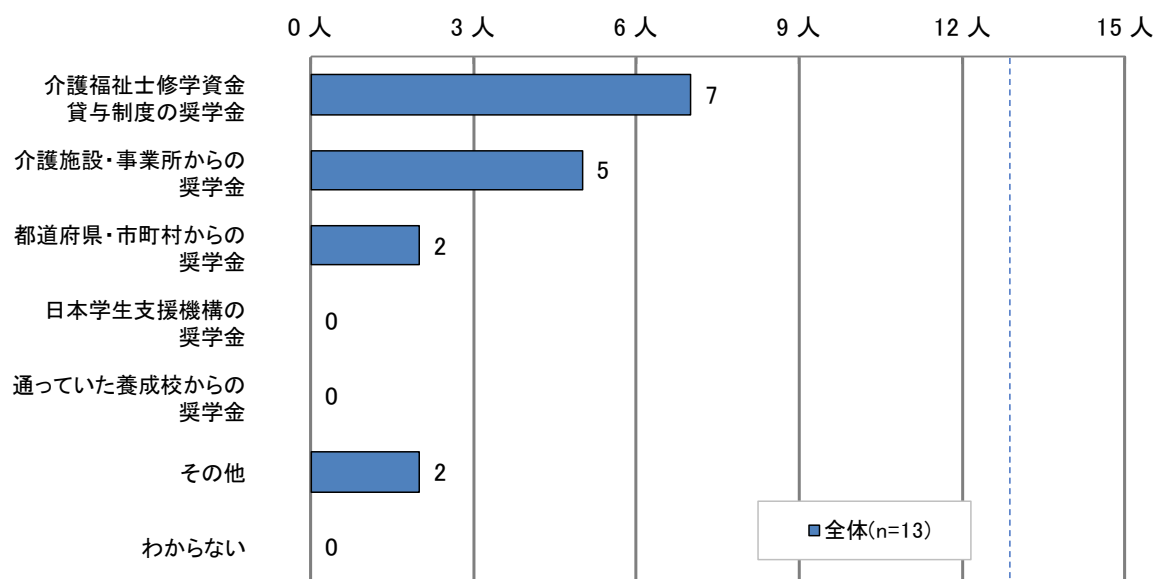
5.9.1 奨学金について

① 奨学金の支給先

【回答対象: 問 37 で「奨学金を受けていた」と回答した人】

「介護福祉士修学資金貸与制度の奨学金」(7 人)が最も多く、「介護施設・事業所からの奨学金」(5 人)、「都道府県・市町村からの奨学金」(2 人)と続く。

問37-1. あなたが受けていた奨学金は、どこから受けた奨学金ですか。(複数選択) (n=13)

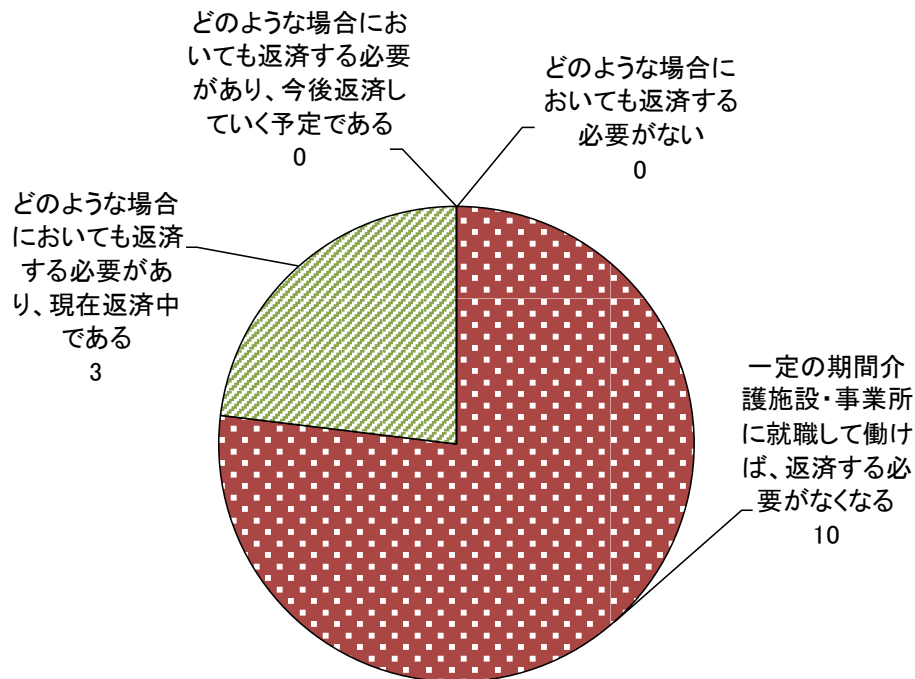


② 奨学金返済の有無

【回答対象: 問 37 で「奨学金を受けていた」と回答した人】

「一定の期間介護施設・事業所に就職して働けば、返済する必要がなくなる」が 10 人、「どのような場合においても返済する必要がある、現在返済中である」が 3 人となっている。

問37-2. あなたが受けていた奨学金は、今後返済する必要はありますか。(1つ選択) (n=13)(単位:人)

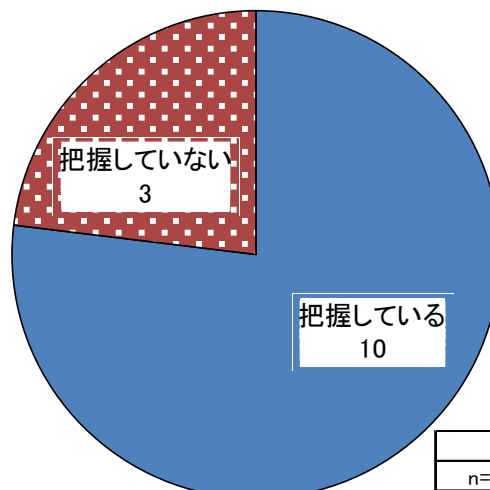


③ 奨学金の総額

【回答対象: 問 37-2 で「一定の期間介護施設・事業所に就職して働けば、返済する必要がなくなる」「どのような場合においても返済する必要がある、現在返済中である」と回答した人】

「把握している」が 10 人、「把握していない」が 3 人となっている。

問37-3. あなたが受けている奨学金の総額を把握していますか(1つ選択) (n=13)
(単位:人)



(円)			
	平均	最小値	最大値
n=8	1,472,500	800,000	1,900,000

※無回答等を除く

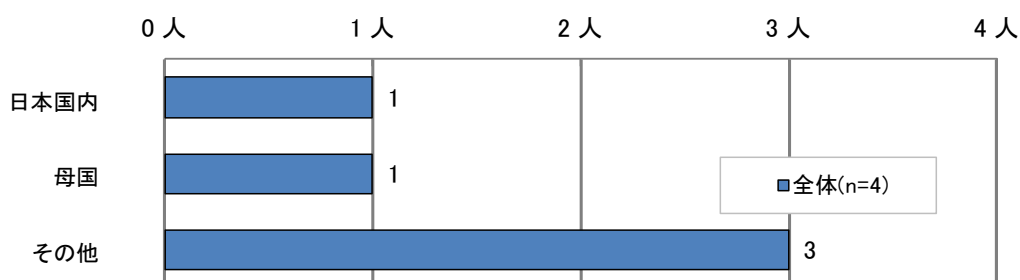
5.9.2 借金について

① 借金をした国

【回答対象: 問 37 で「借金をしていた」と回答した人】

「日本国内」が 1 人、「母国」が 1 人となっている。

問37-4. あなたはどこで借金をしましたか。(複数選択) (n=4)

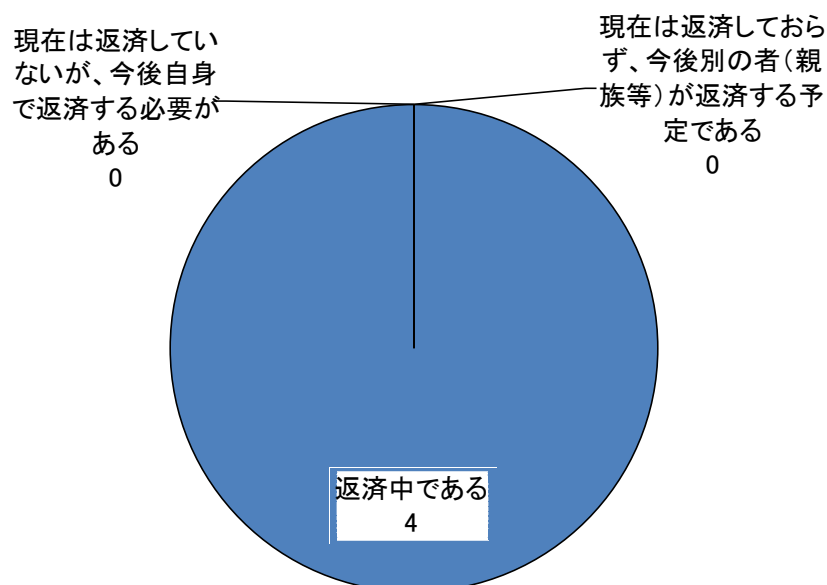


② 借金の返済

【回答対象: 問 37 で「借金をしていた」と回答した人】

回答対象の 4 人全員が、「返済中である」となっている。

問37-5. 現在、あなたは借金を返済中ですか。(1つ選択)
(n=4)(単位: 人)



附属資料

アンケート調査票

i. 養成施設への外国人留学生の受入れに関するアンケート調査

厚生労働省 社会援護局 補助事業
「介護福祉士を目指す外国人留学生等に対する相談支援等の体制整備事業」

平成30年10月（養成施設票）

養成施設への外国人留学生の受入れに関する アンケート調査

【ご回答にあたりまして】

現在、留学生が所属している養成施設の方は
⇒以下、**A票（P.2～P.16）**をご回答ください。

ご記入にあたっては、貴校に所属する留学生の状況等について把握している方が記入してください。

現在、留学生が所属していない養成施設の方は
⇒以下、**B票（P.17～P.20）**をご回答ください。

ご記入にあたっては、貴校に所属する学生に関する事柄全般について把握している方が記入してください。

【本調査の目的】

平成28年11月に「出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律」が成立・公布され、新たに在留資格「介護」が創設されました（平成29年9月より施行）。これにより、介護福祉士の資格を取得し、日本国内で介護の業務に従事するため、介護福祉士養成施設への外国人留学生が増加していくことが予想されています。

本アンケート調査は、全国の介護福祉士養成施設における外国人留学生の受入れの実態を把握するとともに、既に外国人留学生を受入れしている施設における課題、および、受入れしていない施設における受入れしない理由等の事情を把握したうえで、外国人留学生等の抱える課題に対する相談支援や日常生活面における支援を実施する体制を整備し、外国人留学生が円滑に学習・就労等を行うことができるような支援策を検討することを目的として実施するものです。

【本調査の対象】

全国の介護福祉士養成施設

【回答期限】

ご記入が終わった調査票は、同封の返信用封筒に入れ、
11月5日（月）までに 郵便ポストに投函してください。

【調査票の取扱いに関しまして】

- ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。
- ・調査結果については取りまとめを行い、厚生労働省に提出させていただきます。
- ・調査への拒否や、一部の調査項目への回答拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

■本調査に関する問合せ先

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル5階
株式会社日本能率協会総合研究所 福祉・医療政策支援部
担当：笠原、岡田、政岡、川村
TEL：（フリーダイヤル）0120-304-603（平日 10:00～17:00）FAX：03-3432-1837

■本事業の趣旨等に関する問合せ先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-14 三久ビル7階
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 事務局
担当：山田、石田
TEL：03-5512-4745（平日 10:00～17:00）FAX：03-5512-4746

【A票】（P.2～P.16）

A票は、現在、留学生が所属している介護福祉士養成施設の方のみお答えください

問1. 現在貴校に所属している外国人留学生の人数と、日本人学生の人数を教えてください。
該当者がいない場合は、0人と記載してください。

出身国		人数			
		H31年3月 卒業予定者	H32年3月 卒業予定者	H33年3月 卒業予定者	H34年3月 卒業予定者
1.	日本人学生総数	()人	()人	()人	()人
2.	外国人留学生総数	()人	()人	()人	()人
外国人留学生 国別内訳	2-1. ベトナム	()人	()人	()人	()人
	2-2. 中国	()人	()人	()人	()人
	2-3. ネパール	()人	()人	()人	()人
	2-4. インドネシア	()人	()人	()人	()人
	2-5. フィリピン	()人	()人	()人	()人
	2-6. スリランカ	()人	()人	()人	()人
	2-7. ミャンマー	()人	()人	()人	()人
	2-8. インド	()人	()人	()人	()人
	2-9. 韓国	()人	()人	()人	()人
	2-10. モンゴル	()人	()人	()人	()人
	2-11. カンボジア	()人	()人	()人	()人
	2-12. 台湾	()人	()人	()人	()人
	2-13. その他 ()	()人	()人	()人	()人
	2-14. その他 ()	()人	()人	()人	()人

問2. 現在貴校に所属している外国人留学生の人数と日本人学生の人数、及び介護福祉士国家試験受験者数と合格者数を教えてください。該当者がいない場合は、0人と記載してください。

出身国		人数							
		H28年3月卒業者		H29年3月卒業者		H30年3月卒業者			
		入学時	うち卒業までの退学者数	入学時	うち卒業までの退学者数	入学時	うち卒業までの退学者数	うち国家試験受験者数	うち国家試験合格者数
1. 日本人学生総数		()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
2. 外国人留学生総数		()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
外国人留学生 国別内訳	2-1. ベトナム	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-2. 中国	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-3. ネパール	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-4. インドネシア	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-5. フィリピン	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-6. スリランカ	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-7. ミャンマー	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-8. インド	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-9. 韓国	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-10. モンゴル	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-11. カンボジア	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-12. 台湾	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-13. その他 ()	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人
	2-14. その他 ()	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人	()人

問3. 現在貴校に所属している職員で、以下それぞれの国の言語を話すことのできる（日常会話程度以上）職員はいますか。

対応できる言語	人数	対応できる言語	人数
1. ベトナム	()人	9. 韓国	()人
2. 中国	()人	10. モンゴル	()人
3. ネパール	()人	11. カンボジア	()人
4. インドネシア	()人	12. 台湾	()人
5. フィリピン	()人	13. 英語	()人
6. スリランカ	()人	14. その他 ()	()人
7. ミャンマー	()人	15. その他 ()	()人
8. インド	()人	16. 把握していない	()人

<外国人留学生に求める能力・資質について伺います>

問4. 貴校では、外国人留学生の入学試験（選抜）をどのような方法で行っていますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 面接 ⇒問4-1へ
2. 作文 ⇒問4-2へ
3. 筆記試験（上記2. 以外） ⇒問4-3へ
4. その他の方法 ()
5. 入学試験（選抜）は実施していない

} ⇒問5へ

【問4で1.を選択した方】

問4-1. 面接において、どのようなことを外国人留学生に確認していますか。（自由記述）

<面接時の確認事項>（例：介護に関する知識、日本語会話能力 等）

【問4で2.を選択した方】

問4-2. 作文において、どのようなことをテーマとしていますか。（自由記述）

<作文の題目> ※詳しくご記載ください

【問4で3.を選択した方】

問4-3. 筆記試験において、どのような内容の試験としていますか。（自由記述）

<筆記試験の内容> ※詳しくご記載ください

問5. 貴校では、外国人留学生に対して「日本語能力」を入学要件としていますか。（どちらかに○）

1. 入学要件としている ⇒問5-1へ
2. 入学要件としていない ⇒問6へ

【問5で1.を選択した方】

問5-1. 貴校では、「日本語能力」をどのような方法で確認していますか。また、それぞれの要件を教えてください。（あてはまるものいくつかでも○、もしくは要件を記入）

入学の際、試験等で判定している項目 (あてはまるものいくつかでも○)	応募資格の要件 (要件を選択もしくは記載)
1. 日本語能力試験 (JLPT)	1. N1 2. N2以上 3. N3以上 4. N4以上 5. N5以上
2. 日本語NAT-TEST	1. 1級 2. 2級以上 3. 3級以上 4. 4級以上 5. 5級以上
3. 実用日本語検定J.TEST	1. A-Dレベル試験の点数が () 点以上
4. 日本留学試験EJUの日本語科目	450点中 () 点以上
5. BJTビジネス日本語能力テスト	() 点以上
6. 法務大臣により告示されている 日本語教育機関で教育を受けた期間	() ヶ月以上
7. 国外の日本語教育機関で教育を 受けた期間	() ヶ月以上
8. 筆記試験（上記の日本語試験以外で 貴校独自で行うもの）	※詳細を記載してください ()
9. その他の方法 ()	※詳細を記載してください ()

問6. 貴校では、外国人留学生に対して「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」を入学要件としていますか。（どちらかに○）

1. 入学要件としている ⇒問6-1、問6-2へ
2. 入学要件としていない ⇒問7へ

【問6で1.を選択した方】

問6-1. 貴校では、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」をどのような方法で確認していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 面接
2. 作文
3. 筆記試験（上記2. 以外）
4. その他の方法 ()

【問6で1.を選択した方】

問6-2. 貴校では、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」について、どの程度の入学要件としていますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 一般的な日本人レベルの理解がある
2. 生活する地域の日本人（介護福祉士養成施設の他学生を含む）とよりよく生活するための、基本的習慣・マナーの理解がある
3. マナー等の理解は低くしばしば意思疎通が取れない場合があるが、日本で生活するために必要な最低限度の生活習慣は理解がある
4. その他 ()

問7. 貴校では、外国人留学生に対して「介護に関連する知識等」を入学要件としていますか。（どちらかに○）

1. 入学要件としている ⇒問7-1、問7-2へ
2. 入学要件としていない ⇒問8へ

【問7で1.を選択した方】

問7-1. 貴校では、「介護に関連する知識等」をどのような方法で確認していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 面接
2. 作文
3. 筆記試験（上記2. 以外）
4. 資格証等、証明書の確認
5. その他の方法 ()

【問7で1.を選択した方】

問7-2. 貴校では、「介護に関連する知識等」について、どの程度の入学要件としていますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 出身国における関連する国家資格（看護師免許、看護学校卒業等）の取得
2. 日本の介護職員初任者研修レベルの知識の取得
3. 出身国もしくは日本において介護職等として就業した経験があること
4. その他 ()

問8. 貴校では、外国人留学生に対して「学業・就業への意欲」を入学要件としていますか。（どちらかに○）

1. 入学要件としている ⇒問8-1、問8-2へ
2. 入学要件としていない ⇒問9へ

【問8で1.を選択した方】

問8-1. 貴校では、「学業・就業への意欲」をどのような方法で確認していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 面接
2. 作文
3. 筆記試験（上記2. 以外）
4. その他の方法 ()

【問8で1.を選択した方】

問8-2. 貴校では、「学業・就業への意欲」について、どの程度の入学要件としていますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 介護福祉士の資格を取得し日本で介護業務に就業したいという意欲
2. 介護福祉士の資格について理解し、それを取得したいという意欲
3. 介護福祉士の資格への理解は無くても、日本に留学して学びたいという意欲
4. その他 ()

問9. 貴校では、外国人留学生に対して「修学資金や日本での生活費等への支払能力」を入学要件としていますか。（どちらかに○）

1. 入学要件としている ⇒問9-1へ
2. 入学要件としていない ⇒問10へ

【問9で1.を選択した方】

問9-1. 貴校では、「修学資金や日本での生活費等への支払能力」をどのような方法で確認していますか。（自由記述）

＜支払能力の確認方法＞（例：通帳のコピーの提出等）

＜外国人留学生の募集方法について伺います＞

問10. 外国人留学生を確保するために、他の機関等（自グループの機関を含む）と何らかの提携をしていますか。（どちらかに○）

1. はい ⇒問10-1～問10-3へ
2. いいえ ⇒問11へ

【問10で1.を選択した方】

問10-1. 提携先を教えてください。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 海外の日本語学校 ⇒（名称： ）
2. 海外の人材エージェント ⇒（名称： ）
3. 海外の医療・看護学校 ⇒（名称： ）
4. 海外の介護施設 ⇒（名称： ）
5. その他、海外
6. 国内の日本語学校
7. 国内の人材エージェント
8. 他の介護福祉士養成施設
9. 国内の介護施設
10. その他（ ）

【問10で1.を選択した方】

問10-2. 提携にあたり、文書の取交わりを行っていますか。（どちらかに○）

1. はい
2. いいえ

【問10で1.を選択した方】

問10-3. 提携内容を具体的に教えてください。（自由記述）

＜提携内容＞

問11. 貴校における、介護福祉士養成課程への外国人留学生の受入れ意向を教えてください。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 増やしたい
 2. 現状を維持したい
 3. 減らしたい
 4. やめたい
- ⇒問12へ
- ⇒問11-1へ

【問11で3.4.を選択した方】

問11-1. 問11の回答の理由を教えてください。（自由記述）

＜理由＞

<外国人留学生への受入れ体制について伺います>

問12. 貴校では、外国人留学生に対し以下の項目について、どのようなサポート体制をとっていますか。（それぞれあてはまるものいくつかでも○）

サポート体制の種類	介護学習について	日本語学習について	生活全般について	就職について
1. 留学生専門の部門設置	1	1	1	1
2. 専任教員・職員の配置	2	2	2	2
3. クラス担任の配置	3	3	3	3
4. その他（ ）	4	4	4	4
5. 特にしていない	5	5	5	5

問13. 貴校では、外国人留学生をサポートするために、どのような機関と提携していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

- | | | |
|-----------------------------|---------|-------|
| 1. 近隣の日本語学校（自校のグループ校） | ⇒問13-1へ | ⇒問14へ |
| 2. 近隣の日本語学校（自校のグループ校以外） | | |
| 3. 近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設） | ⇒問13-2へ | |
| 4. 近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設以外） | | |
| 5. 自治体 | ⇒問13-3へ | |
| 6. 日本語を指導する外部団体（NPO等） | ⇒問15へ | |
| 7. 留学生の生活等を指導する外部団体（NPO等） | | |
| 8. 地元の教育機関（大学、短期大学等） | | |
| 9. その他（ ） | | |
| 10. 特に提携している機関はない | | |

[問13で1.2.を選択した方]

問13-1. 日本語学校とどのような提携を行っていますか。提携している内容と提携のメリット、また提携していくにあたっての課題を教えてください。（自由記述）

<提携内容と提携のメリット> ※詳しくご記載ください

<提携していくにあたっての課題> ※詳しくご記載ください

[問13で3.4.を選択した方]

問13-2. 近隣の介護施設・事業所とどのような提携を行っていますか。提携している内容と提携のメリット、また提携していくにあたっての課題を教えてください。（自由記述）

<提携内容と提携のメリット> ※詳しくご記載ください

<提携していくにあたっての課題> ※詳しくご記載ください

[問13で5.を選択した方]

問13-3. 自治体とどのような提携を行っていますか。提携している内容と提携のメリット、また提携していくにあたっての課題を教えてください。（自由記述）

<提携内容と提携のメリット> ※詳しくご記載ください

<提携していくにあたっての課題> ※詳しくご記載ください

問14. どの機関との連携が、最も提携効果があると感じていますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 近隣の日本語学校（自校のグループ校）
2. 近隣の日本語学校（自校のグループ校以外）
3. 近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設）
4. 近隣の介護施設・事業所（自校のグループ施設以外）
5. 自治体
6. 日本語を指導する外部団体（NPO等）
7. 留学生の生活等を指導する外部団体（NPO等）
8. 地元の教育機関（大学、短期大学等）
9. その他（ ）

問15. 貴校では、外国人留学生のためにどのようなことを行っていますか。(あてはまるものいくつでも○)

1. 寮の完備
2. 寮監の配置
3. 留学生のための修学資金制度
4. 留学生のアルバイト先の確保
5. 留学生の就業先の確保
6. 礼拝所の宗教施設の設置等、信仰がある留学生への配慮
7. その他 ()
8. 特に行っていない

問16. 貴校では、外国人留学生が就職活動・および就職するにあたり、どのような課題がありましたか。(あてはまるものいくつでも○)

1. 日本語能力の面で面接官等と意思疎通が困難なことがあった
2. 外国人留学生の採用に積極的でない介護施設・事業所があった
3. 介護福祉士国家試験の勉強との両立
4. アルバイトとの両立
5. 介護施設・事業所からの奨学金を受けていたので、就職先の選択肢がなかった
6. 身元保証人がなかなか見つからなかった
7. 就職にあたって転居をしなければならなかった
8. その他 ()
9. 特に困ったことはなかった

<外国人留学生への教育体制について伺います>

問17. 貴校では、介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生をサポートするために、どのような教材が必要だと考えますか。(あてはまるものいくつでも○)

1. 既存のテキストの留学生向けの解説書
2. 介護に特化した言葉遣い、言葉かけ等の会話集
3. 留学生向けの国家試験対策教材
4. 留学生向けの介護専門用語集
5. 留学生向けに平易な日本語で書かれた教科書の作成
6. 教職員向けの指導手引き
7. パソコンの日本語入力に関する教材
8. 職業倫理、接遇やマナーに関する教材
9. 介護福祉士養成施設が所在する地域の文化、習慣、方言等を理解するための教材
10. その他 ()
11. 何が必要となるかわからない

問18. 貴校では、留学生を対象とした独自の教育を実施していますか。(最もあてはまるもの1つに○)

1. 現在、実施している
2. 現在、実施していないが、今後、実施する予定・計画がある
3. 現在、実施していないが、これから実施の検討をしていく予定
4. 現在、実施しておらず当面、実施する予定もない
5. その他 ()

} ⇒問18-1へ

} ⇒問19へ

[問18で1.2.を選択した方]

問18-1. 貴校で実施している(または実施予定の)独自の教育について、具体的に教えてください。(自由記述)※複数の独自教育を行っている場合は、複数記載してください。

項目	<テーマ・内容> 例) 日本語の日常会話	<時間数・期間等> 例) 1年前期隔週 1回
その1		
その2		
その3		

問19. 貴校では、外国人留学生が以下の項目を身につけることについて、どのように考えますか。（それぞれ最もあてはまるもの1つに○）

身につけてほしい能力	重視しない	あまり重視しない	どちらともいえない	やや重視する	重視する
1. 介護業務に対応したコミュニケーションスキル（職員・利用者等との会話）	1	2	3	4	5
2. 介護記録等に係る日本語文章力（読み・書き）	1	2	3	4	5
3. 日本式接遇（利用者等に対する態度・言葉遣い等）の理解と実践	1	2	3	4	5
4. 日本の文化・生活・習慣の理解	1	2	3	4	5
5. 日本の介護事情・高齢者への理解	1	2	3	4	5

問20. 貴校では、外国人留学生が介護実習を行うにあたり、どのような課題がありますか。（自由記述）

＜介護実習を行うにあたっての課題＞ ※詳しくご記載ください

問21. 貴校では、外国人留学生に対してどのような国家試験受験対策を行っていますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 施設内にて教育担当があり、充分な指導ができる体制をとっている
2. 施設内に教育担当はいるが、時間割上、或いは時間的制約があり充分な教育ができない状況
3. 外部に委託（外部講師、予備校など）している
4. 外部に委託をしたいが、近隣に適当な機関がない
5. 学習時間を設け、自習を行わせている
6. その他（ ）
7. 特に特別な対応はとっていない

＜留学生のアルバイトについて伺います＞

問22. 貴校では、外国人留学生が行うアルバイトをどのように管理していますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. アルバイトに関する法的条件（※）の周知徹底
2. 資格外活動許可申請をしているかの確認
3. アルバイト先の把握
4. アルバイト先の斡旋 ⇒問22-1へ
5. 過当たり勤務時間数の把握
6. アルバイト先に対する就労上の注意点の説明
7. 実習期間中のアルバイトの禁止
8. 授業として行う介護実習と、介護施設・事業所でのアルバイトの区分けを徹底すること
9. その他（ ）
10. 特に管理はしていない

⇒問23へ

（※）外国人留学生（在留資格「留学」対象者）にかかる資格外活動について（入管法第19条より）

外国人留学生がアルバイト等（許可された在留資格に応じた活動以外に、収入を伴う事業を運営する活動又は報酬を受ける活動）を行うときは、以下の事柄を守する必要があります。違反すると、在留資格が取り消しになることがあります。

- アルバイトを行う際は、あらかじめ外国人留学生が入国管理局に申請し、法務大臣から資格外活動の許可を受けなければならない
- 1週間の労働時間は28時間以内（在籍する教育機関が学則で定める長期休業期間にあるときは、1日について8時間以内）でなければならない
- チャラレー、スナックなど、店内の照明が10ルクス以下の喫茶店・バーなど、麻雀屋・パチンコ店、スロットマシン設置店、派遣型ファッション、アダルトビデオ通信販売、インターネット上でわいせつ映像を提供する営業に従事するアルバイト等、風俗関連の業種でアルバイトをすることは禁止

【問22で4.を選択した方】

問22-1. 外国人留学生のアルバイト先として、介護施設・事業所のアルバイトを斡旋したことはありますか。（どちらかに○）

1. ある ⇒問22-2へ
2. ない ⇒問23へ

【問22-1で1.を選択した方】

問22-2. 介護施設・事業所のアルバイトの斡旋をした結果、どのようなメリット・デメリットがありましたか。（自由記述）

＜メリット＞ ※詳しくご記載ください

＜デメリット＞ ※詳しくご記載ください

＜外国人留学生の退学理由について伺います＞

問23. 貴校では、外国人留学生を受入れるようになってから現在までに、どのような自己都合の理由により、外国人留学生は退学しましたか。（あてはまるものいくつか、最も多いものに◎）

1. 日本での生活が合わないから
2. 日本語の勉強が大変だから
3. 介護職に就きたくなかったから
(介護の勉強が大変、介護の仕事がきつい等の理由により)
4. 介護福祉士養成施設での人間関係（生徒・教員等）がうまくいかないから
5. 日本での生活資金や介護福祉士養成施設での就学資金が足りなくなったから
6. 日本で他の介護福祉士養成施設へ進学するから
7. 日本で他の学校（介護に関係のない大学・専門学校等）へ進学するから
8. 日本で就職（介護職以外）するから
9. 母国で就職するから
10. 母国で進学するから
11. 母国で就職・進学をするわけではないが、単に帰国したいから
(母国の家族が心配、母国が恋しい等の理由により)
12. 結婚（妊娠）する（した）から
13. その他（ ）
14. 自己都合の場合は、退学理由を把握していない
15. 今まで自己都合により退学した留学生はいない

問24. 貴校では、外国人留学生を受入れるようになってから現在までに、どのような自己都合以外の理由により、外国人留学生は退学（強制退学含む）しましたか。（あてはまるものいくつか、最も多いものに◎）

1. 介護福祉士養成施設での学習態度等が悪く、除籍としたから
2. 介護福祉士養成施設での成績不良のため、進級（卒業）にあたり、単位が足りなかったから
3. 介護福祉士養成施設入学前に所属していた日本語学校での出席日数が足りない等の理由で、在留資格が取り消されたから
4. 介護福祉士養成施設での出席日数が足りない等の理由で、在留資格が取り消されたから
5. アルバイト時間が所定の時間を超えていたことで、在留資格が取り消されたから
6. 虚偽の申告等をしており、在留資格が取り消されたから
7. 居住地の変更の届出を期間内にしておらず、在留資格が取り消されたから
8. その他（ ）
9. 自己都合以外の場合は、退学理由を把握していない
10. 今まで自己都合以外の理由で退学（強制退学含む）した留学生はいない

⇒問24-1へ

⇒問25へ

【問24で10.以外を選択した方】

問24-1. 貴校では、外国人留学生を除籍とした場合、どのような方法で帰国確認をしていますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 帰国前の確認、帰国後の確認を両方行っている
2. 帰国前の確認のみ行っている
3. 帰国後の確認のみ行っている
4. 帰国前の確認、帰国後の確認のどちらも行っていない

⇒問24-2へ

⇒問25へ

【問24-1で4.以外を選択した方】

問24-2. 具体的な帰国確認の方法を教えてください。（自由記述）

＜帰国前の確認＞ 例）帰国便の航空券（予約確認票）の確認（写しを保管）

＜帰国後の確認＞ 例）出国、入国のスタンプが押されたパスポート（旅券）のコピーを FAX や E-mail で送信させる

問25. 貴校では、外国人留学生を退学させないため、また学業を継続させるために、学業の度合いや生活習慣等について、どのような特別なサポート体制をとっていますか。（自由記述）

＜サポート体制＞ 例）2日連続で無断欠席した場合は自宅訪問を実施 等

＜その他の事柄＞

問26. 外国人留学生の受入れについて、介護福祉士養成施設としてどのようなことが課題となるか、教育・生活指導・就職指導など、どの観点からでもかまいませんので、ご意見をお聞かせください。（自由記述）

＜課題＞

現在、外国人留学生が所属している介護福祉士養成施設の方については、
以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。

【B票】（P.17~P.20）

B票は、現在、外国人留学生在が所属していない介護福祉士養成施設の方のみお答えください

＜外国人留学生の受入れについてご回答ください＞

問1. 過去に受入れたことのある留学生の出身国を教えてください。過去に受入れたことがない場合は、「14. 過去に留学生を受入れたことはない」を選択してください。（あてはまるものいくつかでも○）

1. ベトナム
2. 中国
3. ネパール
4. インドネシア
5. フィリピン
6. スリランカ
7. ミャンマー
8. インド
9. 韓国
10. モンゴル
11. カンボジア
12. 台湾
13. その他（ ）
14. 過去に留学生を受入れたことはない

問2. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、入学時において、「日本語能力」をどの程度求めますか。また、それぞれの要件を教えてください。（あてはまるものいくつかでも○、もしくは要件を記入）

入学の際、試験等での判定を想定している項目 (あてはまるものいくつかでも○)	応募資格の要件 (要件を選択もしくは記載)
1. 日本語能力試験 (JLPT)	1. N1 2. N2以上 3. N3以上 4. N4以上 5. N5以上
2. 日本語NAT-TEST	1. 1級 2. 2級以上 3. 3級以上 4. 4級以上 5. 5級以上
3. 実用日本語検定J.TEST	1. A-Dレベル 2. E-Fレベル 3. ビジネスJ.TEST 試験の点数が () 点以上
4. 日本留学試験EJUの日本語科目	450点中 () 点以上
5. BJTビジネス日本語能力テスト	() 点以上
6. 法務大臣により告示されている 日本語教育機関で教育を受けた期間	() ヶ月以上
7. 国外の日本語教育機関で教育を 受けた期間	() ヶ月以上
8. 筆記試験（上記の日本語試験以外 で 貴校独自で行うもの）	※詳細を記載してください ()
9. その他の方法 ()	※詳細を記載してください ()
10. 特にこだわらない	

問3. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、入学時において、「日本の文化・習慣・マナー等への理解度」をどの程度求めますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 一般的な日本人レベルの理解がある
2. 生活する地域の日本人（介護福祉士養成施設他学生を含む）とよりよく生活するための、基本的習慣・マナーの理解がある
3. マナー等の理解は低くしばしば意思疎通が取れない場合があるが、日本で生活するために必要な最低限度の生活習慣は理解がある
4. 特にこだわらない
5. その他（ ）

問4. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、入学時において、「介護に関連する知識等」をどの程度求めますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 出身国における関連する国家資格（看護師免許、看護学校卒業等）の取得
2. 日本の介護職員初任者研修レベルの知識の取得
3. 出身国もしくは日本において介護職等として就業した経験があること
4. 特にこだわらない
5. その他（ ）

問5. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、入学時において、「学業・就業への意欲」をどの程度求めますか。（最もあてはまるもの1つに○）

1. 介護福祉士の資格を取得し日本で介護業務に就業したいという意欲
2. 介護福祉士の資格について理解し、それを取得したいという意欲
3. 介護福祉士の資格への理解は無くても、日本に留学して学びたいという意欲
4. 特にこだわらない
5. その他（ ）

問6. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、受入れ体制の整備にあたり、どのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものいくつかでも○）

1. 留学生を生活指導する専任の職員の確保
2. 留学生のための修学資金制度
3. 留学生のアルバイト先の確保
4. 留学生の就業先の確保
5. 礼拝所の設置等、信仰がある留学生への配慮
6. その他（ ）
7. 何を準備すればよいかわからない

問7. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、教育体制の整備にあたり、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものいくつかでも○)

1. 介護福祉士養成課程の留学生向けカリキュラムまたはシラバス
2. 介護の専門科目に関する留学生用の教材、テキストの準備
3. 基本的な日本語教育ができる体制構築
4. 介護専門職としての日本語教育ができる体制構築
5. 日本の文化習慣(常識やマナー)を学ぶカリキュラムの作成
6. その他()
7. 何を準備すればよいかわからない

問8. 貴校では、外国人留学生を受入れると仮定した場合、介護福祉士養成課程を学び始めた外国人留学生をサポートするために、どのような教材が必要だと考えますか。(あてはまるものいくつかでも○)

1. 既存のテキストの留学生向けの解説書
2. 介護に特化した言葉遣い、言葉かけ等の会話集
3. 留学生向けの国家試験対策教材
4. 留学生向けの介護専門用語集
5. 留学生向けに平易な日本語で書かれた教科書の作成
6. 教職員向けの指導手引き
7. パソコンの日本語入力に関する教材
8. 倫理、接遇やマナーに関する教材
9. 介護福祉士養成施設が所在する地域の文化、習慣、方言等を理解するための教材
10. その他()
11. 何が必要となるかわからない

問9. 貴校における、介護福祉士養成課程への外国人留学生の受入れ意向を教えてください。(最もあてはまるもの1つに○)

1. 受入れ募集中(応募があればいつでも対応可能) ⇒問11へ
2. 今後の受入れは未定
3. これからも受入れする予定はない

問10. 問9の回答の理由を教えてください。(自由記述)

<理由>

問11. 貴校では、外国人留学生を受入れるにあたり、教育体制の整備において、どのような課題がありますか。(自由記述)

<理由>

問12. 貴校では、外国人留学生を受入れるにあたり、留学生の生活指導において、どのような課題がありますか。(自由記述)

<理由>

問13. 貴校では、外国人留学生を受入れるにあたり、留学生の就職指導において、どのような課題がありますか。(自由記述)

<理由>

問14. 貴校では、外国人留学生を受入れるためにはどのような支援が必要ですか。(自由記述)

現在、外国人留学生が所属していない介護福祉士養成施設の方については、
以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。